

兵庫県立 こども病院 年報 2024 VOL.55



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 24 VOL.55

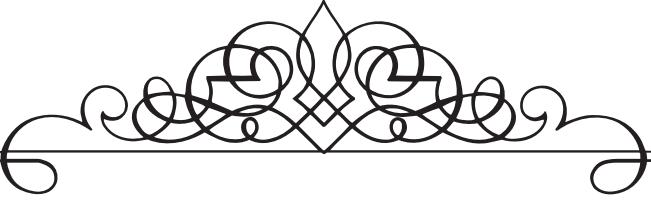


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

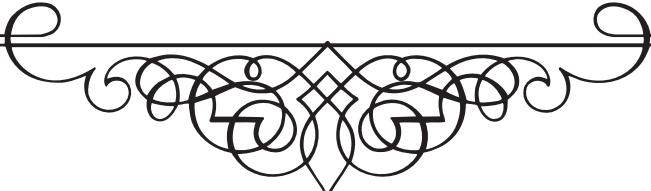
- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親と子どもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していくよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう、今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
 - 病院のきまりや約束ごとをお守りください。
- 

ご挨拶

兵庫県立こども病院 院長 飯島 一誠

2024年度の年報をお届けします。

平素より当院の運営や診療について、多くのご支援ご指導をいただいておりますことに厚く御礼申しあげます。本年報にて、当院の診療活動・学術研究活動・広報啓発活動の状況を皆様にご高覧いただき、ご意見をいただければ幸いです。

2024年度の全国の自治体病院の経営状況は86%が経常赤字となっており、当院の経営も極めて厳しい状況に追い込まれています。2022年度からの毎年3～4%程度のベースアップ及び2024年度からの医師の働き方改革に伴う人件費の高騰、物価高を反映した材料費や光熱費の増加の一方で、2024年度に改訂された診療報酬はほとんど増加せず、結果として、多額の経常赤字を計上することになりました。さらに2025年度は、留まることのない少子化や感染症の流行が落ち着いたことなどの影響を受け、病床利用率も目標を大幅に下回り、種々の収益増加策や経費削減策を実施しているにも関わらず、2024年度より経常赤字が増加する可能性が高くなっています。一般企業では倒産に近い状態にあるといつてよい状況です。このため、2026年度からは病床運用の柔軟性や効率化を高めつつ、運用病床数を削減することとしました。

2025年10月21日に発足した高市内閣による診療報酬の引き上げや補正予算による医療・介護施設に対する補助金の措置など、希望の光も見えていますが、それでも厳しい経営環境が一気に改善するものではなく、これまで以上に経営改善のための改革を行っていく必要があると考えています。

このような非常に厳しい経営環境の中でも、“兵庫県の小児・周産期医療の最後の砦”として、皆様のご期待に沿えるよう、また、難病に苦しむこどもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるよう、ファシリティドッグの導入をはじめとする療養環境の改善や質の高い診療・研究を行い、積極的に情報発信していくことで、全国や世界から、より一層信頼される病院となることを目指して、全力を尽くす所存です。

最後になりましたが、本年報の企画・作成にご尽力をいただいた広報委員会の皆様に深謝いたします。

目 次

I 病院概要

1	兵庫県立こども病院の設立目的	1
2	沿革	1
3	業務図	4
(1)	機構一覧表	4
(2)	担当医師表	5
(3)	外来診療スケジュール	6
4	職員	7
(1)	職種別人員表	7
5	近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6	研修・教育認定施設内容	9
7	委員会等一覧	10

II	医事経理関係	15
----	--------	----

III 診療統計

1	総合診療科	31
2	救急科	33
3	代謝・内分泌内科	36
4	リウマチ科	38
5	アレルギー科	39
6	神経内科	40
7	血液・腫瘍内科	42
8	循環器内科	44
9	腎臓内科	46
10	感染症内科	48
11	臨床遺伝科	49
12	精神科	52
13	小児外科	56
14	心臓血管外科	60
15	脳神経外科	63
16	形成外科	66
17	整形外科	67

18	リハビリテーション科	69
19	眼科	70
20	耳鼻咽喉科	72
21	泌尿器科	75
22	小児歯科	76
23	麻酔科	77
24	新生児内科	79
25	産科	83
26	放射線診断科／放射線治療科	87
27	小児集中治療科	89
28	病理診断科	90
29	看護部	91
30	薬剤部	95
31	検査部	99
32	放射線部	102
33	栄養管理部	106
34	リハビリテーション部	111
35	家族支援・地域医療連携部	113
36	臨床工学室	117
37	医療安全管理室	119
38	感染対策室	122
39	褥瘡管理室	126
40	がん相談支援室	127
41	院内学級	128
42	医師事務作業補助者（医師クラーク）	129

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	131
2	雑誌発表	135
3	学会発表	149
4	報道	176
5	実習生・研修生受け入れ状況	177
6	院外合同研修	182

V ボランティア

185

I 病院概要

1. 設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
 - (2) 小児に関する医療相談機関であること。
 - (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
 - (4) 小児医療従事者の育成研修機関であること。
- などあります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院し、その後、平成29年4月には小児救命救急センターに指定されました。

2. 沿革

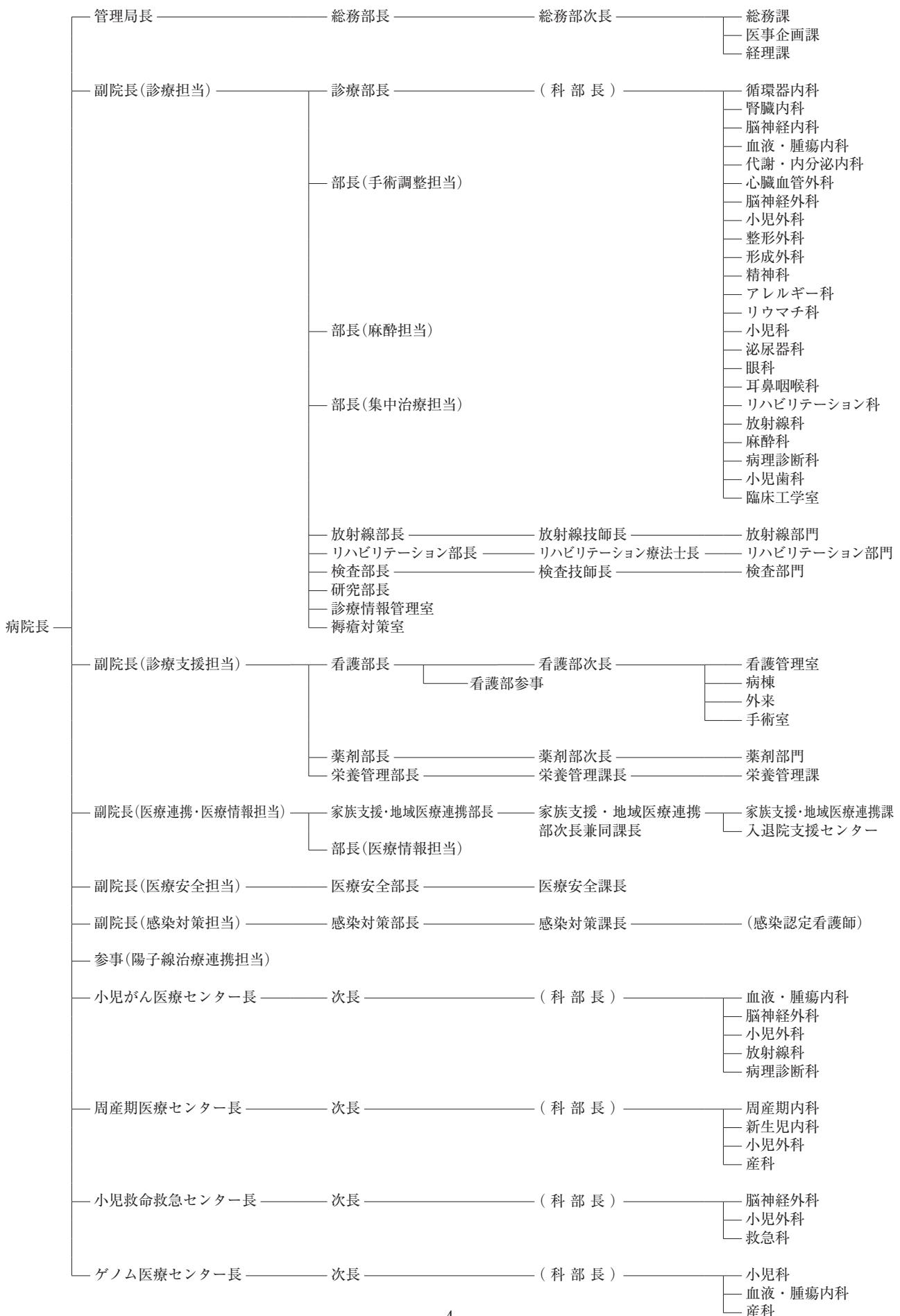
- (1) 名 称 兵庫県立こども病院
- (2) 開 設 昭和45年4月1日 (現管理者 飯島 一誠)
- (3) 所 在 地 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300 (代表)
- (4) 診 療 科 目 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科
周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科
整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科
泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科
麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科
- (5) 病 床 数 一般 290床 (稼働 282床)
- (6) 沿 革 昭和45年4月1日 病院開設 (管理者 平田 美穂)
昭和45年4月30日 病院本館完成
昭和45年5月8日 診療開始
昭和45年7月23日 基準寝具実施 (寝第295号)

昭和45年 9月17日	基準給食実施（食第307号） 基準看護実施（看第130号）
昭和46年12月28日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和47年 2月1日	基準看護一般特類変更承認（険第98号）
昭和47年12月1日	基準看護精神特類変更承認（険第219号）
昭和49年10月1日	基準看護一般特二類変更承認（険第108号）
	基準看護精神特一類変更承認（険第108号）
昭和50年 4月1日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和54年 3月31日	全館防災設備工事完成
昭和54年 8月2日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和55年 4月1日	昭和55年 3月26日 兵庫県条例第11号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和56年 5月5日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和56年10月7日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和56年10月12日	日本麻醉学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和56年12月6日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和57年 4月1日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和58年 4月1日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和58年 4月11日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和58年10月1日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和60年 3月18日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和60年 3月28日	日帰り手術棟完成
昭和60年 4月3日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和60年 4月15日	日帰り手術棟手術開始
昭和61年 3月31日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和61年 4月1日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄）
昭和61年 4月1日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和61年10月1日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和62年 1月22日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2月1日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3年 5月1日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第220号）
平成 4年 4月1日	基準看護一般特三類（260床に）変更承認（険第363号） 医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4年 5月9日	週40時間制試行
平成 4年 5月18日	病床数260床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4年 7月6日	病床数290床に変更承認（兵庫県指令医第1-67号）
平成 4年 7月29日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4年11月7日	週40時間制本格実施
平成 5年 4月1日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成 6年 7月20日	周産期医療センター定礎式
平成 6年 9月1日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成 6年 9月30日	ドクターズカー購入
平成 6年 9月30日	周産期医療センター完成

平成6年10月1日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年10月3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年10月4日	周産期医療センター診療開始
平成7年1月17日	阪神・淡路大震災
平成7年9月1日	本館改修工事に着手
平成8年4月1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年6月30日	本館改修工事完了
平成11年4月2日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成12年3月1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年4月24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年10月10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年2月28日	立体駐車場完成
平成14年4月1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年4月1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年10月15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年4月2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年10月30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511, 519, 526, 533）
平成15年11月28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年3月22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年4月1日	アレルギー科追加
平成18年4月1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年4月1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年10月1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年4月1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年4月1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目目標榜名変更
平成21年7月3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年12月16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年1月4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年4月1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年1月4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年4月1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年4月9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年2月8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年4月1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年4月1日	小児がん医療センター設置
平成26年12月8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年5月1日	ポートアイランドに移転開院
平成29年4月1日	リハビリテーション科追加
平成29年4月1日	管理者変更（管理者 中尾 秀人）
平成30年2月1日	小児救命救急センターとして指定される
令和2年1月1日	兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院として指定される
令和3年4月1日	がんゲノム医療連携病院として指定される
	管理者変更（管理者 飯島 一誠）

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2025.3.31現在)



(2) 担当医師表 (2025.3.31現在)

- (1) 総合診療科 中岸保夫、水田麻雄、南川将吾、富岡和美、岡崎沙也香
- (2) 救急科 田中亮二郎、林卓郎、松井銳、竹井寛和、谷澤直子、大西康裕、
村田慧
- (3) 感染症内科 笠井正志
- (4) 臨床遺伝科 森貞直哉
- (5) 新生児内科 芳本誠司、三村仁美、岩谷壯太、松井紗智子、武岡恵美子、
生田寿彦、小林孝生
- (6) 脳神経内科 丸山あづさ、西山将広、石田悠介
- (7) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、小川禎治、亀井直哉、久保慎吾、
三木康暢、中井亮佑
- (8) 腎臓内科 飯島一誠、貝藤裕史、稲熊洋祐
- (9) 代謝内分泌内科 尾崎佳代、松本真明
- (10) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、長谷川大一郎、森健、石田敏章、岸本健治、斎藤敦郎、
神前愛子、兵頭さやか、植村優、二野菜々子
- (11) 集中治療科 黒澤寛史、椎間優子、青木一憲、長井勇樹、宮下徳久、小谷匡史
先濱大
- (12) アレルギー科 濱田佳奈
- (13) リウマチ科 中岸保夫、水田麻雄
- (14) 小児外科 畠山理、横井暁子、久松千恵子、森田圭一、村上紫津、富岡雄一郎
- (15) 心臓血管外科 松久弘典、松島峻介、東田昭彦、岩城隆馬
- (16) 脳神経外科 河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
- (17) 形成外科 小野田素大、井手恵里子
- (18) 整形外科 小林大介、衣笠真紀、森下雅之、北村仁美、有本章彦
- (19) リハビリテーション科 坂田亮介
- (20) 泌尿器科 杉多良文、春名晶子、植松陸
- (21) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香
- (22) 眼科 野村耕治、河原佳奈
- (23) 精神科 関口典子、持田啓、玉岡文子
- (24) 小児歯科 曾根由美子
- (25) 産科 船越徹、平久進也、松本培世、荒井貴子、窪田詩乃、木原智子、
長澤友紀
- (26) 放射線科 赤坂好宣、乘本周平、田原潤子
- (27) 麻酔科 香川哲郎、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、宮本義久、上嶋江利、
末田グリンドロ彩、藤原孝志、田中康智、小西麻意、南遼平
山内佑允、上野真穂、林一恵
- (28) 病理診断科 吉田牧子
- (29) フェロー 西藤知城、舛田千晶、酒井善紀（総合診療科）
柏坂舞、小川碧、齊藤麗、吉井拓真、小松睦実（専）（救急科）
田中沙紀、佐伯玲（感染症内科）
西内徳子、松島愛香、後藤弘樹、宇保早希子、西牧良（新生児内科）
伊藤立人、相馬健人、鯫島智大（脳神経内科）
飯田智恵、稻瀬広樹、渡邊望、伊藤啓太（循環器内科）
金奏希、木村裕香（腎臓内科）
曾根原晶子（代謝内分泌内科）
田中裕介、吉川なつこ、川場大輔、松尾進（血液・腫瘍内科）
川本昌平、古島夏奈、黒江崇史、浦田啓陽、岡田怜、加藤愛美
原田晋二、三浦和樹、前田未知可、青木亮介、吉田美苗、種岡飛翔
西田圭吾、鈴木雅大、広田幸穂、相良優佳（小児集中治療科）
長谷川智大（アレルギー科）
村上紫津、植村光太郎、福井慶介、吉永駿、植松綾乃（小児外科）
久保沙羅、岡田翼（心臓血管外科）
赤澤亜由（耳鼻咽喉科）
豊國秀昭、牧仁美、土橋一生美（眼科）
黒島瑞穂（産科）
三木智子（放射線科）
（30）専攻医 皇甫奈音、砂川智紀、高松遙、春田真之介、志風友規、松井佑一郎
田中元、錦織朱、上原和大、田中敦、原将輝、小田原洋、寺尾元
高橋 英里、小倉愛由、和田尚一郎

(3) 外来診察スケジュール (2025.3.31現在)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	救急総合診療	◎南川	担当医	◎水田	担当医	1.3.5週 ◎岡崎	担当医	◎中岸	担当医	◎富岡(和)	担当医
	アレルギー				在宅外来 (三村)	在宅外来 (南川)	◎中岸	◎笠井	在宅外来 (芳本)		
	リウマチ			◎水田	担当医	2.4週 ◎担当医 川崎病フォロー	◎樹田		◎担当医 川崎病フォロー		◎担当医
	感染症内科				中岸	中岸	水田		◎水田		
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞	◎丸山 伊藤	担当医
	神経	◎西山 未宗	丸山 伊藤		西山 石田				◎石田 國澤		
	循環器	田中(敏)		◎田中(敏)	田中(敏)	城戸		◎城戸	城戸	◎小川	小川
		◎亀井	亀井	◎中井		◎三木	三木			◎久保	久保
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (OD不整脈)			田中 (カテーテル)	担当医(シナジス) 1.3.5週三木 2.4週小川 ベースメーカー		
	腎臓	◎貝藤	担当医	◎貝藤	◎貝藤	◎田中(亮)	担当医		◎貝藤	◎田中(亮)	
		◎金		◎稻熊		◎稻熊				1.3.5週青山 2.4週◎稻熊	
	代謝内分泌		検査 1.3週坊	◎曾根原 松本	曾根原 松本	◎松本 尾崎	尾崎 松本	◎西藤 曾根原	◎西藤 曾根原	◎尾崎 西藤	尾崎/西藤 柏坂 長期フォロー
	新生児				◎松井 三村		◎武岡 岩谷		◎芳本(小林) 生田		◎後藤/西牧 宇保
	血液・腫瘍	◎小阪	植村(優)		◎小阪 化学療法のみ	森 がんゲノム		◎石田	齋藤	◎長谷川 兵頭 化学療法のみ	森 岸本
外科	小児外科	◎森田	森田 横井	◎村上	村上	◎畠山	畠山	◎久松	久松	横井	横井
	ヘルニア外来	1.3.5週◎富岡(達) 2.4週◎横井						1.3.5週◎森田 2.4週◎植村(光)			
	特殊外来				在宅/担当医 マスト/久松						
	心臓	◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田			◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田			◎松久 松島 東田	◎松久 松島 東田
	脳神経	◎小山 ◎頭の形外来	小山			◎阿久津 担当医	◎阿久津 担当医			◎河村	◎河村 二分脊椎
	形成			◎小野田 ◎担当医 言語療法				◎小野田 ◎担当医 言語療法			
	整形		◎小林 ◎坂田	◎小林 ◎森下	◎北村 ◎衣笠 2週側弯外来	◎坂田 ◎森下				◎衣笠 ◎北村	二分脊椎
	放射線治療科		出水						副島		
眼科	眼科	◎野村 豊國 土橋			コンタクト 外来	◎野村 柳沢 豊國 土橋	検査	◎野村 豊國 土橋	検査		
	泌尿器科	◎担当医		◎杉多 ◎春名 植松 楠瀬	検査	担当医			検査	◎春名 杉多 植松 楠瀬	二分脊椎
	耳鼻咽喉科	担当医	担当医	◎勝沼	担当医			担当医	担当医	交代制	担当医
		1週 3週 補聴器		3週 4週 補聴器				担当医	担当医		
		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚	
歯科	歯科	◎曾根	曾根	◎曾根				◎曾根	曾根	1.3.5週曾根	
精神科	精神科	閔口	閔口	小笠原		◎持田	持田	長谷川	閔口	◎閔口	閔口
		◎持田	持田	玉岡	◎玉岡	玉岡	◎玉岡	持田	◎持田	玉岡	◎玉岡
産科	産科	◎船越 窪田/長澤	超音波検査	◎荒井 平久/木原	超音波検査	◎平久 松本	超音波検査	◎松本 窪田/長澤	超音波外来	◎平久 荒井/木原	超音波検査

*急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。 ◎印は新患担当医となります。

兵庫県立こども病院 〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日 9時~16時まで再診、9時~17時まで初診)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応 初診のみ)

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2025.3.31現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		14
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	113 (1)
	薬 剤 師	22
	診 療 放 射 線 技 師	14
	臨 床 檢 查 技 師	20 (1)
	栄 養 士	4
	看 護 師	583 (16)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	3
	精 神 保 健 福 祉 士	1
	医 療 福 祉 相 談 員	3
	保 育 士	4
	言 語 聽 覚 士	4
	臨 床 工 学 技 士	11
	理 学 療 法 士	4
	作 業 療 法 士	1
	遺 伝 カ ウ ン セ ラ ー	0
	小 計	790 (18)
技 能 労 務 職	調 理 員	6
合 計		810 (18)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時の任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項 (令和7年3月31日現在)

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1) (一般入院) 第1099号
【入院基本料等加算の施設基準】
 救急医療管理加算 (救急医療) 第125号
 診療録管理体制加算3 (診療録3) 第255号
 医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算) (事務1) 第188号
 急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上) (※看護補助体制充実加算1) (急性看護) 第194号
 療養環境加算 (療) 第183号
 無菌治療室管理加算1 (無菌1) 第26号
 緩和ケア診療加算 (緩診) 第29号
 小児緩和ケア診療加算 (小児緩) 第1号
 医療安全対策加算1(※医療安全対策地域連携加算1) (医療安全) 第515号
 感染対策向上加算1(※指導強化加算、抗菌薬適正使用体制加算) (感染対策1) 第54号
 患者サポート体制充実加算 (患者サポ) 第238号
 重症患者初期支援充実加算 (重症初期) 第26号
 褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥瘡ケア) 第54号
 ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠) 第116号
 ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩) 第68号
 術後疼痛管理チーム加算 (術後疼痛) 第21号
 病棟薬剤業務実施加算1 (病棟薬1) 第226号
 病棟薬剤業務実施加算2 (病棟薬2) 第31号
 データ提出加算2 (データ提) 第180号
 入退院支援加算1(※入院時支援加算1、2) (入退支) 第259号
 入退院支援加算3(※入院時支援加算1、2) (入退支) 第259号
 せん妄ハイリスク患者ケア加算 (せん妄) 第121号
 精神疾患診療体制加算 (精神疾) 第34号
 地域医療体制確保加算 (地医確保) 第47号

【特定入院料の施設基準】

小児特定集中治療室管理料(※早期離床・リハビリテーション加算) (小集) 第1号
 総合周産期特定集中治療室管理料(※成育連携支援加算) (周) 第7号
 小児入院医療管理料1(※プレイルーム加算(保育士1名、2名)、無菌治療室加算、養育支援体制加算) (小入1) 第8号
 食事療養費1(※食堂加算) (食) 第119147号

【医学管理等】

心臓ベースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算) (遠隔ペ) 第39号
 がん性疼痛緩和指導管理料 (がん疼) 第429号
 がん患者指導管理料イ (がん指イ) 第69号
 がん患者指導管理料ロ (がん指ロ) 第55号
 外来緩和ケア管理料 (外緩) 第19号
 移植後患者指導管理料(臓器移植後) (移植管臓) 第10号
 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) (移植管造) 第10号
 小児運動器疾患指導管理料 (小運指管) 第91号
 乳腺炎重症化予防・ケア指導料 (乳腺ケア) 第37号
 慢性腎臓病透析予防指導管理料 (腎防管) 第61号
 院内トリアージ実施料 (トリ) 第75号
 外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算、がん薬物療法体制充実加算) (外化診1) 第74号
 開放型病院共同指導料 (開) 第72号
 ハイリスク妊娠婦連携指導料1 (ハイ妊連1) 第27号
 ハイリスク妊娠婦連携指導料2 (ハイ妊連2) 第11号
 薬剤管理指導料 (薬) 第485号
 医療機器安全管理料1 (機安1) 第170号

【在宅医療】

在宅経肛門の自己洗腸指導管理料 (在洗腸) 第9号
 持続血糖測定器加算(間歇注入シリジンポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) (持血測2) 第11号

【検査】

遺伝学の検査 (遺伝検) 第9号
 骨髄微小残存病変量測定 (骨残測) 第2号
 がんゲノムプロファイリング検査 (がんプロ) 第12号
 先天性代謝異常症検査 (先代異) 第8号
 抗HLA抗体(スクリーニング検査及び抗体特異性同定検査) (抗HLA) 第5号
 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 (SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの) (ウイルス多同) 第4号
 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髓液) (ウイルス髓液) 第9号

検体検査管理加算(IV)

(※造血器腫瘍遺伝子検査) (検IV) 第51号
 國際標準検査管理加算 (国標) 第8号
 遺伝カウンセリング加算 (遺伝カ) 第6号
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 (血内) 第32号
 胎児心エコー法 (胎心エコ) 第28号
 ヘッドアップティルト試験 (ヘッド) 第54号
 脳波検査判断料1 (脳判) 第3号
 神経学的検査 (神経) 第146号
 補聴器適合検査 (補聴) 第42号
 小児食物アレルギー負荷検査 (小検) 第94号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2) 第120号
 CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満、3テスラ以上)(※大腸CT撮影加算) (C・M) 第898号
 冠動脈CT撮影加算 (冠動C) 第80号
 心臓MRI撮影加算 (心臓M) 第64号
 小児鎮静下MRI撮影加算 (小児M) 第15号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方) 第64号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1) 第145号
 無菌製剤処理料 (菌) 第520186号

【リハビリテーション】

心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) (心Ⅰ) 第112号
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ) (脳Ⅱ) 第475号
 〔※廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)〕 (運Ⅰ) 第356号
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) (呼Ⅰ) 第231号
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) (障) 第33号
 障害児(者)リハビリテーション料 (がん患者リハビリテーション料) (がんリハ) 第82号
 集団コミュニケーション療法料 (集コ) 第77号

【精神科専門療法】

児童思春期精神科専門管理加算 (児春専) 第6号
 児童思春期支援指導加算 (児春支) 第8号

【処置】

ストーマ合併症加算 (スト合) 第35号

【手術】

四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 (処骨) 第3号
 頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。) (頭移) 第5号
 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術 (内脳腫) 第7号
 ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術 (ペ) 第211号
 (※植込型心電図検査) (※植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術)
 大動脈バルーンパンピング法(IABP法) (大) 第101号
 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの) (膀胱埋嚢) 第8号
 胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊) 第2号
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 (胃瘻造) 第217号
 輸血管管理料I (輸血I) 第276号
 輸血適正使用加算 (輸適) 第146号
 コーディネート体制充実加算 (コ体充) 第5号
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 (造設前) 第77号
 凍結保存同種組織加算 (凍保組) 第1号

【麻酔】

麻酔管理料(Ⅰ) (麻管Ⅰ) 第261号
 麻酔管理料(Ⅱ) (麻管Ⅱ) 第24号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放) 第90号

【病理診断】

病理診断管理加算1 (病理診1) 第47号
 悪性腫瘍病理組織標本加算 (悪病組) 第29号

【その他】

看護職員処遇改善評価料106 (看處遇106) 第1号
 外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ) (外在ベ1) 第740号
 入院ベースアップ評価料122 (入ベ122) 第1号

【歯科関係】

歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ) (歯外在ベ1) 第313号
 歯科矯正診断料 (矯診) 第164号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児）</p> <p>厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設</p> <p>日本外科学会外科専門医訓練施設</p> <p>日本脳神経外科学会専門医訓練施設</p> <p>日本泌尿器科学会専門医教育施設</p> <p>日本整形外科学会専門医研修施設</p> <p>日本眼科学会専門医研修施設</p> <p>日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設</p> <p>日本病理学会登録施設</p> <p>日本麻醉学会麻醉指導病院</p> <p>日本医学放射線学会専門医特殊修練機関</p> <p>日本胸部外科学会認定医指定施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本リウマチ学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会認定研修施設</p> <p>日本形成外科学会認定医指導施設</p> <p>日本小児外科学会認定施設</p> <p>日本産科婦人科学会専門医研修指導施設</p> <p>日本内分泌代謝科専門医認定教育施設</p> <p>日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）</p> <p>日本周産期新生児医学会専門医研修施設</p> <p>日本小児循環器学会専門医修練施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本小児血液・がん専門医研修施設</p> <p>日本小児神経学会専門医研修施設</p> <p>日本集中治療医学会 集中治療専門医研修施設</p> <p>日本心臓血管麻醉学会専門医認定施設</p> <p>日本精神神経学会精神科専門医研修施設</p> <p>日本てんかん学会研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国）</p> <p>パース小児病院（オーストラリア）</p> <p>中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会等一覧 (2024年4月～2025年3月)

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
1	幹部会	飯島院長	総務	毎月 第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
	(1)運営協議会 (経営実施計画推進委員会)	飯島院長	総務	毎月 第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
	(2)保険診療対策委員会	杉多副院長	医事	12回 (毎月最終 水曜日)	①減点内容の精査について ②保険診療対策ニュースについて
	①在宅医療部会	畠山家族支援・ 地域医療連携部長	医事	0回	活動なし
2	医療安全管理委員会	田中医療安全部長	医事	12回 (毎月第4 月曜日)	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
	(1)リスクマネジメント部会	田中医療安全部長	医療安全	12回 (毎月第2 火曜日)	①各部門の毎月のインシデント発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
	(2)医療安全管理検証部会	田中副院長	医事	8回	①有害なインシデント原因の追及 ②再発防止策の策定
	(3)MET部会	田中医療安全部長	医療安全	6回 (隔月第2 火曜日)	①起動症例の検討とフィードバック
	(4)医療機器安全管理部会	田中医療安全部長	医療安全	5回 (隔月第3 木曜日)	①より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図る
3	倫理委員会	小阪副院長	総務	12回	詳細は別紙のとおり
	(1)臨床研究専門部会	貝藤腎臓内科部長	総務	149回	149件の迅速臨床研究倫理審査を実施した
	(2)利益相反部会	森貞ゲノム 医療センター次長	総務	0回	
4	臓器提供に関する委員会	杉多副院長	総務	5回	臓器提供に関わる連絡方法の確率及び委員会開催方法の一部変更
	(1)臓器提供院内 コーディネート部会	青木集中治療科部長	総務	10回	臓器移植に係る院内シミュレーション・勉強会の実施
5	脳死判定委員会	小山脳神経外科部長	総務	1回	
6	こども安全（虐待防止） 委員会	関口精神科部長	地域	定例3回 事例発生時 69回	年間事例の報告 処遇検討
7	衛生委員会	田中副院長	総務	12回	職員の健康障害の防止対策等について審議
8	防災対策委員会	田中副院長	総務	2回	
9	医師及び看護師の負担等 軽減推進委員会	飯島院長	総務	0回	
10	職務発明審査会	飯島院長	総務	0回	
11	広報委員会	貝藤腎臓内科部長	総務	7回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行（年4回） ②2023年報の発行 ③病院ホームページの更新
12	研修教育委員会	中岸総合診療科部長 兼りウマチ科部長	総務	3回	①症例検討会、院内研修会の実施状況について ②各部会からの報告
	(1)臨床研修病院部会	中岸総合診療科部長 兼りウマチ科部長	総務	0回	
	(2)小児科専門医研修 プログラム部会	中岸総合診療科部長 兼りウマチ科部長	総務	毎月 第3木曜日	小児科専門医研修プログラムの企画・立案と実施の管理 小児科専攻医に対する指導と評価 見学説明会の開催など小児科専攻医のリクルート
13	図書委員会	貝藤腎臓内科部長	経理	3回	2025年度の電子ジャーナル、購入図書の検討
14	省エネルギー推進委員会	飯島院長	経理	1回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
15	国際交流推進委員会	田中副院長	看護	0回	
16	患者サービス向上等推進委員会	喜多総務部長	看護	6回	①ハートメッセージの検討 ②接遇研修の企画・評価 ③きょうだいルーム開催の検討 ④ボランティア活動支援（交通安全教室）
17	治験審査委員会	杉多副院長	薬剤	6回	詳細は別紙のとおり
18	受託研究審査委員会	杉多副院長	経理	12回	新規受託研究審査
19	共同研究審査委員会	小阪副院長	総務	0回	
20	臨床研究支援室運営委員会	貝藤腎臓内科部長	経理	3回	こども病院・理研ジョイントシンポジウム
21	医療の質向上委員会	小阪副院長	医事	0回	活動なし
22	診療材料委員会	長谷川診療部長	経理	4回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
23	医療用ガス安全管理委員会	高辻麻酔科部長	経理	1回	①医療用ガス設備に係る定期点検の報告 ②医療ガス安全講習会開催
24	情報システム管理委員会	大津部長 (医療情報担当)	医事	11回 (毎月第1 火曜日)	①情報システムに関する要望についての審議と対応 • ランサムウェア対策（NASバック）について • 電子カルテの設定変更について • 電子カルテ予備端末の確保 ②情報システムの運用状況、障害状況の確認 ③ヘルプデスク対応実績報告
25	診療記録等管理委員会	芳本周産期医療 センター次長	医事	6回	①診療録監査について (1)質的監査の実施状況報告 (2)量的監査（入院診療計画書・退院サマリー不備件数）の報告 ②DPCコーディングに関する報告 ③災害時等における紙カルテの運用シミュレーション ④機能評価受審対応
26	院内感染対策委員会	笠井感染対策部長	検査	毎月第2 金曜日 (11月以降 第2月曜 日)	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
	(1)感染対策チーム（ICT）	末田麻酔科医長	検査	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
	(2)抗菌薬適正使用 支援チーム（AST）	河原薬剤部次長	薬剤	毎月1回 チーム会議 月2回 コアメンバー 会議 週1回 ケースカン ファレンス	①ケースカンファレンスによる抗MRSA薬、抗綠膿菌 薬等の使用状況モニタリング ②抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会を2回 開催 ③第7回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研 修会を開催 ④抗菌薬供給制限への対応 ⑤薬剤耐性菌対策の推進 ⑥AST業務手順書の改訂 ⑦術後感染予防抗菌薬の使用評価検討 ⑧小児におけるVCM-TDM 2点採血の調査検討
27	外来運営委員会	田中医療安全部長	医事	5回 (隔月第3 月曜日)	①発達行動外来の新設について ②DtoPのオンライン診療について ③院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコール について ④患者診察案内システムに関する質疑について
	(1)遠隔診療検討部会	田中医療安全部長	医事	0回	活動なし
28	病棟運営委員会	居神看護部長	医事	5回 (隔月第3 木曜日)	①病床利用状況の報告 ②夏休み期間中の病床運営検討 ③収支改善対策を考えた病床運用について
29	手術室運営委員会	野村部長 (手術調整担当)	看護	12回	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について ⑤手術室関連ヒヤリハット・インシデントの検討
30	集中治療室運営委員会	香川部長 (集中治療担当)	医事	12回 (毎月第3 火曜日)	①病床運用状況について ②ヒヤリハット報告について

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
31	リハビリテーション運営委員会	坂田 リハビリテーション部長	リハ	1回	早期離床WG: PICUでのリハビリテーションラウンドの検討 早期リハビリテーションプログラムの改善点の検討 喀痰吸引WG: 新任職員に対してナーシングスキルを使用した講習"
32	薬事委員会	小阪副院長	薬剤	3回	①医薬品の採用・中止の検討 ②医薬品の後発医薬品への切替えの検討 ③医薬品の製造中止または停止に伴う切り替えの検討 ④新規採用医薬品(4品目)、中止医薬品(9品目)、後発医薬品への切替え(5品目)
	(1)化学療法レジメン部会	河村小児がん 医療センター次長 兼脳神経外科部長	薬剤	4回	①新規化学療法レジメンの承認等 ②前部会以降に登録したレジメンの報告 ③連携充実加算取得に向けた薬剤師外来開始、研修会開催
33	放射線安全委員会	赤坂放射線部長	放射	1回	①診療放射線安全管理部会活動について ②放射線業務従事者管理状況について ③漏洩線量測定結果について
34	臨床検査委員会	杉多副院長	検査	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
35	栄養給食委員会	小阪副院長	栄養	2回	①院内約束食事基準の変更について ②栄養管理マニュアルの改訂について ③嗜好調査の結果報告と検討 ④電子カルテ更新に伴う変更事項について ⑤特殊ミルクの申請について
	(1)栄養サポートチーム(NST)部会	森田小児外科医長	栄養	3回	①電子カルテ更新に伴う変更事項などについて ②嚥下評価用の取り扱い食品について ③部会の今後の進め方について ④症例報告 ⑤プレアルブミン(トランスサイレチン)のオーダー数と検査費用報告
36	輸血療法委員会	長谷川診療部長	検査	隔月 第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③輸血療法マニュアル改定 ④輸血に関する諸問題の対応
37	褥瘡対策委員会	小野田形成外科部長	看護	11回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討
38	クリニカルパス委員会	齋藤血液・腫瘍内科医長	看護	10回	①クリニカルパスの作成・運用・管理 ②新規クリニカルパス承認・改訂 ③電子パス適応に関する運用決定・マニュアル改訂 ④クリニカルパス大会の開催・推進 ⑤クリニカルパス研修会
39	在宅推進委員会	丸山神経内科部長	地域	8回	①在宅療養支援に関する各システムの運用マニュアル検討・修正 ②地域医療機関との連携施設訪問・神戸市小児在宅医療研修会開催(1回/年 神戸市医師会と協同) ③地域医療者研修(7回)
40	呼吸療法委員会	香川部長(麻酔担当)	医事	11回 (毎月第3金曜日)	①呼吸ケアサポートチームからの活動(ラウンド・勉強会)報告について ②呼吸ケア部会からの活動(ヒヤリハット等)報告について
	(1)呼吸器ケアチーム	青木集中治療科部長	麻酔		
41	小児がん医療センター運営委員会	小阪副院長	医事	4回	①近畿ブロック小児がん診療病院連絡会/近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の案内・報告 ②第3期小児がん拠点病院認定について ③CAR-T細胞療法の症例報告 ④小児がんQIについて ⑤緩和ケア外来開設について ⑥近畿小児血液がん研究会準備状況について
	(1)アピアランスケア委員会	関口精神科部長	医事	4回	①相談症例の報告と相談 ②講演会について

	委員会名	会長・委員長	庶務担当	開催回数	活動内容と結果
41	(2)免疫細胞療法部門会議	小阪副院長	医事	5回 (定例3回・臨時2回)	①免疫細胞療法の実施状況 ②管理監督者照査
42	緩和ケア委員会	関口精神科部長	医事	3回	①緩和ケアチーム チーム会議検討事項の報告 ②事例検討会の開催報告 ③緩和ケアマニュアルの改定について ④緩和ケア研修会開催について
43	総合周産期母子 医療センター運営委員会	船越周産期医療 センター長	医事	12回 (毎月第1 月曜日)	①病床利用率等報告 ②周産期医療センター研修会について
	(1)アドバンス助産師部会	菊池産科・ MFICU看護師長	看護	12回	①病棟の助産業務の質の向上に向けた取り組みの検討 ②助産師相談外来の運営に関する協議 ③アドバンス助産師の質の担保に関する協議
	(2)生育連携チーム部会	大野産科助産師	看護	12回	①プレネイタルビジットの症例に関する多職種での情 報交換、協議 ②出生前介入の必要性の評価 ③介入症例の振り返り ④プレネイタルビジットの運営に関する協議
44	小児救命救急センター 運営委員会	田中副院長	医事	12回	①救急患者受入状況（応需率・患者動向等）報告 ②救急外来の整備検討 ③ヒヤリハット報告 ④年末年始等長期連休中の勤務体制検討
45	小児心臓センター 運営委員会	杉多副院長	医事	0回	活動なし
46	予防接種センター 運営委員会	笠井感染対策部長	医事	5回 (隔月第2 火曜日)	①予防接要注意者に対する接種件数報告 ②電話相談の実施状況報告 ③予防接種外来の運営状況報告 ④予防接種基礎講座の開催準備、結果報告
47	小児アレルギー疾患 センター運営委員会	濱田アレルギー科 医長	医事	1回	①兵庫県アレルギー疾患医療連絡協議会について ②アレルギー疾患医療全国拠点病院連絡会議について
48	ゲノム医療センター 運営委員会	森貞ゲノム医療 センター次長	医事	2回	①NIPT実施報告について ②ダウン症候群市民公開講座開催について
49	移行期医療対策委員会	小阪副院長	医事	0回	活動なし
50	地域医療支援病院委員会	(外部有識者)	総務	1回	地域医療連携実績等の報告
51	病院運営懇話会	(外部有識者)	総務	1回	運営状況等についての報告
52	ハラスメント防止委員会	菅澤管理局長	総務	2回	
53	仕様策定委員会	飯島院長	経理	3回	医療機器購入の為の仕様条件を審議
54	職員ヘルスケア委員会	森貞ゲノム医療 センター次長	総務	1回	・産業医及び臨床心理士（看護部）の活動報告 ・職員から相談があった場合の対応手順の確認

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 题
倫理委員会	小阪 嘉之	4月10日 9:00～	3階総務前会議室	12	1 気管支軟化症に対する胸腔鏡下大動脈固定術
倫理委員会	小阪 嘉之	5月 8日 9:00～	3階総務前会議室	12	1 ベーチェット病女子に対する抗IL-6受容体抗体製剤の適応外使用 2 前皮神経症候群に対してパルス高周波法使用について 3 切迫流早産患者に対するカルシウム拮抗剤（ニフェジピン）の適応外使用の件 4 小児への急速／緩徐経口免疫療法 5 先天性高インスリン血症による低血糖症に対する長時間作用型ソマトスタチナナログ製剤の導入 6 McCune-Albright Syndromeの自律性機能性卵巣嚢胞による末梢性思春期早発症の治療
倫理委員会	小阪 嘉之	6月12日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 造血幹細胞移植に対する、幼児同胞ドナーからの骨髄液採取 2 超難治性けいれん重積状態に対する吸入麻酔薬の投与について
倫理委員会	小阪 嘉之	7月10日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 難治頻回部分発作重積型急性脳炎(acute encephalitis with refractory, repetitive partial seizures:AERRPS)に対するデキサメタゾン髄腔内投与について 2 Stress Hydrocortisone in Pediatric Septic Shock (The SHIPSS trial) 小児敗血症性ショックにおけるストレス量のヒドロコルチゾン投与に関する研究 3 再発骨肉腫に対するテモゾロミド／エトボシド療法 4 マーキングのためのビオクタニンブルー液の使用について 5 胎児先天性肺気道奇形(congenital pulmonary airway malformation; CPAM)に対する胎児治療としての母体ベタメタゾン投与
倫理委員会	小阪 嘉之	8月14日 9:00～	3階総務前会議室	12	1 高安動脈炎女児に対するセクキヌマブの適応外使用
倫理委員会	小阪 嘉之	9月11日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 せん妄に対する抗精神病薬の適応外使用 2 チックに対する抗精神病薬の適応外使用 3 難治性小児固形腫瘍に対する経口エトボシド療法
倫理委員会	小阪 嘉之	10月 9日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 気管支喘息大発作に対する吸入麻酔薬の投与について 2 ビタミンB2剤の適応外使用について 3 重症乳幼児喘息に対するスピリーバの導入 4 del Nido 心筋保護液の新規導入
倫理委員会	小阪 嘉之	11月13日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 開胸下で心室壁を直接穿刺して行う経心室壁バルーン肺動脈弁形成術
倫理委員会	小阪 嘉之	12月11日 9:00～	3階総務前会議室	9	1 Tamguide®fiberを使用した鎖肛根治術時の瘻孔同定 2 放射線脳壊死に対するベバシズマブ療法 3 アトム多用途チューブ製造終了に伴う、アトムピンクカテーテルを用いての導尿について 4 デクスメテトミジンの医原性離脱症候群に対するチザニジンの使用 5 生命維持のために維持透析を必須とする乳幼児患者に対する維持血液透析の導入の差し控え
倫理委員会	小阪 嘉之	1月 8日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 従来治療（ステロイド、オクトレオチド）抵抗性の先天性乳び腹水に対するプロプラノロール塩酸塩の使用（未承認薬の使用） 2 若年性皮膚筋炎女児に対するリツキシマブの適応外使用
倫理委員会	小阪 嘉之	2月12日 9:00～	3階総務前会議室	10	1 薬剤の適応外使用 2 再発高リスク神経芽腫に対するロルラチニブ療法 3 オフサグリーンを用いた食道再建手術時の有茎小腸グラフトの血流確認 4 自己免疫性脳炎に対するリツキシマブ投与について 5 オフサグリーンの適用外使用
倫理委員会	小阪 嘉之	3月12日 9:00～	3階総務前会議室	11	1 腎明細胞肉腫に対する経口テモゾロミド療法
治験審査委員会	杉多 良文	4月19日	総務部前会議室	10	現在進行中の治験5課題の継続について審議した。また、1課題の終了、小児治験ネットワークの中央IRB審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	6月21日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験6課題の継続について審議した。また、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構の中央IRB審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	8月16日	総務部前会議室	9	IDE-C2B8（リツキシマブ）の第Ⅲ相試験（医師主導治験）の実施の適否について審議、現在進行中の治験6課題の継続について審議した。また、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構の中央IRB審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	10月18日	総務部前会議室	10	RBM-007（オリゴヌクレオチド）の前期第Ⅱ相試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、2課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構の中央IRB審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	12月20日	総務部前会議室	11	現在進行中の治験8課題の継続について審議した。また、1課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構の中央IRB審議について報告した。
治験審査委員会	杉多 良文	2月21日	総務部前会議室	11	オデビキシバットの第Ⅲ相試験、ボクロスピロンの第Ⅲ相試験の実施の適否について審議、現在進行中の治験7課題の継続について審議した。また、1課題の終了、小児治験ネットワーク、東北臨床研究審査機構の中央IRB審議について報告した。

II 医 事 経 理 関 係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別 患者統計

区分			2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
外来	a	診療日数	日	243	242	243	243
	b	新患者数	人	11,320	14,085	15,443	15,895
	c	一日平均新患者数	人	46.6	58.2	63.6	65.4
	d	延患者数	人	97,305	110,330	111,753	110,708
	e	一日平均延患者数	人	400.4	455.9	459.9	455.6
	f	平均通院日数	日	8.6	7.8	7.2	7.0
入院	g	稼働日数	日	365	365	365	365
	h	稼動病床数	床	282	282	282	290
	I	入院患者数	人	6,139	6,704	6,638	7,445
	j	一日平均入院患者数	人	16.8	18.4	18.2	20.3
	k	退院患者数	人	6,161	6,689	6,647	7,435
	l	一日平均退院患者数	人	16.9	18.3	18.2	20.3
	m	延入院患者数	人	80,604	80,935	82,809	88,699
	n	一日平均延患者数	人	220.8	221.7	226.9	242.3
	o	病床利用率	%	78.3	78.6	80.5	83.8
	p	病床回転数	回	21.8	23.7	23.6	25.7
	r	日帰入院患者数	人	511	560	496	517
	s	NICU・GCU 入院患者数	人	907	935	867	891
	t	平均在院日数	日	12.1	11.1	11.5	10.9
	u	外来入院比率	%	120.7	136.3	135.0	124.8
	v	入院率	%	54.2	47.6	43.0	46.8
計算式	f	平均通院日数 = d/b					
	o	病床利用率 = (m/(h×g)) × 100					
	p	病床回転率 = ((I+k)/2)/h					
	t	平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2)					
	u	外来入院比率 = (d/m) × 100					
	v	入院率 = (I/b) × 100					

(2) 月別 患者統計

令和6年度

区分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診療日数	日	21	21	20	22	21	19	22	20	20	19	18	20	243
	b	新患者数	人	1,242	1,372	1,366	1,395	1,323	1,150	1,249	1,202	1,318	1,193	1,018	1,194	15,022
	c	一日平均新患者数	人	59.1	65.3	68.3	63.4	63.0	60.5	56.8	60.1	65.9	62.8	56.6	59.7	61.8
	d	延患者数	人	9,099	8,770	8,598	9,583	10,290	8,495	8,995	8,443	9,335	8,768	7,866	9,951	108,193
	e	一日平均延患者数	人	433.3	417.6	429.9	435.6	490.0	447.1	408.9	422.2	466.8	461.5	437.0	497.6	445.2
	f	平均通院日数	日	7.3	6.4	6.3	6.9	7.8	7.4	7.2	7.0	7.1	7.3	7.7	8.3	7.2
入 院	g	稼働日数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼動病床数	床	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	3,480
	I	入院患者数	人	629	620	606	681	629	524	631	576	633	635	573	662	7,399
	j	一日平均入院患者数	人	21.0	20.0	20.2	22.0	20.3	17.5	20.4	19.2	20.4	20.5	20.5	21.4	20.3
	k	退院患者数	人	605	631	620	652	709	489	621	592	671	569	565	676	7,400
	l	一日平均退院患者数	人	20.2	20.4	20.7	21.0	22.9	16.3	20.0	19.7	21.6	18.4	20.2	21.8	20.3
	m	延入院患者数	人	7,141	7,595	7,407	7,832	7,009	5,341	6,802	6,873	6,931	6,620	6,710	7,704	83,965
	n	一日平均延患者数	人	238.0	245.0	246.9	252.6	226.1	178.0	219.4	229.1	223.6	213.5	239.6	248.5	230.0
	o	病床利用率	%	82.1%	84.5%	85.1%	87.1%	78.0%	61.4%	75.7%	79.0%	77.1%	73.6%	82.6%	85.7%	79.3%
	p	病床回転数	回	2.1	2.2	2.1	2.3	2.3	1.7	2.2	2.0	2.2	2.1	2.0	2.3	2.1
	r	日帰入院患者数	人	49	32	34	55	63	40	49	36	49	41	37	52	537
	s	NICU・GCU 入院患者数	人	60	73	76	94	40	50	77	80	51	73	64	72	810
	t	平均在院日数	日	10.6	11.1	11.1	10.8	9.4	9.6	9.9	10.8	9.6	10.1	10.8	10.5	10.3
	u	外来入院比率	%	127.4	115.5	116.1	122.4	146.8	159.1	132.2	122.8	134.7	132.4	117.2	129.2	128.9
	v	入院率	%	50.6	45.2	44.4	48.8	47.5	45.6	50.5	47.9	48.0	53.2	56.3	55.4	49.3
計算式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h×g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

令和6年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	53	55	52	48	46	34	47	37	32	29	35	38	506
	再来患者数	858	739	762	859	1,015	830	756	714	850	732	726	1,056	9,897
	延患者数	911	794	814	907	1,061	864	803	751	882	761	761	1,094	10,403
腎臓内科	新患者数	10	5	9	14	20	12	7	0	7	10	6	7	107
	再来患者数	262	228	225	285	363	253	261	232	266	260	244	313	3,192
	延患者数	272	233	234	299	383	265	268	232	273	270	250	320	3,299
神経内科	新患者数	15	10	12	14	14	11	9	16	18	10	8	15	152
	再来患者数	401	360	423	385	440	385	435	414	426	420	392	439	4,920
	延患者数	416	370	435	399	454	396	444	430	444	430	400	454	5,072
血液内科	新患者数	6	4	8	6	7	3	6	5	5	1	3	9	63
	再来患者数	446	391	385	442	556	422	438	390	433	452	402	528	5,285
	延患者数	452	395	393	448	563	425	444	395	438	453	405	537	5,348
代謝・内分泌内科	新患者数	37	24	31	33	32	25	28	23	13	20	15	19	300
	再来患者数	669	682	612	735	773	663	697	673	703	733	653	768	8,361
	延患者数	706	706	643	768	805	688	725	696	716	753	668	787	8,661
新生児内科	新患者数	2	2	1	0	3	2	1	0	1	3	1	3	19
	再来患者数	149	185	167	155	193	202	199	167	169	184	155	182	2,107
	延患者数	151	187	168	155	196	204	200	167	170	187	156	185	2,126
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	再来患者数	99	75	69	82	84	70	70	64	94	81	70	72	930
	延患者数	99	75	69	83	84	70	70	64	94	81	70	72	931
脳神経外科	新患者数	48	55	58	65	49	67	62	66	51	50	58	51	680
	再来患者数	328	316	290	357	405	358	279	286	359	313	258	387	3,936
	延患者数	376	371	348	422	454	425	341	352	410	363	316	438	4,616
小児外科	新患者数	34	32	38	49	47	33	34	22	38	34	30	29	420
	再来患者数	440	355	384	511	539	394	432	411	452	422	334	546	5,220
	延患者数	474	387	422	560	586	427	466	433	490	456	364	575	5,640
整形外科	新患者数	99	92	96	112	68	83	130	128	139	131	95	110	1,283
	再来患者数	643	559	521	676	774	586	604	556	629	621	480	763	7,412
	延患者数	742	651	617	788	842	669	734	684	768	752	575	873	8,695
形成外科	新患者数	34	42	35	40	27	33	44	38	35	29	31	34	422
	再来患者数	295	292	264	278	355	311	293	264	282	257	261	326	3,478
	延患者数	329	334	299	318	382	344	337	302	317	286	292	360	3,900
精神科	新患者数	12	5	11	12	12	16	17	16	10	15	8	13	147
	再来患者数	337	340	323	369	377	369	384	325	377	347	331	375	4,254
	延患者数	349	345	334	381	389	385	401	341	387	362	339	388	4,401
アレルギー内科	新患者数	18	19	14	14	18	12	8	17	13	10	9	12	164
	再来患者数	325	297	333	350	364	315	347	310	371	322	317	385	4,036
	延患者数	343	316	347	364	382	327	355	327	384	332	326	397	4,200
リウマチ科	新患者数	4	4	3	3	5	5	2	2	1	0	2	7	38
	再来患者数	112	92	100	118	128	89	117	102	124	105	104	106	1,297
	延患者数	116	96	103	121	133	94	119	104	125	105	106	113	1,335

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	0	0	2	0	1	0	1	0	1	1	0	0	6
	再来患者数	7	4	3	2	3	1	2	3	1	3	3	8	40
	延患者数	7	4	5	2	4	1	3	3	2	4	3	8	46
臨床遺伝科	新患者数	9	5	3	8	9	7	15	7	13	5	4	11	96
	再来患者数	100	104	102	105	113	97	102	101	87	84	91	111	1,197
	延患者数	109	109	105	113	122	104	117	108	100	89	95	122	1,293
泌尿器科	新患者数	46	47	47	52	61	53	57	45	54	55	45	47	609
	再来患者数	413	364	346	375	399	361	392	312	387	352	327	385	4,413
	延患者数	459	411	393	427	460	414	449	357	441	407	372	432	5,022
産科	新患者数	17	28	23	24	18	21	22	20	25	16	18	27	259
	再来患者数	234	306	269	317	278	180	239	297	258	238	188	236	3,040
	延患者数	251	334	292	341	296	201	261	317	283	254	206	263	3,299
眼科	新患者数	39	50	48	45	43	33	54	44	39	35	41	41	512
	再来患者数	638	628	577	624	666	533	630	565	662	600	603	688	7,414
	延患者数	677	678	625	669	709	566	684	609	701	635	644	729	7,926
耳鼻咽喉科	新患者数	51	40	41	37	30	20	25	43	36	37	22	23	405
	再来患者数	382	308	327	351	415	280	343	337	364	346	297	422	4,172
	延患者数	433	348	368	388	445	300	368	380	400	383	319	445	4,577
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	29	31	20	29	38	40	43	43	37	40	34	49	433
	延患者数	29	31	20	29	38	40	43	43	37	40	34	49	433
総合診療科	新患者数	18	24	14	26	22	14	17	17	19	15	15	17	218
	再来患者数	208	208	217	265	223	212	239	213	232	226	202	249	2,694
	延患者数	226	232	231	291	245	226	256	230	251	241	217	266	2,912
救急科	新患者数	605	744	723	711	716	583	595	579	714	617	485	591	7,663
	再来患者数	422	489	454	460	413	344	391	413	425	404	344	327	4,886
	延患者数	1,027	1,233	1,177	1,171	1,129	927	986	992	1,139	1,021	829	918	12,549
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
歯科	新患者数	85	85	97	81	75	83	68	77	54	69	87	90	951
	再来患者数	60	45	59	58	53	50	53	49	29	33	32	36	557
	延患者数	145	130	156	139	128	133	121	126	83	102	119	126	1,508
合計	新患者数	1,242	1,372	1,366	1,395	1,323	1,150	1,249	1,202	1,318	1,193	1,018	1,194	15,022
	再来患者数	7,857	7,398	7,232	8,188	8,967	7,345	7,746	7,241	8,017	7,575	6,848	8,757	93,171
	延患者数	9,099	8,770	8,598	9,583	10,290	8,495	8,995	8,443	9,335	8,768	7,866	9,951	108,193

3. 月別科別入院患者数

令和6年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	39	46	48	34	45	36	41	32	34	35	37	42	469
	退院患者数	44	54	59	43	59	33	55	45	43	36	47	52	570
	延患者数	619	591	630	615	643	481	624	458	516	589	677	738	7,181
腎臓内科	新規入院患者数	10	10	4	9	9	8	4	8	6	6	5	7	86
	退院患者数	10	11	5	11	10	8	5	9	9	6	6	11	101
	延患者数	152	150	82	129	129	137	116	198	125	118	118	117	1,571
神経内科	新規入院患者数	11	18	17	22	22	14	22	20	32	20	16	21	235
	退院患者数	17	25	25	29	29	13	33	25	43	34	20	26	319
	延患者数	236	197	313	292	200	155	285	204	306	273	282	254	2,997
血液内科	新規入院患者数	102	105	98	107	83	99	118	95	99	122	88	105	1,221
	退院患者数	91	113	107	107	91	95	110	104	117	106	92	101	1,234
	延患者数	1,376	1,606	1,509	1,425	1,349	1,315	1,480	1,566	1,302	1,252	1,207	1,587	16,974
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	12	13	13	26	16	14	16	19	13	16	9	17	184
	退院患者数	16	14	13	25	18	14	18	16	18	20	11	18	201
	延患者数	68	51	70	145	73	48	73	58	92	101	73	130	982
新生児内科	新規入院患者数	33	38	42	49	18	32	42	40	27	40	35	39	435
	退院患者数	37	31	37	38	41	23	25	41	28	24	30	38	393
	延患者数	1,271	1,392	1,297	1,394	931	456	888	1,194	1,040	1,011	1,024	1,158	13,056
心臓血管外科	新規入院患者数	14	9	8	21	13	5	8	13	14	14	11	11	141
	退院患者数	12	7	11	14	13	10	6	14	15	11	11	12	136
	延患者数	121	113	169	229	125	81	102	138	152	132	130	108	1,600
脳神経外科	新規入院患者数	14	12	8	11	8	9	2	4	10	6	9	14	107
	退院患者数	10	17	11	14	13	8	4	4	13	5	11	12	122
	延患者数	144	124	135	133	100	66	21	34	118	93	117	188	1,273
小児外科	新規入院患者数	48	38	55	44	67	49	44	50	37	48	39	48	567
	退院患者数	52	40	58	43	74	40	48	46	51	43	43	54	592
	延患者数	454	466	500	425	491	381	491	465	464	428	490	478	5,533
整形外科	新規入院患者数	32	32	26	38	29	18	36	19	21	27	22	28	328
	退院患者数	28	33	29	26	38	21	32	25	22	21	27	36	338
	延患者数	266	344	297	439	397	207	298	243	201	237	192	186	3,307
形成外科	新規入院患者数	26	17	21	26	30	22	31	25	22	22	22	28	292
	退院患者数	30	19	24	23	33	22	32	27	24	19	23	29	305
	延患者数	110	72	94	177	207	110	140	119	82	82	107	145	1,445
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	48	35	41	43	51	42	47	42	50	44	36	58	537
	退院患者数	48	35	41	43	50	43	47	43	50	43	37	58	538
	延患者数	49	41	52	45	65	59	49	58	65	52	50	69	654
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	22	24	19	24	25	18	26	21	20	20	22	18	259
	退院患者数	20	26	18	24	23	17	28	21	24	15	25	20	261
	延患者数	88	125	86	89	96	72	108	99	124	97	128	87	1,199
産科	新規入院患者数	26	24	24	31	18	17	29	24	27	29	29	18	296
	退院患者数	23	24	23	33	24	15	27	22	33	27	23	23	297
	延患者数	538	649	589	629	433	394	549	513	553	487	493	533	6,360
眼科	新規入院患者数	23	23	19	23	28	24	24	20	28	22	24	33	291
	退院患者数	25	22	18	25	28	23	23	21	31	20	22	34	292
	延患者数	101	89	74	88	114	94	91	82	107	81	88	150	1,159
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	17	11	13	9	16	15	11	14	12	15	15	13	161
	退院患者数	18	10	13	9	15	15	13	15	13	13	15	14	163
	延患者数	100	62	76	53	106	94	70	88	83	101	96	105	1,034
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	120	134	120	132	122	84	105	106	143	121	114	129	1,430
	退院患者数	115	135	121	134	130	85	107	103	128	119	113	130	1,420
	延患者数	882	894	781	855	978	726	807	820	960	863	858	999	10,423
救急科	新規入院患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
小児集中治療科	新規入院患者数	31	31	30	32	29	18	25	24	38	28	39	33	358
	退院患者数	9	15	7	11	20	4	8	11	9	7	9	8	118
	延患者数	565	629	653	670	572	465	610	536	641	623	579	672	7,215
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	629	620	606	681	629	524	631	576	633	635	573	662	7,399
	退院患者数	605	631	620	652	709	489	621	592	671	569	565	676	7,400
	延患者数	7,141	7,595	7,407	7,832	7,009	5,341	6,802	6,873	6,931	6,620	6,710	7,704	83,965

4. 年度別科別外来患者数

令和6年度

科名	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
循環器内科	新患者数	494	533	573	557	506
	再来患者数	9,442	10,365	10,485	10,102	9,897
	延患者数	9,936	10,898	11,058	10,659	10,403
腎臓内科	新患者数	170	166	155	138	107
	再来患者数	2,798	3,054	3,137	3,194	3,192
	延患者数	2,968	3,220	3,292	3,332	3,299
神経内科	新患者数	135	165	160	179	152
	再来患者数	3,837	4,403	4,161	4,522	4,920
	延患者数	3,972	4,568	4,321	4,701	5,072
血液内科	新患者数	77	74	64	102	63
	再来患者数	4,999	5,361	5,135	5,282	5,285
	延患者数	5,076	5,435	5,199	5,384	5,348
代謝内分泌内科	新患者数	274	338	278	291	300
	再来患者数	6,775	7,587	7,993	8,260	8,361
	延患者数	7,049	7,925	8,271	8,551	8,661
新生児内科	新患者数	19	14	15	23	19
	再来患者数	1,880	2,043	1,936	1,972	2,107
	延患者数	1,899	2,057	1,951	1,995	2,126
心臓血管外科	新患者数	1	0	3	1	1
	再来患者数	951	1,200	1,138	985	930
	延患者数	952	1,200	1,141	986	931
脳神経外科	新患者数	512	643	623	601	680
	再来患者数	3,918	4,258	4,208	3,883	3,936
	延患者数	4,430	4,901	4,831	4,484	4,616
小児外科	新患者数	396	462	381	400	420
	再来患者数	4,914	5,086	5,278	5,162	5,220
	延患者数	5,310	5,548	5,659	5,562	5,640
整形外科	新患者数	885	914	1,190	1,272	1,283
	再来患者数	6,997	7,439	7,578	7,624	7,412
	延患者数	7,882	8,353	8,768	8,896	8,695
形成外科	新患者数	332	423	400	433	422
	再来患者数	3,428	3,430	3,680	3,591	3,478
	延患者数	3,760	3,853	4,080	4,024	3,900
精神科	新患者数	168	208	187	192	147
	再来患者数	3,837	4,495	4,305	4,360	4,254
	延患者数	4,005	4,703	4,492	4,552	4,401
アレルギー内科	新患者数	125	174	137	134	164
	再来患者数	3,663	4,783	4,905	4,248	4,036
	延患者数	3,788	4,957	5,042	4,382	4,200
リウマチ科	新患者数	23	40	41	38	38
	再来患者数	1,131	1,148	1,265	1,335	1,297
	延患者数	1,154	1,188	1,306	1,373	1,335

科名	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
感染症内科	新患者数	12	7	12	5	6
	再来患者数	107	75	55	50	40
	延患者数	119	82	67	55	46
臨床遺伝科	新患者数	70	80	84	124	96
	再来患者数	945	1,066	1,011	1,119	1,197
	延患者数	1,015	1,146	1,095	1,243	1,293
泌尿器科	新患者数	600	672	650	646	609
	再来患者数	4,641	5,055	5,117	4,717	4,413
	延患者数	5,241	5,727	5,767	5,363	5,022
産科	新患者数	184	212	262	303	259
	再来患者数	2,960	3,604	3,302	3,456	3,040
	延患者数	3,144	3,816	3,564	3,759	3,299
眼科	新患者数	501	529	510	531	512
	再来患者数	7,326	8,055	8,414	7,465	7,414
	延患者数	7,827	8,584	8,924	7,996	7,926
耳鼻咽喉科	新患者数	353	421	411	463	405
	再来患者数	4,071	4,325	4,363	4,389	4,172
	延患者数	4,424	4,746	4,774	4,852	4,577
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	5	1	12	1	0
	延患者数	5	1	12	1	0
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	1	1	0	0	0
	延患者数	1	1	0	0	0
麻酔科	新患者数	1	0	0	0	0
	再来患者数	547	618	424	291	433
	延患者数	548	618	424	291	433
総合診療科	新患者数	189	255	226	194	218
	再来患者数	2,649	3,309	3,113	3,196	2,694
	延患者数	2,838	3,564	3,339	3,390	2,912
救急科	新患者数	4,872	6,793	8,070	8,294	7,663
	再来患者数	2,983	4,143	4,423	4,761	4,886
	延患者数	7,855	10,936	12,493	13,055	12,549
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	1
	再来患者数	0	0	0	1	0
	延患者数	0	0	0	1	1
歯科	新患者数	927	962	1,011	974	951
	再来患者数	1,180	1,341	872	847	557
	延患者数	2,107	2,303	1,883	1,821	1,508
合計	新患者数	11,320	14,085	15,443	15,895	15,022
	再来患者数	85,985	96,245	96,310	94,813	93,171
	延患者数	97,305	110,330	111,753	110,708	108,193

5. 年度別科別入院患者数

令和6年度

科名	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
循環器内科	新規入院患者数	379	417	457	466	469
	退院患者数	457	467	526	541	570
	延患者数	5,907	6,011	7,032	7,111	7,181
腎臓内科	新規入院患者数	78	72	91	96	86
	退院患者数	87	84	105	110	101
	延患者数	1,305	1,482	1,612	1,401	1,571
神経内科	新規入院患者数	109	122	130	203	235
	退院患者数	141	174	203	293	319
	延患者数	1,818	2,127	2,324	2,281	2,997
血液内科	新規入院患者数	1,101	1,141	960	1,192	1,221
	退院患者数	1,122	1,150	978	1,218	1,234
	延患者数	17,392	17,466	15,521	18,001	16,974
代謝内分泌内科	新規入院患者数	71	89	73	147	184
	退院患者数	76	99	84	163	201
	延患者数	491	554	611	993	982
新生児内科	新規入院患者数	475	488	440	468	435
	退院患者数	415	415	374	399	393
	延患者数	13,652	14,042	13,677	14,972	13,056
心臓血管外科	新規入院患者数	117	125	151	139	141
	退院患者数	118	140	154	142	136
	延患者数	1,649	1,739	1,862	1,668	1,600
脳神経外科	新規入院患者数	163	136	139	140	107
	退院患者数	169	157	170	158	122
	延患者数	1,558	1,219	1,762	1,385	1,273
小児外科	新規入院患者数	497	557	512	573	567
	退院患者数	548	573	539	589	592
	延患者数	5,980	4,980	5,954	6,740	5,533
整形外科	新規入院患者数	316	294	346	322	328
	退院患者数	337	328	358	332	338
	延患者数	3,478	3,339	3,346	3,029	3,307
形成外科	新規入院患者数	225	267	281	286	292
	退院患者数	240	282	294	301	305
	延患者数	1,586	1,608	1,578	1,727	1,445
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	480	621	480	481	537
	退院患者数	486	627	484	481	538
	延患者数	601	709	564	531	654
リウマチ科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0

科名	区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	276	308	277	282	259
	退院患者数	285	311	286	283	261
	延患者数	1,417	1,346	1,326	1,261	1,199
産科	新規入院患者数	342	377	345	325	296
	退院患者数	341	384	344	323	297
	延患者数	7,179	6,848	6,929	6,611	6,360
眼科	新規入院患者数	286	309	297	315	291
	退院患者数	290	306	298	313	292
	延患者数	1,154	1,196	1,131	1,275	1,159
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	98	100	101	137	161
	退院患者数	108	100	101	140	163
	延患者数	706	604	642	837	1,034
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	893	1,033	1,294	1,564	1,430
	退院患者数	840	995	1,255	1,526	1,420
	延患者数	8,466	8,966	10,202	11,585	10,423
救急科	新規入院患者数	7	7	6	5	2
	退院患者数	3	0	2	1	0
	延患者数	12	8	8	10	2
小児集中治療科	新規入院患者数	226	241	258	304	358
	退院患者数	98	97	92	122	118
	延患者数	6,253	6,691	6,728	7,281	7,215
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	6,139	6,704	6,638	7,445	7,399
	退院患者数	6,161	6,689	6,647	7,435	7,400
	延患者数	80,604	80,935	82,809	88,699	83,965

6. 年齢別患者状況

令和6年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数(人)	構成比(%)	患者数(人)	構成比(%)
0歳～1歳未満	3,024	9.1%	937	19.0%
1歳以上～3歳未満	5,052	15.2%	905	18.3%
3歳～6歳未満	6,043	18.2%	846	17.2%
6歳～13歳未満	11,822	35.6%	1,407	28.5%
13歳以上～16歳未満	3,727	11.2%	343	7.0%
16歳以上	3,525	10.6%	496	10.0%
合 計	33,192	100.0%	4,935	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

地域区分	5年度		6年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵庫県	神戸市	19,771	59.0%	19,263	58.0%
	姫路市	1,061	3.2%	1,032	3.1%
	尼崎市	390	1.2%	394	1.2%
	明石市	2,649	7.9%	2,716	8.2%
	西宮市	1,251	3.7%	1,278	3.9%
	洲本市	176	0.5%	198	0.6%
	芦屋市	596	1.8%	625	1.9%
	伊丹市	278	0.8%	262	0.8%
	相生市	45	0.1%	44	0.1%
	豊岡市	278	0.8%	259	0.8%
	加古川市	676	2.0%	724	2.2%
	赤穂市	101	0.3%	95	0.3%
	西脇市	141	0.4%	149	0.4%
	宝塚市	398	1.2%	404	1.2%
	三木市	365	1.1%	401	1.2%
県	高砂市	212	0.6%	225	0.7%
	川西市	120	0.4%	117	0.4%
	小野市	199	0.6%	207	0.6%
	三田市	597	1.8%	621	1.9%
	加西市	104	0.3%	111	0.3%
	丹波篠山市	94	0.3%	114	0.3%
	養父市	77	0.2%	71	0.2%
	丹波市	286	0.9%	273	0.8%

(2) 入院

地域区分	5年度		6年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵庫県	神戸市	2,688	54.2%	2,624	53.2%
	姫路市	150	3.0%	153	3.1%
	尼崎市	54	1.1%	67	1.3%
	明石市	452	9.1%	397	8.0%
	西宮市	210	4.2%	200	4.0%
	洲本市	34	0.7%	57	1.1%
	芦屋市	91	1.8%	105	2.1%
	伊丹市	39	0.8%	42	0.8%
	相生市	11	0.2%	11	0.2%
	豊岡市	49	1.0%	35	0.7%
	加古川市	108	2.2%	123	2.5%
	赤穂市	14	0.3%	14	0.3%
	西脇市	16	0.3%	20	0.4%
	宝塚市	47	0.9%	58	1.2%
	三木市	67	1.3%	54	1.1%
県	高砂市	44	0.9%	44	0.9%
	川西市	12	0.2%	17	0.3%
	小野市	35	0.7%	37	0.7%
	三田市	73	1.5%	89	1.8%
	加西市	23	0.5%	20	0.4%
丹波市	丹波篠山市	13	0.3%	17	0.3%
	養父市	18	0.4%	12	0.2%
丹波市	丹波市	49	1.0%	44	0.9%

地域区分	5年度		6年度		地域区分	5年度		6年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比		患者数	構成比	患者数	構成比	
兵庫県	南あわじ市	204	0.6%	203	0.6%	南あわじ市	28	0.6%	43	0.9%
	朝来市	110	0.3%	110	0.3%	朝来市	57	1.1%	47	0.9%
	淡路市	299	0.9%	302	0.9%	淡路市	19	0.4%	16	0.3%
	宍粟市	59	0.2%	46	0.1%	宍粟市	6	0.1%	9	0.2%
	加東市	220	0.7%	232	0.7%	加東市	39	0.8%	36	0.7%
	たつの市	143	0.4%	135	0.4%	たつの市	18	0.4%	19	0.4%
	猪名川町	29	0.1%	38	0.1%	猪名川町	0	0.0%	4	0.1%
	多可町	61	0.2%	59	0.2%	多可町	11	0.2%	11	0.2%
	稲美町	99	0.3%	93	0.3%	稲美町	19	0.4%	16	0.3%
	播磨町	140	0.4%	127	0.4%	播磨町	19	0.4%	25	0.5%
	市川町	15	0.0%	15	0.0%	市川町	1	0.0%	3	0.1%
	福崎町	39	0.1%	38	0.1%	福崎町	7	0.1%	5	0.1%
	神河町	29	0.1%	18	0.1%	神河町	5	0.1%	2	0.0%
	太子町	68	0.2%	69	0.2%	太子町	8	0.2%	12	0.2%
	上郡町	19	0.1%	19	0.1%	上郡町	2	0.0%	6	0.1%
	佐用町	25	0.1%	25	0.1%	佐用町	0	0.0%	0	0.0%
	香美町	50	0.1%	46	0.1%	香美町	5	0.1%	8	0.2%
	新温泉町	26	0.1%	20	0.1%	新温泉町	4	0.1%	4	0.1%
	その他	161	0.5%	164	0.5%	その他	33	0.7%	32	0.6%
	計	31,661	94.5%	31,342	94.4%	計	4,574	92.2%	4,534	91.9%
近畿圏	1,006	3.0%	982	3.0%	近畿圏	154	3.1%	165	3.3%	
近畿圏外	842	2.5%	868	2.6%	近畿圏外	233	4.7%	236	4.8%	
総計	33,509	100.0%	33,192	100.0%	総計	4,961	100.0%	4,935	100.0%	

※実患者数

8. 公費負担患者状況

令和6年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,655	50.4%
2. 育成医療	51	1.6%
3. 養育医療	203	6.2%
4. 児童福祉（措置）	54	1.6%
5. 特定疾患	11	0.3%
6. 生活保護	60	1.8%
7. 精神保健	11	0.3%
8. 自費	1,235	37.7%
合計	3,280	100.0%

9. 時間外患者状況

令和6年度

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	2	1	1	1			1	1		1		1	9
	入院													0
	計	2	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	1	9
腎臓内科	外来				1	1				1	1			4
	入院					1								1
	計	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	0	5
神経内科	外来		1											1
	入院					2				2	3	1	1	9
	計	0	1	0	0	2	0	0	0	2	3	1	1	10
血液内科	外来	1			1	1		2	1		1	1		8
	入院			3	3	1					2	3		12
	計	1	0	3	4	2	0	2	1	0	3	4	0	20
代謝・内分泌内科	外来									1				1
	入院								1					1
	計	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
新生児内科	外来													0
	入院	15	13	13	21	6	9	9	12	3	16	14	15	146
	計	15	13	13	21	6	9	9	12	3	16	14	15	146
心臓血管外科	外来	1												1
	入院													0
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳神経外科	外来			2						1				3
	入院												1	1
	計	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
小児外科	外来	1	1	3	1	1		1	7		1	3	2	21
	入院		1	3	1				1		4	2	2	14
	計	1	2	6	2	1	0	1	8	0	5	5	4	35
整形外科	外来		1	1			1	1				1		5
	入院			2	2	1		1	1	1			1	9
	計	0	1	3	2	1	1	2	1	1	0	1	1	14
形成外科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来			1										1
	入院													0
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
臨床遺伝科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来		1		1									2
	入院							2	2		1			5
	計	0	1	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0	7
産科	外来	4	4	3	2	2		1	1	3	2	1	3	26
	入院	3	2	1	5			2	4	1	1	7	2	28
	計	7	6	4	7	2	0	3	5	4	3	8	5	54
眼科	外来										1			1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
耳鼻咽喉科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来				1	2	1							4
	入院	13	24	14	28	12	9	11	9	35	28	27	23	233
	計	13	24	14	29	14	10	11	9	35	28	27	23	237
救急科	外来	688	869	833	752	749	626	655	666	801	725	573	647	8,584
	入院													0
	計	688	869	833	752	749	626	655	666	801	725	573	647	8,584
小児集中治療科	外来										1			1
	入院	7	7	5	2	8	1	7	5	6	4	15	15	82
	計	7	7	5	2	8	1	7	5	6	5	15	15	83
歯科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	697	878	844	760	756	628	661	676	807	733	579	653	8,672
	入院	38	47	41	62	31	19	32	35	48	59	69	60	541
	計	735	925	885	822	787	647	693	711	855	792	648	713	9,213

経理状況

区分			単位	令和5年度 決算	令和6年度			
					最終予算	決算	予算対比	前年対比
業務量	入院	許可病床数	床	290	290	290	0	0
		稼働病床数	床	290	290	290	0	0
		病床利用率	%	83.6	84.1	79.3	△ 4.8	△ 4.3
		延入院患者数	人	88,699	89,000	83,965	△ 5,035	△ 4,734
		1日当たり患者数	人/日	242	244	230	△ 14	△ 12
		入院単価	円	106,173	104,034	106,417	2,383	244
	外来	延外来患者数	人	110,708	112,100	108,193	△ 3,907	△ 2,515
		1日当たり患者数	人/日	456	461	445	△ 16	△ 11
		外来単価	円	18,232	18,848	18,851	3	619
収支	入院収益		百万円	9,417	9,259	8,935	△ 324	△ 482
	外来収益		百万円	2,018	2,113	2,040	△ 73	22
	その他医業収益		百万円	137	136	128	△ 8	△ 9
	医業収益		百万円	11,573	11,508	11,102	△ 406	△ 471
	コロナ空床補償		百万円	47	0	0	0	△ 47
	長期前受金戻入額		百万円	523	704	576	△ 128	53
	医業外収益		百万円	169	159	168	9	△ 1
	経常収益計①		百万円	12,312	12,371	11,846	△ 525	△ 466
	給与費		百万円	8,554	9,564	9,641	77	1,087
	(うち退職給与金)		百万円	154	207	346	139	192
			百万円	224	272	193	△ 79	△ 31
			百万円	461	527	527	0	66
	材料費		百万円	2,719	2,746	2,625	△ 121	△ 94
	(うち薬品費)		百万円	1,725	1,725	1,620	△ 105	△ 105
			百万円	906	921	909	△ 12	3
	経費		百万円	2,336	2,552	2,510	△ 42	174
	減価償却費		百万円	846	820	815	△ 5	△ 31
	資産減耗費		百万円	9	87	87	0	78
	研究研修費		百万円	59	79	63	△ 16	4
	医業費用		百万円	14,524	15,850	15,741	△ 109	1,217
	医業外費用		百万円	156	153	163	10	7
	経常費用計②		百万円	14,680	16,003	15,903	△ 100	1,223
経営指標	経常損益(繰入前)③(①-②)		百万円	△ 2,362	△ 3,620	△ 4,056	△ 436	△ 1,694
	特別利益④		百万円	5	4	1	△ 3	△ 4
	特別損失⑤		百万円	11	16	2	△ 14	△ 9
	純損益(繰入前)⑥(③+④-⑤)		百万円	△ 2,374	△ 3,643	△ 4,058	△ 415	△ 1,684
	一般会計繰入金⑦		百万円	2,281	2,448	2,448	0	167
	経常損益(繰入後)⑧(③+⑦)		百万円	△ 87	△ 1,183	△ 1,609	△ 426	△ 1,522
	当期純損益(繰入後)⑨(⑥+⑦)		百万円	△ 93	△ 1,195	△ 1,610	△ 415	△ 1,517
	給与費比率		%	73.9	73.3	86.8	13.5	12.9
	材料費比率		%	23.5	23.9	23.6	△ 0.2	0.1
	(うち薬品費比率)		%	14.9	15.0	14.6	△ 0.4	△ 0.3
			%	7.8	8.0	8.2	0.2	0.4
	経費比率		%	20.2	22.2	22.6	0.4	2.4
	医業収支比率		%	79.7	72.6	70.5	△ 2.1	△ 9.1
	経常収支比率		%	99.4	92.6	89.9	△ 2.7	△ 9.5

決算の推移

区 分	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			
	決 算	医業比	前年比	決 算	医業比	前年比	決 算	医業比	前年比	決 算	医業比	前年比	決 算	医業比	前年比	
稼働病床数	床	282	—	102.5	282	—	100.0	282	—	100.0	290	—	102.8	290	—	
病床利用率%	人	78.3	—	90.3	78.6	—	100.4	80.5	—	102.4	83.6	—	103.9	79.3	—	
平均在院日数	日	12.1	—	102.5	11.1	—	91.7	11.5	—	103.6	10.9	—	94.8	10.3	—	
延べ入院患者数	人	80,604	—	92.3	80,935	—	100.4	82,809	—	102.3	88,699	—	107.1	83,965	—	
(1日当り)	人	221	—	92.5	222	—	100.5	227	—	102.3	242	—	106.6	230	—	
新規入院患者数	人	6,139	—	90.1	6,704	—	109.2	6,638	—	99.0	7,445	—	112.2	7,399	—	
延べ外来患者数	人	97,305	—	94.1	110,330	—	113.4	111,732	—	101.3	110,708	—	99.1	108,193	—	
(1日当り)	人	400	—	92.8	456	—	114.0	460	—	100.9	456	—	99.1	445	—	
新規外来患者数	人	11,320	—	83.9	14,085	—	124.4	15,443	—	109.6	15,895	—	102.9	15,022	—	
入院収益	千円	813,6380	810	1000	8,437,060	801	103.7	8,708,948	807	103.2	9,417,451	814	108.1	8,935,308	805	94.9
(1日1人)	円	100,943	—	108.3	104,245	—	103.3	105,169	—	100.9	106,173	—	101.0	106,417	—	100.2
外来収益	千円	1,766,075	17.6	97.2	1,965,136	18.7	111.3	1,954,691	18.1	99.5	2,018,375	17.4	103.3	2,039,500	18.4	101.0
(1日1人)	円	18,150	—	103.3	17,811	—	98.1	17,491	—	98.2	18,232	—	104.2	18,851	—	103.4
その他医業収益	千円	148,526	1.5	102.3	132,469	1.3	89.2	134,261	1.2	101.4	137,350	1.2	102.3	127,658	1.1	92.9
医業収益計	千円	10,050,981	100.0	99.5	10,534,665	100.0	104.8	10,797,900	100.0	102.5	11,573,176	100.0	107.2	11,102,466	100.0	95.9
医業外収益	千円	1,100,881	11.0	122.0	1,324,601	12.6	120.3	1,292,149	12.0	97.6	738,617	6.4	57.2	743,824	6.7	100.7
特別利益	千円	124,601	1.2	4,529.3	200,171	1.9	160.6	2,015	0.0	1.0	5,254	0.0	260.7	734	0.0	14.0
収益合計	千円	11,276,463	112.2	102.5	12,059,437	114.5	106.9	12,092,064	112.0	100.3	12,317,047	106.4	101.9	11,847,024	106.7	96.2
給与費	千円	8,045,758	80.0	103.4	8,175,994	77.6	101.6	8,405,133	77.8	102.8	8,553,647	73.9	101.8	9,640,507	86.8	112.7
うち退職給与金	千円	(163,942)	1.6	61.6	(173,315)	1.6	105.7	(196,328)	1.8	113.3	(153,971)	1.3	78.4	(345,611)	3.1	224.5
うち退職給与引当金	千円	(238,546)	2.6	179.5	(228,841)	2.2	88.5	(265,871)	2.5	116.2	(224,264)	1.9	84.4	(193,491)	1.7	86.3
材料費	千円	2,277,197	22.7	105.8	2,438,313	23.1	107.1	2,475,656	22.9	101.5	2,719,131	23.5	109.8	2,624,830	23.6	96.5
経費	千円	2,117,082	21.1	104.7	2,146,799	20.4	101.4	2,292,465	21.2	106.8	2,336,405	20.2	101.9	2,510,171	22.6	107.4
減価償却費	千円	1,194,835	11.9	97.0	1,247,469	11.8	104.4	1,05,128	9.8	84.6	846,364	7.3	80.2	814,513	7.3	96.2
資産減耗費	千円	17,541	0.2	282.1	16,186	0.2	92.3	9,222	0.1	57.0	9,117	0.1	98.9	87,089	0.8	95.5.2
研究修繕費	千円	36,324	0.4	68.4	42,219	0.4	116.2	53,079	0.5	125.7	59,445	0.5	112.0	63,492	0.6	106.8
医業費用計	千円	13,688,767	136.2	103.3	14,066,980	133.5	102.8	14,20,683	132.3	101.6	14,524,169	125.5	101.6	15,740,602	141.8	108.4
医業外費用	千円	190,774	1.9	94.7	156,203	1.5	81.9	154,745	1.4	99.1	155,677	1.3	100.6	162,755	1.5	104.5
特別損失	千円	423,503	4.2	404.7	157,191	1.5	37.1	7,270	0.1	4.6	11,436	0.1	157.3	2,122	0.0	18.6
費用合計	千円	14,303,044	142.3	105.5	14,380,374	136.5	100.5	14,452,698	133.8	100.5	14,691,222	126.9	101.7	15,905,479	143.3	108.3
差引損益	千円	△ 3,026,581	△ 30.1	81.3	△ 2,320,937	△ 220	123.3	△ 2,360,634	△ 21.9	98.3	△ 2,374,175	△ 20.5	99.4	△ 4,058,455	△ 36.6	170.9
一般会計繰入金	千円	2,360,494	23.5	98.9	2,227,470	21.1	94.4	2,30,021	21.4	103.5	2,280,767	19.7	98.9	2,448,446	22.1	107.4
経常損益	千円	△ 367,185	△ 3.7	△ 387.2	△ 136,447	△ 1.3	37.2	△ 49,358	△ 0.5	36.2	△ 87,226	△ 0.8	176.7	△ 1,608,621	△ 14.5	1,844.2
当期純損益	千円	△ 666,087	△ 6.6	△ 205.1	△ 93,467	△ 0.9	14.0	△ 54,613	△ 0.5	58.4	△ 93,408	△ 0.8	171.0	△ 1,610,009	△ 14.5	1,723.6
経常収支比率%	%	97.4	—	97.8	99.0	—	101.7	99.7	—	100.6	99.4	—	#REF!	89.9	—	90.2
医業収支比率%	%	73.4	—	96.3	74.9	—	102.0	75.6	—	100.9	79.7	—	#REF!	70.5	—	93.3

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

1. スタッフ

科長 中岸保夫（リウマチ科兼務）
 医長 水田麻雄（リウマチ科兼務）、南川将吾、富岡和美、岡崎沙也香
 フェロー 梶田千晶、酒井善紀

専攻医 齊藤麗・西内徳子・當間香南子（1～3月）
 元植彩乃・山田祥仁・安富健人・佛坂智仁（4～6月）
 中野知貴・和田のどか・井上遼太郎・稻永優医（7～9月）
 志風友規・皇甫奈音・松井佑一朗（10～12月）

2. 診療活動

当院は小児専門病院であるため臓器別、疾患別に専門分野が細分化され、複数の臓器に問題を抱える患者も多い。総合診療科はこのような多様な医学的問題をもつ患者に対して多角的に診療を行うことを目的とした診療科である。具体的には、基礎疾患の有無に関わらず小児救命救急センターから入院となった患者（外傷などの外因性疾患から内因性疾患まで）の入院対応、他科からのコンサルテーション、外科系患者やリウマチ科系患者の内科的管理、集中治療管理後の一般病棟管理、在宅医療の推進などを担っている。当科スタッフはリウマチ学会専門医・腎臓学会専門医・小児神経学会専門医などの様々なキャリアをもった医師集団であり、さらには各診療科、看護部、栄養管理部、家族支援・地域医療連携部とも密に協力してチームとしての診療を行い、こどもにとって最善の医療を提供することを目標としている。今年度は発達行動外来も開設した。

また、専攻医教育の充実も当科における重要な使命である。教育としては、専攻医を対象としたスタッフによるレクチャーと専攻医主体の症例検討会を行い、積極的に学会発表や論文作成も指導している。また、当科スタッフ・フェロー指導の下で積極的に業務を行ってもらうことでOn the job trainingの充実にも力を入れており、当院専攻医が必修となっている当科6か月研修の間に、総合的な小児診療が出来る小児科医育成を目指している。

3. 総合診療科患者数

総入院患者数（2024年1月1日～2024年12月31日） 1,627人

4. 主要疾患内訳（DPC主病名）

下気道感染症（気管支炎、細気管支炎、肺炎など）	267
上気道感染症（鼻咽頭炎、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎など）	44
Covid-19感染症	20
RSウイルス感染症	78
マイコプラズマ感染症	16
インフルエンザ感染症	15
気管支喘息	98
消化管感染症（細菌性、ウイルス性）	30
腸重積症（非観血的整復症例）	18
けいれん（熱性けいれん、無熱性痙攣、痙攣重積）	142
尿路感染症（急性巣状細菌性腎炎を含む）	78
川崎病	51
ケトン性・非ケトン性低血糖症	13
アナフィラキシー	15
脳震盪	7

その他疾患

骨折、熱傷、化膿性髄膜炎、IgA血管炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、全身型若年性特発性関節炎など

2. 救急科

1. 診療活動

小児救命救急センターは、2016年の新病院開院より、すべての救急患者さんに対応するため、救急外来を担当する救急部門、救急外来から入院を要する中等症以下の患者を担当する入院部門、重症患者を担当する集中治療部門に分けて運用されてきた。救急部門では救急患者の受け入れをより積極的に行うために、365日24時間体制でウォークインの患者さんはもとより、救急患者搬送の依頼に対しても可能な限り対応し、開院以降毎年救急外来受診者数と救急車による搬送件数は増加してきた。そしてこれまでの三次救急医療の実績を踏まえて2017年4月から全国で12番目、近畿圏では初めての小児救命救急センターに指定された。

しかし2020年は新型コロナ感染症の拡大により、総受診者数、救急車による搬送件数は減少したが、2021年は小児新型コロナ患者の増加もあり総受診者数は11,888名（うち救急車による搬送件数1,603件、救急外来からの入院患者1,561名）に増加、2022年の総受診者数は13,680名（うち救急車による搬送件数2,290件、救急外来からの入院患者1,906名）、2023年の総受診者数は15,235名（うち救急車による搬送件数2,534件、救急外来からの入院患者2,303件）とさらに増加した。そして、2024年は総受診者数は14,602名、うち救急車による搬送件数は2,399件、救急外来からの入院患者数は2,282名であった。今後も病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、体制整備を進めたい。

教育面では、Webも利用しながら、毎週1回7時30分から専攻医向けの勉強会や月1回科内で半日の勉強会を継続し、専攻医が中心となって救急診療に必要な実技トレーニングも定期的に開催している。さらに、他院から小児科専攻医、救急科専攻医、初期研修医を積極的に受け入れ、小児科医には救急のトレーニング、救急医には小児科のトレーニング、初期研修医には一般的な小児救急患者の対応を学べる場所として教育体制の充実を図った。

また他科との連携においては、総合診療科や集中治療科とは定期的なカンファレンスを開催し、整形外科とは毎週症例提示する場を設けアドバイスをいただくようにしている。

対外的には、兵庫県小児科医会の救急対策委員会や兵庫県小児医療ネットワークの事務局を務めた。

2. スタッフ

救急科（2024年1～3月）：田中亮二郎（センター長）、林卓郎（部長）、松井銳（医長）、竹井寛和（医長）、谷澤直子（医長）、大西康裕（医長）、大西理史（医長）、宮脇康介（フェロー）、西藤知城（フェロー）

（2024年4～12月）：田中亮二郎（センター長）、林卓郎（部長）、松井銳（医長）、竹井寛和（医長）、谷澤直子（医長）、村田慧（医長）、大西理史（医長）、吉井拓真（フェロー）、柏坂舞（フェロー）、齊藤麗（フェロー）、小川碧（フェロー）

・**当院専攻医**：皇甫奈音（2024年1月）、中野知貴（2024年4月）、佛坂智仁（2024年7月）、松井佑一郎（2024年8月）、春田真之介（2024年9月）、高橋英里（2024年10月）、原将都輝（2024年12月）

・**他院小児科専攻医**：神戸市立医療センター中央市民病院小児科専攻医 木原崇志（2024年2,3月）、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科専攻医 松永理（2023年4～6月）、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科専攻医 浪方悠（2023年4～9月）、兵庫県立尼崎総合医療センター小児科専攻医 小倉愛由（2023年10,11月）

- ・他院救急科専攻医：兵庫県災害医療センター救急科 山藤宥輝（2022年4月～9月）、加古川医療センター救急科 北川怜（2024年10月～2025年3月）、自治医科大学附属さいたま医療センター救急科 小松睦実（2024年10月～2025年3月）
- ・県立病院初期研修医：淡路医療センター 宮崎温美（2023年4月）、はりま姫路総合医療センター 吉村桃果（2023年5月）、丹波医療センター 太田里菜（2023年6月）、はりま姫路総合医療センター 辻伸太朗（2023年7月）、丹波医療センター 折田沙穂（2023年8月）、はりま姫路総合医療センター 富田藍子（2023年9月）、丹波医療センター 徳田真歩（2023年12月）
- ・神戸大学医学部の学生の半日研修も受け入れた。

3. 診療統計

小児救命救急センター診療統計（2024年1月～12月）

（1）救急外来患者数・救急入院患者数・救急車搬送数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
救急外来患者数	1,195	1,098	1,048	1,198	1,401	1,358	1,348	1,286	1,050	1,131	1,146	1,343	14,602
救急入院患者数	192	184	177	193	209	208	212	190	142	180	172	223	2,282
救急車搬送数	196	196	185	197	238	231	208	195	152	160	187	254	2,399

（2）平日・休日別救急患者数

平日・休日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平日	644	649	603	722	783	795	890	811	616	710	691	714	8,628
休日	551	449	445	476	618	563	458	475	434	421	455	629	5,974
合計	1,195	1,098	1,048	1,198	1,401	1,358	1,348	1,286	1,050	1,131	1,146	1,343	14,602

（3）時間帯別救急患者数

時間帯	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
0:00～8:45	159	136	114	158	182	174	153	141	112	114	123	170	1,736
8:45～17:30	620	550	507	598	696	656	665	635	517	565	581	680	7,270
17:30～24:00	416	412	427	442	523	528	530	510	421	452	442	493	5,596
合計	1,195	1,098	1,048	1,198	1,401	1,358	1,348	1,286	1,050	1,131	1,146	1,343	14,602

(4) 地域別救急患者数

地 域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
神戸市	968	842	829	934	1,115	1,091	1,056	970	822	888	926	1,062	11,503
(東灘区)	140	132	139	130	169	188	150	129	107	132	138	173	1,727
(灘 区)	104	92	94	97	125	152	140	143	98	99	111	100	1,355
(中央区)	165	117	145	147	188	161	170	133	134	143	144	172	1,819
(兵庫区)	108	78	74	102	96	115	110	89	90	102	95	116	1,175
(北 区)	111	114	111	123	145	108	110	98	98	109	122	111	1,360
(長田区)	65	71	52	59	88	69	77	78	74	61	75	71	840
(須磨区)	121	79	89	95	99	110	112	100	86	87	92	134	1,204
(垂水区)	91	99	62	96	107	113	113	114	80	89	83	103	1,150
(西 区)	63	60	63	85	98	75	74	86	55	66	66	82	873
阪神南地域	50	71	52	53	64	66	71	82	71	57	36	67	740
阪神北地域	19	19	17	23	19	22	30	29	19	25	28	34	284
東播磨地域	65	80	57	86	91	87	76	75	52	59	51	73	852
北播磨地域	18	31	30	19	37	30	27	28	23	31	28	29	331
中播磨地域	21	4	9	19	8	10	6	11	9	16	8	7	128
西播磨地域	1	2	2	1	3	1	5	5	3	7	4	7	41
但馬地域	4	0	6	2	1	2	2	0	0	2	0	4	23
丹波地域	2	8	7	15	8	6	17	6	7	4	3	1	84
淡路地域	11	9	9	11	15	12	12	14	7	12	9	11	132
兵庫県外	36	32	30	35	40	31	46	66	37	30	53	48	484
合 計	1,195	1,098	1,048	1,198	1,401	1,358	1,348	1,286	1,050	1,131	1,146	1,343	14,602

3. 代謝・内分泌内科

1. 人事異動

部長（科長）	尾崎 佳代
医長	松本 真明
フェロー	4月～9月 池谷 紀衣子 10月～3月 曽根原 晶子
非常勤	坊 亮輔（神戸大学より月2回外来応援）
フェロー	4月～9月 柏坂 舞 10月～3月 西藤 知城

本年はスタッフ2名、フェロー2名の4名体制で診療を行った。フェローとして神戸大学小児科から池谷紀衣子医師が4～9月、曾根原 晶子医師が10～3月派遣されている。

非常勤として神戸大学小児科より坊 亮輔医師が月2回代謝外来を行っている。

フェローとして半年間、西藤 知城医師、柏坂 舞医師が当科所属で診療を行った。

また、専攻医数名が1ヶ月間のサイクルで研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟に関わる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。2024年も引き続き、代謝疾患の中の小児集中治療を必要とする疾患の受け入れ病院としての機能を保った。今年度は糖尿病や代謝疾患など専門性を求められるため、休日夜間を問わずオンコール体制で対応を行った。その時には集中治療科と連携して診療にあたっている。また、神戸大学、兵庫医大と連携をとり、兵庫県全体の内分泌代謝疾患の活性化に努めた。

本年度の新規外来患者数は504名と昨年と同程度であった。性腺疾患と肥満が増加していた。外来患者数は、8,000名を超えており、入院患者数は209名と増加した。昨年より1.5倍になり、休日、夜間の緊急入院割合著増している。地域の専門病院として今後もその役割を果たしていく所存である。施設としては日本内分泌学会と日本糖尿病学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医、糖尿病専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。内分泌を目指す若手の育成に重点を置いており、研究会を主催している。

【研究・学術活動】

尾崎部長、松本医長は小児内分泌学会評議員として活動し、尾崎部長は副腎性腺委員会に所属し、委員会活動に従事した。性分化疾患ガイドラインの委員として作成に携わった。

当科は、患者様に対する治療法の改善並びに生活の質の向上を目的とした臨床治験に積極的に参加している。本年度は昨年度に引き続きSGA性低身長、成長ホルモン分泌不全性低身長を対象としたLong GH治療の治験に参加した。観察研究としてXLH（低リン血症性くる病）の研究に参加した。その他、2型糖尿病の内服治療の小児の適応拡大の治験にも参加した。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者の生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。学会報告として、17報告と前年に比べて増加した。その分野は内分泌の全ての分野に満遍なく関わっている。他科が中心となって、論文発表が増えているが、来年度は当科からも論文報告ができる

る予定である。また、他院との多施設共同研究も少しづつではあるが立ち上げている。

当科は今後も計画的に5年後10年後を見据えた臨床研究を立ち上げていく予定である。

入院患者

	患者数
低身長症	48
糖代謝異常	40
性腺疾患	2
甲状腺疾患	6
副腎疾患	18
肥満	1
マスクリーニング	1
その他の	93
計	209

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	167
甲状腺疾患	28
性腺疾患	126
副腎	9
糖代謝異常	31
肥満	26
マスクリーニング	
先天性甲状腺機能低下症	7
先天代謝異常症	1
先天性副腎過形成	1
その他の	114
計	504

4. リウマチ科

1. スタッフ

部長（科長） 中岸 保夫
医長 水田 麻雄

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に主に外来で診療している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、シェーグレン症候群、ベーチェット病、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。入院管理は総合診療科が主科として協力して診療を行っている。また遠方の患者さんは地域の小児科の先生方と、ぶどう膜炎に関しては眼科の先生方と、移行期においては成人リウマチ科の先生方との連携を積極的に行うなど、他施設との良好な協力関係の構築に努めている。

治療に関しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて最新の治療を行っている。また小児リウマチ性疾患は依然として病態が不明な部分が多いため、全国の小児リウマチ専門医と協力して病態解明や新たな診断・治療法の開発を目的とした基礎研究、臨床研究を積極的に行っており（当院HP参照）、臨床治験への参加、若手医師の教育や患者さん向けの講演会、厚生労働省の難治性疾患等政策研究事業などにも尽力している。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍しており、患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。また患児それぞれに合わせて成人移行期に向けた支援も積極的に行っている。

4. 診療実績

外来患者数 292名（うち初診 66名）

主な疾患			
全身型若年性特発性関節炎	19名（4名）	シェーグレン症候群	4名（1名）
全身型以外の若年性特発性関節炎	88名（9名）	高安動脈炎	6名
全身性エリテマトーデス	19名（3名）	川崎病（冠動脈病変なし）	44名（急性期は総合診療科入院）
若年性皮膚筋炎・多発筋炎	12名（1名）	ベーチェット病	7名（1名）
全身性強皮症・限局性強皮症	3名	自己炎症性疾患	11名（4名）
その他の患者			
関節痛・レイノー・ぶどう膜炎・周期性発熱など			

入院患者 全例総合診療科管理

川崎病、全身型若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など
(生物学的製剤導入例含む)

5. アレルギー科

1. 人事

スタッフ1名、フェロー1名の2名体制で診療を行った。フェローは2024年3月に岡崎沙也香医師が転出し、同年4月に長谷川智大医師が着任した。田中裕也医師（たなか小児科アレルギー科）、百々菜月医師（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）、岡崎沙也香医師（当院総合診療科）、仲嶋健吾医師（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）は診療応援/総合診療科兼務として週1回当科診療に従事した。

科長	濱田 佳奈
フェロー	長谷川 智大
非常勤	田中 裕也、百々 菜月、仲嶋 健吾
総合診療科兼務	岡崎 沙也香

2. 小児アレルギー疾患センター

センター長	濱田 佳奈
副センター長	小坂 嘉之

3. 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院

2014年6月に「アレルギー疾患対策基本法」が設立し、2015年12月末から施行されている。これはアレルギー疾患患者の増加に対応すべく医療提供の均てん化を目指したものである。その一環として2018年度より当院は兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定された。

4. 診療活動

基礎疾患に合併したアレルギー疾患や重症例にも対応しているが、地域の医療機関からのご紹介や当院救急外来後のフォローなど基礎疾患を有しない例にも対応しており、重症度問わず診療を行っている。食物アレルギーの有病率は増加していること、食物経口負荷試験数は今年度も一定数維持されていることからも、需要は多いと考える。また、アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法などを積極的に取り入れている。

アレルギー専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）を中心としたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎のスキンケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育施設であり、若手医師への教育を行っている。

5. 診療実績（2024年1月～12月）

- ・食物経口負荷試験 505例
- ・ダニ・スギ舌下免疫療法 新規52例
- ・アトピー・喘息・慢性蕁麻疹に対する生物学的製剤投与継続例 36例（12月時点で継続中）
- ・院外新規外来患者 176名

6. 神経内科

1. 人事異動

2024年4月に総合診療科兼務であった石田が神経内科専属になり、スタッフ3名に増員となった。フェローに関しては2024年3月に上田が退職、後任には4月に神戸大学小児科から伊藤が着任した。また2024年4月から神戸大学小児科からのフェロー1枠が増員となり、計6名体制で診療を行った。神戸大学小児科の永瀬裕朗先生には、月1回診療応援や臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. スタッフ

部長（科長）	丸山 あずさ
医長	西山 将広
	石田 悠介（2024年4月から神経内科専属）
フェロー	相馬 健人、伊藤立人
	川村 葵（2024年4月～2024年9月）
	鮫島 智大（2024年10月～）

3. 活動状況

2024年は、神経内科外来初診516名、入院新規患者数は224名と、外来入院患者ともに年々増加の一途をたどっている。神経内科の増員により積極的に神経関連の患者を引き受け、専門的な評価を行い、質の高い診療を心がけた。けいれん性疾患を中心に神経免疫疾患、心身症など幅広く診療を行っており、神戸市内のみならず、県内広域から紹介をいただいている。また院内から先天疾患や希少疾患の紹介も増えており、正確な診断と病態把握などを行っている。今後も小児神経専門施設としての役割を果たしていく所存である。

けいれん重積や意識障害が遷延する状態については、昨年と同様に、休日夜間を問わずオンコール体制で専門的コンサルト対応を行った。救急総合診療科や集中治療科と連携し、診療の質が向上することで、神経学的後遺症の軽減を目指したいと考えている。

てんかん診療については、神戸大学てんかんセンターを中心として地域連携体制が構築されつつあり、当院は小児のてんかん診療の中心的役割を担っている。引き続き近隣の医療機関への情報発信を行い、専門的介入が望まれる患者の集約化やシームレスな成人期移行を目標としたい。

4. 研究・学術活動

学術活動については、けいれん重積・急性脳症・てんかん・神経発達に関する発表を20件、論文発表を7件行った。昨年に引き続き急性脳症を中心とした臨床研究を神戸大学と連携して行っている。発熱に伴うけいれん・意識障害をきたした入院症例の前向き多施設レジストリにより、発症早期の転帰不良因子を詳細に解析し、またより高い精度で後遺症を予測するためのバイオマーカーの探索により、急性脳症ではアストロサイトの機能不全を示唆する髄液中のS100Bの上昇を認めることを明らかにした。我々が行っている急性脳症研究での新たな知見を世界に発信していきたいと考えている。

当院は小児神経専門医研修施設、日本てんかん学会研修施設に認定されており、サブスペシャリティの育成にも引き続き取り組んでいきたい。

5. 診療実績

神経内科初診患者数 516例

(疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

神経内科外来初診	516例	検査および治療	
てんかん	113例	脳波	662例
神経発達症	71例	長時間ビデオ脳波	90例
熱性けいれん	112例	持続脳波モニタリング	236例
急性脳炎・脳症	17例	末梢神経伝導検査	11例
自己免疫性神経疾患	19例	体温管理療法+バルビツレート昏睡療法	19例
頭痛/心身症	69例		

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

医師人事については、フェロー医師の秋定直宏医師（奈良医科大学小児科）、西尾周朗医師（京都大学大学院）、堀川翔伍医師（鹿児島大学小児科）が転出し、正規医師として二野菜々子医師（神戸大学小児科）、フェローとして川場大輔医師（鳥取大学小児科）、松尾進医師（当院専攻医）、吉川なつこ医師（神戸大学専攻医）が入職した。小阪副院長以下14名の体制で始動した。短期ローテーターの異動については割愛する。

副院長（小児がん医療センター長）	小阪 嘉之
科長（診療部長、小児がん医療センター次長）	長谷川 大一郎
部長	森 健
部長	石田 敏章
部長	岸本 健治
医長	神前 愛子
医長	斎藤 敦郎
医長	兵頭 さやか
医長	植村 優
医長	二野 菜々子
フェロー	田中 裕介
フェロー	川場 大輔
フェロー	松尾 進
フェロー	吉川 なつこ

【診療活動】

小児がん拠点病院として県内11施設を小児がん連携病院として指定し、地域医療圏における診療連携・患者集約化を進めている。2024年度の悪性腫瘍／非悪性血液疾患の新規診断患者数は例年並みで、依然として腫瘍性疾患に関しては学会登録ベースで全国屈指／西日本最大規模の症例数であり、平均稼働病床も46.1人／日と高水準となった。詳細はそれぞれ別表を参照されたい。また、神戸陽子線センターとの診療連携に伴う小児に対する陽子線治療照射実績についても単年度症例数ベースでは全国最多規模を維持している。また、造血幹細胞移植症例も積極的に行い、2024年の造血細胞移植数は21例で、CAR-T細胞療法についても2024年度に2例を実施した。

人材育成に注力し、科内スタッフの専門医取得支援を進めている。本年度新たに取得したものを加えて、小児科専門医12名（指導医6名）、日本血液学会血液専門医10名（指導医6名）、日本小児血液・がん学会専門医6名（指導医2名）、日本造血細胞移植学会移植認定医7名、がん治療認定医6名、日本血栓止血学会認定医1名の体制となった。日本小児血液・がん学会新研修制度における研修施設群（兵庫県立こども病院グループ：神戸大学附属病院／香川医科大学附属病院）を形成して人材育成に取り組んでいる。今後も、安全かつ質の高い診療基盤と、小児血液・がん専門医取得を目指す教育施設としてより強固な基盤を築いていくよう体制を整えていく。

多角的な療養環境の整備の一環として病棟内のWi-Fi環境を整え、インターネット通信を利用した遠隔授業を行っており、本年度も進学実績が得られている。一方、緩和ケア医療の充実の一環として日本緩和医療学

会研修施設として認定され、神前医師、二野医師が緩和ケアチームにおいて精力的に活動している。本年度は緩和ケア外来を開設し、小児緩和ケア加算の算定を開始した。

日本血栓止血学会より血友病診療連携地域中核病院に指定されたことを受けて血友病診療需要も増加しつつある。日本血栓止血学会教育研修施設に指定された。先天性凝固異常症など血栓止血領域においても看護部、地域医療連携部等と連携して患者の生活の質（QOL）を最大化することを目標に、診療の質と地域連携の核として診療連携を深めていく。

【研究・学術活動】

臨床業務と並行して、日本小児がん研究グループ（JCCG）等の委員会活動・研究活動等に従事した。

学会・研究活動	
小阪 嘉之	JACLS会長／JCCG幹事／神戸大学客員教授（小児先端医療学）
長谷川 大一郎	JCCG理事／JACLS理事長／JCCG-AML委員会／ユーリング肉腫委員会／JACLS-ALL委員会、日本小児血液・がん学会止血・血栓委員会、日本小児血液・がん学会白血病リンパ腫委員会、日本造血・免疫細胞療法学会ガイドライン委員会委員
森 健	JCCG リンパ腫委員会／JCCG 再発 ALL 委員会
石田 敏章	JCCG 神経芽腫委員会／JCCG 横紋筋肉腫委員会
岸本 健治	JCCG 支持療法委員会
齋藤 敦郎	JCCG 移植・細胞療法委員会／JACLS 支持療法委員会
兵頭 さやか	JCCG 脳腫瘍委員会
植村 優	JCCG ALL 委員会／JACLS ALL 委員会

成果としてJCCG等の臨床試験の結果が報告されたほか、神戸大学や理化学研究所等の近隣研究施設と連携し基礎研究や疫学研究等に取り組んでいる。研究学術活動においても地域を主導する機関として益々実績を積み上げていくことが期待される。

【2024年1月～12月 新患】

血液腫瘍性疾患	合計	38
急性リンパ性白血病（ALL）	15	
急性骨髓性白血病（AML）	4	
混合表現型急性白血病（MPAL）	1	
慢性骨髓性白血病（CML）	1	
ホジキン悪性リンパ腫（HL）	4	
非ホジキンリンパ腫（NHL）	4	
骨髓異形成症候群（MDS）	0	
若年性骨髓単球性白血病（JMML）	0	
Down症一過性異常骨髓増殖症（TAM）	4	
ランゲルハンス組織球症（LCH）	2	
血球貪食性リンパ組織球症（HLH）	3	

固形腫瘍性疾患	合計	116
神経芽腫群腫瘍	12	
網膜芽腫	6	
腎腫瘍	3	
肝腫瘍	1	
骨腫瘍	9	
軟部腫瘍	17	
頭蓋外胚細胞腫瘍	5	
脳脊髄腫瘍	41	
その他の固形腫瘍	22	

非腫瘍性疾患	合計	138
免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）	6	
本態性血小板增多症（ET）	1	
好中球減少症	6	
遺伝性球状赤血球症（HS）	2	
再生不良性貧血	2	
自己免疫性溶血性貧血（AIHA）	0	
血友病A	0	
血友病B	0	
ファンヴィルブランド病（疑い含）	4	
カサバッハ・メリット症候群	0	
その他の凝固異常	6	
組織球性壞死性リンパ節炎（SNL）	0	
先天性免疫不全症	2	
血縁ドナー（候補含む）	21	
骨髓バンクドナー	3	
その他	85	
セカンドオピニオン	6	
合計	292	

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸 佐知子	フェロー	飯田 智恵
	田中 敏克		稻瀬 広樹
	小川 賢治		伊藤 啓太
	亀井 直哉		渡邊 望
	久保 慎吾		
	三木 康暢		
	中井 亮佑		

非常勤 則武 加奈恵

スタッフ7名、フェロー4名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができるなどを主なる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

(1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、基本2診体制で対応している。新規患者は毎日受け入れており、総新規患者数は680名で例年通りであった。新規患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(74)、心房中隔欠損(48)、肺動脈狭窄(24)、動脈管開存(20)、ファロー四徴症(6)、房室中隔欠損(2)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD・不整脈外来(火曜午後、担当：小川)、ペースメーカー外来(木曜午後、担当：小川・三木)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立はりま姫路総合医療センター、加古川中央市民病院などでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。

(2) 入院：1年間の総入院患者数は617名で、COVID-19流行下であった昨年と比べ増加した。6西病棟だけでは収容しきれず、救急HCU病棟・GCUにも入院を受け入れていただいた。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、PICU、HCU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっている。昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。

(3) 生理検査：総心電図件数6,332件、Master負荷心電図件数1,530件、Holter心電図件数503件、トレッドミル負荷心電図は2,233件で昨年同等であった。心エコーも8,596件と昨年と同等であった。胎児心

エコーは231件（担当:亀井医師 主として木曜日）で、昨年より増加傾向であった。また、2016年に新たに心肺機能検査（CPX）を導入し、2023年は20件であった。

（4）心臓カテーテル検査・治療：総件数287件と減少していた。その理由として、アンギオ装置の更新のため6週間検査を止めていたことが大きく影響した。しかし、カテーテル治療の件数は129件と、昨年と比較し減少の幅は小さく、依然として需要が多いことを反映している。今後も治療件数は増加すると予想され、現在の待機期間が約6か月となっており、今後、待機期間を短縮するために、昨年より、木曜日の偶数週の午後を使用できるようになったことに加え、来年度より奇数週の金曜日の午後が使用できる見込みであり、待機期間の減少につながることが期待される。

（5）心臓MRI：毎週火曜日の午後に行っている。総件数は34件で昨年と同等であり、今後は心臓カテーテル検査にとって代わり、増加していくことが予想される。検査枠の拡大が今後の課題である。

【その他の活動】

- （1）カンファレンス：月曜日夕方、火曜日と木曜日朝に心臓外科との合同カンファレンス、水曜日朝にカテーテル検査前カンファレンス、夕方に心臓外科と合同の抄読会、火曜日と木曜日の夕方にカテーテル検査後カンファレンスおよび心エコー検討会、を行い、討議の時間をもっている。
- （2）学会参加：小児循環器病学会、JPIC学会、胎児心臓病学会、成人先天性心疾患学会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【入院患者内訳】

全入院患者の疾患内訳	総数
(カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり)	617
フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓）	161
ファロー四徴症	35
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	30
心室中隔欠損	35
心房中隔欠損	43
動脈管開存	23
両大血管右室起始	70
大動脈弓離断・大動脈縮窄	38
房室中隔欠損	26
大血管転位	13
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	9
肺動脈狭窄	12
心膜・心筋疾患	8
大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	10
川崎病・冠動脈後遺症	20
総肺静脈環流異常	20
両大血管右室起始・房室中隔欠損	3
感染性心内膜炎	1

全入院患者の疾患内訳	総数
不整脈	12
エプスタイン奇形	9
総動脈幹症	6
僧帽弁閉鎖不全	1
肺動脈弁欠損	1
肺高血圧	2
大動脈・肺動脈窓	2
修正大血管転位	4
その他	23
カテーテル治療（カテーテル総数件287、重複あり）	129
弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	12
血管形成	47
ステント留置術	1
コイル塞栓術（動脈管開存）	0
コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻その他）	17
バルーン心房中隔裂開術	10
心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II, GCA）	26
動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	18
その他	13

9. 腎臓内科

【人事】

2024年3月末日をもって矢谷和也医師が転出し、4月1日から青山周平医師、金奏希医師が着任した。青山医師は9月末日をもって神戸大学医学部附属病院へ転出し、10月1日付で木村裕香医師が着任した。2024年12月末日時点での腎臓内科員は貝藤、稻熊、木村、金と、田中亮二郎（副院長・小児救命救急センター長）の5名体制であった。

【診療活動】

入院延べ患者数、外来延べ患者数は緩徐ながらも増加傾向が続いている。本年の腎生検は32例と昨年と同程度だった。当科での管理を継続している在宅腹膜透析患児は7名（2024年12月末日現在）である。先行的腎移植の導入が進み、腹膜透析患児は全国的に減少している。一方、周産期の集学的治療や小児がんの治療技術の進歩などによって、複雑な全身疾患を背景に有した慢性腎臓病患児が全国的に増加している。このような患児では腎移植が困難な場合も少なくないため、QOLやADLを維持・向上させうる腹膜透析が選択される機会が多い。当科で管理中の腹膜透析患児も、その多くが複雑な全身疾患を併存しており、腎臓移植の具体的予定をたてられないでいる。当科は、小児病院という特性から、新生児～生後早期の低体重児や、腹部外科手術後、あるいは集学的がん治療後の末期腎不全児に対する腹膜透析療法の経験を豊富に有している。今後も引き続き、当科の知見を学会等で内外に広く知らしめるよう努め、兵庫県にとどまらず、近隣府県におけるあらゆる慢性腎臓病患児への関わりを積極的にすすめていきたい。腎移植を要する患児については神戸大学泌尿器科をはじめ、他院にその手術を依頼し、慢性期管理は当院で行うことを原則としている。現在6名の腎移植後患児を外来管理している。急性腎障害の腎代替療法や維持血液透析に移行を要する慢性腎臓病患者の血液浄化療法については集中治療科と連携して診療にあたっている。

【研究・学術活動】

貝藤部長は日本小児腎臓病学会の代議員として小児CKD対策委員会に所属し、また田中部長は同じく日本小児腎臓病学会の代議員として医療安全・倫理・災害対応・COI委員会に所属し、それぞれ委員会活動に従事した。

当科は従来から医師主導治験や多施設共同臨床試験に積極的に参加してきた。当院は全国的にみても、症例が非常に豊富な小児腎臓病の一基幹施設であると自負している。医師主導治験は企業治験と異なり、参加施設への研究費配分が十分とは言えず、薬剤部をはじめとした院内の関係部署に多大なご協力をいただきようやく実施できている状況である。この場を借りて関係部署の皆様にお礼を申し上げるとともに、院内治験管理部門がより一層充実することを期待したい。

【2024年の入院症例内訳】

N04 ネフローゼ症候群	38
N18 慢性腎臓病	18
N03 慢性腎炎症候群	12
N00 急性腎炎症候群	6
N02 IgA腎症	4
D69 紫斑病腎炎	4
D59 溶血性尿毒症症候群	3
T85 CAPD腹膜炎	3
N10 急性尿細管間質性腎炎	2
N39 尿路感染症	2
N10 急性巣状細菌性腎炎	1
N39 急性腎障害	1
N01 ANCA関連腎炎	1
N11 慢性尿細管間質性腎炎	1
M32 ループス腎炎	1
I12 腎不全を伴う高血圧性腎疾患	1
M35 シエーグレン症候群	2
M33 若年性皮膚筋炎	1
Q77 ジューヌ症候群	4
Q89 ギヤロウエイ・モワト症候群	1
その他（腎疾患に合併した急性感染症）	11
合 計	117
（うち腎生検症例	32)
（うち腹膜透析症例	19)

10. 感染症内科

【スタッフ】

2024年度は、笠井正志（部長）、佐伯怜（フェロー）、田中沙紀（フェロー）の常勤医3名体制に加えて、非常勤医師として水野真介（尼崎総合医療センター）、杉野充伸（杉野小児科医院）を招聘していた。

【主な業務内容】

1. 感染症支援
2. 感染対策に関わるチーム医療（ICT、AST）
3. 兵庫県予防接種センター業務

それぞれの概要を示す。

1. 感染症診療

24時間365日体制で診療各科からコンサルテーションを受けている。また院外からも年間20例前後相談を受けている。年次推移を以下に示す。

年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	518	697	714	847	605	594	605	410	608

感染症外来では、不明熱、長引く発熱、先天性感染症、渡航前後感染症相談、ワクチン接種や相談を受けている。

2. 感染対策に関わるチーム医療（ICT、AST）

感染対策チーム（ICT）や抗菌薬適正使用推進チーム（AST）のメンバー一員として、感染管理認定看護師、薬剤師、臨床微生物検査技師ともに院内感染対策を積極的に推進している。

3. 兵庫県予防接種センター業務

ワクチン相談（相談件数の推移は以下に示す）、接種（「接種困難者」対応）と教育（年1回予防接種基礎講座）を行っている。

年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	5	34	46	38	33	33	31	31	37

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は常勤医1名（森貞直哉、臨床遺伝専門医・指導医）が診療を担当している。また、認定遺伝カウンセラー®が診療を補佐している。

【診療活動】

臨床遺伝科は院内外からの紹介を受けた遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や、他科診療患者の急な依頼にも可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・遺伝性疾患のトータル管理：ダウン症候群、神経線維腫症1型、Noonan症候群など
- ・臨床診断されている患者の原因遺伝子解析：結節性硬化症、Marfan症候群など
- ・マイクロアレイ染色体検査
- ・全エクソン解析：神戸大学、慶應義塾大学（Priority-i）、未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases、IRUD）などとの共同研究
- ・他施設で解析された事例の遺伝学的説明：染色体異常など
- ・次子再発率、発症前診断、出生前診断などの遺伝カウンセリング

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は、保険診療でできるものとできないもの両方を受諾している。

保険診療で対応できるものは各種検査会社（かずさDNA研究所など）に依頼している。

保険診療で対応できないものは、主に神戸大学小児科をはじめとする国内の研究機関との共同研究として行っている。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導するIRUDの地域拠点病院（神戸大学）の協力病院としても活動している。また慶應義塾大学とは新生児を対象に全エクソン解析、全ゲノム解析を用いてゲノム情報を診療に役立てるPriority-iを行っている。

【学会、研究活動】

他施設との共同研究を含め活発に行っている。詳細は別項参照。

【院外講演】

- ・「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」 森貞直哉、京都大学遺伝カウンセラーコースレクチャー、2024年6月14日、京都
- ・「こどもたちとその家族のためのゲノム医療」 森貞直哉、第293回日本小児科学会兵庫県地方会、2024年9月28日、姫路

【今後の展望】

IRUDや出生前診断、がんゲノムなど、一般診療においても臨床遺伝の知識は既に必須となっている。さらに、ごく近い将来網羅的遺伝子解析の保険適用や、全ゲノム解析データの臨床実装化が推進されると予想されており、当科ではこどもたちのために精緻で迅速な遺伝診療を推進していきたい。

【別表】

染色体異常

疾 患 名	症例数
Down症候群	47
22q11.2欠失症候群	11
クラインフェルター症候群	4
Turner症候群	3
4p欠失症候群	2
5p欠失症候群	1
17q12欠失症候群	1
22q11.2重複症候群	1
7番染色体長腕部分モノソミー	1
15q11.2欠失症候群	1
4q25欠失症候群	1
1番染色体腕間逆位	1
クラリーノ症候群	1
Smith-Magenis症候群	1
9番染色体トリソミーモザイク	1
13q中間部欠失症候群	1
12番染色体長腕部分欠失	1
5p trisomy	1
MACF1異常 15q11.2欠失症候群	1
13q中間部欠失症候群	1
その他の染色体異常	8

疾 患 名	症例数
股関節痛	1
骨系統疾患	1
左合指症	1
腰椎形態異常	1
心筋緻密化障害	1
骨形成不全症	1
低ホスファターゼ症	1

先天異常症候群

疾 患 名	症例数
Noonan症候群	10
Marfan症候群	8
Sotos症候群	6
Beckwith-Wiedemann症候群	4
Bardet-Biedl症候群	3
Kabuki症候群	3
Williams症候群	3
Cowden症候群	2
CFC症候群	1
Coffin-Siris症候群	1
Silver-Russell症候群	1
Loeys-Dietz症候群	1
Temple症候群	1
Smith-Magenis症候群	1
Alstrom症候群	1
Smith-Magenis症候群	1
Brain-Lung-Thyroid syndrome	1
RASA1関連疾患	1
コルネリア・デ・ランゲ症候群	1
その他の先天異常症候群	6

遺伝性腎疾患

疾 患 名	症例数
Alport症候群	6
多発性のう胞腎	5
無症候性蛋白尿・血尿	1
LAMA5異常症	1
その他	1

骨系統疾患

疾 患 名	症例数
2型コラーゲン異常	1
軟骨無形成症	1
Nail-Patella症候群	1
Pfiffer症候群	1
先天性股関節脱臼	1
筋拘縮型エーラス・ダンロス症候群	1
エーラスダンロス症候群	1
Muenke症候群	1

循環器

疾 患 名	症例数
QT延長症候群	9
拡張型心筋症	1

血液腫瘍

疾 患 名	症例数
神経線維腫症1型	26
網膜芽細胞腫	1

疾 患 名	症例数
神経線維腫症 2型	1
片側性網膜芽細胞腫	1
周期性発熱	1
両側網膜芽細胞腫	1
原発性免疫不全症候群	1
貧血	1
ATM 遺伝子異常症疑い	1
DICER1 症候群	1
左網膜芽細胞腫	1
遺伝性自己炎症症候群疑い	1
血球貪食症候群	1
X連鎖リンパ増殖性疾患疑い	1

神経疾患

疾 患 名	症例数
知的障害・自閉症スペクトラム	20
熱性けいれん重積・脳症	5
TRIO 遺伝子関連疾患	3
Cabezas型知的障害	2
Rett症候群	2
Joubert症候群	2
Charcot-Marie-Tooth病	3
Dravet症候群	1
GRIN1 異常	1
滑脳症	1
CDKL5 異常症	1
BCL11B 遺伝子関連疾患	1
Bachmann-Bupp症候群	1
大脳白質形成不全	1
MECP2 重複症候群	1
BRWD3 異常症	1
HECW2 異常による知的障害	1
KAT6A 遺伝子異常	1
PHF8 関連知的障害	1
PPP2R5D 関連神経発達症	1
SUPT16H 異常症	1
TBR1 遺伝子異常症	1
ネマリンミオパチー	1
小頭症	1
水頭症	1
脊髄髓膜瘤	1

代謝異常・内分泌疾患

疾 患 名	症例数
低身長	6
全身性カルニチン欠乏症疑い	1
ムコ多糖症、心筋症	1
低血糖	1
グルココルチコイド受容体異常	1

その他

疾 患 名	症例数
ミトコンドリア異常	2
朝顔症候群	1
無痛無汗症	1
Legius症候群	1
Sturge Weber症候群	1
先天性白皮症	1
右ピータース奇形	1
ヒルシュスブルング病	1
高身長	1

12. 精神科

【スタッフ】

部長	関口 典子
部長	持田 啓
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 小笠原 さゆ里
心理士	弓場 洋之 沖村 心 城島 真理子
非常勤心理士	4名
精神保健福祉相談員	岩崎 志野

常勤医師は3名、非常勤医師は2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）が週1回半コマ、小笠原（火曜日）が月1回半コマ外来を担当している。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は学齢期が中心だが、近年中学生年齢の増加が目立っている。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。初診予約待ちは1か月程度で推移している。急を要する院内紹介には隨時対応している。
- 3) コンサルテーション・リエゾン領域では、産科においてメンタルヘルス外来を行っているほか、緩和ケアチームの一員として活動している。その他の分野においても心因性の身体症状や虐待をはじめとして精神科が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。総合病院における精神科の役割として、他科と細やかで緊密な関係をとることを目指している。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として、医学部6年生、心理学大学院生の実習の受け入れを行った。
- 5) 兵庫県の子どもの心の診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

令和6年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
F0	F05	せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの					1		1
	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害					1		1
F3	F34	持続性気分障害					1		1
F4	F40	恐怖症性不安障害			1		1		2
	F41	他の不安障害			2	3	2	2	9
	F42	強迫性障害			1	6	1		8
	F43	重度ストレス反応〔重度ストレスへの反応〕および適応障害		2	13	15	39	4	73
	F44	解離性〔転換性〕障害			1	5	9		15
	F45	身体表現性障害			3	9	15		27
F5	F50	摂食障害				3	2		5
	F51	非器質性睡眠障害		1				1	2
F6	F63	習慣および衝動の障害				2			2
F7	F70	軽度精神遅滞〔知的障害〕	1		6	8	4		19
	F71	中度〔中等度〕精神遅滞〔知的障害〕				1		1	2
	F72	重度精神遅滞〔知的障害〕			1				1
	F73	最重度精神遅滞〔知的障害〕			1				1
F8	F81	学力の特異的発達障害					1		1
	F84	広汎性発達障害	2	7	21	12	11	1	54
F9	F90	多動性障害		1	6	4	6		17
	F91	行為障害			3	1	3		7
	F93	小児期に特異的に発症する情緒障害		2			1		3
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害			3	1			4
	F95	チック障害			1	4	3		8
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		1	1	1			3
他		その他		3	11	4	10	1	29
計			3	18	78	77	109	10	295

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉相談員は、こどもとおやの相談室として活動している。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉相談員でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施することを目指している。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を行っている。

入院では、様々な科と連携を取りながら介入を行っているが、小児がん拠点病院として血液腫瘍科との連携や、ターミナル期のサポートとして集中治療科との連携を主に行っている。

また、緩和ケアチームの一員としても活動している。

② 精神保健福祉相談員

外来、入院において、精神保健福祉に関する様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

項目 診療科	アセスメント			本人					家族			スタッフ	その他	新患
	知能 発達	性格	その他	プレイ セラピー	カウンセ リング	心理 サポート	小児ガン フォロー	緩和 ケア	相談	結果 報告	緩和 ケア	カン ファ		
救急総合診療科	47		7			36			1	1		1		26
代謝内分泌科	84		13											16
神経内科	34		6			43								21
血液腫瘍科	28						1653	8	37	6	1	5	2	31
心臓血管外科														
循環器科	4					13			1	3				4
腎臓内科	1					2								
臨床遺伝科	11												1	6
新生児科	83								64			7		50
精神科	200	191	175	39	22	25			5	1				149
脳神経外科	31		3			5			1	4				13
小児外科														
整形外科	1													1
形成外科														
耳鼻咽喉科	14	8							1	1				13
救急集中治療科									121	1		14		31
その他の科	1								6			1		5
合 計	539	199	204	39	22	124	1653	8	237	17	1	28	3	366

精神保健福祉相談員

相談内容／対象	本人・家族	院内	保健福祉機関	児童相談所	学校・園・教育関係	訪問看護	福祉施設	その他	計
福祉・経済問題	80	48	11	10	1	0	16	8	174
療養問題	39	23	4	3	1	35	5	1	111
教育問題	21	5	0	1	31	0	0	1	59
家庭問題	6	6	0	1	0	0	2	0	15
心理情緒的問題	24	5	0	2	4	0	0	6	41
養育問題	22	180	32	39	5	0	1	3	282
受診援助	361	342	7	19	3	3	7	302	1,044
その他	8	9	5	0	0	0	0	6	28
計	561	618	59	75	45	38	31	327	1,754

支援方法別

面接	149	277	2	6	7	0	1	1	443
電話	405	289	52	62	36	7	30	107	988
文書	7	52	5	7	2	31	0	219	323
計	561	618	59	75	45	38	31	327	1,754

初回相談依頼者

総合診療科	2
集中治療科	0
代謝内分泌科	0
腎臓内科	1
精神神経科	43
小児外科	1
脳神経外科	1
整形外科	3
院内その他	262
本人・家族	68
学校・園	0
児童相談所	0
市	2
その他	6
計	389

13. 小児外科

小児外科スタッフ

畠山 理 (科長・家族支援・地域医療連携部長兼務)

横井 曜子 (部長)

久松千恵子 (医長)

森田 圭一 (医長)

村上 紫津 (医長: 4月から)

竹内 雄毅 (医長: 3月まで)

中谷 太一 (医長: 3月まで)

フェロー

富岡雄一郎 (4月から)

植村光太郎

福井 慶介 (4月からチーフフェロー)

吉永 駿 (3月まで)

吉村 翔太 (4月から)

植松 綾乃

佐々木 航 (4月から)

【人事】

2023年4月に人事異動があった。

スタッフでは3月末に竹内医師が開業のため退職された。また3月末に中谷医師が兵庫県立はりま姫路医療センターに異動となった。4月から村上紫津医師がフェローからスタッフに昇格した。

フェローでは3月末で吉永医師が退職となった。4月から福井医師がチーフフェローに着任、富岡医師、吉村医師、佐々木医師が赴任した。

【診療活動】

入院手術は 630件、日帰り手術165件、総手術件数は795件であった。新生児外科手術例は34件であった。

カンファレンスについては、科内のカンファレンスは例年通り 1) 病棟カンファレンス (毎日朝・夕)、2) 抄読会 (週1回) を開催し、多職種カンファレンスでは、1) 術前カンファレンス (週1回 放射線科診断医師参加)、2) 術後カンファレンス (週1回 放射線診断科医師・病理診断科医師参加)、3) 周産期カンファレンス (週1回 新生児内科参加) を開催、その他ICUカンファレンス (毎日朝)、腫瘍カンファレンス (週1回)、循環器カンファレンス (適時) に参加した。

当科の特色としては

1. 高度専門医療

- ・小児呼吸器外科：気管狭窄症・声門下腔狭窄症の手術に関しては日本で最多の症例数と治療成績を誇っている。小児外科・心臓血管外科・麻酔科・集中治療科が密接に連携、チーム医療を推進し、西日本を中心に全国から症例が集まっている。

2. 新生児外科

- ・総合周産期母子医療センターも一翼を担い出生前診断症例治療にも積極的に参画している。
- ・3名の新生児認定外科医を中心に、新生児外科症例にも常に万全の体制で対応できるようにしている。

3. 小児救急医療

- ・小児救命救急センターの一員として重要な役割を担い、救急要請には100%対応できているようにしている。
- ・外傷を含めた小児の救急疾患に対して、救急診療科、集中治療科と連携し、いつでも対応できる体制をとっている。

4. 小児がん医療

- ・小児がん拠点病院として多数例の固体腫瘍手術を行っている。3名の小児がん認定外科医を中心に、血液・腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科とチームを組んで最善の治療が提供できるように心がけている。隣接する神戸陽子線センター関連の難治性症例も年々増加している。

5. 日帰り手術

- ・鼠径ヘルニアをはじめとする短時間の手術は麻酔科の協力のもと、できる限り日帰り（1日入院）手術を推奨している。

6. 障がい児に対する外科治療

- ・障がい児に対する外科治療を積極的に進め、県内の療育施設と連携を取りながら外科治療の部分を担当している。

7. 内視鏡外科手術の推進

- ・内視鏡外科手術をはじめとした低侵襲手術に積極的に取り組んでいる。1名の内視鏡外科技術認定医を中心に病態にあわせたもっともよい治療を選択できるように取り組んでいる。

手術症例

頭頸部	頸部リンパ管腫	3
	頸部囊胞摘出術	0
	甲状腺囊胞摘出術	6
	側頸瘻摘出術	2
	梨状窩瘻摘出術	0
	経口的梨状窩瘻摘出術	0
	喉頭気管食道裂手術	0
気道	声帯外方運動術	0
	声門下腔狭窄症	0
	PCTR	0
	バルーン拡張	0
	レーザー焼却	1
	その他	0
	気管狭窄症	
	スライド気管形成術	6
	縫合不全・再形成	0
	その他の気管形成	1
	気管バルーン拡張術	0
	レーザー焼却	0
	後天性気管狭窄	
	端々吻合	
	気管軟化症	
	気管後方固定術	1
	喉頭囊胞切除	0
	気管切開術	20
	気管切開孔形成術	0
	気管切開孔閉鎖術	5
	喉頭気管分離術	1
	腕頭動脈離断術	0
	腕頭動脈胸骨固定術	1
	血管輪手術	0
肺	気胸手術	3
	肺部分切除	2
	肺葉切除	1
	胸腔鏡下肺葉切除	6
	肺区域切除術	0
	胸腔鏡下肺生検	0
	肺剥皮術	1
胸壁・縫隔	漏斗胸	
	Nuss bar挿入術	0
	Nuss bar抜去術	2
	Ravitch その他	0
	乳び胸手術	1
	(胸腔鏡下)縫隔腫瘍摘出術	0
	乳び胸手術	0
	臍胸手術	0
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア	
	開腹直接閉鎖	2
	開胸直接閉鎖	0
	胸腔鏡下閉鎖	4
	横隔膜弛緩症	
	胸腔鏡下縫縮術	1
	腹腔鏡下縫縮術	1
食道	食道閉鎖症	
	TEF離断 食道食道吻合術	0
	食道食道吻合術	2
	TEF離断 胃瘻造設術	1
	食道パンディング+胃瘻	1
	胸腔鏡下食道閉鎖根治	2
	その他	
胃	先天性食道狭窄症	
	胃瘻造設術	
	PEG	0
	腹腔鏡(補助)下胃瘻造設術	11
	胃瘻再造設	1
	胃瘻閉鎖術	2
	噴門形成術	
	開腹	1
	腹腔鏡下	6
十二指腸	肥厚性幽門狭窄症手術	4
小腸・大腸	胃軸捻転に対する胃固定術	1
	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	0
	腸回転異常症手術	1
	小腸閉鎖・狭窄症根治術	2
	観血的腸重積整復術	3
	メッケル憩室切除術	3
	腸閉塞解除術・腸管切除術	2
	腸管重複症手術	1
	H病/類縁疾患	
	腹腔鏡補助下Swenson手術	0
	腹腔鏡補助下Duhamel手術	0
	腹腔鏡補助下Soave手術	2
	経肛門Soave手術	0
	開腹Swenson手術	0
	直腸・結腸生検	1
	人工肛門造設・再造設術	2
	腸瘻造設・閉鎖・吻合	0
	胎便関連性腸閉塞	3
	特発性消化管穿孔	1
	壞死性腸炎	2
	胎便性腸閉塞	
	内ヘルニア手術	
	腸間膜裂孔ヘルニア	0
	外傷性消化管穿孔縫合閉鎖	0
	腹腔鏡下虫垂切除術	27
	開腹虫垂切除術	0
	人工肛門ポリープ切除	1
	消化管ポリープ切除	0
	腸瘻手術	0

直腸・肛門	直腸肛門奇形/鎮肛	
	LAARP	3
	PSARP	1
	仙骨会陰式鎮肛根治術(SP)	0
	肛門移動術(Potts)	0
	カットパック	2
	直腸前庭痔瘻閉鎖術	0
	人工肛門造設術	2
	人工肛門閉鎖術	0
	人工肛門再造設	0
	人工肛門ポリープ切除	0
	根治術後再肛門形成術	0
	縦隔泄腔造残症根治術	
	膣形成	
	便失禁に対する肛門管形成術	0
	痔核・痔瘻手術	4
	肛門粘膜脱切除・Gant三輪法	1
	直腸脱手術	
	腹腔鏡	0
	肛門括約筋形成術	
	肛門周囲膿瘍手術	
	摘便	5
	肛門ポリープ切除	
	先天性胆道拡張症	
	開腹	0
	腹腔鏡	2
	胆囊瘻造設	
	腹腔鏡下胆囊瘻造設	1
	胆道閉鎖症	4
	肝生検	4
	腹腔鏡下/開腹胆囊摘出術	0
	門脈圧亢進症手術	0
	Rexシャント手術	0
	肝部分切除術	0
	肝外傷開腹止血術	0
	腹腔鏡下脾臓摘出術	1
	脾尾部切除術	0
	脾頭十二指腸切除術	1
	臍帶・臍帶内ヘルニア	
	一期的閉鎖	1
	腹壁破裂	
	腹壁閉鎖術	0
	鼠径ヘルニア	
	鼠径法	67
	LPEC	116
	腹腔鏡補助下鼠径	
	臍ヘルニア	20
	臍ポリープ切除	0
	腹壁・白線ヘルニア	0
	泌尿・生殖器	
	精巣固定術	
	陰唇癒合剥離術	
	尿膜管造残摘出術	2
	膀胱拡大術	1
	卵巣腫瘍	
	腫瘍摘出術/附属器切除術	2
	腫瘍核出術	1
	卵巣腫瘍再発に対する核出術	0
	その他	
	肝芽腫	
	開腹腫瘍生検	0
	腫瘍摘出術	1
	神経芽腫	
	腫瘍生検	4
	腫瘍摘出術	2
	腎芽腫	
	腫瘍生検	1
	胚細胞腫瘍	
	生検	1
	肉腫	0
	綫隔腫瘍生検	1
	リンパ節生検	6
	その他の腫瘍生検	1
	その他の腫瘍切除	4
	リンパ管腫硬化解法	2
	リンパ管腫切除	0
	皮膚・皮下腫瘍摘出術	
	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	2
	綫隔洗浄ドレナージ	
	切開排膿・デブリードメント	
	試験開腹術	5
	開腹止血術	0
	長期留置型CVカテーテル留置	77
	長期留置型CVカテーテル抜去	60
	中心静脈ポート留置・抜去	6
	テンコフカテーテル留置/抜去	7
	ドレナージ手術	0
	V-Pシャント	0
	気管支鏡検査・処置	89
	気管支鏡下肉芽切除・レーザー焼却	1
	気管支鏡下異物摘出	1
	上部消化管内視鏡検査	13
	上部消化管異物摘出	2
	食道・バルーン拡張	11
	ERCP	0
	下部消化管内視鏡	2
	下部消化管ポリベクトミー	1
	その他	0

新生児外科症例

病名	治療
両側多囊胞性囊胞腎	腹膜透析カテーテル留置術
先天性C型食道閉鎖症	食道バンディング + 胃瘻造設術
両側腎無形成	腹膜透析カテーテル留置術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
直腸肛門奇形	カットバック手術
新生児小腸穿孔	腸瘻造設術
先天性小腸閉鎖症	腸閉鎖症手術
新生児消化管穿孔	腹腔ドレナージ
先天性小腸閉鎖症	腸閉鎖症手術
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術
新生児消化管穿孔	腸瘻造設術
新生児消化管穿孔、急性腎不全	小腸部分切除、腹膜透析カテーテル留置術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
胆道閉鎖症	肝門部空腸吻合術
新生児腹膜炎	腹腔ドレナージ
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下胸腹裂孔ヘルニア手術
直腸肛門奇形	人工肛門造設術
癒着性腸閉塞	腸管癒着症手術
先天性C型食道閉鎖症	胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術
新生児壊死性腸炎	腸瘻造設術
両側多囊胞性囊胞腎	腹膜透析カテーテル留置術
臍帶内ヘルニア	臍帶ヘルニア手術
新生児消化管穿孔、新生児気胸	腸瘻造設術、胸腔ドレナージ
胎便関連性腸閉塞	腸瘻造設術
新生児消化管穿孔	腹腔ドレナージ
新生児消化管穿孔	人工肛門造設術
先天性小腸閉鎖症	腸閉鎖症手術
先天性C型食道閉鎖症、直腸肛門奇形	胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術、カットバック手術
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下胸腹裂孔ヘルニア手術
先天性横隔膜ヘルニア	胸腔鏡下胸腹裂孔ヘルニア手術
先天性喉頭狭窄	気管切開術
先天性気管狭窄症	スライド気管形成術
新生児消化管穿孔	腹腔ドレナージ
新生児壊死性腸炎	腸瘻造設術

14. 心臓血管外科

【スタッフ】

副院長	大嶋 義博 (3月まで)
心臓血管外科科長	松久 弘典
医長	松島 峻介
医長	岩城 隆馬 (8月から)
医長	東田 昭彦
フェロー	久保 沙羅
フェロー	岡田 翼 (4月から)

2024年3月で副院長の大嶋義博医師が定年退職となった。8月からは岩城隆馬医師が5年間の米国留学より帰国し、6人体制となった。

【診療体制】

外 来	月、水、金の午前・午後1診
手 術	定期手術は月、火、水、木、金

2023年の心血管手術は人工心肺使用158件(新生児9件)、人工心肺非使用38件(新生児24件)、その他52件であった。心疾患症例の在院死亡は3例であった。2024年秋には北米で最も実績のある del Nido 心筋保護液を導入した。

地域連携：患者紹介元全医療機関を対象とした地域連携カンファレンスを開催しており、7月20日に第11回を開始した(院外参加22人)。成人先天性心疾患患者連携においては、神戸大学関連施設を対象に ACHD 症例検討会をウェブ開催し(2月14日、7月31日)、関連施設から計30~40名の医師の参加を経て、手術検討症例、移行症例の紹介、治療方針の共有を行うと共に、手術応援を行う事で、地域での ACHD 診療体制の強化を図っている。

教育活動：神戸大学3回生を対象とした学生講義(先天性心疾患の外科治療)を松久／松島が担当した。また神戸大学心臓外科との共同開催での中堅心臓外科医を対象とした、ウェットラボ(Advanced-adult/congenital heart training course)を2回開催した。日本小児循環器学会の活動として、外科系教育セミナーの企画、運営に加え、松久／松島が各1回セミナー講演を担当し、小児心臓血管外科医生涯育成プログラムでは、松久が委員長としてプログラムを運営し、全国の小児心臓外科医育成に注力している。

研究・学術活動：昨年に続き、4月のアメリカ胸部外科学会にて松島医師が当院で用いている中-大口径右室肺動脈弁付き導管の臨床データの報告を行った。また神戸大学・兵庫県立大学との共同研究の一環として、松島／久保が大動脈弁・肺動脈弁モデルを作成し、大型放射光施設 SPring-8にてその弁挙動を精密解析する実験を行った。

2024年人工心肺手術症例

疾患（術式）	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
CoA (simple)	1			1									2		
+VSD	1			2									3		
+DORV				1									1		
+AVSD				1									1		
IAA+VSD				3									3		
PA-IVS or critical PS (BDG)				2									2		
				1									1		
TAPVR asplenia				1	1	1							1	1	1
PAPVR ± ASD							2								
ASD				4			6						10		
AVSD (partial)							2						2		
AVSD (complete)				1			1						2		
AVSD+TF or DORV				1									1		
VSD (I)				2			1						3		
VSD (II or IV)	1			25			12						38		
TOF (pRVOTR) (SP shunt)				5			2						7		
				1									1		
				2			1	0	1				3	0	1
PA+VSD (Rastelli) (SP shunt)				3			1						4		
				2									2		
DORV	1			2			9						12		
TGA (simple) +VSD	3												3		
	1												1		
SV (SP shunt) (BDG) (Fontan)				4									5		
				11									11		
							4						4		
HLHS (Norwood) (BDG) (Fontan)				3									3		
				1									1		
							2						2		
Aortic valve (形成) (弁置換) SAS							2						1		
							1						1		
Mitral valve(形成) (弁置換)							2						1		
													2		
Ebstein							4						4		
Coronary disease							1						1		
その他				1			1						2		
再手術 PS解除 RV-PA導管再置換 その他							1						1		
							7						10		
							2						2		
総数	9	0	0	80	1	1	64	0	1	5	0	0	158	1	2

2024年人工心肺非使用症例

疾 患	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総 数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	7												7		
CoA+VSD	3			1 0 1									4 0 1		
IAA+VSD	2												2		
Vascular ring	1			3			4						8		
AVSD (complete)	1			2									3		
VSD (II or IV)				3									3		
DORV	1			1									2		
SV	5												5		
HLHS	4												4		
総 数	24			10 0 1			4			0			38 0 1		

主な術式	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総 数				
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡					
体肺動脈短絡術	1	0	1	10			1 0 1						12				
肺動脈絞扼術	6			6									12				
両方向性Glenn				10			2						15				
DKS吻合				2									2				
肺動脈再建・形成術				2			1						3				
右室流出路形成術				3			9			3			15				
Rastelli型手術				4			6						10				
動脈スイッチ手術	5			1									6				
Fontan型手術							8						8				
Norwood手術				4									4				
左側房室弁形成術										1			1				
右側房室弁形成術				1			1						2				
共通房室弁置換手術							2						2				
大動脈弁下狭窄手術							1						1				
大動脈弁形成術							2						2				
Ross手術										1			1				
両側PAB	9			1 0 1									9				

その他手術	症例
皮下膿瘍、デブリードメント	4
縦隔炎手術	2
ペースメーカー植え込み	1
ペースメーカー改変	1
ペースメーカー電池交換	8
心囊ドレナージ	5
胸腔ドレナージ	5
横隔膜縫縮	2
ECMO装着（ショック）	5
ECMO装着（気管形成術等）	3
ECMO装着（呼吸不全）	4
PAシース挿入	1
血腫除去	4
シャントクリップ調節	2
胸骨ワイヤー抜去	1
仮性瘤修復	2
大動脈／肺動脈吊上げ	1
temporary lead抜去	1

15. 脳神経外科

当施設は全国の小児神経外科医、あるいは脳神経外科に在籍し小児神経外科研修を要する若手医師の間における円滑な情報交換や国内研修を担う基幹施設となっており、西日本を中心に小児神経外科症例の診療に当たっている。2017年11月より日本こども病院神経外科医会事務局が設置され、交流の場としての機能を担い、2024年11月2～3日に神戸にて第41回日本こども病院神経外科医会研修会を主管し盛会に終えた。

2024年度の脳神経外科スタッフは、河村淳史（小児がん医療センター次長 診療科長兼任）、小山淳二（部長）、阿久津宣行（部長）の指導医、神戸大学医学部脳神経外科教室ローテーション医師2名と計5名で診療に従事した。脳神経外科専門医研修の一環として、神戸大学脳神経外科教室より2023年10月1日～2024年3月31日に新田修幹先生がフェローとして、2024年1月1日～2024年6月30日に岡村優介先生、2024年4月01日～9月30日に後藤大輝先生、2024年7月1日～2025年1月16日に金永珠先生、2024年10月1日～香川裕哉先生が専攻医として着任した。また神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科から2月に田中優也先生、9月に富田ひかり先生、10月に崎須賀涼先生が研修に従事した。

診療活動では2024年は、外来新規患者数、再診患者数は比較的維持出来ており、北米、東南アジアに海外赴任なさっている邦人症例の帰国・受診・治療も確立してOn lineでの対応も含めて比較的堅調であったと言える。当施設脳神経外科の特色は当科単独ではなく、複数科との時間的、空間的緊密な縦横連携によるチーム医療であり、集学的治療を必要とする小児脳脊髄腫瘍の治療をはじめ、整形外科・泌尿器科・新生児内科との密な連携が必要な二分脊椎例や、整形外科と合同の環軸椎脱臼や側弯例の治療・外来管理、また救急・集中治療科をはじめ多数の関連科との協力が必要な頭部外傷を含む多発外傷症例を主とした救命救急診療などを中心に継ぎ目のない積極的な診療に取り組んでいる。

当施設は全国に15施設しかない小児がん拠点病院であることから、血液腫瘍内科・放射線診断科・臨床病理部と、隣接した神戸陽子線センター放射線治療科との連携で多くの小児脳・脊髄腫瘍の治療経験を有している。特に小児がん拠点病院として患児・家族に対して全人的医療を実施するために必要な部署と連携して院内での教育、リハビリも含めて治療チームを編成し、入院・外来で安心して頂けるよう診療に従事している。また入院中から外来に渡って必要な症例に対して緩和治療も医療チームにて継続している。外来では、青年期AYA世代に至るまで長期の追跡・病態・生活評価・支援、移行期医療を担っている。また新たな治療として3歳未満の症例も含めて放射線治療が必要であれば、他施設からの陽子線治療希望症例を随時、相談・受付しやすい環境を整えている。

更に広く普及し始めた毎週月曜日の『頭の形外来』では、ヘルメットによる矯正の適応、また外科的治療の適応症例を対象に治療を行っている。また頭部外傷に関しては精神科、神経内科、総合診療科、救急科、集中治療科、検査部、看護部、家族支援・地域連携部、外来スタッフ、病棟スタッフ、MSW、PSW、総務課、医事企画課、当科などを含む多職種チーム医療で対処を行っている。

先に述べた陽子線治療は、小児脳・脊髄腫瘍に対する放射線治療として晚期合併症を軽減できると期待されている新しい放射線治療法で、2024年も九州、四国地区をはじめ他施設からの症例も増加して関東地方の小児医療施設まで広がり、脳脊髄腫瘍に対して照射も堅調である。治療は隣接する神戸陽子線センター小児専用の照射室で照射を行うが、当院1階の渡り廊下で往来できるため当施設に入院しながら治療が可能である。隔離された小児専用の照射室、診察室を備えており、当院入院のままで化学療法を受けながら照射が可能であり、また常駐小児麻酔科による毎日の鎮静による治療も可能となっている。現在では、緻密な照射の

調整が可能で、全脳全脊髄照射にも有利なスキャン照射が可能である。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションなどを更新、最新手術機器導入により困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持している。

その他の活動

(1) カンファレンス；毎週水曜日 脳腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、
隨時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会

(2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コングレス、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本小児脳腫瘍カンファレンス、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会、日本神経外傷学会、Craniosynostosis研究会、近畿脳腫瘍病理検討会などへの参加

脳神経外科病床数	10	
脳神経外科的手術の総数	139	
脳腫瘍	摘出術	18
	生検術（開頭術）	1
	生検術（定位手術）	0
	経蝶形骨洞手術	0
	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	0
	その他	2
脳血管障害	破裂動脈瘤	0
	未破裂動脈瘤	0
	脳動静脈奇形	0
	頸動脈内膜剥離術	0
	バイパス手術	3
	高血圧性脳内出血（開頭血腫）	0
	高血圧性脳内出血（定位手術）	0
	その他	1
外傷	急性硬膜外血腫	2
	急性硬膜下血腫	0
	減圧開頭術	0
	慢性硬膜下血腫	2
	その他	2
奇形	頭蓋・脳	13
	脊髄・脊椎	24
	その他	4

水頭症	脳室シャント術	25
	内視鏡手術	18
	その他	16
脊髄・脊椎	腫瘍	2
	動静脈奇形	1
	急性疾患・変形性脊椎症	0
	急性疾患・椎間板ヘルニア	0
	急性疾患・後縦靭帯骨化症	0
	脊髄空洞症	0
機能的手術	その他	0
	てんかん	0
	不随意運動・頑痛症	0
	脳神経減圧症	0
その他	その他	0
	5	
血管内手術	総数	0
	動脈瘤塞栓術（破裂）	0
	動脈瘤塞栓術（未破裂）	0
	動静脈奇形	0
	閉塞性脳血管障害	0
	〔内ステント使用例〕	0
	その他（腫瘍血管塞栓術）	0
定位的 放射線治療	陽子線治療	39

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 新田 修幹

研修期間 2024/01/01~2024/03/31(研修期間の半分)

指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術			
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント	2	2	
神経内視鏡手術	2	1	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	3	1	
血管内手術			
計	7	10	17
合 計			17

専攻医 岡村 優介

研修期間 2024/01/01~2024/06/30

指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		5	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫	1		
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		4	
脊椎・脊髄奇形		7	
水頭症脳室シャント	3	6	
神経内視鏡手術	1	7	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他	4	5	
血管内手術			
計	9	35	44
合 計			44

専攻医 後藤 大輝

研修期間 2024/04/01~09/30

指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		7	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		9	
水頭症脳室シャント	2	6	
神経内視鏡手術		2	
脊椎・脊髄腫瘍			
脊髄空洞症			
その他		5	
血管内手術			
計	2	33	35
合 計			35

フェロー 金 永珠

研修期間 2024/07/01~2024/12/31

指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		9	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫		1	
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形		3	
脊椎・脊髄奇形		6	
水頭症脳室シャント	3	1	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他		4	
血管内手術			
計	8	25	33
合 計			33

フェロー 香川 裕哉

研修期間 2024/09/01~2024/12/31(研修期間の半分)

指導医 河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症 例	執 刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		4	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫			
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント	1	3	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他		1	
血管内手術			
計	2	14	16
合 計			16

16. 形成外科

2024年度は4月付けで新村啓介医師の転出に伴い、卒後5年目の寺北崇人医師の就任を迎えた。下半期には深山医師の産休もあり、その前後の体調管理に配慮しつつ業務の振り分けを行った。その他のスタッフも子育て世代であり、突発的な家庭の用事による業務調整を要することもあったが診療の質・量を過度に制限することなく工夫して運営できた。医師の働き方改革や病院の経営状態改善など、一見相反する課題への対応に追われる一年となったが、小児専門病院のスタッフとしてまずは自分の家庭の出産育児環境が整っていることが理想的な就業モデルとして必須であると考え、可能な限りの配慮ができるように業務調整を行った。私生活の充実度を業務における集中度に反映できることを理想とし、一年にわたり診療科のアクティビティーを保つために尽力してくれたスタッフ達に改めて感謝したい。限られたリソースの中で手術件数は昨年度比でも増加しており、特に以前より注力している唇裂の二次修正手術の治療実績も順調に増加できている。

年間の患者数及び手術件数 2024年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	184名	†
形成外科入院患者数	320名	(延べ人数ではない)

形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	320件 (合計 320件)
	腰麻・伝達麻酔	0件
	局所麻酔・その他*	0件
外来手術	全身麻酔	115件 (合計 544件)
	腰麻・伝達麻酔	2件
	局所麻酔・その他*	427件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区分	件 数						計	
	入院手術			外来手術				
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他		
I. 外傷	10						10	
II. 先天異常	214			40		1	255	
III. 腫瘍	73			37		2	112	
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15						15	
V. 難治性潰瘍	1						1	
VI. 炎症・変性疾患	2						2	
VII. 美容(手術)								
VIII. その他								
Extra. レーザー治療	5			38	2	424	469	
大分類計	320	0	0	115	2	427	864	

17. 整形外科

2024年度の整形外科の人事では3月末で長年にわたり兵庫県立こども病院整形外科を支え繁栄させてきた薩摩眞一副院長が退官されることとなった。薩摩先生の功績は紙面では簡単に語りつくせないものがありここでは控えさせていただくが、本当にお疲れさまでしたとねぎらいの言葉を送らせていただきたい。他にも河本和泉先生（医長）、宮島明博先生（フェロー）が転出され大きな入れ替えとなった。代わりに以前フェローとして当科で研修を行った北村仁美先生が新たに医長として赴任され、またフェローとして有本章彦先生、山本茜先生が加わり従来の小林大介部長、坂田亮介部長（リハビリテーション科長兼務）、衣笠真紀部長、森下雅之医長の7人体制での診療を行うこととなった。

本年度の新患患者数は1,649件、手術件数は347件でありその内容は外傷、四肢先天性疾患、脊椎疾患、麻痺性疾患など多岐にわたっていた。

学術活動として学会発表は総数29演題 雜誌発表は和文7編であった。

教育活動として神戸大学の学生講義を行い5～6回生の臨床実習を定期的に受け入れた。

令和6年12月には日本小児整形外科学会のYamamuro-Ogiwara Fellowとして来日したフィリピンのDr FLORES ROSALYNを約1週間受け入れお互いに国際交流を図った。

令和7年1月25日には坂田亮介部長が担当世話人となり三宮において第73回近畿小児整形外科懇話会を開催した。

小児専門病院として今後も他施設では施行困難な症例の手術を行い、学術活動も活発に行い日本的小児整形外科の発展を目指していきたい。

2024年整形外科手術・検査内容区分

手術

	病名	術式	手術数	小計
体幹	側弯症	矯正術	8	
	斜頸	切腱術	7	
	側弯症	その他(ロッド切除、除圧など)	0	
	脊椎疾患(側弯を除く)	頸椎固定術など	0	15
股関節	先天性股関節脱臼など (麻痺性除く)	観血的整復術 大腿骨骨切り術 臼蓋形成術(ソルター骨盤骨切り術以外) ソルター骨盤骨切り術	2 1 1 3	
	ペルテス病	大腿骨骨切り術	4	
	大腿骨頭すべり	ピン入れ替え ピンニング	1 8	
	麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	大腿骨骨切り 骨盤骨切り術など(大腿骨切り合併含む)	3 1	24
	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	観血整復	3	
	関節炎、円板状半月板など	鏡視下手術など	0	3
	先天性内反足	アキレス腱皮下切腱術(Ponseti)	11	
	麻痺性変形(症候性)	軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術など 足根骨骨切り(トリプル骨切り術など) 軟部組織解離術 腱移行術など それ以外の変形矯正(創外固定、骨切り術含む)	13 2 2 0	
	垂直距骨	変形矯正術など	2	
	下腿内捻	下腿回旋骨切り	0	
足部	尖足	アキレス腱延長	12	42
	脚長差 变形など	脚延長、変形矯正(創外固定使用) 成長抑止術(8プレート) 変形矯正(創外固定使用以外) ボトックス注射	6 19 0 21	
	足根骨癒合症	癒合部切除	1	
	外脛骨	摘出など	0	
	下肢 变形	矯正、切断など	1	48
	橈骨頭脱臼	観血的整復術	0	
	上肢短縮	上肢骨延長術(上腕、前腕)	0	
	内反肘	矯正骨切り術	3	3
	上肢骨の骨折 脱臼(顆上、外顆など)	整復固定術	54	
	下肢骨折	整復 固定	10	
外傷	骨折後偽関節	骨接合術など	2	
	骨折など	鋼線牽引	6	
	腱断裂、外傷	腱縫合など	1	73
	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	3	
	腫瘍 骨髓炎、LCH、病態不明など	生検術 病巣搔爬	11	
炎症・腫瘍	腫瘍	骨	12	
		軟部	6	32
	多・合指(趾)症	余剰指切除 余剰趾切除 指間形成 趾間形成	6 6 4 1	
	手指変形 足趾変形	矯正、骨切り術など 矯正、骨切り術など	3 2	22
その他	瘢痕拘縮 先天性拘縮	形成術	0	
	剛直母指	腱鞘切開	2	
	その他		83	85
年間手術件数				総数 347 347

検査

部位	方法	
股関節	アルトロ	18
股関節(先天性股関節脱臼)	牽引後、整復ギプス	4
その他	アルトロ	0

18. リハビリテーション科

2024年度のリハビリテーション科は4月より新たに整形外科より坂田亮介が科長として着任した。整形外科科長と兼務となる小林大介医師を部長として据え、療法士は新たに理学療法士を1名加え、合計で理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で診療を行っている。

診療対象は、リハビリテーションを必要とする小児患児全般で、運動器、脳血管、呼吸器、廐用、障害児、がん患者、早期離床、心臓血管などの各疾患群に対するリハビリテーションを提供している。当院が、小児診療の基幹病院としての使命を帶びており、疾患の重症度も高く、専門性の高いリハビリテーションを提供すべく日々の診療にあたっている。

リハビリテーションカンファレンスや回診を増加させ、リハビリテーションの高水準での標準化を行い、病床数に比して不足しがちなマンパワーをカバーできるよう業務改善に引き続きつとめていく所存である。

リハビリテーション部での実績についてはリハビリテーション部を参照されたい。

19. 眼科

今年度の眼科医師の状況は以下の通り。4月に専攻医の土橋一生が赴任、フェローの牧仁美が育休から週3日の時短勤務にて復職、5月より医長の河原佳奈が産休、育休にて休職に入る。外来診療人員の不足を補う必要から、引き続き神戸大学眼科医局に所属し当院勤務歴のある女性医師4名の診療応援を受けている。今年度より網膜芽細胞腫の診療に関する新しい取り組みが始まった。

一つは患者の全国登録制度について、長く続いて来た紙ベースでの運用がWEBでの登録システムに移行したことである。これを契機に対象施設も以前は全国の大学病院を始め主要施設の多数であったものを、過去の実績をもとに当院を含め登録数の多い施設に限定されることになった。収集されるデータを厳選することでより信頼性の高い調査とする狙いがある。

もう一つは厚労省の研究事業として、患者、家族の包括的支持緩和ケアの前向きコホート研究が開始されたことである。前述の登録患者を対象に診断直後より家族にアクセスし、視機能障害、眼球摘出、義眼装着、療育、遺伝学的検査などの問題と家族の心理的、社会的負担との関連を明らかにし、負担軽減につながるケアプログラムを構築することを目的としている。これまで対応が十分ではなかった診療分野であり、本研究が患者、家族に寄り添ったケアの実践につながることを期待している。

2023年 眼科 新患統計 患者総数 711名

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1~5ヶ月	6~11ヶ月	1~3歳	4~6歳	7~9歳	10~12歳		
屈折異常	0	32	65	345	204	140	68	27	881
弱視	0	0	5	63	35	14	2	0	119
斜視及び疑い	0	29	56	242	142	89	52	22	632
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	2	0	2
未熟児網膜症	0	0	2	2	6	0	0	4	14
眼瞼疾患	2	8	24	65	36	23	6	4	168
涙器疾患	0	3	21	15	1	2	0	0	65
結膜疾患	0	2	0	1	0	2	3	8	16
角膜・強膜疾患	0	0	0	3	5	6	2	5	21
ブドウ膜疾患	2	6	0	13	2	2	0	4	29
網膜・硝子体疾患	4	12	3	25	6	18	3	5	76
水晶体疾患	6	19	15	47	20	14	10	12	143
眼窩疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
遺伝疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	1
視神経・視路疾患	0	5	0	3	12	17	8	6	51
眼振	0	2	4	4	3	0	0	0	13
緑内障	0	4	4	20	14	12	6	8	68
外傷	0	0	0	1	2	6	1	0	10
症候群	1	1	0	1	5	3	3	1	15
心因性視力障害	0	0	0	0	0	10	6	0	16
腫瘍	0	4	1	6	0	0	0	0	11
その他	2	3	3	11	4	6	3	2	34
小計	17	130	206	867	497	384	176	108	2,385

視野検査 (GP)	283名 560眼
視野検査 (ハンフリー)	40名 80眼
OCT	319名

実習生受け入れ状況 大阪医療福祉専門学校 2名

(1) 入院手術

	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
斜 視	0	0	1	6	27	53	44	59	190
内 反 症	0	0	0	0	15	13	11	6	45
眼 瞼 下 垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 瞼・眼 窩 疾 患	0	0	0	2	7	5	0	0	14
結 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	0	0	1	1	0	1	3	6
角 膜 疾 患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	0	0	1	1	0	0	0	2
硝 子 体	0	1	0	0	0	0	0	0	1
鼻 涙 管 閉 鎮 及 び 異 常	0	0	0	4	1	0	1	0	6
眼 瞼 形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
綠 内 障	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白 内 障	0	0	2	3	2	6	0	1	14
未 熟 児 網 膜 症	0	8	0	0	0	0	0	0	8
眼 球 振 盪 症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 傷・検 査・そ の 他	0	0	0	0	5	0	2	0	7
合 計	0	9	3	17	59	77	59	69	293

(2) 日 帰 手 術

	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
拔 糸	0	2	2	8	28	6	4	1	51
鼻 涙 管 チ ュ ー ブ 拔 去	0	0	0	0	1	0	0	0	1
検 査・そ の 他	0	2	2	7	6	4	3	3	27
合 計		0	0	0	0	0	0	0	79

20. 耳鼻咽喉科

1. スタッフ

部長（科長） 大津 雅秀
部長 勝沼 紗矢香
フェロー 赤澤 亜由（15時までの時短勤務、2024年10月退職）
フェロー 清水 昭一郎（2024年11月より現職）

2. 診療体制

【外来診療】

外来診療は、月曜、火曜、木曜、金曜に行っている。難聴、中耳炎、言葉の遅れ、扁桃肥大、アデノイド肥大に関する紹介が多い。週に1回、当院リハビリテーション科所属の言語聴覚士、院外の補聴器技能者と共に補聴器外来を行っている。

【手術加療】

日帰り手術枠が火曜、水曜、金曜、入院手術枠が水曜、金曜である。術式は、例年通り、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、鼓膜換気チューブ留置術が多い。3歳未満の重症閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療で行う扁桃摘出術・アデノイド切除術は、地域の基幹病院でも安全性の確保が難しく、3歳以上また体重増加まで待機せざるを得ないことも多い。当院では、麻酔科、小児集中治療科、総合診療科並びに集中系病棟看護師の協力により、手術適応を厳選して行っている。引き続き安全性に十分配慮し手術に取り組みたい。

入院手術

口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術	95
アデノイド切除術	33
口蓋扁桃摘出術	5
鼓膜換気チューブ留置術 (うち当科の他手術と同時に実施)	32 (11)
鼻涙管チューブ挿入術	8
異物除去術	2
下甲介粘膜下焼灼術	2
その他	10
合計症例数（他科入院21例含む）	176

日帰り手術

鼓膜換気チューブ留置術	112
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	5
鼓膜換気チューブ抜去	3
異物除去術	2
その他	2
合計症例数	124

3. 今後の展望

新生児聴覚スクリーニング（以下、NHS）の普及により、軽度・中等度難聴や一側性難聴も早期に発見されている。小児の聴力評価と管理は重要性を増しており、当院当科の果たすべき役割は大きくなっているといえよう。また、NHSリファー後、これまで以上に早期の精密聴力検査実施が推奨されてきていることや、先天性サイトメガロウイルス感染による難聴に対する投薬治療が保険適応になるなど、NHS体制は刻々と変化しており、当科ではそれに応じて適切な対応ができるよう努めている。一方、難聴児に対し補聴すればきこえの問題がすべて解決されるわけではなく、周囲のサポートと環境の整備など、聴覚障害に対する合理的配慮は必須である。補聴の目的は児の健全な発育であり、医療機関の介入だけで実現できるものではない。保護者と本人に、難聴とその対応について理解を深めてもらい、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校、難聴学

級と連携することで、難聴児ひとりひとりに最適な療育や教育の環境を整えることができるよう支援し、こども家庭庁の施策でもある「難聴児支援体制整備」に貢献していきたい。

4. 言語聴覚療法

【人員および主な業務】

リハビリテーション部所属の言語聴覚士（以下、ST）が、耳鼻咽喉科外来にて、予約状況に応じて業務に従事した（1～4名、うち1名は時短勤務）。主な業務として、聴力検査、補聴器外来、医師のリハビリテーション処方による発達及び知能検査を行った。

【業務詳細】

聴力検査：一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件説明反応聴力検査、遊戯聴力検査などを対象児に合わせて実施している。検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来へ繋げている。

補聴器外来：週一度実施。NHSの普及により、早期からの補聴器装用児が増えている。軟骨伝導補聴器や新たな骨導補聴器の登場により、外耳道閉鎖及び小耳症の児の補聴器装用が可能となった。また、デジタルワイヤレス補聴援助システムの導入も増えている。補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、保護者への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

その他の他：聴覚障害児支援力向上研修事業にかかる言語聴覚士派遣事業が2022年度より開始され、県教育委員会より依頼があった。今年度は姫路聴覚特別支援学校、こばと聴覚特別支援学校へSTがそれぞれ1名訪問し、当院に通院している児を中心に助言などを行った。

聴力検査数

標準純音聴力検査	857
標準語音聴力検査	85
気導純音聴力検査	6
遊戯聴力検査	1,754
延べ人数	2,702

補聴器適合聴力検査

補聴器適合聴力検査1回目	38
補聴器適合聴力検査2回目以降	451
延べ人数	489

発達及び知能検査

発達及び知能検査	57
延べ人数	57

2024年新患

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	74	15	35	5	2	15	1	1	
構音障害	30	8	10	6	1	4		1	
耳介奇形/小耳症	7		2	3	1	1			
外耳道閉鎖・狭窄	21	13	1	3	4				
急性乳様突起炎	0								
副耳/耳介腫瘤	2			1	1				
先天性耳ろう孔	4	1	2	1					
外耳道異物	5	3	2						
外耳道損傷	1	1							
外耳炎	7	4	2			1			
耳垢栓塞	25	17	3	2		2		1	
急性中耳炎	44	40	3		1				
反復性中耳炎	23	17	6						
渗出性中耳炎	215	41	149	20		4		1	
慢性中耳炎	3	2	1						
真珠腫性中耳炎	2		2						
癒着性中耳炎	2		2						
先天性難聴(疑い含む)	80	26	12	25	17				
ムンブス難聴(疑い含む)	3		3						
心因性難聴	13	1	12						
突発性難聴	1		1						
高音障害型難聴	2		2						
低音障害型難聴	2		2						
難聴	269	57	181	22	2	5	1	1	
難聴(疑)	153	69	43	14	1	24		2	
後迷路性難聴	4	2	2						
内耳奇形	12	1	9	2					
中耳奇形	3		3						
側頭骨骨折/耳小骨離断/鼓室内血腫	1	1							
聴覚過敏	3	1	2						
耳鳴	2	1	1						
めまい	13	8	2	3					
顔面神経麻痺/顔面痙攣/口唇麻痺	7	5	1	1					
慢性鼻・副鼻腔炎	107	51	39	15		1		1	
急性鼻・副鼻腔炎	34	12	14	8					
アレルギー性鼻炎	315	52	201	54	1	4		3	
鼻出血	9	8	1						
鼻腔異物	4	3						1	
鼻咽腔閉鎖不全/口蓋裂	8	6	2						
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	0								
鼻腔腫瘍	3	2			1				
アデノイド肥大	298	50	175	67	1	1		4	
扁桃肥大	180	22	98	55	1	1		3	
扁桃炎/PFAPA症候群	27	7	9	11					
睡眠時無呼吸症候群	169	25	90	49	1	1		3	
咽・喉頭外傷/口腔内損傷	3	3							
口腔腫瘍	0								
舌腫瘍	0								
口腔内炎	1	1							
口腔粘液のう胞	0								
舌小帯短縮症	4		3			1			
唾石	2	2							
がま腫	3	3							
耳下腺炎/頸下腺炎	3	1		2					
耳下腺腫瘍/頸下腺腫瘍	2	1	1						
頸部膿瘍/咽後膿瘍/扁桃周囲膿瘍	10	9		1					
咽・喉頭炎/声門下喉頭炎/声門下浮腫等	22	15	2	5					
喉頭蓋のう胞	1	1							
咽・喉頭異物	3	3							
喉頭軟化症/声門下狭窄症	55	47	1	7					
反回神経麻痺	29	29							
声帯ポリープ/喉頭肉芽	5	3		2					
嚥下障害	21	16		5					
正中頸のう胞/側頸のう胞/甲状腺腫瘍	3	2	1						
頸部腫瘍/咽頭腫瘍	2	1		1					
頸部リシンバ節炎	15	10	4					1	
顔面外傷/鼻骨骨折	2	2							
サイトメガロウイルス感染症	3	2		1					
その他の	20	10	10						
(感染症チエック)		24							
(新スク後精密検査)		24	11	27	17				
(健診)		4	13	2		29	1		
(学校・園健診)		1	29	2					
新患数(重複除外)	911	387	332	129	22	32	1	8	

21. 泌尿器科

3月に神野雅、豊未都樹が退職し、4月から植松陸、楠瀬正史が入職したので、2024年度は2023年度と同様に4人体制（杉多、春名、植松、楠瀬）で診療を行った。

2024年度は、2023年度と比較して、外来新規患者数、入院患者数、手術数ともに大きな変化はなかった。尿道下裂患児の紹介が昨年同様多く、近畿以外の中国・四国・九州地方からも紹介があった。小児尿路結石に対しては原泌尿器科病院の井上貴昭先生のご協力により、軟性尿管鏡下経尿道的腎尿管結石碎石術(f-TUL)などを行い、良好な治療成績が得られている。

学術活動は3月の総排泄腔異常シンポジウム in 岡山、4月の日本泌尿器科学会総会、6月の日本アンドロロジー学会、7月の日本小児泌尿器科学会総会・学術集会、9月の日本排尿機能学会、10月の西日本泌尿器科学会、11月の日本泌尿器科学会中部総会および日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会で当科の診療方針、手術成績などを発表した。次年度も引き続き、安全・安心な診療を行い、活発な学術活動を行っていきたい。

(杉多記)

2024年手術実績【入院/278 外来/122】

【尿路系】

V U R 防止術（開腹）	21
V U R 防止術（気膀胱）	8
デフラックス注入術	9
膀胱尿管新吻合術	1
膀胱拡大術	1
尿管カテーテル抜去術	8
開腹腎孟形成術	7
腹腔鏡下腎孟形成術	3
腹腔鏡下腎摘出術	2
内尿道切開術	4
腎瘻造設術	5
膀胱鏡（ステント留置含む）	37
経尿道的膀胱結石碎石術	3
経皮的腎結石碎石術	2
経尿道的尿管結石碎石術	4
その他	21
合 計	136

【性器系】

尿道下裂形成術	48
陰茎形成術	18
精巣固定術	85
精巣捻転手術	17
消失精巣摘出術	13
腹腔鏡下精巣血管結紮術（F-S1期目）	5
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	3
陰嚢水腫根治術	13
ヘルニア根治術	1
埋没陰茎手術（包皮形成術）	10
包茎手術（環状切除術）	23
陰囊形成術	2
顕微鏡下精巣靜脈低位結紮術	7
高位精巣摘出術	4
その他	15
合 計	264

22. 小児歯科

小児歯科の診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の歯予防・歯の修復治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に先天性の疾患を有する当院かかりつけの患児に対しては、低年齢（乳前歯萌出時期）からの歯科定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っていきたいと考えている。

小児がん患児の周術期における口腔ケア等管理は引き続き積極的に行っており、歯科衛生士による周術期口腔ケア介入症例は、ここ数年新患数の内訳のトップを占めている（年間約60名）、毎週火曜日午後に、歯科衛生士による7階病棟ラウンドを継続して行っている。

人事面においては、常勤歯科医師1名（曾根由美子）の体制ではあることに変わりはない。

新患内訳 (2024)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	30	4	2	0	36
	齶 蝕	5	32	2	0	39
	乳歯 晩期 残存	5	3	0	0	8
	先天性歯	2	0	3	0	5
	その他の	3	0	0	0	3
矯正歯科関連	不正咬合	6	0	0	0	6
	術前顎矯正	3	0	0	0	3
口腔外科関連	外傷	5	6	0	0	11
	埋伏歯・過剰歯	0	5	0	0	5
周術期口腔機能管理		61	0	0	0	61
その他（小児歯科以外）		4	0	0	0	4
計			50	7	0	181

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	3	3
外来手術	5	1	6
計	5	4	9

23. 麻酔科

1. 2024年の人事異動

正規職員として、あいち小児保健医療総合センターから山内医師、元大阪医大所属の上野医師、兵庫県所属の青戸医師を迎えた。廣瀬医師は神戸大学に転出した。専攻医・フェローの異動として、神戸大学からノエル医師、兵庫医大から高木医師、高槻病院から江國医師、兵庫県所属医師として山本医師を迎えた。集中治療科からの麻酔科研修として、原田医師、前田医師、鈴木医師、岡田医師を迎えた。他、短期研修として当院小児科から宮脇医師、皇甫医師、山藤医師、浪方医師、春田医師、小川医師を迎えた。

2024年12月末の時点では香川、高辻、大西、宮本、上嶋、末田、藤原、田中、小西、南、上野、山内、青戸、森下、高木、上村、江國、ノエル、山本、岡田（集中治療科）が従事している。また池島医師は引き続き兵庫県立がんセンターにて緩和医療の研修中である。

2. 活動状況

- (1) 麻酔業務および件数：年間麻酔件数は4012件。業務内容としては平日1日当たり、小児手術7例（入院4例+日帰り手術+アンギオ+病棟麻酔）、産科手術、術前診察、術後回診、慢性痛や緩和ケアへの対応、および麻酔科統括の業務を行っている。また静脈路確保困難児に対する、病棟での点滴確保や手術室でのPICカテーテル挿入を日常的に行っている。
- (2) 術後鎮痛管理チーム：手術後に持続的鎮痛を行っている患者を対象に、麻酔科、看護師、薬剤師、臨床工学技師でチームを構成し診療を行っている。
- (3) 働き方改革への対応：制度の周知、業務の整理、当直オンコールの分担見直しなどを通じて超過勤務が過剰にならないよう調整を行った。
- (4) 電子カルテ更新への対応：麻酔記録が富士フィルムメディカルの部門システムに変更されることに伴い、ベンダーとの協議や運用調整を行い、おおむね問題なく稼働させることができた。
- (5) 学術活動：当院の経験の共有と小児麻酔の教育・普及に寄与すべく、複数の麻酔関連学会での発表や講演、麻酔科雑誌への投稿を行った。

3. 展望

当院麻酔科の理念は「患者に安全快適な麻酔を提供する」である。麻酔医療の提供はもちろんのこと、麻酔科医の育成、多職種との連携、臨床および研究を通して社会に認知される麻酔科を目指していきたい。

4. 麻酔科 診療統計

年間総麻酔件数は4,012件。麻酔法の内訳としては全身麻酔（主に小児）が3,846件、脊椎麻酔（産科）が153件、伝達麻酔・その他が13件。年齢の区分では、新生児症例（生後4週未満）が78件、乳児症例（生後4週以上1才未満）が465件と全体の14%を占めている。

診療統計

【総麻酔件数】(麻酔科管理症例数) 2024.1.1~12.31

4,012件

【ASA PS】(米国麻酔学会による麻酔のリスク分類)

予定手術 1	2	3	4	5	6	合 計
1486	1880	338	13	0	1	3,718
緊急手術 1E	2E	3E	4E	5E	6E	合 計
80	121	80	12	1	0	294

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	106	h. 頭頸部・咽喉部	988
b. 胸腔・縫隔	48	k. 胸壁・腹壁・会陰	707
c. 心臓・血管	331	m. 脊椎	36
d. 胸腔+腹部	1	n. 股関節・四肢(含:末梢神経)	449
e. 上腹部内臓	99	p. 検査	654
f. 下腹部内臓	218	x. その他	240
g. 分娩	135	合 計	4,012

【麻酔法による内訳】

A. 全身麻酔(吸入)	1,560
B. 全身麻酔(TIVA)	1,638
C. 全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	124
D. 全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	524
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	0
F. 硬膜外麻酔	0
G. 脊髄くも膜下麻酔	153
H. 伝達麻酔	2
X. その他	11
合 計	4,012

【年齢別内訳】

	男性	女性	合計
~ 4 歳未満	52	26	78
~ 1 歳未満	269	196	465
~ 6 歳未満	942	661	1603
~ 10 歳未満	446	380	826
~ 15 歳未満	374	277	651
~ 20 歳未満	101	75	176
~ 30 歳未満	15	72	87
~ 40 歳未満	6	107	113
~ 50 歳未満	0	13	13
~ 60 歳未満	0	0	0
合 計	2,205	1,807	4,012

24. 新生児内科

1. 医師の人事

前年より引き続き生田寿彦、武岡恵美子、松井紗智子、岩谷壮太、三村仁美、芳本誠司が在任した。小林孝生は4月よりフェローから正規スタッフとして引き続き勤務した。玉置祥子医長は7月に埼玉県立小児医療センターへ異動した。フェローの中山栗太医師は研修を終え4月に兵庫医科大学へ帰局した。新たに松島愛香、西内徳子が4月よりフェローとして新生児専門医をめざして研修を開始した。後藤弘樹、宇保早希子、西牧良は引き続きフェローとして勤務した。ローテート専攻医(後期研修医)として、皇甫奈音、松尾進、朝貝芳貴、高松遙、春田真之介、和田のどか、井上遼太郎、稻永優医、元植彩乃、山田祥二、安富健人、錦織朱、砂川智起、田中元各医師が2～3か月ずつ研修をおこなった。

当センターは県内6総合周産期母子医療センターの中でも最大規模、最重症児の管理を担っており、宿日直制ではない24時間体制が必要な施設である。時短勤務、夜勤免除医師が勤務継続できることをめざしながら、専攻医の協力をえて、NICU常時2名専任医師体制を維持している。しかし4月から始まった医師の働き方改革の影響があり、スタッフ数に応じた病床削減も考慮すべき時期にきている。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りである。院外出生児は増加傾向であり2024年は初めて院内出生数を上回った。最近の超少産少子化の傾向は兵庫県、神戸市においても顕著であるが当科の入院数に大きな変化はない。病的新生児の収容先については集約化がすすんでいるものと考えられる。

神戸市ではドクターカーによる新生児迎え搬送可能な施設は2020年から当センターのみとなっている。2024年4月から運転手の常駐体制が整い迅速な迎え搬送が可能となった。搬送要請から15分以内に出動できるようになり重症仮死などの緊急重症例の搬送では我々の早期接觸により予後改善につながるものと期待している。重症新生児仮死に対する低体温療法施行例は2023年8例から2024年に18例まで著増した。淡路、豊岡、播磨など遠隔地からの搬送手段として、兵庫県・神戸市防災ヘリによる当院スタッフピックアップ迎え搬送は2件であった。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀有な疾患管理、治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会、医学雑誌で発表しており、当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

4. 周産期医療センター開設30年

こども病院開院以来新生児科として他院からの病的新生児のみを収容していた。1994年10月1日に産科を併設して周産期医療センターが開設された。2000年には兵庫県最初の総合周産期母子医療センターに指定され、ハイリスク母児を出生前から一貫した管理をおこなっている。

周産期医療センター開設30周年を迎える2024年末までに16,301名の新生児が入院した。母体紹介のうち院内出生が10,585名(64.9%)、生後の新生児搬送入院が5,716名(35.1%)である。早産児管理においては在胎22～23週の救命率は10年毎(1994.10～2004、2005～2014、2015～2024)にみると48.6%(36/74)、76.6%(49/64)、88.7%(47/53)、出生体重500g未満では32.4%(12/37)、63.6%(21/33)、82.7%(24/29)、と確実に向上している。また複合疾患である18トリソミー児では、外科系各科との協働により31.3%(15/48)、

53.4% (31/58)、82.0% (41/50) が在宅医療をめざせるようになっている。重篤な外科疾患と考えられている先天性横隔膜ヘルニアではECMO管理を含めた緻密な管理の習熟により69.2% (27/39)、86.5% (45/52)、100% (32/32) の救命率となっている。さらに、かつては救命困難と考えられていたポッター症候群に対し出生直後からのECMO導入を含めた集学的管理により2024年は4例中3例を救命することができた。

当センターは他の施設では管理できない疾患をもつ新生児の管理を関連各科と協力してすすめていくことで、すべての新生児が家族とともに過ごせることをめざして今後も取り組んでいきたい。

2024年新生児内科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
28	40	46	32	38	42	49	18	31	42	40	27	433

2) 診療科別入院数

新生児内科入院	433	新生児内科から転科	49
		集中治療科	22
		循環器内科	21
		総合診療科	3
		小児外科	3

3) 新生児内科入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外
院外出生	222	185	8	0	20	5	0	0	4	0	0
一次搬送	160	139	6	0	15	0	0	0	0	0	0
(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	32	31	0	0	0	1	0	0	0	0	0
三次搬送	30	15	2	0	5	4	0	0	4	0	0
母体紹介歴	8	5	0	0	1	0	0	0	1	1	0
院内出生	211	131	14	3	27	3	0	3	8	2	3
緊急母体	54	38	4	0	7	0	0	0	3	0	1
非緊急母体	157	93	10	3	20	3	0	3	5	2	16
日齢14未満一・二次搬送	403	301	20	3	42	4	0	3	8	2	3
											17

II. 新生児内科統計

対象：新生児内科入院（日齢14未満一・二次搬送入院及び院内出生、転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	0	0	100%	0	0
500 - 749 g	9	9	100%	0	0
750 - 999 g	4	4	100%	0	0
1,000 - 1,499 g	23	23	100%	0	0
1,500 - 1,999 g	51	42	82.4%	0	0
2,000 - 2,499 g	76	54	71.1%	2	5
2,500 g 以上	240	79	32.9%	11	27
計	403	211	52.4%	13	32

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	2	2	100%	0	0
24, 25	6	6	100%	0	0
26, 27	4	4	100%	0	0
28, 29	15	15	100%	0	0
30, 31	14	14	100%	0	0
32, 33	29	28	97%	0	0
34 - 36	89	59	66.3%	0	3
37以上	244	83	34.0%	13	29
計	403	211	52.4%	13	32

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	0	0	-	-	-
500 - 749 g	9	4	44.4%	7	77.8%
750 - 999 g	4	0	0%	4	100%
1,000 - 1,499 g	23	11	47.8%	13	56.5%
1,500 - 1,999 g	51	32	62.7%	24	47.1%
2,000 - 2,499 g	76	49	64.5%	9	11.8%
2,500 g 以上	240	144	60.0%	8	3.3%
計	403	240	59.6%	65	16.1%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	2	1	50.0%	1	50.0%
24, 25	6	3	50.0%	4	66.7%
26, 27	4	0	0.0%	4	100%
28, 29	15	7	46.7%	11	73.3%
30, 31	14	7	50.0%	11	78.6%
32, 33	29	16	55.2%	20	69.0%
34 - 36	89	56	62.9%	11	12.4%
37以上	244	150	61.5%	3	1.2%
計	403	240	59.6%	65	16.1%

3) 生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	-
500 - 749 g	9	0	100%
750 - 999 g	4	0	100%
1,000 - 1,499 g	23	1	95.7%
1,500 - 1,999 g	51	1	98.0%
2,000 - 2,499 g	76	0	100%
2,500 g 以上	240	1	99.6%
計	403	3	99.3%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	2	1	50.0%
24, 25	6	0	100%
26, 27	4	0	100%
28, 29	15	0	100%
30, 31	14	1	92.9%
32, 33	29	0	100%
34 - 36	89	1	98.9%
37以上	244	0	100%
計	403	3	99.3%

4) 多胎割合（品胎 4 組）

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	0	0	-	0
500 - 749 g	9	3	33.3%	0
750 - 999 g	4	1	25.0%	0
1,000 - 1,499 g	23	10	43.5%	3
1,500 - 1,999 g	51	20	39.2%	0
2,000 - 2,499 g	76	26	34.2%	0
2,500 g 以上	240	5	2.1%	0
計	403	65	16.1%	3

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	2	0	0.0%	0
24, 25	6	2	33.3%	0
26, 27	4	0	0.0%	0
28, 29	15	9	60.0%	3
30, 31	14	3	21.4%	0
32, 33	29	11	37.9%	0
34 - 36	89	35	39.3%	0
37以上	244	5	2.0%	0
計	403	65	16.1%	3

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
500 g 未満	0	0	—	—	—
500 – 749 g	9	9	100%	6	6
750 – 999 g	4	4	100%	1	4
1,000 – 1,499 g	23	20	87.0%	3	20
1,500 – 1,999 g	51	27	52.9%	2	26
2,000 – 2,499 g	76	31	40.8%	2	29
2,500 g 以上	240	83	34.6%	1	84
計	403	174	43.2%	15	169

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP/HF
22, 23	2	2	100%	1	0
24, 25	6	6	100%	4	5
26, 27	4	4	100%	3	3
28, 29	15	15	100%	2	14
30, 31	14	10	71.4%	2	12
32, 33	49	20	40.8%	1	16
34 – 36	89	39	43.8%	1	35
37以上	244	78	32.0%	1	84
計	423	174	41.1%	15	169

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	13例 (三次搬送 5 例)
NO 吸入療法	24例
NICU 内手術	2 例
ECMO	1 例
CHDF	1 例
PD	2 例

低体温療法	18例
生後ステロイド全身投与	21例
在宅酸素療法	5 例
ROP レーザー	1 例
ROP 抗 VEGF	7 例

7) 新生児搬送出動回数 73 回

入院	53
転院	20

分娩立合い	0
時間外搬送	15

8) 多胎生存率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	0	0	—	0
500 – 749 g	3	0	100%	0
750 – 999 g	1	0	100%	0
1,000 – 1,499 g	7	0	100%	3
1,500 – 1,999 g	20	0	100%	0
2,000 – 2,499 g	26	0	100%	0
2,500 g 以上	5	0	100%	0
計	62	0	100%	3

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎
22, 23	0	0	—	0
24, 25	2	0	100%	0
26, 27	0	0	—	0
28, 29	6	0	100%	3
30, 31	3	0	100%	0
32, 33	11	0	100%	0
34-36	35	0	100%	0
37以上	5	0	100%	0
計	62	0	100%	3

25. 産科

周産期医療センター（1994年10月開設）は今年30周年を迎えました。また、本年も大きなトラブルや事故もなく運営できることに対し産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝いたします。

常勤医師が当直をしていない時間外（月2回の休日夜間と月1回の休日日勤帯）以外は、空床がある限り母体搬送を受け入れております。また、妊娠26週未満の単胎ならびに妊娠29週未満の多胎の切迫早産や前期破水、生後速やかに何らかのinterventionが必要な胎児形態異常例は産科病棟が満床であっても受け入れております。

2024年は、船越 徹周産期医療センター長、産科科長兼部長、平久進也病棟医長、松本 培世医長、荒井貴子フェロー（時短勤務）、窪田詩乃医長（時短勤務）、金子めぐみ医長（時短勤務）、内山美穂子フェロー（時短勤務）、木原智子医長、長澤友紀フェロー、澤田史奈専攻医の10人体制で始まりました。内山フェロー、澤田専攻医が3月末に退職。神戸大学産婦人科教室より4月1日付で黒島瑞穂フェロー（時短勤務）、江本永真専攻医が入職しました。結果、4月以降も10人体制となりましたが、周産期母子医療センター産科には当直・オンコール可能な医師が8名以上必要とされております。当科では6名です。

4月1日以降のスタッフは

船越 徹	周産期医療センター長、産科科長兼部長	1985年卒、2005年1月入職
平久 進也	部長、産科病棟医長	2003年卒、2019年4月入職
松本 培世	医長	2009年卒、2020年4月入職
荒井 貴子	医長	2010年卒、2022年4月入職
窪田 詩乃	医長	2012年卒、2018年10月入職
金子 めぐみ	医長	2012年卒、2019年2月入職
木原 智子	医長	2013年卒、2022年4月入職
長澤 友紀	医長	2016年卒、2019年4月入職
黒島 瑞穂	フェロー	2015年卒、2023年8月入職
江本 永真	専攻医	2021年卒、2024年4月入職

その後、黒島が10月15日から産休に入り、金子が12月末に退職し8人体制となりました。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて22床です。2人当直制（第1当直の7%と当直許可を得ている第2当直の75%は院外医師が担当）です。染色体異常を含めた遺伝相談も行っており（出生前診断・遺伝相談外来）、NIPTの認証医療機関（基幹施設）に認定されております。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しております。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、早産期前期破水（p-PROM）、多胎です。

2024年病床稼働率は79.3%、緊急母体搬送の受け入れ数は94件（受け入れ率75.6%）でした。

妊娠25週未満の頸管短縮・胎胞形成例の治療的頸管縫縮術を行っております（20例）。

胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行っており、2024年の超緊急帝切は3例でした。

胎児治療も行っており、2023年から羊水過少例に子宮内環境を改善するため「人工羊水注入」を始めました。

また、他科から依頼された女児の診察等にも対応しております。「思春期女性外来」を開設し併存疾患のあ

る児の月経困難症や性自認等に対応しております。

4月から始まった「医師の働き方改革」に対しコメディカルの協力を得てワークシフト・ワークシェアを少しずつ進めており、電子カルテ権限拡大を該当委員会に要望しつつ、4月から「助産師主導分娩」も始めました。

当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設です。2024年は木原が「産婦人科指導医」、長澤が「周産期新生児医学会専門医」に合格し、産婦人科指導医4名、同専門医9名、周産期・新生児医学会専門医指導医2名、同専門医（母体・胎児）6名、臨床遺伝専門医1名となりました。

12月7日に兵庫県医師会館で「令和6年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会」を開催し、特別講演は、兵庫医科大学病院遺伝子医療部教授 澤井英明先生から「2年経過したNIPTの新たな認証制度による出生前診断の現状と見通し」で、最新のNIPTの状況に関する講演をいただきました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を6月7日に開催しました。報告書からだけでは伺えないMRIの読み方について研修することができます。

病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2024年のバックトランクスファー（紹介元へ戻れた方）は415名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、当院には産科以外の成人を診る専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介しております。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターでありますが、中央市民病院は母体合併症を、当院は胎児・新生児にフォーカスした診療の棲み分け、病病連携を行っております。

1) 2024年産科診療状況

入院患者数*	299
うち緊急母体搬送によるもの	94
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	415
総分娩母体数	195
22週以降分娩母体数***	183
正期産	81
早産	102
うち34週未満	59
うち28週未満	12
過期産	0
22週以降多胎分娩	29
二絨毛二羊膜性 (DD) 双胎	13
一絨毛二羊膜性 (MD) 双胎	14
一絨毛一羊膜性 (MM) 双胎	1
品胎	1
要胎	0
22週以降経腔分娩	49
うち吸引分娩	3
うち骨盤位牽出術	0
帝王切開術	134
選択	51
緊急	83
うち超緊急	3
出産児数 (22週以降、死産含む)***	213
正期産児	83
早産児	130
過期産児	0
低出生体重児 (2,500g未満)	134
極低出生体重児 (1,500g未満)	38
超低出生体重児 (1,000g未満)	15
巨大児 (4,000g以上)	0
22週未満死産数	12
同死産児数	13
22週以降死産児数	2
治療的頸管縫縮術	20
予防的頸管縫縮術	6
小児婦人科手術	0

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	1	0%	中播磨	姫路市	3	1%
	西宮市	4	1%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	15	5%		小計	3	1%
	小計	20	7%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	1	0%	西播磨	たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	1	0%		宍粟市	0	0%
神戸市	中央区	60	20%	但馬	小計	0	0%
	西区	38	13%		豊岡市	3	1%
	須磨区	33	11%		美方郡	0	0%
	東灘区	18	6%		養父市	0	0%
	北区	12	4%		朝来市	0	0%
	灘区	10	3%		小計	3	1%
	垂水区	9	3%		篠山市	0	0%
	長田区	6	2%		丹波市	3	1%
	兵庫区	0	0%		小計	3	1%
東播磨	小計	186	62%	淡路	洲本市	10	3%
	明石市	37	12%		淡路市	0	0%
	加古川市	9	3%		南あわじ市	1	0%
	高砂市	0	0%		小計	11	4%
北播磨	加古郡	0	0%	他府県	大坂	8	3%
	小計	46	15%		愛知	2	1%
	西脇市	2	1%		宮城		
北播磨	三木市	0	0%		他	9	3%
	小野市	4	1%		小計	19	6%
	加西市	0	0%		海外	0	0%
	加東市	0	0%		院内紹介	0	0%
	多可郡	0	0%		なし	1	0%
	小計	6	2%		計	299	

救急隊はその所属地域にカウントした

* 入院患者数は2024.1~12入院したもの

** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行われたものも含む

*** 分娩母体数、出産児数は2024.1~12に出産したもの

3) 取り扱い疾患 (重複あり)

疾患名*	件数	率
切迫早産	127	42%
高年妊娠(35歳以上)	105	35%
胎児形態異常	100	33%
多胎	39	13%
頸管無力症	39	13%
既往帝王切開	34	11%
胎児発育不全	33	11%
前期破水	31	10%
胎児機能不全	20	7%
胎位異常	19	6%
羊水染色体検査	15	5%
胎児水腫	14	5%
羊水過少	13	4%
妊娠高血圧症候群	11	4%
羊水過多	9	3%
胎児死亡	9	3%
B群溶連菌保菌者	7	2%
その他感染症	7	2%
甲状腺疾患合併	7	2%
子宮筋腫合併	6	2%
妊娠糖尿病	6	2%
切迫流産	5	2%
胎盤機能不全	5	2%
胎児染色体異常	4	1%
常位胎盤早期剥離	4	1%
弛緩出血	4	1%
他科合併症	4	1%
胎児不整脈	3	1%
分娩停止	3	1%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	2	1%
その他	60	20%
計	745	

入院時、入院中に診断された疾患名

患者一人当たり2.5の疾患名を有した

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	222	74%
平日日勤帯		
時間外	77	26%
平日夜勤帯		
休日日勤帯	21	7%
休日夜勤帯	21	7%
計	299	

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	108	81%
平日日勤帯		
時間外	26	19%
平日夜勤帯		
休日日勤帯	9	7%
休日夜勤帯	8	6%
計	134	

5) 入院時妊娠週数(母)

週数	件数	率
~21週	40	13%
22~24週	39	13%
25~28週	44	15%
29~32週	45	15%
33~36週	48	16%
37週~	77	26%
不明	0	0%
産後	6	2%
非妊娠	0	0%
計	299	

8) 分娩時妊娠週数(流産、死産含む)

週数	件数	率
~21週	12	6%
22~24週	5	3%
25~28週	10	5%
29~32週	31	16%
33~36週	56	29%
37~41週	81	42%
42週~	0	0%
不明	0	0%
計	195	

6) 分娩時間帯(流産、死産含む)

時間帯	件数	率
時間内	139	71%
平日日勤帯		
時間外	56	29%
平日夜勤帯		
休日日勤帯	14	7%
休日夜勤帯	15	8%
計	195	

9) 出産時児体重(22w以降、死産含む)

児体重	件数	率
~499 g	1	0%
500~999 g	14	7%
1000~1499 g	22	10%
1500~1999 g	42	20%
2000~2499 g	54	25%
2500~2999 g	49	23%
3000~3499 g	26	12%
3500~3999 g	5	2%
4000~4499 g	0	0%
4500~4999 g	0	0%
計	213	

26. 放射線診断科／放射線治療科

＜放射線診断科＞

1. 人事異動等

フェローの三木智子医師が3月31日で退職し、4月からフェローで山口千曉医師が赴任した。

放射線診断科のスタッフは赤坂好宣医師、乗本周平医師（いずれも放射線科診断専門医、放射線科専門医研修指導医）と田原潤子医師（放射線科専門医、8月から放射線科診断専門医）、フェローとして山口千曉医師（放射線科専門医）の4名体制になった。

昨年と同様、藤本雄介医師（月・木：超音波検査担当）に応援をしていただいている。

2. 診療業務の実績

放射線診断科ではCT、MRI、RIの読影（日本医学放射線学会の画像診断管理認証施設に認定）、心臓以外の超音波検査の施行、上部および下部消化管造影検査の施行が主な業務である。

2024年の各検査の読影（施行）件数は以下の通り。

超音波検査	7,774 (前年比 97.0%)
CT	2,338 (97.5%)
MRI	3,690 (102.9%)
RI	199 (84.3%)
消化管造影	150 (92.0%)
合計	14,151 (98.3%)

超音波検査が前年から減少した。今まで常に増加していたので少々驚いた。原因是当院の患者数の減少、特に電子カルテ更新のための診療制限が響いたとおもわれる。

その他の検査も概ね前年比で減少しているが、MRIのみ増加であった。

これは以前から予約検査が主で、ニーズのすべてに応えられていなかった可能性がある。

他方、医師の働き方改革の影響でカンファレンスや委員会などの会合が就業時間内へ移動してきたことも検査時間の短縮の一因となり検査数減少に影響していると考える。

3. 学術・研修・その他

定期カンファレンス（小児外科術前・術後：金曜、腫瘍：火曜、水曜）、不定期開催カンファレンス（胎児MR、神経放射線）で画像解説を通じて診断や治療方針検討に貢献している。

小児科医の放射線科研修が院内から2名（錦織 朱、松井佑一朗：各2か月）、尼崎総合医療センターから2名（鈴木裕実子、山形大輝：各3か月）あり、コンスタントに研修の需要がある。主に超音波検査の習得が主目的となっている。

放射線科医の研修としては淡路医療センターから（宮本 龍：週1日、2か月）あり、苦手領域のないgeneral radiologistの育成に貢献している。

今年度、神戸市立医療センター中央市民病院放射線診断科から4名（野田敏行、大西龍太郎、番 義仁、若槻 開）の研修が週半日、3か月ずつ行われた。

赤坂医師が尼崎総合医療センターへ（木PM）、乗本医師が神戸陽子線センターへ（火）出張応援を続けている。

2月に胎児MRI研究会を赤坂が当番司会として開催した。テーマを“まずは基本から－苦手意識の克服に向けて－”として幅広い層に興味を持ってもらおうともぐろんだが部下の乗本医師、田原医師の尽力もあり過去最多の参加者に結び付いた。

＜放射線治療科＞

1. 人事異動

放射線治療科のスタッフは徳丸直郎、福光延吉、出水祐介、朴成哲、岩下和真の5名で、2024年3月に副島医師が退職、2024年4月に徳丸医師、朴医師が加入した。5名とも隣接する県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター放射線治療科と兼務である。

1. 2024年の動向

放射線治療外来の担当は出水医師と岩下医師であるが、リニアックの更新のため、9月から受け入れを停止した。そのため、症例数は2023年の6割であるが、それ以前と比べて大きく減っているわけではない。現在、大半の症例を陽子線センターで治療しているが、陽子線治療は準備に時間がかかるため、迅速な対応が求められる緩和照射、また、陽子線治療では対応が難しい全身照射が必要な症例を積極的に受け入れているためと思われる。

5名とも当院腫瘍カンファレンスに出席し、積極的に議論に参加している。小児がんには放射線治療が必要な疾患が多く、当科医師の意見が治療方針を左右することも珍しくない。

陽子線センターには神戸大学の学生が定期的に見学に訪れるが、当院リニアックも見学コースに含め、小児放射線治療に対する理解を深めてもらっている。

放射線治療件数（2024年）：18例

（内訳）

局所照射	13例
全身照射	4例
全肺照射	1例

【参考】

陽子線治療件数（2024年）：84例

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2024年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、椎間優子、青木一憲、小谷匡、長井勇樹、宮下徳久、先濱大。フェローは古島夏奈、黒江崇史、川本昌平、浦田啓陽、相良優佳、加藤愛美、鈴木雅大、原田晋二、三浦和樹、青木亮介、岡田怜、前田未知可、西田圭吾、林谷俊和、広田幸穂、種岡飛鳥、吉田美苗（非常勤）、染谷真紀（非常勤）。集中治療の研修の一環として、麻酔科への3か月間の短期研修、国立循環器病センター集中治療科の短期研修も行った。県立尼崎総合医療センター小児救急集中治療科との交換留学を行った。5名の専攻医が1～2か月ずつ、1名の県養成医が6か月間研修した。

【資格】

集中治療専門医5名、小児科専門医20名（指導医3名）、救急科専門医1名、麻酔標榜許可3名、呼吸療法専門医、循環器専門医、移植認定医 各1名

JPLS講師3名、PALSインストラクター1名、JATECインストラクター1名

【診療体制】

PICU 16床、HCU 11床と併せて27床を専従医として担当し（いわゆるClosed ICU）、関係各科と密に連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。平日日中は7～8名、夜間は3名体制。休日は日中6～7名、夜間3名体制。感染対策に用いる病床は5床。

【施設認定】

- 集中治療医学会専門医研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設

【勉強会等】

- リサーチカンファレンス 19回
- Morbidity & Mortality カンファレンス 14回（14症例）
- 家族ケアグループ勉強会 2回（のべ70名参加）

28. 病理診断科

病理診断科では、小児がん、小児の外科系疾患、胎盤などの、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）の病理診断委員会事務局である国立成育医療センターに病理標本や凍結腫瘍組織を送付して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝え、診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。多施設合同のカンファレンスや全国の学会・講習会・研究会に積極的に参加している。

2024年の動向

1名の神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の医師が連携病院である当院病理診断科転籍にて6ヵ月間の研修を行われた。3名の神戸市立医療センター中央市民病院の病理診断科専攻医の医師が2024年中の当院の剖検研修を行われた。

2024年1月25日2023年度院内CPC第1回にて、臨床報告を新生児内科の後藤弘樹生先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の大谷宗理先生が担当された。

2024年9月18日2024年度院内CPC第1回にて、臨床報告を救急科の村田慧先生が、病理報告を神戸市立医療センター中央市民病院病理診断科専攻医の大谷宗理先生が担当された。

2024年6月24日2024年度CPA検討会web併用hybrid形式にて、当院に心肺停止で搬送された行政解剖施行例2例について、救急科、兵庫県監察医務室、病理診断科で検討した。

2024年の件数

組織診断件数 1,030件（うち迅速59件、骨髄207件、胎盤196件、腎生検33件、他院からの持ち込み46件）

細胞診断件数 230件（うち術中迅速病理診断に伴う捺印57件、婦人科スメア13件）

がんゲノム 9件

剖検件数 6件（新生児内科2件、集中治療科2件、救急科1件、循環器内科1件）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し
安心と満足が得られる看護の提供に努めます

看護部目標

笑児看護の“倫を理める”

- 共働：・多様な価値観を生かして患者中心のチームを作る
- ・聴いて・見て・繋いで こどもの笑顔を護る
- 共創：・安心で安全、適切な療養環境を創る
- ・小児看護の本質を極めブランド力を向上
- ・固定概念にとらわれず、根拠を持ったKAIZEN活動
- 共育：・患者の笑顔を守る倫理感性の育成
- ・学習者に合わせた効果的な人材育成

看護部の活動

- ・勤務表の自動作成を導入し、看護師長業務の縮減を図った
- ・日勤の始業前出勤は全部署で解消され、夜勤の始業前出勤の解消に向けた業務の見直しを行った
- ・こどもの権利を擁護した看護実践およびケアの改善にむけて、自己評価と他者評価を実施した

患者アンケートの結果

2024年集計 2024年1~12月		全病棟	挨拶(件)	身だしなみ (件)	態度(件)	検査や 処置前の 説明(件)	意見や要望 の反映(件)	看護ケア (件)	ズバリ！ 当院の看護 は星いくつ？ (件)
年計	全体	満足 5 点	662	719	645	638	624	626	509
		やや満足 4 点	98	61	115	120	111	118	216
		普通 3 点	80	66	71	73	83	80	78
	回答数 847件	やや不満 2 点	4	0	10	12	18	16	23
		不満 1 点	3	1	6	4	11	7	21
	点数化	4.67	4.77	4.63	4.62	4.56	4.58	4.38	

5階東病棟

在宅支援病棟として、医療的ケア児とその家族への支援を充実させるため、多職種カンファレンスを積極的に行い、退院前後訪問等安心して退院できる看護を行った。また、感染症病床を持つ病棟であり、陰圧管理が必要な感染症の受け入れを行った。

5階西病棟

入院から退院まで、患者家族が安心して入院生活を送るため、プライマリ看護師の役割を強化し、患者支援カンファレンスの定着に取り組んだ。また、呼吸管理を必要とする患者に関し事例検討やタスクトレーニングを行い、看護師の臨床判断能力の向上に取り組んだ。

6 階東病棟

こども中心の療養環境を創ることを目指し、倫理的看護実践に関する対話を推進した。対話促進・療養環境改善・周手術期の倫理的看護実践についてコアメンバーを選出し活動した。

6 階西病棟

患者主体のケアを提供することを目標に、患者・家族の思いやニーズに応じた看護実践ができるスタッフを育成に取り組んだ。スタッフ全員がリフレクションを実施し、看護実践の状況を記録によるアセスメントの状況で評価した。

7 階東病棟

こどもを中心に考える看護を目標に、スタッフ一人ひとりの倫理的感性を高めるため、スタッフ間の対話、倫理原則に基づいた看護目標の立案・実践・評価に取り組んだ。

7 階西病棟

「患者中心の看護が提供できる」を目標とし、リフレクションや倫理カンファレンスを通して看護を言語化することに取り組んだ。カンファレンス内容や看護記録、計画を改善し、継続したケアにつなげた。

PICU

集中治療を要す患者・家族に対して最良な医療・看護の提供を目指し、専門的知識と倫理観を持った人材育成と看護に関する対話推進に取り組んだ。結果、看護カンファレンスは増加し、同胞ケアや臓器提供を含む多様化する終末期患者と家族の意思決定支援をチームで進める事ができた。

HCU

「HCUにおけるプレパレーションを強化し、こどもが納得して治療に臨める」を目標に取り組んだ。チーム活動として、主に倫理リフレクションや倫理カンファレンスを中心に活動を進めた。更にツールの活用を契機にインフォームドアセントの取り組みを行った。

救急・HCU

患者と家族の思いを受けとめ、思いを代弁できることを目指し、人材育成・質向上・業務改善に取り組んだ。クリニカルラダー（潜在的なニーズとケアの受け手の個別性を捉える力）の上昇が見られ、患者アンケートでは満足度が上昇した。

産科・MFICU

ハイリスク妊産婦とその家族のケアを継続して支援できる病棟を目指し取り組んだ。患者の相談内容に応じて、精神科・地域医療連携部などと協働した。また、小児専門病院の産科として「いちごクラス」を開催し、プレコンセプションケアを必要としている患者への支援を実施した。

NICU

患者の状態に応じた看護を提供することができるという目標に対して看護のチーム力を高めることに取り組んだ。看護提供体制を整備したことで、超過勤務時間や休憩未取得時間の減少に繋がった。

GCU

児の成長発達や疾患に合わせたケアと環境を整え、多職種・他部署と連携し、患者に切れ目のない退院支援を行うことを目指し取り組んだ。看護師による採血や育児担当制、ボンディング（赤ちゃんへの気持ち指標）を取り入れ、患者と家族に向き合い、家族の児の養育困難や育児不安を早期に発見し、支援に繋げた。

手術室

相互に承認し合うチームをつくり、安全で安心な手術を提供するを目標に取り組んだ。GoodJobを伝えあうことで承認する意識が高まった。また、ベテラン看護師による看護の伝承として手術準備や手順等の可視化を進めた。さらに、手術室看護師の役割認識を高めるため、緊急時対応のトレーニングを開始した。

外来

移行期支援の対象領域を拡大し患者がセルフケア能力を獲得することを目指し、看護相談外来を担う看護師の育成と、看護計画に基づいた看護を展開できる仕組み作りに取り組んだ。

看護部委員会

委員会名	活動報告
看護師長補佐会	日勤の始業前出勤解消の定着と、新たに夜勤の始業前出勤の解消を目指し、マネジメントラダーの「組織管理・質管理・人材育成・危機管理」の視点で取り組みを行った。看護師への動機づけと各種データからの現状分析と対策の検討を行い、次年度より夜勤始業時間の統一開始するために、整備を行った。
教育委員会	OJTに繋がる研修を通して、研修生、教育委員、部署のスタッフが共に学ぶことを目標とした。活動として、①ジェネラリストラダーを踏まえた研修企画と運営②OJTと連動した支援③研修生のラダー行動目標、委員の「教育育む力」の評価を実施した。
教育担当者会	新人看護師の看護実践力の向上を目指し、OFF-JTとOJTが連動した研修企画と運営に取り組んだ。また、現場では新人看護師個々の進捗状況に合わせた支援を行いながら、相互理解を深めた。
臨地実習指導者会	「小児看護の楽しさを言語化し、学生に伝える」を目標に、実習環境を見直した。病院見学、インターンシップを担当し、小児看護の魅力を伝える事に取り組んだ。
看護基準・手順委員会	看護手順の改訂と整備を行った。 基準に基づいて現行のパンフレット45項目を修正した。
感染対策委員会	他部署ラウンドを実施し、他部署スタッフが客観的に直接観察を行うことで手指衛生遵守率向上に向けた課題抽出と、看護師1人あたりの手指消毒剤使用量調査を開始し、評価指標を設けたが手指衛生の遵守率の向上には繋がっていない。
安全対策委員会	リスク感性を高め、安全確認行動が定着するを目標に、マニュアルや手順逸脱によるインシデントの減少を目指し、各部署に出向いて、6R指さし呼称を推進した。また、インシデント0レベル、特にGoodJob事例の報告を推奨し、工夫したことを委員会で共有した。インシデントの減少につながった。
看護記録管理委員会	正しく記録すること、看護実践がみえる記録を目指し、記録の監査、マニュアルの改訂に取り組んだ。

委員会名	活動報告
電子カルテ更新部会	令和6年度の電子カルテ更新に向け、移行準備と移行後のシステムの活用に取り組んだ。移行準備において、ベンダーと話し合う場を設け、現場の意見が反映されるように進めた。システムの移行は安全に行うことができ、移行後は困りごとや問題点に対し、対応に努めた。
クリニカルパス推進部会	クリニカルパスを正しく理解し、活用していくために、兵庫県立病院クリニカルパス運用標準マニュアルをベースに、院内の運用マニュアルを改定した。また、クリニカルパスの質改善を目指し、バリアンス分析の結果をもとにアウトカム評価の見直しにつなげた。
地域連携委員会	入院前から退院支援を開始するために、入退院支援センター介入患者への対応を浸透させ、退院支援確認表を活用したカンファレンスの推進を行った。退院支援確認表の使用率は増加した。
研究支援委員会	スタッフが看護実践の中で感じた疑問から研究に取り組めるよう、専門看護師が中心となり、研究プロセスにおいて支援を行った。
呼吸ケア部会	呼吸管理に関する安全対策が遵守でき、人工呼吸器・加温加湿器管理において安全に管理できることを目標に、環境監査、インシデントの分析・対策を中心に活動した。活動の結果、重点取り組みとしていた人工呼吸器・加温加湿器のインシデント件数は前年比30%減であった。
摂食嚥下障害ケア部会	摂食ケアが必要な患者の情報を共有し、各部署間の連携による摂食ケアの継続を目標に活動した。部会員は自部署の特性と課題に合わせた取り組みを実践し活動成果を部会内で共有した。

専門・認定看護師 活動実績

項目	件数
緩和ケア診療加算	356
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	1,021
術後疼痛管理チーム加算	458
がん患者指導管理料 イ	36
がん患者指導管理料 ロ	12
人工肛門・人工膀胱造設前処理加算	4

院外活動

- 認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク主催 つながろうキャンプin関西
8月23日～25日 医療ボランティアとして4名参加

30. 薬剤部

1. 薬剤部員異動

【転出者】主任	多々見 俊輔	西宮病院	(令和6年4月1日付)
【転入者】主事	青木 美穂	新規採用者	(令和6年4月1日付)
主事	馬戸 俊輔	新規採用者	(令和6年4月1日付)

2. 2024年度活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に記す。

(1) 病棟業務の充実による薬剤の適正使用等の推進

薬剤管理指導を主とした病棟での活動を通じて、患者指導や医療従事者への情報提供を行うことで医薬品の適正使用を推進した。昨年度から継続して病棟薬剤業務実施加算1、2を算定し、各病棟に年間を通して病棟薬剤師を配置した。また、病棟業務等と連携して、緩和ケアチーム、アピアランスケアチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、術後疼痛管理チームなどのチーム医療に尽力するとともに、患者が安心して薬物治療を受けるために、薬剤管理指導業務の充実に努めた。

(2) 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）事務局としての活動

平成30年度の抗菌薬適正使用加算の算定開始以来、薬剤師がチームリーダーを務め中心となって活動している。外来患者への抗菌薬処方状況ではAWaRe分類Access 74.8%とWHO目標を大きく上回り、抗菌薬適正使用体制加算を算定した。また、第7回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会の開催や院内外の勉強会の講師を務める等、抗菌薬の適正使用に努めた。

(3) 治験審査委員会（IRB）事務局としての活動

今年度より薬剤部に治験コーディネーター1名を新たに配置し、医師主導治験の医師負担軽減、薬剤部の治験事務局業務効率化を図り、新規の医師主導治験受託体制を整備した。

(4) 薬剤師外来を開始

主に外来通院の抗がん剤治療患者を対象に、薬の服用方法、薬効、服薬の必要性、副作用の説明などを行い、患者の薬に対する不安や疑問に答えるだけでなく、医師の診察前に薬剤師が副作用の発現状況と重症度評価、服薬状況の確認などを行うことで担当医師と情報共有に務めた。

(5) 院外処方箋問合せ簡素化プロトコルの運用を開始

薬剤部で作成した「院外処方箋問合せ簡素化プロトコル」について当院と保険薬局で事前合意し、これに基づき院外処方における調剤上の形式的な疑義照会を簡素化することで、処方医、外来看護師、医事職員等の業務負担を軽減するとともに患者待ち時間短縮に寄与した。

(6) 薬物治療の安全確保のためのインシデント防止への取り組み

インシデントが発生しにくい環境作りを目指し、より効果的な対策立案に努めた。基本的かつ最も重要な手順である音読照合の徹底を図りつつ、コミュニケーションエラー防止対策、新人等の経験が浅い職員へのリスクマネジメント教育の強化、昨年に引き続き単位選択間違の処方監査もれ防止等に取り組んだ。

(7) 薬学生の長期実務実習の受け入れ

今年度も薬学部長期実務実習生を受け入れ、教育、指導を行った。

(8) 人材育成と自己研鑽の推進

部員の経験年数や適性を考慮し必要な経験が得られ、また自主性を持って取り組めるよう配慮した。新

規採用職員については、日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師取得を推奨し、採用から3年で幅広い薬学的知識を持つジェネラリスト育成に取り組んでいる。日本病院薬剤師会がん薬物療法認定暫定研修施設認定、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修連携施設の認定を受けている。

3. 今後の展望

小児薬物療法に必要な知識や技術の習得を推進し、病棟薬剤業務やチーム医療での積極的な活動と実践を通じて“臨床現場で活躍できる薬剤師”的育成を図るとともに、外来患者指導、薬薬連携の強化を図る。また、引き続き業務改善による効率化を図るとともに医療安全を最優先としインシデントの発生・再発防止に取り組む。

(1) 調剤件数

区分	処方箋枚数	合計			内用薬			外用薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入院	75,052	110,505	125,491	774,561	68,984	74,324	394,921	41,521	51,167	379,640
外来	18,026	20,705	29,019	179,253	8,354	13,337	85,754	12,351	15,682	93,499
計	93,078	131,210	154,510	953,814	77,338	87,661	480,675	53,872	66,849	473,139
一日平均	381.5	537.7	633.2	3,909.1	317.0	359.3	1,970.0	220.8	274.0	1,939.1

(2) 注射薬取扱件数

区分	注射薬	
	処方箋枚数	延本数
入院	150,214	949,498
外来	12,466	20,822
計	162,680	970,320
一日平均	666.7	3,976.7

(3) 薬剤管理指導関係件数

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
薬剤管理指導	1,014	964	1,046	1,095	1,088	1,068	1,216	1,049	854	1,051	1,003	1,033	12,481
麻薬加算	14	14	10	4	3	9	6	1	2	5	13	3	84
退院指導	147	142	169	164	158	175	222	192	164	210	208	240	2,191

(4) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全科	432	357	367	391	486	454	476	459	376	385	365	473	5,021

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	486	491	482	436	454	438	637	373	416	470	483	410	5,576
高カロリー	153	147	133	172	143	114	332	157	154	176	206	145	2,032
計	639	638	615	608	597	552	969	530	570	646	689	555	7,608

(6) TDM件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 件 数	16	54	10	14	39	23	20	31	15	39	25	38	324

(7) 院内D/I業務

① 電子メール・電子カルテ掲示板掲載による情報提供

掲 載 日	件 名
2024年1月26日	医薬品安全対策情報 No.323
2024年2月15日	医薬品・医療機器安全性情報 No.407
2024年3月12日	医薬品安全対策情報 No.324
2024年3月19日	医薬品・医療機器安全性情報 No.408
2024年4月12日	医薬品安全対策情報 No.325
2024年4月30日	医薬品・医療機器安全性情報 No.409
2024年6月19日	医薬品・医療機器安全性情報 No.410
2024年6月19日	医薬品安全対策情報 No.326
2024年7月1日	医薬品安全対策情報 No.327
2024年7月24日	医薬品・医療機器安全性情報 No.411
2024年8月26日	医薬品・医療機器安全性情報 No.412
2024年9月18日	医薬品安全対策情報 No.328
2024年9月18日	医薬品安全対策情報 No.329
2024年10月2日	医薬品・医療機器安全性情報 No.413
2024年11月1日	医薬品安全対策情報 No.330
2024年11月29日	医薬品・医療機器安全性情報 No.414
2024年12月23日	医薬品安全対策情報 No.331

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容
<ul style="list-style-type: none"> • 注射薬配合変化について • 注射薬溶解後の安定性について • 注射薬のフィルター透過性について • 食品と薬剤の相互作用について • 内服薬の飲み易い飲み方について • 冷所保存医薬品の常温での安定性について • 抗がん剤の適切な投与法について • 医薬品の副作用について • 血液製剤の投与法について • 小児薬用量について • 錠剤の粉碎可否について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量(単位/mL)
内服用ルゴール液	120
0.1%ミダゾラムシロップ	9,000

② 軟膏

製剤名	製剤量(単位/g)
10%テストステロン軟膏	1,200

③ 外用液剤

製剤名	製剤量(単位/mL)
アセモトール	2,000
1/2カプト点眼	2,400
25%グリセリン液	3,660
30%硝酸銀	40
10%ピオクタニン青液	15
0.2%ピオクタニン青液	0
ツェンテール液	0

④ 予製剤

製剤名	製剤量(単位/g)	製剤名	製剤量(単位/g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト(×50000)	1,500
0.01%ジゴシン散	0	ヒドロクロロチアジド散(×10)	500
(錠→散)		ポラキス散(×100)	160
インデラル散(×100)	900	コートリル散(×20)	1,200
グリチロン散	300	デカドロン散(×1000)	875
ロンゲス散(×100)	700	カタプレス(75μg/g)	900
レバチオ散(×50)	2,450	カロナール散(×5)	0

31. 検査部

1. 人事異動（令和6年4月1日付）

【転出者】主任	平田 明宏	再任用満了
職員	串田 桃香	尼崎総合医療センターへ
職員	藤田 友梨	退職
【転入者】専門員	山岸 真代	ひょうごこころの医療センターより
副主任	堤内 光理	西宮病院より
主事	北田 希望	加古川医療センターより
主事	青野 友美	新規採用

2. 活動報告

（1）臨床検査業務について

令和6年の院内検査件数は1,086,684件で、9月に電子カルテ更新のため診療制限を行った影響により昨年比95.8%とやや減少し、一昨年度と同程度の件数となった。

7月に病院機能評価を受審した。準備期間に、パニック値や劇毒物管理の院内運用整備を行い、結果はA評価であった。また、例年、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会、兵庫県臨床検査技師会の精度管理調査に参加し、検査精度の維持向上に努めている。

設備面では、9月の電子カルテ更新に伴い、部門システムを一部変更し、心臓超音波検査レポートを院内のどの端末からでも入力出来るようにするなど、業務の改善を図った。また、グリコヘモグロビン測定装置、脳波計を更新した。

（2）インシデント防止への取り組み

病院全体の取組みに合わせて、患者誤認防止に取り組み、生理検査や採血の患者確認の手順を徹底した。また、コミュニケーションエラーの対策としてKYT（危険予知トレーニング）を実施し、一定期間後に見直しをすることでPDCAサイクルを回し、業務の改善を図った。

（3）院内感染対策

感染対策委員会事務局として本委員会を定期開催（年12回）した。感染対策チーム（ICT）の活動に力を入れ、感染管理加算Ⅰ取得を継続している。

（4）安全な輸血療法

乳幼児の少量輸血に対応するため、無菌接合装置を用いて血液製剤（赤血球、血小板、新鮮凍結血漿）の無菌的分割を行っている。また、輸血療法委員会事務局として本委員会を定期開催（年6回）し、適正な輸血療法の推進、血液製剤の有効利用を図り、製剤廃棄率はいずれも1%未満に抑えられている。また、輸血管理料Ⅰを取得している。

（5）人材育成・教育研修

学会や研修会への参加を促し、さらに業務を通じて心臓超音波やホルター心電図解析の人員を育成した。各種資格を保有している職員も多く、日々研鑽を積んでいる。また、昨年よりタスク・シフト／シェ

アに関する厚生労働大臣指定講習会の受講に取り組み、11名が受講を修了した。

(6) ISO 15189認定更新および新規格への移行

ISO 15189とは、臨床検査室に特化した国際的な技術能力の第3者認定であり、認定取得は検査結果の信頼性の向上や医療安全への貢献に繋がる。県立病院ではがんゲノム医療を実施している尼崎総合医療センター、がんセンター、当院の3施設が認定を取得している。4年間の認定期間に内に更新審査を受審する必要があり、7月に2日間におよぶ更新審査を受審し、更新が認められた。また、ISO 15189の規格が2022年12月に大幅に改定されたため、併せて新規格への移行審査も受審し、新規格に対応していることが認められた。これにより国際標準検査管理加算を継続して取得している。

<認定・資格>

超音波検査士（循環器）	5名	超音波検査士（消化器）	4名
超音波検査士（体表臓器）	1名	超音波検査士（産婦人科）	1名
血管診療技師	1名	細胞検査士	2名
認定輸血検査技師	1名	認定血液検査技師	1名
臨床工学技士	1名	二級臨床検査士（血液）	1名
二級臨床検査士（微生物）	1名	有機溶剤作業主任者	2名
臨地実習指導者	2名	術中脳脊髄モニタリング認定技術師	1名
管理栄養士	1名	衛生工学衛生管理者	1名
日本睡眠学会認定検査技師	1名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名

3. 次年度の課題

ISO 15189定期サーベイランスの受審を予定している。また、診療部からの要望がある検査項目の院内取り込みを検討する。

(1) 臨床検査実施状況

(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一 般	3,810	3,737	4,460	3,884	3,822	3,556	4,392	4,640	3,618	4,052	3,821	3,976	47,768
血 液	14,460	14,304	16,460	15,344	15,749	15,241	17,125	14,849	12,609	15,245	13,974	15,189	180,549
細 菌	2,153	2,085	1,990	2,017	2,353	2,119	2,127	1,659	1,571	1,889	1,870	2,031	23,864
血 清	5,582	5,629	6,255	5,858	5,600	5,720	6,321	5,659	4,667	5,570	5,285	5,483	67,629
生 化 学	61,443	61,302	69,680	62,616	61,777	59,690	69,533	66,186	54,122	60,255	56,763	63,218	746,585
病 理	137	137	186	199	177	142	177	144	159	152	126	176	1,912
生 理	1,308	1,382	1,872	1,671	1,431	1,424	1,631	1,963	1,586	1,352	1,294	1,463	18,377
外部委託	5,068	4,668	5,913	5,871	4,932	4,418	5,793	6,598	4,950	4,586	4,796	4,684	62,277
合 計	93,961	93,244	106,816	97,460	95,841	92,310	107,099	101,698	83,282	93,101	87,929	96,220	1,148,961

(2) 時間外(日、当直)検査実施状況 (件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
休日日勤帯	1,069	876	858	686	878	795	809	677	520	657	786	861	9,472
準夜帯	966	1,017	985	1,049	1,045	1,150	1,296	814	681	958	941	1,136	12,038
深夜帯	2,483	2,333	2,791	2,551	2,985	2,739	2,892	2,289	1,959	2,514	2,465	2,593	30,594
合計	4,518	4,226	4,634	4,286	4,908	4,684	4,997	3,780	3,160	4,129	4,192	4,590	52,104

(3) 血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RBC	使用量	240	219	245	217	267	259	317	195	155	301	295	285	2,995
	廃棄量	2	0	4	0	4	0	4	3	0	0	2	2	21
	廃棄率	%	0.8%	0.0%	1.6%	0.0%	1.5%	0.0%	1.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
FFP	使用量	245	96	154	120	113	319	446	97	107	162	161	160	2,180
	廃棄量	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	6
	廃棄率	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	1.2%
PC	使用量	800	1,065	980	1,000	950	1,205	1,380	690	610	795	1,300	1,060	11,835
	廃棄量	0	0	0	0	5	0	0	10	10	10	10	0	45
	廃棄率	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	1.4%	1.6%	1.2%	0.8%	0.0%
ALB	単位数	231	412	519	241	312	239	293	177	146	395	327	555	3,847
FFP/RBC比		0.83	0.43	0.61	0.54	0.42	1.06	1.30	0.49	0.69	0.54	0.53	0.53	0.73
ALB/RBC比		0.96	1.88	1.63	0.93	1.16	0.92	0.92	0.91	0.94	1.14	1.11	1.26	1.28

(4) 血液培養検査

実施件数	3,208件
陽性率	5.3%

(5) 薬剤耐性(2024年の薬剤感受性試験実施株を対象)

黄色ブドウ球菌に占めるMRSA率	40.9%
大腸菌に占めるESBL産生率	23.9%
緑膿菌のイミペネム耐性率	9.6%
腸内細菌科細菌および緑膿菌のカルバペネマーゼ産生菌分離率	0.0%

32. 放射線部

1. 人事異動 令和6年4月1日付

【転出者】放射線技師長	山崎 弘幸	がんセンターへ
【転入者】放射線技師長	藤井 康司	丹波医療センターより
副放射線技師長	関尾 直士	はりま姫路総合医療センターより
副主任	岡田 早希	淡路医療センターより

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表1、2、3）

令和6年の放射線検査実績は、総検査人数48,873人で、前年より2,309人減少した。外来患者数が1,022人減少し、入院患者数が1,287人減少した。

時間外検査人数は6,582人で、前年より326人減少した。日勤帯で233人、深夜帯で93人減少し、準夜帯で増減なしであった。

2) 機器の更新（表4）

血管連続撮影装置がキャノンメディカルシステムズ社製 Alphenix INFX-8000V、リニアックおよび治療計画装置がエレクタ社製 VersaHDと Monacoに更新された

3) 医療安全管理の取組み

- ① ポータブル撮影時、障害陰影物（衣類のボタン等、輸液チューブ、心電図の端子、ケーブルなど）がないか技師と看護師でダブルチェックをする。また、意思疎通できない患児のポータブル撮影時は、体動を保持する手などの映り込みがないか確認をおこなう。
- ② 患者間違いや検査依頼項目の見落としがないように、患者氏名やID、撮影部位、撮影方法について、バーコードリーダーによる認証と指さし・声出し確認をおこなう。

4) チーム医療の推進

県立病院に所属する診療放射線技師として以下に掲げる理念および基本方針を策定した。

【理念】

放射線の専門職として医療被ばくの適正化に努め、安心安全なチーム医療を推進します。

【基本方針】

1. 患者さんと共にチーム医療の一翼を担い、専門分野の責務を全うします。
2. 自己研鑽に励み、安全を担保した高度で良質な画像診断と放射線治療を提供します。
3. 高額医療機器の適正な使用と精度管理に努め、病院運営に貢献します。

【スローガン】

みんな笑顔に！

「みんな笑顔に！」という言葉には、診療放射線技師を含めた医療スタッフが笑顔のある職場作りを目指すと共に、医療を受ける患者様が笑顔を取り戻せるようにサポートしますという思いが込めら

れています。

5) 資質向上と教育

今年も、学会・研修会（WEB開催）へ積極的に参加している。

- ・学会・研修会発表 : 3題
- ・学会・研修会等への参加：日本放射線技術学会学術大会、日本小児放射線技術研究会、兵庫県核医学技術検討会等

<認定資格>	第1種放射線取扱主任者	5名	放射線機器管理士	1名
	放射線管理士	1名	衛生工学衛生管理者	1名
	診療情報管理士	1名	医療情報技師	1名
	放射線治療専門放射線技師	1名	情報処理技術者	1名
	X線CT認定技師	2名	放射線治療品質管理士	1名
	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師			3名
	核医学専門技師	1名		
	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	1名		

3. 令和7年の課題

医療被ばく線量管理システムを使用した被ばく線量データを活用し、各々の放射線機器の性能や画像構築の最適化を行い、さらなる患者被ばく低減を目指す。

放射線機器の更新・管理を適正に行い、チーム医療の推進を図り、医療事故防止について取り組み、機器の安定稼働および安心安全な検査を継続する。

(1) 放射線検査人数 (表1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
単純撮影	X線撮影	外来	1,401	1,362	2,062	1,549	1,367	1,335	1,681	1,861	1,335	1,390	1,311	1,478	18,132	
		入院	80	79	92	88	98	95	105	111	71	76	69	80	1044	
		計	1,481	1,441	2,154	1,637	1,465	1,430	1,786	1,972	1,406	1,466	1,380	1,558	19,176	
	ポータブル	外来	65	87	61	76	107	111	96	79	68	80	72	87	989	
		入院	998	985	1,139	1,108	1,169	1,175	1,261	952	853	1,117	1,066	1,177	13,000	
		計	1,063	1,072	1,200	1,184	1,276	1,286	1,357	1,031	921	1,197	1,138	1,264	13,989	
単純撮影合計		外来	1,466	1,449	2,123	1,625	1,474	1,446	1,777	1,940	1,403	1,470	1,383	1,565	19,121	
		入院	1,078	1,064	1,231	1,196	1,267	1,270	1,366	1,063	924	1,193	1,135	1,257	14,044	
		計	2,544	2,513	3,354	2,821	2,741	2,716	3,143	3,003	2,327	2,663	2,518	2,822	33,165	
造影撮影	消化器	外来	20	26	41	34	29	24	42	45	27	30	28	32	378	
		入院	13	13	17	14	21	14	12	6	9	10	12	20	161	
		計	33	39	58	48	50	38	54	51	36	40	40	52	539	
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	3	8	
		計	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	3	8	
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	0	12	31	25	25	25	29	37	20	32	25	31	292	
		計	0	12	31	25	25	25	29	37	20	32	25	31	292	
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	泌尿器系	外来	25	33	29	16	24	21	26	27	24	25	19	25	294	
		入院	8	6	3	9	11	6	6	7	0	11	8	7	82	
		計	33	39	32	25	35	27	32	34	24	36	27	32	376	
	その他造影	外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	
		入院	3	1	1	0	0	0	1	2	2	1	1	0	12	
		計	4	1	1	0	0	0	1	2	2	1	2	1	15	
造影撮影合計		外来	46	59	70	50	53	45	68	72	51	55	48	58	675	
		入院	24	33	54	48	57	46	48	52	32	54	46	61	555	
		計	70	92	124	98	110	91	116	124	83	109	94	119	1,230	
C T 検査		外来	102	103	143	108	115	110	134	118	82	82	99	105	1,301	
		入院	80	64	88	88	90	81	91	89	94	84	84	99	1,032	
		計	182	167	231	196	205	191	225	207	176	166	183	204	2,333	
M R I 検査		外来	223	185	264	228	187	200	240	283	232	226	208	220	2,696	
		入院	68	69	63	109	107	82	93	73	75	106	82	92	1,019	
		計	291	254	327	337	294	282	333	356	307	332	290	312	3,715	
核医学検査		外来	7	13	11	12	13	12	11	11	8	8	7	10	123	
		入院	6	4	10	4	7	6	7	5	8	7	4	9	77	
		計	13	17	21	16	20	18	18	16	16	15	11	19	200	
放射線治療		外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		入院	11	7	11	3	3	0	2	0	0	0	0	0	37	
		計	11	7	11	3	3	0	2	0	0	0	0	0	37	
超音波検査		外来	489	536	691	573	478	527	609	729	559	521	479	568	6,759	
		入院	94	88	82	96	89	104	109	83	59	93	77	76	1,050	
		計	583	624	773	669	567	631	718	812	618	614	556	644	7,809	
骨塩定量		外来	10	31	26	29	27	25	41	53	29	26	15	29	341	
		入院	2	6	2	3	4	2	5	4	6	4	1	4	43	
		計	12	37	28	32	31	27	46	57	35	30	16	33	384	
総合計		外来	2,343	2,376	3,328	2,625	2,347	2,365	2,880	3,206	2,364	2,388	2,239	2,555	31,016	
		入院	1,363	1,335	1,541	1,547	1,624	1,591	1,721	1,369	1,198	1,541	1,429	1,598	17,857	
		計	3,706	3,711	4,869	4,172	3,971	3,956	4,601	4,575	3,562	3,929	3,668	4,153	48,873	

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	325	298	337	248	288	311	286	245	254	254	272	362	3,480
業務時間(時)	48	47	46	41	39	50	42	42	42	36	42	51	526
準夜帯検査人数	181	176	204	204	226	246	243	197	170	205	203	223	2,478
業務時間(時)	55	53	65	58	66	74	74	61	53	60	61	69	749
深夜帯検査人数	54	44	48	55	79	55	52	34	40	54	57	52	624
業務時間(時)	26	20	25	26	35	26	25	17	20	26	29	25	300
検査人数(計)	560	518	589	507	593	612	581	476	464	513	532	637	6,582
業務時間(計)	129	120	136	125	140	150	141	120	115	122	132	145	1,575

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表3)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	440	393	452	374	474	478	478	364	353	400	433	489	5,128
一般撮影	212	192	222	216	208	279	173	164	195	203	216	211	2,491
C T	46	40	40	37	57	52	38	38	34	45	56	53	536
T V	2	1	2	2	2	4	2	3	3	1	1	4	27
M R I	3	1	4	5	4	2	4	4	3	5	4	2	41
アンギオ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	703	627	721	634	745	815	695	573	588	654	710	759	8,224

(4) 放射線機器一覧表 (表4)

機器名	製造・販売業者	装置名	購入年月
MRI装置	フィリップス・ジャパン	Ingenia 1.5T CX	H28年3月
MRI装置	GEヘルスケア・ジャパン	SIGNA Architect 3.0T	R3年3月
全身用CT装置(320列)	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	H23年3月
放射線治療位置決め用CT装置(80列)	キャノンメディカルシステムズ	Aquilion PRIME	H28年3月
血管連続撮影装置	キャノンメディカルシステムズ	Alphenix INFX-8000V BP	R6年2月
FPDシステム(12式)	富士フィルムメディカル	CALNEO Smart	H28年3月
長尺FPD装置(2台)	富士フィルムメディカル	CALNEO GL	H28年3月
泌尿器用X線テレビ装置	キャノンメディカルシステムズ	Ultimax-i	H28年3月
消化器用X線テレビ装置	富士フィルムヘルスケアシステムズ	CUREVISTA	H24年9月
診断用X線撮影システム(2台)	島津製作所	RADspeed Pro	H28年3月
医用画像システム	富士フィルムメディカル	SYNAPSE	H28年3月
3D画像解析ワークステーション	富士フィルムメディカル	VINCENT	H31年2月
被ばく線量管理システム	GEヘルスケア・ジャパン	Dose Watch	R2年3月
パノラマ・セファロX撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	H28年3月
ガンマカメラ	GEヘルスケア・ジャパン	Discovery NM830	R5年3月
リニアック	エレクタ(株)	VersaHD	R6年12月
治療計画装置	エレクタ(株)	モナコ	R6年12月
移動型X線撮影装置(2台)	富士フィルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H28年3月
移動型X線撮影装置(3台)	富士フィルムヘルスケアシステムズ	Sirius 130HP	H23年2月
線量モニタリングシステム	米国Sun Nuclear	1137型 IVD 2	H28年3月
RI対応安全キャビネット	日本エアーテック	BHC-1307 II A2-RI-S	H28年3月
X線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	H28年3月
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	H28年3月
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	H28年3月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	H25年12月
超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	H24年3月
外科用X線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	Cios Select FD	R6年1月
外科用X線Cアーム装置	シーメンスヘルスケア	ARCADIS Orbic	H26年4月
造影剤自動注入器(アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODEL A	H21年12月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	R3年3月
造影剤自動注入器(MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	H28年3月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	H23年9月
造影剤自動注入器(CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	H28年3月
造影剤自動注入器(TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	H28年3月
RIドーズキャリブレータ	CAPINTEC	CRC-55t	R5年3月
分注器	安西	AZ-2000N	H20年12月

33. 栄養管理部

1. 人事

【退職者】技能副主任 米田 栄会 再任用満了 (令和6年3月31日付)
【転入者】技能主任 近藤 敦代 尼崎総合医療センターより (令和6年4月1日付)

2. 主な活動報告

- 令和3年4月より管理栄養士1名の増員を図り、食物アレルギー患者の増加に対する安全な病院給食の提供及び栄養指導の充実に努めている
- チーム医療の円滑な推進
- 医療事故防止対策に関する取り組み
全県立病院及び当院で取り組む医療安全重点目標に対する取り組みを実施
食物アレルギーに関するヒヤリハットの防止は最重要取り組みとして実施継続
- 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- 令和6年度に予定されている病院機能評価に向けて業務の確認及び見直しを実施
- 令和6年9月の電子カルテの更新及び部門システムの入れ替えに伴い、スムーズな移行と特に食物アレルギーの安全管理を考慮したシステムと運用方法に他部門と連携を図り取り組んだ
- 患者給食のサービス向上のための給食イベント「病棟夏祭り」等の実施、屋外庭園での野菜の収穫体験と収穫物を使用したおやつの提供、産科の出産「ねぎらい膳」の提供を継続
- 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- 栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

3. これからの展望

令和7年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理部の基盤業務において医療事故防止の取り組みを強化すると共に診療部門との更なる連携を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

4. 給食

(1) 調製乳 月別延数

① 調製乳 人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
調乳のみ人員(人)		1,862	1,596	1,732	1,718	1,803	1,737	1,923	1,523	1,256	2,074	2,189	2,368	21,781	80.4
調乳・食事人員：調乳(人)		45	52	52	52	61	46	58	47	54	67	158	102	794	2.9
小計		1,907	1,648	1,784	1,770	1,864	1,783	1,981	1,570	1,310	2,141	2,347	2,470	22,575	83.3
調乳・食事人員(食事)		371	582	458	457	461	545	616	391	191	91	221	139	4,523	16.7
計		2,278	2,230	2,242	2,227	2,325	2,328	2,597	1,961	1,501	2,232	2,568	2,609	27,098	100.0

(注) 調乳・食事人員……調乳(人)調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳 種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
13% レーベンスマルク		8,090	8,788	8,678	9,082	10,124	8,892	9,200	6,747	5,734	7,340	8,198	7,668	98,541	53.4
15% LW		3,313	1,547	2,057	2,066	1,615	1,546	1,841	961	771	1,225	1,402	2,287	20,631	11.2
特	13% LW							8	8					16	
殊	16% LW													0	
	7% レーベンスマルク			27		35								62	
	10% レーベンスマルク													0	
	12% レーベンスマルク					8								8	
	14% レーベンスマルク		12		6	42								32	92
	15% レーベンスマルク		1,092	1,121	675	1,005	716	1,540	1,036	787	545	610	707	490	10,324
	16% レーベンスマルク		54	84	98	175			15					17	443
	17% レーベンスマルク		958	693	151	176	547	254	736	924	555	506	406	405	6,311
	18% レーベンスマルク			171		21		262	279	279	270	279	270	162	1,993
	19% レーベンスマルク		203	279	557	435	374	93	481	844	427	514	540	558	5,305
	20% レーベンスマルク			63	154	78	109		84	56	7			8	559
	12% E赤ちゃん							206	239	196	208	182	32	147	1,210
	13% E赤ちゃん			84	54	97		42	95		90	290	381	324	1,457
	14% E赤ちゃん													0	
	15% E赤ちゃん													0	
	13% ARミルク													0	
	15% ARミルク													0	
	17% ARミルク													0	
	19% ARミルク													0	
	20% ARミルク													0	
	13% MA-1					36	81							117	
	14% MA-1													32	
	15% MA-1		416	267	505	250	451	507	119	30	24	225	287	548	3,629
	16% MA-1													0	
	17% MA-1		18				6							18	42
	20% MA-1													0	
	10% MCT フォーミュラ													0	
	13% MCT フォーミュラ				54	153								6	213
	14% MCT フォーミュラ		1,306	1,105	1,748	1,308	1,228	1,266	1,161	884	477	1,263	1,458	1,006	14,210
	15% MCT フォーミュラ													0	
	16% MCT フォーミュラ		279	189		54		9	9					540	
	17% MCT フォーミュラ			117	45	270	171	36						639	
	18% MCT フォーミュラ													0	
	14% 必脂 MCT (721)		254	174	139		112	210	56		18			963	
	13% 必脂 MCT		18												
	14% 必脂 MCT		90	32	542	63			8		6			240	981

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
特 殊 乳	15% 必脂MCT													0	
	16% 必脂MCT		9	54	138	102	18	6	90	48	18	24		507	
	17% 必脂MCT													0	
	18% 必脂MCT													0	
	10% エレンタール									36		6			
	13% エレンタール				22	8				168	21			219	
	15% エレンタール									6		6			
	16% エレンタール													0	
	20% エレンタール								81	54		7		142	
	26% エレンタール							9				30	18	57	
	27% エレンタール						27	9	189		125			350	
	10% エレンタールP		70							99	363	240	293	1,065	
	13% エレンタールP		99	315	540	993	991	1,021	456	180	116			4,711	
	14% エレンタールP						27								
	15% エレンタールP		7			99	87	81	589	270	780	547	355	2,815	
	16% エレンタールP												4	4	
	17% エレンタールP						3	60				5			
	20% エレンタールP		42	45				219	279	270	462	458	348	2,123	
	22% エレンタールP		98											98	
	24% エレンタールP													0	
	26% エレンタールP	9	90	90	216	62	40	382	90	252	386	302	486	2,405	
	27% エレンタールP							3						3	
	14% ケトンフォーミュラ					72	270	172						514	
	8% エレメンタルフォーミュラ													0	
	10% エレメンタルフォーミュラ						63	513	180	144				900	
	13% エレメンタルフォーミュラ	217	203	217	210	217	347	135	500	603	362	442	258	3,711	
	14% エレメンタルフォーミュラ													0	
	15% エレメンタルフォーミュラ						9	117	123	2	8	48			
	17% エレメンタルフォーミュラ	279	261	279	277	303	167	115	130				54	73	1,938
	7% 低カリウム中リン													0	
	10% 低カリウム中リン													0	
	11% 低カリウム中リン													0	
	13% 低カリウム中リン													0	
	14% 低カリウム中リン													0	
	15% 低カリウム中リン	48		290	12	27	137					14	212	63	803
	16% 低カリウム中リン													0	
	17% 低カリウム中リン	91	145	199	117	176	208	356	317	343	203		72		
	15% S-23蛋白除													0	
	15% S-22													0	
	15% ML-3													0	
	14% GSD-N												8		
	特殊乳 小計	5,344	5,430	6,217	5,738	5,854	6,819	7,524	7,032	5,102	6,738	6,457	5,957	74,212	40.2
濃 厚 流 動 食	G F O	28	28	74	69	32	47	50	65	6	34	71	29	533	
	アイソカルジュニア	167	54	61	117	136	125	79	26	200	484	717	899	3,065	
	MA-ラクフイア	81	58	70	64	62	60	83	83	156	248	240	301	1,506	
	ペプチーノ(プレーン)	10		1										11	
	リーナレンLP													0	
	リーナレンMP		2		21	6		7	1	20	14	63	108	242	
	濃厚流動食 小計	286	142	206	271	236	232	219	175	382	780	1,091	1,337	5,357	2.9
	滅菌水	505	651	594	293	335	250	416	299	31	81	142	80	3,677	2.0
合 計		17,538	16,558	17,752	17,450	18,164	.	19,200	15,214	12,020	16,164	17,290	17,329	184,679	100.0
空瓶 大 200cc		5,976	5,746	5,813	6,125	6,524	6,125	6,574	6,836	7,160	5,957	5,613	7,004	75,453	52.3
空瓶 小 100cc		6,456	5,640	7,488	6,504	6,408	5,664	5,784	4,920	3,868	5,376	5,256	5,544	68,908	47.7
合 計		12,432	11,386	13,301	12,629	12,932	11,789	12,358	11,756	11,028	11,333	10,869	12,548	144,361	100.0

(2) 患者食事数

① 患者食事数

(単位 食)

区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
常食	学童食	2,868	2,501	3,087	2,721	2,951	2,957	3,241	3,722	2,096	2,265	2,323	2,091	32,823
	妊産婦食	1,310	1,378	1,319	1,463	1,798	1,539	1,651	1,187	1,005	1,484	1,300	1,398	16,832
	小計	4,178	3,879	4,406	4,184	4,749	4,496	4,892	4,909	3,101	3,749	3,623	3,489	49,655
軟菜離乳児	幼児・離乳食	2,974	2,938	3,020	2,761	2,996	3,014	3,224	2,665	2,599	3,169	3,263	2,783	35,406
	軟菜・流動食	813	940	940	1,091	1,101	1,113	859	767	742	1,007	981	1,015	11,369
	小計	3,787	3,878	3,960	3,852	4,097	4,127	4,083	3,432	3,341	4,176	4,244	3,798	46,775
非加算特別食	ペースト食	61	82	64	155	109	207	242	102	47	64	64	56	1,253
	アレルギー食													0
	自由食													0
	口蓋裂食	32	8	35	39		16	97	135	27	43	16		448
	扁摘術後食	110	112	120	150	86	111	92	199	164	118	147	150	1,559
	移植対応食	367	576	515	406	356	425	417	536	319	324	312	390	4,943
	クローン病食													0
	低残査食			55	114			9	6	3		38	43	299
	肥満食													0
	ケトン食							23	24					47
	減塩食													0
	その他特別食	557	469	550	422	435	406	505	461	452	515	480	543	5,795
	小計	1,127	1,302	1,398	1,172	986	1,174	1,382	1,460	1,009	1,102	1,062	1,170	14,344
加算特別食	腎臓食	307	149	174	133	235	91	95	126	118	87	76	81	1,672
	肝臓食	63	27	35	63	48	71	71	38	79	73	75	73	716
	糖尿病食	78	9	126	30		89	153	57	13	35	3	36	629
	乳び胸食						4	31				2	10	47
	心臓食						10		7					17
	低ナトリウム食													0
	検査食(加)													0
	妊娠中毒症食	1	17		2	3		17	38	81	26	121	105	411
	妊産婦糖尿病食													0
	妊産婦肝臓病食													0
	高尿酸血症食													0
	小計	449	202	335	228	286	265	367	266	291	221	277	305	3,492
合計		9,541	9,261	10,099	9,436	10,118	10,062	10,724	10,067	7,742	9,248	9,206	8,762	114,266
検食等	保存食	186	174	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,196
	検食	261	244	261	251	260	252	260	260	253	259	252	261	3,074
	合計	447	418	447	431	446	432	446	446	433	445	432	447	5,270
総合計		9,988	9,679	10,546	9,867	10,564	10,494	11,170	10,513	8,175	9,693	9,638	9,209	119,536

② 患者おやつ数

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
おやつ数	2,406	2,253	2,608	2,394	5,452	2,448	2,642	2,579	2,133	2,711	2,783	2,617	33,026

(3) 患者外食事数 (保育食)

(単位 食)

区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
保育児食	176	174	200	150	134	117	151	144	128	162	167	183	1,886

5. 栄養指導 月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		43	29	42	43	35	39	50	42	40	44	42	43	492
2型糖尿病		7	8	6	5	7	7	6	5	5	9	11	5	81
その他糖尿病		1					1	2	1	2	1	1		9
妊娠糖尿病														0
肥満	27	34	30	21	33	23	30	20	27	27	23	27	322	
腎臓病	4	2	1	1	2	2		3	2	2	6	1	26	
妊娠高血圧症候群											1	1	2	
心臓病	1	2	4		2	3		1	1			1	15	
肝臓病	1		1		1	1	2			1			7	
膵臓病												1	1	
フェニルケトン尿症	2		2	1		2		1	1	2	2	3	16	
ガラクトース血症													0	
脂質異常症	4	3	5	1	2	2	2	4	3		3	2	31	
高尿酸血症													0	
胃潰瘍食													0	
低残渣食											1		1	
小児食物アレルギー	46	42	46	51	45	43	46	43	48	38	35	60	543	
貧血食					1		1						2	
移植対応食	4	4	5	1	5	1	4	4		6			34	
てんかん食(ケトン食)				1			1	2	2				6	
がん	6	14	8	11	20	10	11	10	8	17	13	7	135	
摂食・嚥下機能低下		1	1				1	2				1	6	
ミキサー食(胃ろう)	2	1			3	1	2	1	5		2	3	20	
痛風食	1	1	1		1		2						6	
低栄養	3	9	11	9	5	3	11	5	9	8	2	4	79	
調乳(標準ミルク)	1												1	
調乳(高濃度ミルク)	1	2	1		1	2		2	2	2	1	1	15	
調乳(特殊ミルク)		1		1	2	1		1	1				7	
その他	7	4	10	6	5	10	6	10	9	3	7	6	83	
合計(件)	161	157	174	152	170	151	177	157	165	161	149	166	1,940	
件数	外 来	106	102	117	100	103	97	110	94	116	106	106	114	1,271
	入 院	55	55	57	52	67	54	67	63	49	55	43	52	669
合計(件)	161	157	174	152	170	151	177	157	165	161	149	166	1,940	
人数	外 来	227	219	257	212	219	210	238	214	250	225	214	251	2,736
	入 院	113	123	121	112	138	118	138	135	113	120	94	108	1,433
合計(人)	340	342	378	324	357	328	376	349	363	345	308	359	4,169	

(注) 件数に比べ人数が多いのは、患者1人1件において、本人以外の親等にも栄養指導を行い、その人数に含めているためである。

34. リハビリテーション部

【スタッフ】

- 平成28年5月こども病院移設とともに診療部リハビリテーション科として理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制で開設。
- 平成30年度理学療法士1名増員。
- 平成31年度（令和1年度）診療部より独立。リハビリテーション部となり、整形外科医師小林大介リハビリテーション科・部 部長就任。
- 令和2年度理学療法士1名増員。
- 令和6年度整形外科医師坂田亮介リハビリテーション科長就任。小林大介リハビリテーション部長継続
- 兵庫県レジデント制度により令和6年度よりレジデント理学療法士1名勤務。

令和6年度4月現在スタッフ数

	人員	備考
医 師	2名	リハビリテーション科長・部長
理学療法士	5名	レジデント1名含む
作業療法士	1名	
言語聴覚士	4名	

【診療活動】

- 施設基準として開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱ。
- 平成28年度9月障害児リハビリテーション料取得。
- 平成29年度がんのリハビリテーション料取得。
- 平成29年運動器疾患リハビリテーション料Ⅰ取得。
- 平成30年度早期離床リハビリテーション加算取得。
- 令和5年11月心臓大血管リハビリテーション料Ⅰ 施設基準取得

令和6年度 施設基準別単位数および前年度比較（令和6年1月～12月）

1. 理学療法

	施設基準	単位数	前年比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,386	96.3%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	1,038	133.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	1,126	56.0%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	400	2,353%
	がんリハ料	1,025	79.0%
	障害児リハ料6歳未満	525	61.0%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	231	268.6%
	障害児リハ料18歳以上	4	66.7%
	廃用症候群リハ料	149	60.0%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	124	238.5%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	165	86.4%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	5	125.0%
	心臓大血管リハ料（Ⅰ）	125	625.0%
	障害児リハ料6歳未満	588	85.2%
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	43	39.0%
	障害児リハ料18歳以上	2	100.0%
計		6,936	90.5%

早期離床リハビリテーション加算

	件 数	保険点数
早期離床リハビリテーション加算 (令和6年1月～12月)	3,204	1,602,000

2. 作業療法

	施 設 基 準	単位数	対前年比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	1,117	67.7%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	11	39.2%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	373	1554%
	心大血管疾患リハ料（Ⅰ）	149	—
	がんリハ料	698	134.2%
	障害児リハ料 6歳未満	486	93.8%
	障害児リハ料 6歳以上18歳未満	66	173.7%
	障害児リハ料18歳以上	3	0.0%
	廃用症候群リハ料	79	10.1%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	61	555.0%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	24	88.9%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	心大血管疾患リハ料（Ⅰ）	4	—
	障害児リハ料 6歳未満	342	158.3%
	障害児リハ料 6歳以上18歳未満	0	0.0%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		3,413	88.7%

3. 言語聴覚療法

	施 設 基 準	単位数	前年度比
入院	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	279	29.6%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	112	20.0%
	がんリハ料	36	30.0%
	障害児リハ料 6歳未満	243	54.2%
	障害児リハ料 6歳以上18歳未満	30	111.1%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
	廃用症候群リハ料	116	1160%
外来	脳血管疾患等リハ料（Ⅱ）	111	65.3%
	運動器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	呼吸器疾患リハ料（Ⅰ）	0	0.0%
	障害児リハ料 6歳未満	396	22.0%
	障害児リハ料 6歳以上18歳未満	75	63.6%
	障害児リハ料18歳以上	0	0.0%
計		1,459	53.4%

4. 言語聴覚士耳鼻咽頭科関連業務件数

検査項目	件 数
標準純音聴力検査	857
標準語音聴力検査	85
気導純音聴力検査	6
遊戯聴力検査	1,754
補聴器適合検査 1回目	38
補聴器適合検査 2回目以降	451
発達および知能検査	57
計	3,428

35. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

家族支援・地域医療連携部は、部長1名、次長兼課長1名、看護師4名、MSW3名の9名で入退院支援・患者サポート相談窓口・虐待関連事務局・がん相談・地域連携・重症患者対応メディエーター等の業務を行っている。また、今年度5月より入退院支援センターを開設し、専従看護師1名・専任看護師1名を配置した。予約センターでは、委託業者が受診予約を担当している。

II. 2024年主な活動

1. 入退院支援・在宅療養支援の推進

- ① 入退院支援の充実
- ② 医療的ケア児の在宅移行支援および療養支援
 - ・制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ・本人や家族の意思決定など精神面の支援
- ③ 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
- ④ 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・施設訪問）
- ⑤ 生活支援センターなど地域連携機関との連携（カンファレンス開催・施設訪問）
- ⑥ 学校・保育所・児童発達支援事業所など、教育・療養機関との連携（カンファレンス開催・研修会開催）
- ⑦ 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援

2. 入退院支援センターの開設・整備

- ① 入退院支援センター運用の定着

3. 院内各科の診療支援

- ① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
- ② 返書作成の支援
- ③ 家族背景へのケースワーク

4. 患者家族の不安への対応

- ① 医療制度・福祉制度の説明
- ② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介
- ③ 各種手続きのサポート
- ④ 重症患者メディエーターの介入
- ⑤ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

5. 発達支援・養育支援

- ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- ② 事故予防活動（事故予防相談・地域との連携）
- ③ 育児相談活動（評価、関わり方指導）

6. 教育支援

- ① 教育機関とのカンファレンス

7. 移行期支援

- ① 医療機関との連携・調整

III. 業務実績（2024年）

1. 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	451	476	454	435	445	411	419	388	363	447	372	383	5,044	4,985
2	退院援助	82	66	50	58	89	111	133	86	45	74	69	70	933	842
3	社会復帰援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
4	受診・受療援助	45	51	58	53	29	52	36	26	27	42	32	22	473	583
5	経済的問題の解決、調整援助	25	28	27	20	26	30	40	32	12	23	13	29	305	410
6	地域活動	0	1	1	4	6	10	10	3	1	10	10	14	70	117
7	養育支援（虐待予防を省く）	11	8	8	10	16	14	11	12	5	7	1	6	109	79
8	虐待・虐待予防関連	51	67	61	34	53	44	35	89	58	67	70	54	683	816
9	一時保護	1	0	1	2	0	0	0	1	4	1	1	1	12	10
10	がん患者の社会的問題の解決・調整	39	64	68	55	100	66	58	36	70	84	50	58	748	673
11	その他	3	3	2	1	2	2	3	2	1	3	2	6	30	20
	合 計	708	764	730	672	766	740	745	675	586	759	620	643	8,408	8,537

2. 機関別延べ連絡調整数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	教育機関	9	22	17	4	11	12	17	10	9	18	16	19	164	146
2	保健所・保健センター	52	60	53	43	36	47	41	51	37	62	49	53	584	564
3	福祉事務所等(役所)	35	31	33	27	36	36	39	39	27	34	47	34	418	381
4	こども家庭センター（児童相談所）	44	42	22	18	36	17	12	50	30	38	44	31	384	546
5	医療福祉施設	36	21	33	25	32	26	28	40	18	26	31	16	332	376
6	療育センター	10	8	7	3	5	5	2	2	4	3	10	2	61	65
7	児童発達支援事業所	10	18	5	13	20	10	11	5	9	6	6	4	117	84
8	医療機関	114	119	115	106	112	108	96	105	78	113	88	87	1,241	1,219
9	訪問看護ステーション	134	126	91	98	113	106	167	100	74	104	110	105	1,328	1,445
10	地域生活支援センター	3	8	9	4	2	2	7	8	3	1	3	1	51	51
11	その他	46	45	28	44	53	46	44	37	52	36	36	33	500	
12	相談支援専門員連携数	11	16	20	12	9	10	10	6	6	13	14	4	131	83
	合 計	458	471	405	397	465	425	474	453	347	454	454	389	5,192	4,960

3. 関係機関カンファレンス件数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	虐待関連カンファレンス	3	5	5	5	6	1	1	9	4	3	2	9	53	87
2	施設入所カンファレンス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
3	在宅病棟移行前カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	在宅カンファレンス	22	14	7	6	16	6	10	12	10	9	15	14	141	171
5	外泊前カンファレンス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
6	退院前カンファレンス	7	4	1	1	5	2	8	2	6	4	5	4	49	47
7	教育機関カンファレンス	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2	0	7	5
8	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
9	重症患者初期支援カンファレンス	3	5	1	3	4	3	3	3	3	4	3	3	38	15
10	その他	2	2	2	2	0	3	0	4	3	2	1	2	23	21
	合 計	39	30	17	18	32	17	22	31	26	21	29	32	314	349

4. 入退院支援センター業務

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
全介入患者数	/	/	/	/	162	123	137	132	101	160	156	152	141
対象診療科患者数	/	/	/	/	36	30	35	27	25	87	84	81	74

5. その他

	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	前年累計
1	入退院支援加算Ⅰ	309	305	333	325	342	319	349	318	242	315	249	300	3,706	3,566
2	入退院支援加算Ⅲ	25	35	38	27	30	31	36	27	10	31	47	29	366	410
3	患者サポート相談件数	20	25	24	24	31	16	35	27	26	18	19	26	291	348
4	重症患者初期支援介入件数	8	9	13	10	12	8	7	2	7	3	4	9	92	29(5~12月)

2024年度は、心理的・社会的問題の解決・調整、退院支援、療育支援、がん相談が増加している。連携・調整機関については、教育・療育関連機関との連携が引き続き増加している。

重症患者初期支援カンファレンスについては、毎月病棟とメディエーターがカンファレンスを行うと共に、メディエーター間でのカンファレンスも開催し情報交換が行われている。対象を拡大しているが、メディエーターの人員不足が課題である。

入退院支援センターは、入院する患者・家族が、入院前の不安や心配ごとが最小限になり、退院後の日常生活がイメージできることを目的とし、5月に開設した。対象診療科を徐々に拡大し、次年度には外科系の診療科全ての導入を目指す。

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約や受診報告書の発送、逆紹介業務、再診患者の予約業務などを行っている。11月にホームページ更新後、メールでの問い合わせが増加し各担当が回答している。

2024年は新患患者の受付件数、紹介元医療機関の新規登録件数は平年通りで、再診予約が増加している。また電話対応の機会も多く業務が煩雑になっている状況にある。今後もスムーズな受診予約・返書管理に努めたい。

1. 業務統計

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計・平均	前年度
メール相談対応数	13	4	8	2	8	8	6	4	7	7	19	35	121	86
(内訳) 各科医師相談	3	2	3	0	0	1	2	1	3	5	3	6	29	18
予約センター・他部署で返答	10	2	5	2	8	7	4	3	4	2	16	29	92	68
セカンドオピニオン数	0	1	2	2	4	4	4	1	2	1	1	2	24	25
受診報告書発送数 (紹介状件数)	508	497	510	534	549	548	617	555	491	528	488	520	6,345	6,423
新規医療機関件数	20	26	15	19	31	20	16	26	24	16	11	13	237	245
新患FAX予約受付件数	453	433	444	472	472	504	504	445	432	438	412	429	5,438	5,467
新患電話予約受付件数	276	262	286	284	304	288	286	329	271	313	290	328	3,517	3,634
新患予約キャンセル受付件数	23	17	21	19	14	17	19	26	14	22	17	16	225	194
再診対面・電話予約件数	2,228	2,013	1,943	2,068	2,553	2,145	2,268	1,885	2,111	2,189	1,907	2,203	25,513	24,925
その他 予約日確認などの電話件数	864	819	933	916	1,008	938	1,140	848	868	962	1,046	1,142	11,484	10,700
返書率	95.5	96.6	93.6	90.2	94.1	92	96	94.1	92.1	94.3	93.1	93.5	93.76	94.8

※新患、再診ともに予約受付件数内に変更件数含む

2. 地域別紹介元医療機関新規登録数

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年度
神戸市	2	2	1	3	7	9	4	7	6	6	5	2	53	49
阪神	2	3	2	4	6	3	2	5	3	3	3	2	36	38
西播	2	1	0	1	2	0	2	0	2	0	0	1	11	18
淡路	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	2
東播	3	3	0	2	3	2	1	2	1	1	1	3	22	25
丹波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
但馬	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	5
県外	9	17	12	9	12	6	7	12	12	4	2	5	95	105
合計	19	26	15	19	31	20	17	26	24	16	11	13	222	245

36. 臨床工学室

【スタッフ紹介】

課長補佐 山崎 北斗 3学会合同呼吸療法認定士
 主任 往田 有理 3学会合同呼吸療法認定士 透析技術認定士 植込みデバイス認定士
 認定医療機器管理臨床工学技士 心血管インターベンション技師
 認定集中治療関連臨床工学技士 認定血液浄化関連臨床工学技士
 心電図検定4級 第2種ME技術者
 主任 木場 貴子 透析技術認定士
 副主任 山田 亮二 3学会合同呼吸療法認定士
 副主任 秋山 正太 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士 FCCSプロバイダー
 認定集中治療関連臨床工学技士
 副主任 橋本 健太郎
 副主任 森谷 鉄平 透析技術認定士 体外循環技術認定士 3学会合同呼吸療法認定士
 心血管インターベンション技師 認定血液浄化関連臨床工学技士
 第2種ME技術者
 副主任 西田 匠志 体外循環技術認定士
 副主任 阿部 翔吾 認定集中治療関連臨床工学技士
 主事 東郷 海斗
 主事 山本 貴之

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
終業点検	1,957	1,995	2,292	2,159	2,209	1,987	2,010	2,103	1,591	2,165	2,170	2,176	24,814
定期点検	420	363	375	294	348	385	252	378	282	398	263	393	4,151
呼吸器ラウンド	81	77	82	81	83	80	84	83	79	84	80	84	978
病棟ラウンド	1	1	1	1	1	2	3	2	1	2	2	2	19
NICUラウンド	19	19	20	21	21	20	22	21	19	22	20	22	246

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
体外循環	12	16	14	8	12	10	16	13	9	18	17	16	161
ECMO	2	0	0	0	1	0	0	2	0	1	2	1	9
血液浄化	11	5	4	6	14	15	13	0	0	0	2	0	70
ペースメーカ植込み・交換	0	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	2	8
MEP / BCR	1	9	3	6	3	4	6	3	2	2	2	6	47
PBSCH	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	1	3	10
BMP	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
PE	3	0	6	3	0	0	0	0	0	3	0	15	30

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

感染対策委員会

手術室運営委員会

集中治療室運営委員会

医療ガス安全管理委員会

在宅医療機器検討委員会

呼吸療法委員会（RST）

呼吸ケア部会

医療機器安全管理部会

37. 医療安全管理室

医療安全部は、医療安全管理者（医療安全部長と医療安全専従の医療安全課長）で構成され、病院長から委譲された権限のもと、医療安全管理責任者である医療安全担当副院長が所轄する医療安全管理委員会等と連携し病院全体の安全管理を担っている。また、実働メンバーとしてリスクマネジャー49名の中から、14名の総括リスクマネジャーを選任し、インシデント対応や、職員の安全意識向上のための研修、指導を行い安全・安心な医療提供体制の確立に取り組んでいる。

I. 主な活動内容

1. インシデント報告書に基づく評価・対策・周知

- 1) 総括リスクマネジャー会議を毎週木曜日に開催し、インシデント報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月のインシデント内容と評価・対策を報告し、院内で起こったインシデントについて集約し検討を行った。また、改善策を手順化し共有した。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を、医療安全管理委員会（1回／月）に報告した。
2. MET部会を隔月開催し（計6回）、MET事案の検討を行い、結果をリスクマネジメント部会で報告した。今年度のコール件数は10件で前年より13件減少した。昨年度まで主なコール理由であった徐脈に対して、各診療科が患者に適したMET指示が出るようになったことが要因である。
3. 医療機器安全管理部会を隔月開催し（計4回）、より安全に医療機器を管理し、効率的・計画的に機器の運用を図った。
4. 患者が重症化するまでに早期に異常を察知し、METコールを行い対応することで、コード99症例は、今年度は10件（前年より3件増）でスムーズに対応できた。
5. ECPRも含めた蘇生チーム（ECMOチーム）招集コールは5件で、前年より9件減少している。患者急変時にチームで対応できた。そのうちECMO導入は3件で全て短時間での導入ができた。
6. 院内ラウンドは、第4木曜日16:00～16:30で行った。救急カートチェック・環境チェック・指差し呼称の実施確認・生体情報モニターの適正使用の確認・身体抑制の適正実施の確認を行った。また、インシデント報告でハード面の問題があった場合に、ラウンドを実施し対策を検討した。
7. インシデント報告
 - 1) 2024年のインシデント報告件数は、3,429件で前年より48件減少した。
 - 2) レベル別報告数においては、レベル0は1,014件（前年より186件増）、レベル1は2,089件（前年より164件減）、レベル2は223件（前年より73件減）、レベル3aは28件（前年より増減なし）であった。割合は前年と変化はなかった。
 - 3) レベル3b以上のインシデント報告は3件であった。
 - 4) 部門別では、看護部2,807件（前年より19件減）、診療部365件（前年より26件減）、薬剤部54件（前年より3件減）、放射線部66件（前年より24件減）、検査部33件（前年より4件減）、リハビリ34件（前年より1件減）、栄養管理課30件（前年より8件増）、臨床工学技士16件（前年より7件増）であった。
 - 5) インシデント報告において診療部の報告は11%（前年10%）と横ばい。オカレンス報告は72件（前年より増減なし）であった。
 - 6) 確認不足によるインシデント報告が多いため、各部門で「声だし・指差し呼称」について取り組みを行った。その結果、全体的にインシデント件数は減少したが、定着に向けた活動を継続していく。

【レベル別報告件数】

レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3 a	レベル 3 b 以上	オカレンス
1,014件 (29%)	2,089件 (61%)	223件 (6 %)	28件 (0.8%)	3 件 (0.1%)	72件 (2.1%)

【部門別インシデント報告件数】

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	臨床工学技士	リハビリ	栄養指導課
365件 (11%)	2807件 (82%)	33件 (1 %)	66件 (2 %)	54件 (1.5%)	16件 (0.5%)	34件 (1 %)	30件 (0.9%)

8. 医療安全地域連携加算 相互評価

- 1) I - I 連携：川崎病院（10月13日）、当院で実施
三菱神戸病院（11月26日）、先方で実施
大阪母子医療センター（9月13日）、先方で実施
(2025年2月13日)、当院で実施
- 2) I - II 連携：みどり病院（2025年2月28日）、先方で実施

II. 主な改善に向けた取り組み

今年度は、医療安全文化の醸成を重点取組とし、①safety IIの思考とレジリエンスを高める医療安全活動の実施、②ワーキンググループ・チーム（誤認防止・指差し呼称WG、骨折予防WG、薬剤関連WG、医療対話推進WG・身体的拘束最小化チーム、MM カンファレンスチーム）を新たに設置し、組織横断的な医療安全上の課題を多職種で取り組む体制を構築した。

III. 医療安全研修会、勉強会の開催

テ ー マ	開 催 日	参 加 者
第1回MMカンファレンス 「一般病棟で急変した起動管理症例を通して」	6月6日	診療部 30名 看護部 39名
第1回医療安全研修 ・医療安全の基本を知る③ノンテクニカルスキル ・医療安全の基本を知る④医療安全の三相 ・医療安全の学び方・教え方各論③安全な医療安全教育とは	10月10日～11月29日	全職員 938名 (100%)
医療安全研修「骨折予防」	11月6日	診療部 5名 看護部 51名 その他職種 8名
第2回MMカンファレンス 「ECPRに至った循環器症例を通して」	11月18日	診療部 42名 看護部 21名
2024年度医療安全重点取り組みの中間評価	11月18日 ～2025年1月31日	診療部 116名 リスクマネジャー 48名
第2回医療安全研修 ・希釈方法の間違いによる抗生素過量投与の事例を振り返る ・医薬品安全使用の推進	①2025年2月18日 ②2025年3月3日 ～3月24日	全職員 965名 (100%)
2024年度リスクマネジメント部会活動報告会	2025年3月11日	診療部 12名 看護部 17名 その他職種 6名
新採用医師安全教育 新採用看護師安全教育 臨時採用看護師安全教育 新採用看護補助者安全教育 新採用保育士安全教育	4月1日 4月6日 採用時 採用時 採用時	47名 57名 7名 6名 1名
委託業者安全教育	①2025年1月20日 ②2025年1月31日	清掃・リネン業務職員 24名

IV. 医療安全情報の提供

医療安全NEWSの発行を7回／年行った。

日本機能評価機構や病院局からの医療安全情報の提供を行った。

JACHIでの適宜情報交換を行った。

38. 感染対策室

2024年度に感染対策副院長の配下に感染対策部長－感染対策課長が配置され、感染対策組織が位置づけられた。感染対策部長は院内の感染管理の実施に関する権限を有し、院内感染対策の責任者として統括的役割を担っている。また、感染対策および感染管理の実務責任者として専従の院内感染管理者が専従として感染対策室に配置され、院内の感染対策及び感染管理に関する状況把握、対策を要する事案、その他各種事項について組織横断的に活動している。

諮問機関としての感染対策委員会は、委員長を感染対策部長(感染症内科部長)、副委員長を感染対策課長(看護部次長)、集中治療科部長、ICTリーダー(麻酔科医)とし、委員を院長、感染対策副院長、総務部長、検査技師長、薬剤部長、栄養管理課長、看護部長、医療安全課長、感染管理認定看護師2名の他、診療部5名、看護部3名、検査部3名、薬剤部1名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名で構成され、感染予防対策に関する最高の審議・決定機関、院長の諮問機関としての役割を担っている。

感染対策チーム(Infection Control Team ; ICT)は、看護師2名、医師7名、検査技師2名、薬剤師2名、オブザーバー(感染対策部長、感染対策課長、ローテート専攻医)で構成され、感染対策の実働部隊として活動している。

抗微生物薬適正使用チーム(AST)は、薬剤師4名、医師11名、検査技師2名、看護師2名で構成されている。そのうち薬剤師2名、医師5名、検査技師2名、看護師1名がコアメンバーとして抗菌薬治療の適正化を支援・推進する実働部隊として活動している。

活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会(毎月第2金曜日)

病原微生物の検出状況、抗綠膿菌薬の使用状況、ICTおよびAST活動などを報告

2) ICT関連

- ICTショートミーティング(毎週月、木曜日)

感染経路別予防策対象患者の情報共有、微生物検査が必要な患者の抽出、職員の感染症発生状況の共有、その他検討事項

- ICT会議(毎週水曜日)

病原微生物の検出状況、ICTラウンド結果の共有と検討、その他事項について検討

- ICTラウンド(毎週水曜日) 環境ラウンド

- デバイスサーベイランスカンファレンス(毎週木曜日)

デバイス関連感染症の判定、感染対策の評価、改善策の検討をPICUスタッフと実施

- 微生物検査室ミーティング(毎日)

血液培養陽性例、迅速グラム染色結果、培養結果、ウイルス迅速検査結果を情報共有

3) AST関連

- AST定例会議(毎月第1水曜日)

DOT、ケースカンファレンス、その他抗菌薬適正使用のための取り組みを報告

- ASTコアメンバー会議(第2・4水曜日)

抗菌薬適正使用のための取り組み、AST研修会の企画検討

- AST ケースカンファレンス（毎週木曜日）

特定抗菌薬（抗緑膿菌薬、抗MRSA薬）使用患者及び抗菌薬長期使用患者の抗菌薬適正使用について検討

検討症例のべ件数	AST 介入のべ件数	TDM 確認件数
238	154	73

取り組んだ事項

- ショートカンファレンスによる抗MRSA薬、抗緑膿菌薬等の使用状況モニタリング
- 抗微生物薬適正使用に関する職員対象研修会（2回開催）
- 第7回兵庫抗菌薬適正使用のための地域医療連携研修会開催
- 抗微生物薬供給制限に対応
- 薬剤耐性菌対策を推進
- ポイントサーベイランスを用いた横断的調査実施

2. 職員教育

1月	6E病棟ミニレクチャー「ノロウイルス」
2月	AST研修会②（e-learning）兵庫こどもにおける感染症診療のトリセツ（改訂版）
2月～3月	第1回全職員対象感染対策研修会（e-learning）ノロウイルスのアウトブレイクを防ぐ
3月	第2回全職員対象感染対策研修会（e-learning）診たことない麻疹～対応のポイント～
4月	新規採用医師および看護師感染対策オリエンテーション
7月	AST研修会①（e-learning）
12月	第7回兵庫抗菌薬適正使用のための地域連携研修会（HART）ハイブリッド開催

3. 各種サーベイランスの実施

- 手指衛生サーベイランス

看護部感染対策委員会と連携して直接観察を実施し、結果を院内全体に広報した。現場での直接指導は看護部感染対策委員が行った。並行して手指消毒剤の使用量調査も継続した。

手指衛生遵守率の推移（%）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
67	62	68	53	49	58	57	66	61	65	62	69

手指衛生使用量の推移（ml/患者）

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
29	34	28	33	36	32	36	39	48	35	37	37

- PICUにおけるデバイスサーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000デバイス日)				尿道留置カテーテル関連 尿路感染症発生率発生率 (/1000デバイス日)				人工呼吸器関連肺炎発生率 (/1000デバイス日)			
2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
0.0	0.4	0.0	0.7	4.0	6.3	5.6	8.2	4.6	4.4	2.8	2.6
2021	2022	2023	2024	2021	2022	2023	2024	2021	2022	2023	2024
1.0	1.0	1.2	0.7	5.8	3.9	3.2	6.3	2.3	2.6	2.9	0.9

原則毎週木曜日に病棟コアメンバーと判定会議を開催した

- 7 F病棟における中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス

中心静脈カテーテル関連 血流感染症発生率 (/1000デバイス日)	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	1.3	1.3	2.5	2.0	2.8	0.4

- その他：JACHRI AUR サーベイランス

4. 感染症発生時の対応

アウトブレイク

7 W：ノロウイルス胃腸炎（3月）、6 W：ノロウイルス胃腸炎（3月）

院内発生

6 W：RSウイルス感染症（4月）、5 W：RSウイルス感染症（4月）、

6 E：RSウイルス感染症（7月）、5 E：アデノウイルス結膜炎（7月）、7 E：COVID-19（9月）、

7 W：COVID-19（9月）、5 E：COVID-19（9月）、PICU：播種性帯状疱疹（9月）、

PICU：hMPV感染症（2月）、6 E：ノロウイルス胃腸炎（3月）

飛沫感染予防策	893件	インフルエンザ91、百日咳4、マイコプラズマ53、hMPV感染症34、アデノウイルス感染症24、溶連菌10、その他呼吸器症状687
接触感染予防策	121件	ノロウイルス胃腸炎27、ロタウイルス胃腸炎8、アデノウイルス胃腸炎7、アストロウイルス胃腸炎2、腸管出血性大腸菌感染症（疑い含む）5、CD腸炎3、その他感染性胃腸炎（疑い含む）63、アデノウイルス結膜炎5、限局性帯状疱疹（眼部）1
高度接触感染予防策	4 件	CPE保菌者2、高度耐性菌保菌者2（LZD耐性E.faecium、DAP耐性腸球菌）
空気・接触感染予防策	10件	水痘（疑い）4、播種性帯状疱疹（疑い含む）6
飛沫・接触感染予防策	253件	COVID-19 60、RSウイルス感染症188、重症ライノエンテロウイルス感染症5
空気感染予防策	2 件	肺結核疑い1、水痘接触者1

5. 感染対策に関する各種相談への隨時対応

6. 各種啓発活動

感染症週報（毎週金曜日）

7. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席、清掃ラウンド結果のフィードバック

8. 職業感染防止の活動

- 職員の抗体検査とワクチン接種を実施

抗体採血	麻疹ワクチン	水痘ワクチン	風疹ワクチン	おたふくワクチン	MRワクチン
112名	26名	7名	5名	37名	22名

- 職員対象のインフルエンザワクチン接種（11月）

- ・職員対象のB型肝炎ワクチン接種 28名（新規21名、その他7名）
- ・針刺し・切創、血液・体液曝露についての事象発生時の対応
25件（針刺し10件、切創4件、血液・体液曝露2件、咬傷8件、搔破1件）

9. 院外活動

- ・感染防止対策加算関連
 - 加算1：大阪母子医療センターと相互ラウンド実施（6月に来院、11月に訪問）
 - 加算3：みどり病院とカンファレンス開催（5月、9月、10月、2月）
- ・小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児感染管理ネットワーク多職種Web会議（7月）

39. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として集中治療科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対策委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡推定発生率

1.80%（過去18年で7番目に低い値　過去の発生率は1.4～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

2) 褥瘡発生率

2.40%（発生率は過去22年で2番目に高い値　過去の発生率は2.35%～4.0%）

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 7,367件（月平均613件）

4) 危険因子評価を実施した患者のうち褥瘡に関する危険因子を有す、或いは 既に褥瘡を有していた患者数 3,469人（月平均289人）

5) 褥瘡ハイリスク項目に該当する患者数（特定数）1,192件（月平均99件）

6) 褥瘡予防治療計画件数 1,192件（月平均99件）

7) 褥瘡ハイリスク患者実施件数 1,021件（月平均85件）

8) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 177件

褥瘡発生個数 210個（自重関連褥瘡は88個、医療関連機器圧迫褥瘡は122個）

褥瘡発生件数の多い部署（10件以上）

PICU (103)、NICU (13)、5西 (11)、5東 (11)、6東 (10)

2. 褥瘡回診・カンファレンス状況

週1回木曜日午後に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師（月1回は褥瘡対策委員会のメンバーも加わり拡大褥瘡回診としている）により、褥瘡発生者を中心『褥瘡回診』と『カンファレンス』をおこなっている。回診、カンファレンスでは褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討している。

褥瘡回診・カンファレンス実施回数48回　患者数257名（のべ）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

40. がん相談支援室

がん相談支援センターは、小児がん医療センター長のもと、血液・腫瘍内科医師、小児看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

【スタッフ】

医 師 石田 敏章（血液・腫瘍内科医師）
 看護師 栗林 佑季（小児看護専門看護師）、木下 めぐみ（がん化学療法看護認定看護師）
 医療福祉相談員（MSW） 中邨 仁美、松尾 さおり
 医師クラーク 水野、堺

【令和6年 主な活動内容】

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談、メール相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・小児・AYA世代がん患者の発育、教育、就学、就労等の療養上の相談及び支援
 - ・がん生殖医療、がんゲノム医療、アピアランスケアに関する相談及び支援等
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：Nanaくつろぎサロン）の開催
 - ・がん相談支援センター通信（名称：Nana通信）の発行（3か月に1回）
 - ・小児・AYA世代がん患者家族教室の企画運営
 - ・小児がん治療中の高校生の学習支援、原籍校及び県教育委員会との連携等
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修の企画運営
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック4病院共催）
 - ・小児がん連携病院、地域の医療機関等に対する相談支援に関する支援等
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. がん相談支援センター会議
 - ・月1回開催、小児がん相談に関する情報の共有、がん相談支援センターの活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、成人がん診療病院との連携体制強化
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会、マーリングリストへの参加
 - ・中国四国ブロック小児がん相談支援部会への参加
 - ・兵庫県がん診療連携協議会情報連携部会への参加
 - ・都道府県がん診療連携拠点病院協議会情報提供相談支援部会への参加
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談支援部会、グループメールへの参加等

令和6年 がん相談支援センター相談対応件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
院内 相談	相談総件数	72	113	93	113	116	93	56	65	116	110	61	61	1,069
	1) 対面相談	63	108	88	99	109	87	54	59	101	101	55	55	979
	2) 電話相談	9	5	5	14	7	6	2	6	15	9	6	6	90
院外相談		2	3	0	2	2	5	5	1	2	3	3	2	30
	計	74	116	93	115	118	98	61	66	118	113	64	63	1,099

41. 院内学級（神戸市立友生支援学校 みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

従前までは長期入院のため登校できない小中学生に、友生支援学校「わらび訪問学級」として、こども病院にも訪問指導を行っていたが、こども病院のポートアイランド移転（2016年）に伴い、友生支援学校の病弱部門の教員が、こども病院の院内学級「みなと分教室」として常駐するようになった。こども病院に入院中の小中学生で、入級を希望する児童生徒は院内学級「みなと分教室」に在籍し、市内の他病院に入院中の児童生徒は、従前通り訪問指導として「わらび訪問学級」に在籍している。

院内学級の児童生徒は、教室で授業を受けられるようになったとは言うものの、児童生徒の病状から、ほとんどが、ベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。2017年度より、それまで教室に登校することを許可されていなかった児童生徒も、一定以上の抵抗力がある状態になれば、主治医の判断により登校できるようになり、教室での授業もかなり多くなった。しかし、2020年度より、新型コロナウイルス感染拡大の影響から教室での授業が無くなり、ベッドサイドでの授業とオンラインによる授業が中心となっている。

保護者への入級説明、小中学校との連絡調整などについては、主治医や病棟の紹介を経て、当部署が行っている。

2. 在籍状況

2024年度 院内学級 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	13	11	17	19	15	14	14	17	17	11	10	14
中学部	5	5	8	6	5	5	4	4	3	3	4	4
合 計	18	16	25	25	20	19	18	21	20	14	14	18

※各月1日時点での在籍している児童生徒数

3. 次年度の課題

2021年度にスタートしたGIGAスクール構想により、日本全国の子ども1人に1台の端末が用意され、ICTを活用した教育活動を行える環境が整ってきた。院内学級にも35台支給されたが、Wi-Fi環境などに課題もあり、神戸市教育委員会と相談しながら改善に取り組んでいる。

在籍している児童生徒の多くは教室登校が難しい状態にあることに加え、新型コロナウイルス感染拡大のために教室での授業が実施できない中で、端末を活用し、離れた病室を繋いで授業を行えることは、生徒同士のつながりや、学びの可能性を広げることに大いに役立っている。また、退院後すぐに原籍校へ登校できない児童生徒に対しても、オンライン授業を行うことで、継続して学習支援を行うことが可能となっている。

また、病室から原籍校の授業に参加する児童生徒も増えており、院内学級として、従来の対面授業だけではなく、原籍校とのオンライン授業も両立させた、ハイブリッドな学習支援も可能となってきている。いずれにせよ、それぞれの児童生徒の状況に応じた柔軟な対応で、きめ細やかなサポートを行っていきたいと考えている。

42. 医師事務作業補助者（医師クラーク）

医師の業務負担軽減を図り、診療に専念できる環境をつくることを目的に、2008年の診療報酬の改定に伴い医師事務作業補助体制加算が定義された。施設基準を満たした場合、医師事務作業補助者を採用することにより診療報酬の対象となる。

兵庫県立こども病院では2012年に本格的に導入され8名でスタートした。

医局に隣接した医局クラーク室で、診療部長の指導の下、診療科からの依頼を受け業務を行っている。2016年5月に病院が移転し電子カルテが導入されて以降、外来診療補助に携わる業務が増し、他部署とのコミュニケーションを図りながら業務に取り組んでいる。

【業務内容】

- 外来診療補助

- 外来診療補助
- 電子カルテへの入力補助、病名登録、診察・検査予約

- 患者様へのご説明、ご案内 等

- 診察・手術・検査に関する電話 等

- 文書作成補助

- 診断書、主治医意見書、生命保険会社の手続き書類、紹介状等の作成補助 等

- 診療に関するデータ整理、管理に関する事務

- 新規患者、手術などの台帳管理及び入力、統計 等

- 治験資料、学会等からの各種調査資料等の作成、管理に関する事務

- 院外、院内における症例登録や統計、調査に関する事務

- 研修やカンファレンスのための資料作成等の準備事務

- その他所属長が必要と認める事務

- 症例検討会、講演会、抄読会等の準備

- 文献・画像等の取り込み、及び管理

- 医師宛の外線電話への対応 等

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

救急科

- ・林卓郎: 10 整形外科系手技 A 骨折診療の基本. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診療と治療社, 東京: 149-152, 2024
- ・林卓郎: 10 整形外科系手技 B 骨折整復の基本. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診療と治療社, 東京: 153-154, 2024
- ・林卓郎: 10 整形外科系手技 D 松葉杖の使い方. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診療と治療社, 東京: 162-163, 2024
- ・林卓郎: 10 整形外科系手技 E 肘内障整復. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診療と治療社, 東京: 164-166, 2024
- ・松井銳: 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1. 子どもの主な症状への対応 保育者のための わかりやすい 子どもの保健 第2版 飯島一誠, 監修 日本小児医事出版社: 87-90, 2024
- ・松井銳: 第3章 子どもの体調不良などへの対応 2. 応急処置 保育者のための わかりやすい 子どもの保健 第2版 飯島一誠, 監修 日本小児医事出版社: 90-98, 2024
- ・松井銳: 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1. 救急処置および救急蘇生法 保育者のための わかりやすい 子どもの保健 第2版 飯島一誠, 監修 日本小児医事出版社: 98-102, 2024
- ・松井銳: 7 眼科・耳鼻科・歯科的手技 II. 耳鼻科系 F 気管切開チューブの入れ替え. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診療と治療社, 東京: 164-166, 2024
- ・竹井寛和: 9 泌尿器系手技 A 嵌頓包茎. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診断と治療社, 東京: 139-140, 2024
- ・竹井寛和: 9 泌尿器系手技 B ファスナー外傷. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診断と治療社, 東京: 141-142, 2024
- ・竹井寛和: 9 泌尿器系手技 C 女児外性器の診察法. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診断と治療社, 東京: 143-144, 2024
- ・竹井寛和: 9 泌尿器系手技 D 導尿. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診断と治療社, 東京: 146-147, 2024
- ・竹井寛和: 14 エコーガイド A エコー総論. 井上信明, 編集. 新 子どもの救急手技マニュアル, 診断と治療社, 東京: 190-193, 2024
- ・大西理史: 第一章6. 細気管支炎. 鉄原健一, 監修. 小児薬ドリル, 第1版, 羊土社, 東京: 90-95, 2024
- ・大西理史: 第一章9. 胃腸炎. 鉄原健一, 監修. 小児薬ドリル, 第1版, 羊土社, 東京: 111-117, 2024
- ・大西理史: 第一章25. 動物咬傷. 鉄原健一, 監修. 小児薬ドリル, 第1版, 羊土社, 東京: 209-213, 2024
- ・大西理史: 第二章5. 意識障害. 鉄原健一, 監修. 小児薬ドリル, 第1版, 羊土社, 東京: 232-239, 2024
- ・大西理史: 第二章6. 熱傷. 鉄原健一, 監修. 小児薬ドリル, 第1版, 羊土社, 東京: 240-247, 2024
- ・村田慧, 他 小児WG: 日本版敗血症診療ガイドライン2024(J-SSCG2024) 日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会. 日本版敗血症診療ガイドライン2024, 一般社団法人 日本集中治療医学会, 一般社団法人 日本救急医学会, 東京: 230-256, 2024

代謝内分泌科

- ・池谷紀衣子：ここまで来た！新生児マススクリーニングと対象疾患の治療 有機酸代謝異常. 小児内科 Vol.56 No.12, 1777-81

リウマチ科

- ・水田麻雄：若年性特発性関節炎. 石毛美夏, 加藤元博, 編集. 小児科診療特大号特集 公費補助制度を使いこなす！：診断と治療社, 東京：1001-1005, 2024

アレルギー科

- ・浜田佳奈：ステロイドの塗り薬や吸入は妊娠中・授乳中は避けたほうがいいでしょうか？. 石崎優子, 伊藤健太, 岡藤郁夫, 坂本昌彦, 編集. チャイルドヘルス Vol.27. No.7 診断と治療社：520-522, 2024

神経内科

- ・丸山あずさ：小児臨床検査2024薬物血中濃度モニタリング 2. 抗てんかん薬. 小児内 Vol.56増刊号：787-791, 東京医学社, 2024.

腎臓内科

- ・貝藤裕史. 腎炎・ネフローゼ症候群の専門診療 尿酸代謝異常による急性腎障害. 神田祥一郎, 小児科診療編集委員会編. 紹介医に伝えたい「腎炎・ネフローゼ症候群」－3歳児検尿・学校検尿のその先は？－ 診断と治療社, 711-715, 2024.

感染症内科

- ・田中沙紀, 水野真介, 笠井正志. 領域別流行期の感染対策のポイント2 小児科. 感染対策ICTジャーナル. Vol.19 No4 2024
- ・水野真介, 笠井正志. 呼吸器管理－病態把握と緊急介入に必要な知識と技術－ 微生物検査(抗原検査, 咳痰培養, 網羅的遺伝子検査). 小児内科. 56巻10号 2024
- ・水野真介, 笠井正志. 小児薬ドリル ヘルペス性歯肉口内炎, 副鼻腔炎, 肺炎, 中耳炎, 抗ウイルス薬. 羊土社 2024
- ・水野真介. 小児の渡航医学 蚊媒介感染症(デング熱, チクングニア熱, ジカウイルス感染症). 小児内科 Vol.56 No.6 2024
- ・佐伯玲, 水野真介, 笠井正志. こどもの肺炎. LISA Vol.31 No.12 2024
- ・水野真介, 笠井正志. マイコプラズマ感染症. 小学館「ニッポニカ」. 2024
- ・水野真介, 笠井正志. 薬剤耐性菌. 小学館「ニッポニカ」. 2024
- ・水野真介. 患者指導箇「ノロウイルスQ&A」. デンカ株式会社. 2024
- ・大竹正悟. 定期接種と任意接種って何が違うんですか？ 診断と治療社. チャイルドヘルス. 2024
- ・大竹正悟. 子どもの感染症の疫学情報を集める方法. 診断と治療社. チャイルドヘルス. 2024
- ・大竹正悟. これ感染症？感染症だとしたらなに？救急外来で解熱薬を出して帰して大丈夫？ 診断と治療社. 小児科診療. 2024
- ・吉田美智子, 大竹正悟, 多田歩未, 谷口公啓, 森春輝, 草野泰造, 木戸口千晶, 堀越裕歩, 笠井正志. 予防接種を契機に診断された免疫不全症. 中外医学社. J-IDEO. Vol. 2024. Vol.8. No.2

- ・多田歩未, 大竹正悟, 吉田美智子, 谷口公啓, 森春輝, 草野泰造, 木戸口千晶, 堀越裕歩, 笠井正志. GBSと母乳培養－タマゴが先か, ニワトリが先か－. 中外医学社. J-IDEO. 2024. Vol.8. No.3
- ・谷口公啓, 大竹正悟, 吉田美智子, 多田歩未, 森春輝, 草野泰造, 木戸口千晶, 堀越裕歩, 笠井正志. 梅毒感染妊娠の治療と出生した児への対応. 中外医学社. J-IDEO. 2024. Vol.8. No.4
- ・森春輝, 大竹正悟, 吉田美智子, 多田歩未, 谷口公啓, 草野泰造, 木戸口千晶, 堀越裕歩, 笠井正志. 小児呼吸器感染症診療における Multiplex PCR 検査の使いドキ. 中外医学社. J-IDEO. 2024. Vol.8. No.5
- ・草野泰造, 大竹正悟, 吉田美智子, 多田歩未, 谷口公啓, 森春輝, 木戸口千晶, 堀越裕歩, 笠井正志. 知って欲しい, 重症心身障害児(者)のリアルな医療現場. 中外医学社. J-IDEO. 2024. Vol.8. No.6
- ・佐伯玲, 水野真介, 笠井正志. 菌血症. 小児科臨床. Vol.87 Suppl2 2024

臨床遺伝科

- ・森貞直哉. ダウン症候群(21トリソミー). 今日の治療指針; 1497, 医学書院, 2025

小児外科

- ・久松千恵子: 5. 小児外科・麻酔科編 1. 上部消化管. 日本周産期・新生児医学会周産期診療ワークブック 作成委員会. 専門医を目指す周産期診療ワークブック, 第3版, メジカルビュー社, 東京: 478-493, 2024

心臓血管外科

- ・松久弘典: 純型肺動脈閉鎖. 日本小児循環器学会. 小児・成育循環器学, 第2版, 診断と治療社, 東京: 455-457, 2024

脳神経外科

- ・河村淳史: (V章) 小児 頭蓋内囊胞性病変, 新井一, 若林俊彦, 最新主要文献でみる 脳神経外科学レビュー 2025-’26, 総合医学社, 222-231, 2024

整形外科

- ・小林大介: 成長痛. 井尻慎一郎(編集). ニュースタンダード 整形外科の臨床 初版, 中山書店, 東京 394-396, 2024

眼科

- ・野村耕治: 緑内障. 加藤元博. 小児科 診断・治療指針, 改訂第3版, 中山書店, 東京: 1023, 1046-1048, 2024
- ・野村耕治: 頭蓋顔面眼窩形成異常, 水晶体の先天異常. 根木昭. 眼科診療ガイド, 第2版, 文光堂, 東京: 3-6, 244, 245, 2024

耳鼻咽喉科

- ・大津雅秀: アデノイド増殖症, 扁桃肥大. 福井次夫, 高木誠, 小室一誠編集. 今日の治療指針2024, 医学書院, 東京: 1609-1611, 2024.
- ・大津雅秀: 構音検査. 中川尚志編集. プラクティス耳鼻咽喉科の臨床1 耳鼻咽喉科日常検査リファレンスブック, 中山書店, 東京: 240-246, 2024

- ・大津雅秀：新生児聴覚スクリーニング(newborn hearing screening: NHS). 丹生健一, 柿木章伸編集. プラクティス耳鼻咽喉科の臨床6 耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン活用マニュアル, 中山書店, 東京: 56-61, 2024

泌尿器科

- ・杉多良文. 小児泌尿器科手術 停留精巣の手術(腹腔鏡下手術を含む). 第3版 泌尿器科 周術期管理のすべて. 270-274. 2024
- ・杉多良文. 異所性尿管(尿管異所開口)異所性尿管瘤. 今日の治療指針 私はこう治療している. 1237-1238. 2024

麻酔科

- ・藤原孝志, 香川哲郎：新生児麻酔の総論, 鎮静薬の基本とその鎮静方法. 諏訪まゆみ, 編集. 新生児麻酔と新生児学, 第1版, 中外医学社, 東京: 156-162, 2024
- ・藤原孝志, 香川哲郎：小児の気道管理, ③麻酔導入と気道確保. 山蔭道明, 立花俊祐, 茶木友浩, 編集. 気道管理大全 – Evidence and Tips –, 第1版, 中外医学社, 東京: 233-240, 2024
- ・宮本義久：小児の気道管理, ②術前絶飲食ガイドライン. 山蔭道明, 立花俊祐, 茶木友浩, 編集. 気道管理大全 – Evidence and Tips –, 第1版, 中外医学社, 東京: 228-232, 2024
- ・香川哲郎：小児の神経ブロック. 永井良三, 稲田英一, 編集. 麻酔科研修ノート改訂第4版, 診断と治療社, 東京: 391-394, 2024

新生児内科

- ・岩谷壮太. インシデントを防ぐ！ NICU・GCUの医療安全 – 処置: 中心静脈ラインの迷入. with NEO. 37巻3号, 407-410, 2024
- ・岩谷壮太, 玉置祥子. 新生児集中治療. 18トリソミー 改訂2版. 79-86, 2024
- ・岩谷壮太. 新生児高ビリルビン血症. 今日の治療指針. 2025

小児集中治療科

- ・黒澤寛史：笠井正志監修. 小児の呼吸と循環管理のトリセツ, 金原出版, 東京: 2024
- ・青木一憲: Respiratory-care People 「私がPICUで働く理由」. みんなの呼吸器Respica, 第22巻5号(通巻261号), メディカ出版, 東京: 1, 2024
- ・青木一憲：緊急気道確保の適応と手技. 井手健太郎監修. 小児内科, 56巻10号, 東京医学社, 東京: 1509-1512, 2024
- ・先濱大：人工呼吸中の鎮静・鎮痛と筋弛緩. 井手健太郎監修. 小児内科, 56巻10号, 東京医学社, 東京: 1543-1548, 2024

2) 雜誌発表

総合診療科

- Matsushima A, Mizuno S, Minamikawa S, Nakagishi Y, Kasai M. Pneumococcal pneumonia complicated by Aspergillus fumigatus and Pseudomonas aeruginosa lung abscesses. *Pediatr Pulmonol.* 2024 Apr; 59(4): 1077-1080.
- Saito U, Minamikawa S, Otake S, Ishida Y, Mizuta M, Ishida T, Karakawa S, Kasai M, Nakagishi Y. A PEDIATRIC CASE OF PANNICULITIS INDUCED BY Pseudomonas aeruginosa WITH CLINICAL FEATURES SIMILAR TO ECTHYMA GANGRENOSUM. *Pediatr Infect Dis J.* 2024 Apr 10.
- Kishimoto K, Hasegawa D, Nakagishi Y, Kurosawa H, Tanaka T, Hatakeyama T, Oshima Y, Kosaka Y. Etiology and clinical course of severe and extreme thrombocytosis in children: a retrospective single-center study. *Eur J Pediatr.* 2024 Nov; 183(11): 4783-4788.
- Nakata F, Matsubara K, Hamahata K, Miyakoshi C, Minamikawa S, Ota K, Okutani T, Yamaoka R, Eguchi J, Ueda I, Yokoyama N, Horinouchi T, Nukina S. Resurgence of Kawasaki Disease Following Relaxation of Coronavirus Disease 2019 Pandemic Restrictions in Japan. *J Pediatr.* 275: 114251, 2024
- 南川将吾: 【酸塩基平衡異常－基本と管理】代謝性アシドーシスの病態と治療 薬剤による代謝性アシドーシス(解説) 小児内科56(7): 1108-1111, 2024

救急科

- Nishioka N, Yamada T, Nakao S, Yoshiya K, Park C, Nishimura T, Ishibe T, Yamakawa K, Kiguchi T, Kishimoto M, Ninomiya K, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Hironaka Y, Onoe A, Matsuyama T, Okada Y, Matsui S, Yoshimura S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Zha L, Kiyohara K, Kitamura T, Iwami T; CRITICAL Study Group Investigators. External Validation of Updated Prediction Models for Neurological Outcomes at 90 Days in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest. *J Am Heart Assoc.* 13:e033824, 2024
- Nishimura T, Hatakeyama T, Yoshida H, Yoshimura S, Kiguchi T, Irisawa T, Yamada T, Yoshiya K, Park C, Ishibe T, Yagi Y, Kishimoto M, Kim SH, Hayashi Y, Ito Y, Sogabe T, Morooka T, Sakamoto H, Suzuki K, Nakamura F, Matsuyama T, Okada Y, Nishioka N, Matsui S, Kimata S, Kawai S, Makino Y, Kitamura T, Iwami T, Mizobata Y. Non-linear association between the time required to reaching temperature targets and the neurological outcome in patients undergoing targeted temperature management after out-of-hospital cardiac arrest: Observational multicentre cohort study. *Resusc Plus.* 18: 100607, 2024
- Kameda T, Ishii H, Oya S, Katabami K, Kodama T, Sera M, Takei H, Taniguchi H, Nakao S, Funakoshi H, Yamaga S, Senoo S, Kimura A. Guidance for clinical practice using emergency and point-of-care ultrasonography. *Acute Med Surg.* 11:e974, 2024.
- 市村将, 竹井寛和. 小児の腹痛. 検査と技術 増大号 POCUSの決め手。早く、正確な診断のために. 52: 342-350, 2024
- 竹井寛和. 高所からの墜落. 小児内科. 56: 751-755, 2025
- 竹井寛和. 小児救急におけるポイントオブケア超音波(POCUS)映像情報メディカル増刊号 超音波診断 2024 BOOK. 映像情報メディカル. 56: 126-130, 2024

- ・竹井寛和. よくある家庭用品の中毒. チャイルドヘルス 2024年6月号 特集「子どもと毒～身の回りには危険がいっぱい～」. 診断と治療社: 437-442, 2024
- ・竹井寛和. 小児に対する問診～リアルなコツを教えます. レジデントノート 2024年10月号 Vol.26 No. 10. 救急の問診術 限られた時間でどう聞く？どう考える？. 羊土社. 1708-1716, 2024

代謝内分泌科

- ・Moroto M, Daisuke U, Yodoi T, Nitta Y, Sugimoto Y, Chiyonobu T, Yamada H, Ozaki K, Nakatani T, Sakai N. Simultaneous surgery for gastrostomy and laryngotracheal separation in a patient with Tay-Sachs disease. *Hum Genome Var.* 29;11(1):43, 2024. doi: 10.1038/s41439-024-00300-0. PMID: 39609393; PMCID: PMC11604916.
- ・Saito R, Ozaki K, Baba Y, Ikegawa K, Nagasaki K, Nakamura A, Hamajima T, Higuchi S, Hasegawa Y. Adult Height in Girls with Central Precocious Puberty with Onset after 6 Years: Effects of Gonadotropin-Releasing Hormone Analog Therapy. *Horm Res Paediatr.* 21:1-8, 2024. doi: 10.1159/000542038. Epub ahead of print. PMID: 39571550.

リウマチ科

- ・Baldo F, Erkens RGA, Mizuta M, Rogani G, Lucioni F, Bracaglia C, Foell D, Gattorno M, Jelusic M, Anton J, Brogan P, Canna S, Chandrakasan S, Cron RQ, De Benedetti F, Grom A, Heshin-Bekenstein M, Horne A, Khubchandani R, Ozen S, Quartier P, Ravelli A, Shimizu M, Schulert G, Scott C, Sinha R, Ruperto N, Swart JF, Vastert S, Minoia F; PReS MAS/sJIA Working Party and Paediatric Rheumatology International Trial Organization.; Current treatment in macrophage activation syndrome worldwide: a systematic literature review to inform the METAPHOR project. *Rheumatology (Oxford)*. 64: 32-44, 2025.
- ・Konishi R, Ichimura Y, Tanaka R, Miyahara H, Okune M, Miyamoto M, Hara M, Iwabuchi A, Takada H, Nakagishi Y, Mizuta M, Kaneko S, Shimizu M, Morio T, Nishino I, Nomura T, Okiyama N.; Possible correlation between serum interleukin-8 levels and the activity of myositis in anti-NXP2 antibody-positive dermatomyositis. *Immunol Med.* 47: 100-105, 2024.
- ・Nishimura K, Ishikawa T, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K, Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M.; Efficacy and safety of abatacept for systemic juvenile idiopathic arthritis: A systematic review. *Mod Rheumatol.* 35: 167-173, 2024.
- ・Ishikawa T, Nishimura K, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K, Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M.; Efficacy and safety of tumor necrosis factor inhibitors for systemic juvenile idiopathic arthritis: A systematic review. *Mod Rheumatol.* 35: 174-184, 2024.
- ・Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, Mizuta M, Nakagishi Y, Iwata N, Yokoyama K, Yasumura J, Akamine K, Ueno K, Fujita S, Watanabe K, Watanabe S, Nishikawa H, Fujimura J, Mori M, Shimizu M.; Serum interleukin-18 levels can improve the diagnostic performance of the PRINTO and ILAR criteria for

systemic juvenile idiopathic arthritis. *Cytokine*. 182: 156719, 2024.

- Miyamoto T, Izawa K, Masui S, Yamazaki A, Yamasaki Y, Matsubayashi T, Shiraki M, Ohnishi H, Yasumura J, Kawabe T, Miyamae T, Matsubara T, Arakawa N, Ishige T, Takizawa T, Shimbo A, Shimizu M, Kimura N, Maeda Y, Maruyama Y, Shigemura T, Furuta J, Sato S, Tanaka H, Izumikawa M, Yamamura M, Hasegawa T, Kaneko H, Nakagishi Y, Nakano N, Iida Y, Nakamura T, Wakiguchi H, Hoshina T, Kawai T, Murakami K, Akizuki S, Morinobu A, Ohmura K, Eguchi K, Sonoda M, Ishimura M, Furuno K, Kashiwado M, Mori M, Kawahata K, Hayama K, Shimoyama K, Sasaki N, Ito T, Umebayashi H, Omori T, Nakamichi S, Dohmoto T, Hasegawa Y, Kawashima H, Watanabe S, Taguchi Y, Nakaseko H, Iwata N, Kohno H, Ando T, Ito Y, Kataoka Y, Saeki T, Kaneko U, Murase A, Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Nakano R, Watanabe M, Yashiro M, Nakamura T, Komai T, Kato K, Honda Y, Hiejima E, Yonezawa A, Bessho K, Okada S, Ohara O, Takita J, Yasumi T, Nishikomori R; Japan CAPS Working Group.; Clinical characteristics of cryopyrin-associated periodic syndrome and long-term real-world efficacy and tolerability of canakinumab in Japan: Results of a nationwide survey. *Arthritis Rheumatol*. 76: 949–962, 2024.

神経内科

- 西山将広, 青木一憲, 黒澤寛史, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 脳保護のための小児神経集中治療. 日本小児科学会雑誌. 128(8) : 1031–1044, 2024.
- Kasai M, Sakuma H, Abe Y, Kuki I, Maegaki Y, Murayama K, Murofushi Y, Nagase H, Nishiyama M, Okumura A, Sakai Y, Tada H, Mizuguchi M, Takanashi JI; Japanese Pediatric Neuro-COVID-19 Study Group. Clinical characteristics of SARS-CoV-2 -associated encephalopathy in children: Nationwide epidemiological study. *J Neuro Sci*. 457: 122867, 2024.
- Kyono Y, Nishiyama M, Kawamura A, Oikawa S, Tokumoto S, Yamaguchi H, Tomioka K, Nozu K, Mishina H, Nagase H. Association of perinatal factors with neurodevelopmental referrals in a population-based cohort study in Japan. *Sci Rep*. 14(1) : 3492, 2024.
- Oikawa S, Yamaguchi H, Nishiyama M, Ito T, Kawamura A, Sameshima T, Soma K, Ueda T, Tokumoto S, Ishida Y, Kurosawa H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Nagase H. Elevated cerebrospinal fluid neuronal injury biomarkers within 24 hours of onset in infection-triggered acute encephalopathy compared to complex febrile seizures. *J Neuro Sci*. 466: 123238, 2024.
- Ueda T, Nishiyama M, Yamaguchi H, Soma K, Ishida Y, Maruyama A, Nozu K, Nagase H. Efficacy and safety of buccal midazolam for seizures outside the hospital: Real-world clinical experience. *Brain Dev*. 46(10) : 332–338, 2024.
- Kikuchi K, Kuki I, Nishiyama M, Ueda Y, Matsuura R, Shiohama T, Nagase H, Akiyama T, Sugai K, Hayashi K, Murakami K, Yamamoto H, Fukuda T, Kashiwagi M, Maegaki Y. Japanese guidelines for treatment of pediatric status epilepticus – 2023. *Brain Dev*. 47(1) : 332–338, 2024. Epub ahead of print.
- Toma K, Aoki K, Kurosawa H, Nishiyama M, Maruyama A. Two cases of COVID-19-related hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with different outcomes. *Brain Dev Case Reports*. 2(3) 100024, 2024.

- Novel mutation in KIF 23 causing congenital dyserythropoietic anemia type III in patients who underwent allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Fujikawa T, Uemura S, Hasegawa D, Morisada N, Nakamura S, Kozaki A, Saito A, Kishimoto K, Ishida T, Mori T, Yakushijin K, Katayama Y, Yamashita D, Wakamatsu M, Hamada M, Muramatsu H, Takahashi Y, Kosaka Y. *Pediatr Blood Cancer*. 2024 Mar 24:e30736. doi: 10.1002/pbc.30736.
- A novel NFKB1 variant in a Japanese pedigree with common variable immunodeficiency. Nakatani N, Tamura A, Hanafusa H, Nino N, Yamamoto N, Awano H, Tanaka Y, Morisada N, Uemura S, Saito A, Hasegawa D, Nozu K, Kosaka Y. *Hum Genome Var*. 2024 Mar 22;11(1):15. doi: 10.1038/s41439-024-00271-2.
- Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasms. Sato T, Yoshida K, Toki T, Kaneko R, Terui K, Saiki R, Ojima M, Ochi Y, Mizuno S, Yoshihara M, Uechi T, Kenmochi N, Tanaka S, Matsubayashi J, Kisai K, Kudo K, Yuzawa K, Takahashi Y, Tanaka T, Yamamoto Y, Kobayashi A, Kamio T, Sasaki S, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Muramatsu H, Hama A, Hasegawa D, Sato A, Koh K, Karakawa S, Kobayashi M, Hara J, Taneyama Y, Imai C, Hasegawa D, Fujita N, Yoshitomi M, Iwamoto S, Yamato G, Saida S, Kiyokawa N, Deguchi T, Ito M, Matsuo H, Adachi S Prof, Hayashi Y, Taga T, Moriya Saito A, Horibe K, Watanabe K, Tomizawa D, Miyano S, Takahashi S, Ogawa S, Ito E. *Blood*. 2024 Mar 21:blood.2023022247. doi: 10.1182/blood.2023022247.
- Rituximab-combined anthracycline-free chemotherapy in newly diagnosed paediatric and adolescent patients with non-high-risk aggressive mature B cell lymphoma: protocol for a single-arm, open-label, multicentre, phase II study (the Japan Children's Cancer Group Multicentre Trial, JPLSG B-NHL-20). Sekimizu M, Fukano R, Koga Y, Mitsui T, Fujita N, Mori T, Hori D, Tanaka M, Ohki K, Iwafuchi H, Nakazawa A, Mori T, Kobayashi R, Hashimoto H, M Saito A, Kamei M; Lymphoma Committee of Japan Children's Cancer Group. *BMJ Open*. 2024 Mar 19;14(3):e080762. doi: 10.1136/bmjopen-2023-080762.
- Analysis of overweight/obese pediatric patients with acute myeloid leukemia: a report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group AML-05 study. Sano H, Fukushima K, Yano M, Osone S, Kato Y, Hasegawa D, Miyamura T, Iwamoto S, Takahashi H, Terui K, Tawa A, Tomizawa D. *Int J Hematol*. 2024 Mar 9. doi: 10.1007/s12185-024-03745-9.
- RNA-seq-based miRNA signature as an independent predictor of relapse in pediatric B-cell acute lymphoblastic leukemia. Kubota H, Ueno H, Tasaka K, Isobe T, Saida S, Kato I, Umeda K, Hiwatari M, Hasegawa D, Imamura T, Kakiuchi N, Nannya Y, Ogawa S, Hiramatsu H, Takita J. *Blood Adv*. 2024 Mar 12;8(5):1258-1271. doi: 10.1182/bloodadvances.2023011583.
- Rituximab with standard LMB chemotherapy in pediatric high-risk mature B-cell non-Hodgkin lymphoma: A report from the JPLSG B-NHL 14 trial. Mori T, Osumi T, Kada A, Ohki K, Koga Y, Fukano R, Fujita N, Mitsui T, Mori T, Saito AM, Nakazawa A, Kobayashi R, Sekimizu M. *Eur J Haematol*. 2024 Apr;112(4):585-593. doi: 10.1111/ejh.14148.
- Eculizumab treatment in paediatric patients diagnosed with aHUS after haematopoietic stem cell transplantation: a HSCT-TMA case series from Japanese aHUS post-marketing surveillance. Ito S,

Saito A, Sakurai A, Watanabe K, Karakawa S, Miyamura T, Yokosuka T, Ueki H, Goto H, Yagasaki H, Kinoshita M, Ozeki M, Yokoyama N, Teranishi H. Bone Marrow Transplant. 2024 Mar; 59(3): 315-324. doi: 10.1038/s41409-023-02161-7.

- Reduced-intensity allogenic transplantation for children and adolescents with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. Ishida H, Arakawa Y, Hasegawa D, Usami I, Hashii Y, Arai Y, Nishiwaki S, Keino D, Kato K, Sato M, Yoshida N, Ozawa Y, Okada K, Hidaka M, Yuza Y, Tanaka M, Watanabe K, Takita J, Kosaka Y, Fujita N, Tanaka J, Sato A, Atsuta Y, Imamura T. Ann Hematol. 2024 Mar; 103(3): 843-854. doi: 10.1007/s00277-023-05557-z.
- Development and evaluation of a rapid one-step high sensitivity real-time quantitative PCR system for minor BCR-ABL (e1a2) test in Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia (Ph+ ALL). Hidaka M, Inokuchi K, Uoshima N, Takahashi N, Yoshida N, Ota S, Nakamae H, Iwasaki H, Watanabe K, Kosaka Y, Komatsu N, Meguro K, Najima Y, Eto T, Kondo T, Kimura S, Yoshida C, Ishikawa Y, Sawa M, Hata T, Horibe K, Iida H, Shimomura T, Dobashi N, Sugiura I, Makiyama J, Miyagawa N, Sato A, Ito R, Matsumura I, Kanakura Y, Naoe T. Jpn J Clin Oncol. 2024 Feb 7; 54(2): 153-159. doi: 10.1093/jjco/hyad156.
- Comparison of passive-scattered and intensity-modulated proton beam therapy of craniospinal irradiation with proton beams for pediatric and young adult patients with brain tumors. Fukumitsu N, Kubota H, Demizu Y, Suzuki T, Hasegawa D, Kosaka Y, Kawamura A, Soejima T. Jpn J Radiol. 2024 Feb; 42(2): 182-189. doi: 10.1007/s11604-023-01499-8.
- Inter-reporter differences in symptom burdens in Japanese children with cancer. Hayase T, Mieno MN, Mori N, Yuza Y, Sano H, Osone S, Hasegawa D, Ashiarai M, Fukushima K. Pediatr Int. 2024 Jan-Dec; 66(1): e15729. doi: 10.1111/ped.15729.
- High-dose cytarabine induction therapy and flow cytometric measurable residual disease monitoring for children with acute myeloid leukemia. Tomizawa D, Matsubayashi J, Iwamoto S, Hiramatsu H, Hasegawa D, Moritake H, Hasegawa D, Terui K, Hama A, Tsujimoto SI, Kiyokawa N, Miyachi H, Deguchi T, Hashii Y, Iijima-Yamashita Y, Taki T, Noguchi Y, Koike K, Koh K, Yuza Y, Moriya Saito A, Horibe K, Taga T, Tanaka S, Adachi S. Leukemia. 2024 Jan; 38(1): 202-206. doi: 10.1038/s41375-023-02075-9. Epub 2023 Nov 6.

循環器内科

- Ken Hayashi, Tomomi Hasegawa, Toshikatsu Tanaka. Fenestrated closure of an atrial septal defect for left ventricular diastolic dysfunction in an early infant with hypertrophic cardiomyopathy. Cardiology in the Young. 2024
- 広田幸穂, 久保慎吾, 田中敏克. AMPLATZER™ Cribriform Multi-Fenestrated Septal Occluder 留置の際にバルーンで中央の小欠損を拡大しデリバリーシースを通過させた多孔性心房中隔欠損の一例. Journal of JCIC. Vol.8 No.2: 21-24, 2024
- 三木康暢, 田中敏克, 久保慎吾. バルーン肺動脈形成術後にガイドワイヤーが抜去できず断裂したWilliams症候群の小児例. Journal of JCIC. Vol.9 No.1: 5-8, 2024

腎臓内科

- Ishimori S, Horinouchi T, Yamamura T, Fujimura J, Kamiyoshi N, Kaito H, Tanaka Y, Matsukura H, Shimabukuro W, Shima Y, Kawaguchi A, Araki Y, Nakanishi K, Hara S, Nozu K. Role of Iron in Children With Immunoglobulin A Nephropathy and Macrohematuria-Induced Acute Kidney Injury. *Kidney Int Rep.* 9;9(6):1664–1673, 2024.
- Ueda C, Horinouchi T, Inoki Y, Ichikawa Y, Tanaka Y, Kitakado H, Kondo A, Sakakibara N, Nagano C, Yamamura T, Fujimura J, Kamiyoshi N, Ishimori S, Ninchoji T, Kaito H, Shima Y, Iijima K, Nozu K, Yoshikawa N. Clinical characteristics and outcomes of immune-complex membranoproliferative glomerulonephritis and C3 glomerulopathy in Japanese children. *Pediatr Nephrol.* 39(9):2679–2689, 2024.
- Nozu K, Sako M, Tanaka S, Kano Y, Ohwada Y, Morohashi T, Hamada R, Ohtsuka Y, Oka M, Kamei K, Inaba A, Ito S, Sakai T, Kaito H, Shima Y, Ishikura K, Nakamura H, Nakanishi K, Horinouchi T, Konishi A, Omori T, Iijima K. Rituximab in combination with cyclosporine and steroid pulse therapy for childhood-onset multidrug-resistant nephrotic syndrome: a multicenter single-arm clinical trial (JSKDC11 trial). *Clin Exp Nephrol.* 28(4):337–348, 2024.
- Shima Y, Mukaiyama H, Tanaka Y, Shimabukuro W, Nozu K, Kaito H, Tanaka R, Sako M, Iijima K, Tokuhara D, Yoshikawa N, Nakanishi K. Factors related to recurrence of proteinuria in childhood IgA nephropathy. *Pediatr Nephrol.* 39(2):463–471, 2024.
- Ichikawa Y, Sakakibara N, Nagano C, Inoki Y, Tanaka Y, Ueda C, Kitakado H, Kondo A, Ishimori S, Horinouchi T, Iijima K, Nozu K. In steroid-resistant nephrotic syndrome that meets the strict definition, monogenic variants are less common than expected. *Pediatr Nephrol.* 39(12):3497–3503, 2024.
- 飯島一誠, 堀之内智子, 長野智那, 野津寛大. 【腎臓学この1年の進歩】ネフリンとネフローゼ症候群. 日本腎臓学会誌66:1:303–309, 2024.

感染症内科

- Mizuno S, Kusama Y, Otake S, Ito Y, Nozaki M, Kasai M. Epidemiology of pediatric meningitis and encephalitis in Japan: a cross-sectional study. *Microbiol Spectr.* 2024; 12:e0119224.
- Matsushima A, Mizuno S, Minamikawa S, Nakagishi Y, Kasai M. Pneumococcal pneumonia complicated by *Aspergillus fumigatus* and *Pseudomonas aeruginosa* lung abscesses. *Pediatr Pulmonol.* 2024; 59: 1077–1080.
- Jinda T, Mizuno S, Tatami S, Kasai M, Ishida T. Risk factors for liver enzyme elevation with remdesivir use in the treatment of paediatric COVID-19. *J Paediatr Child Health.* 2024; 60: 299–302.
- Matsui Y, Mizuno S, Anraku M, Yamaguchi T, Sugino M, Kawahara R, Kasai M. Clinical and microbiological characterization of invasive group a *Streptococcus* infection in children in Japan: A single-center experience. *J Infect Chemother.* 2024; S1341–321X(24)00307–6.
- S Mizuno, M Kasai. Inhibition of bacterial growth on sinks of a paediatric intensive care unit using a 222-nm far ultraviolet irradiation device (Care222). *J Hosp Infect.* 2024; 149: 206–208.
- Saito U, Minamikawa S, Otake S, Ishida Y, Mizuta M, Ishida T, Karakawa S, Kasai M, Nakagishi Y. A PEDIATRIC CASE OF PANNICULITIS INDUCED BY *Pseudomonas aeruginosa* WITH CLINICAL

FEATURES SIMILAR TO ECTHYMA GANGRENOSUM. Pediatr Infect Dis J. 2024 Apr 10.

- Otake S, Shoji T, Yamada K, Kimura M, Myojin S, Kamiyoshi N, Ochi F, Nezu M, Ishida A, Miyairi I, Kasai M. Trend in antibiotic prescription at pediatric primary emergency medical centers in Japan: A multi-center, cross-sectional study. J Infect Chemother. 2024 Jul; 30(7): 616-620.
- 中村祥崇, 堀越裕歩, 斎藤修, 幡谷浩史, 大竹正悟, 島田智恵, 砂川富正. 小児感染症診療ネットワークで探知したマクロライド耐性マイコプラズマ重症肺炎の症例集積. IASR. 2024; 45: 69-70
- 八若博司, 明神翔太, 笠井正志他. 兵庫県の開業小児科における経口抗菌薬処方状況調査. 小児感染免疫. 2024. vol3. 6(2): 111-116
- 笠井正志. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックにおける小児への影響と兵庫県の取り組み. 全国自病協雑誌. 2024. 第63巻(11): 1647-1651
- 和田尚一郎, 笠井正志他. FilmArray 髄膜炎・脳炎パネルが有用であったヒトパレコウイルス中枢神経感染症の集積. 小児感染免疫. 2024. vol. 36(3): 233-242

臨床遺伝科

- Tanaka Y, Horinouchi T, Inoki Y, Ichikawa Y, Ueda C, Kitakado H, Kondo A, Sakakibara N, Nagano C, Yano Y, Yoshikawa N, Morisada N, Nozu K. Nephronophthisis 13 caused by WDR19 variants with pancytopenia: case report. CEN Case Rep. 2024 Dec; 13(6): 474-478.
- Hanafusa H, Yamaguchi H, Morisada N, Ye MJ, Matsumoto R, Nagase H, Nozu K. End-stage ADPKD with a low-frequency PKD 1 mosaic variant accelerated by chemoradiotherapy. Hum Genome Var. 2024 Mar 28; 11(1): 17.
- Fujikawa T, Uemura S, Hasegawa D, Morisada N, Nakamura S, Kozaki A, Saito A, Kishimoto K, Ishida T, Mori T, Yakushijin K, Katayama Y, Yamashita D, Wakamatsu M, Hamada M, Muramatsu H, Takahashi Y, Kosaka Y. Novel mutation in KIF 23 causing congenital dyserythropoietic anemia type III in patients who underwent allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Pediatr Blood Cancer. 2024 Jun; 71(6): e30736.
- Nakatani N, Tamura A, Hanafusa H, Nino N, Yamamoto N, Awano H, Tanaka Y, Morisada N, Uemura S, Saito A, Hasegawa D, Nozu K, Kosaka Y. A novel NFKB1 variant in a Japanese pedigree with common variable immunodeficiency. Hum Genome Var. 2024 Mar 22; 11(1): 15.
- Muroga C, Yokoyama H, Kinoshita R, Fujimori D, Yamada Y, Okanishi T, Morisada N, Nozu K, Namba N. A child with TSC2/PKD1 contiguous gene deletion syndrome successfully treated with tolvaptan for rapidly enlarging renal cysts. CEN Case Rep. 2024 Oct; 13(5): 351-355.
- Uedono H, Mori K, Nakatani S, Watanabe K, Nakaya R, Morioka F, Sone K, Ono C, Hotta J, Tsuda A, Morisada N, Seto T, Nozu K, Emoto M. Novel Digenic Variants in COL4A4 and COL4A5 Causing X-Linked Alport Syndrome: A Case Report. Case Rep Nephrol Dial. 2024 Jan 3; 14(1): 1-9.
- 洪本加奈, 花房宏昭, 丸山あづさ, 野津寛大, 森貞直哉. NKX2-1関連疾患による家族性運動発達遅滞の診断: 家族歴を考慮することの意義. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 45(3): 93-96, 2024. 10
- 前田佳穂, 宮園明典, 光延拓朗, 稲葉泰洋, 森貞直哉, 野津寛大, 岡本康裕. Acetaminophen過敏を認めたNPHP3遺伝子異常によるネフロン癆の女児例. 日本小児腎不全学会雑誌44: 191-194, 2024. 08
- 前田亜希子, 横田聰, 浦川優作, 吉田晶子, 稲葉慧, 河合加奈子, 松崎光博, 酒井大輝, 田保和也, 木場みゆき, 山本翠, 許沢尚弘, 北畠将平, 前田忠郎, 万代道子, 村上遙香, 井上沙聰, 中村奈津子, 藤波芳, 山澤一

樹, 角田和繁, 森貞直哉, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代. 遺伝性網膜ジストロフィにおける遺伝子パネル検査を用いた遺伝子診断の先進医療. 日本眼科学会雑誌. 128(4) : 305-310, 2024. 04

- ・森貞直哉. 遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング. 日本小児腎臓病学会雑誌. 37 : 39-43, 2024
- ・森貞直哉. 【遺伝性尿細管疾患の最新知識】ネフロン癆とネフロン癆関連シリオパチー. 医学のあゆみ. 289(6) : 441-447, 2024. 05.
- ・岡田絵里, 森貞直哉, 野津寛大. 【遺伝性尿細管疾患の最新知識】ADTKD UMODとMUC1を中心に. 医学のあゆみ. 289(6), 437-440, 2024. 05

小児外科

- ・Nakatani T, Morita K, Yokoi A, Hatakeyama T; Long- term outcomes of congenital tracheal stenosis after slide tracheoplasty. Pediatr Surg Int. 40: 84, 2024.
- ・横井暁子, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 卵子枯渇に至った両側卵巣再発成熟奇形腫の1例. 日本小児血液・がん学会雑誌. 61 : 90-92, 2024.
- ・横井暁子. 【小児領域におけるGLP-2アナログ製剤(テデュグルチド)の応用】各疾患に対する使用経験 広範囲型Hirschsprung病およびhypoganglionosisに対するテデュグルチドの使用経験. 小児外科. 56 : 380-383, 2024.
- ・畠山理. 【必携小児外科レジデントマニュアル(1)】処方の基本. 小児外科. 56 : 838-843, 2024.
- ・横井暁子, 芳本誠司. ECMO導入前にサイロ造設, ECMO離脱後に腹壁筋フラップを用いて修復術を行った重症先天性横隔膜ヘルニアの1例. 日本小児外科学会雑誌. 60 : 813-819, 2024.
- ・久松千恵子, 達恵未. 【腸管不全症;基礎研究・臨床のトピックス】短腸症候群における必須脂肪酸欠乏の予防と治療 - 血清脂肪酸分画と便脂肪染色による経静脈的脂肪乳剤投与量の決定 -. 小児外科. 56 : 1033-1037, 2024.
- ・中谷太一, 宮内玄徳, 矢下博輝, 兵頭さやか, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 畠山理. 小児卵巣中分化型Sertoli-Leydig細胞腫の治療方針について. 日本小児外科学会雑誌. 60 : 916-920, 2024.
- ・植松綾乃, 久松千恵子, 福澤宏明, 畠山理, 吉田牧子. 後腹膜奇形腫との鑑別が困難であった腎外性腎芽腫の1例. 日本小児外科学会雑誌. 60 : 927-933, 2024.

心臓血管外科

- ・Matsuhashima S, Matsuhisa H, Wakita K, Tsujimoto T, Takagaki N, Honda I, Oshima Y, Kawanami O, Okada K. Expanded polytetrafluoroethylene conduits with curved and handsewn bileaflet designs for right ventricular outflow tract reconstruction. J Thorac Cardiovasc Surg. 167: 439-449, 2024.
- ・Matsuhashima S, Kubo S, Higashida A, Oshima Y, Matsuhisa H. Coronary orifice rotation for symmetric bicuspidization of a paediatric unicuspid aortic valve. Multimed Man Cardiothorac Surg. 2024:Oct 16, 2024.

脳神経外科

- ・Koyama J, Akutsu N, Kawamura A. Duraplasty using a combination of a pedicled dural flap and collagen matrix in posterior fossa decompression for pediatric Chiari malformation type 1 with syrinx. Acta Neurochir (Wien). 166(1): 70. 2024
- ・Higashino M, Koyama J, Fujita K, Akutsu N, Kawamura A. Postoperative Symptomatic Cerebral

Vasospasm: Requiring Attention Following an Uneventful Resection of an Epidermoid Cyst –A Case Report and Literature Review. NMC Case Rep J. 11: 195–200. 2024.

- Akutsu N, Koyama J, Kawamura A, Sasayama T. Prevalence and Severity of Positional Posterior Plagiocephaly and Positional Posterior Brachycephaly in Children and Adolescents in Japan. Neurol Med Chir (Tokyo). 64: 192–196, 2024.

整形外科

- 小林大介. 運動器の疼痛と成長痛の鑑別と治療. ペインクリニック. 45: 31–40, 2024.
- 小林大介. 薬物療法が奏功する整形外科疾患 低フォスファターゼ症 –早期発見が予後を左右する-. 整形災害外科. 67: 395–400, 2024.
- 坂田亮介, 薩摩真一. What's new by subspecialty What's New in Pediatric Orthopaedics 小児整形外科の最新知識(解説). 整形外科. 75(8) : 836–840, 2024.
- 坂田亮介. 【児童虐待における整形外科医の役割】境界領域の鑑別 骨折・骨端線損傷(解説). 整形・災害外科. 67(2) : 159–166, 2024.
- 衣笠真紀. 小児の内反足と足部骨端症. 靴の医学. 37(2) : 117–122, 2024.
- 衣笠真紀, 薩摩真一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉, 宮島明博. ソルター骨盤骨切り術用のT-saw誘導子の開発. 日本小児整形外科学会雑誌. 33(2) : 244–247, 2024.
- 衣笠真紀, 薩摩真一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉, 米田梓, 北村仁美. Complex idiopathic clubfootの発症時期と経過. 日本小児整形外科学会雑誌. 33(2) : 262–266, 2024.

眼科

- 豊国秀昭, 牧仁美, 野村耕治. 当院における間欠性外斜視の再手術についての検討. 眼科臨床紀要. 17: 154–157, 2024

耳鼻咽喉科

- 大津雅秀: 兵庫県の認定補聴器技能者が在籍する補聴器販売店の現状. 兵庫県立病院学会誌. 第18号: 159, 2024
- 勝沼紗矢香, 大津雅秀: 口蓋扁桃摘出術のための局所解剖(図説). 丹生健一, 鴻信義, 大石直樹, 編集. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 増刊号 ランドマークはこれだ! 局所解剖アトラス, 医学書院, 東京: 156–162, 2024.

泌尿器科

- 杉多良文. 尿管瘤の手術治療について【緊急性, 年齢(膀胱サイズ), 尿管瘤の所属腎機能, 膀胱尿管逆流の有無などから手術方法を選択する】. 週刊日本医事新報. No. 5204, 45, 2024
- 杉多良文, 春名晶子, 楠瀬正史, 植松陸. 特集 外来でみる小児泌尿器科疾患への対応とそのポイント 小児泌尿器科で行われる検査を知っておく. 泌尿器外科. Vol. 37 No. 11 : 1228–1234, 2024

麻酔科

- Kojima T, Sueda A, Fujiwara T. The Japan pediatric difficult airway registry (J-PEDIA) project improves the quality of clinical practice and clinical research. Pediatric Anesthesia. 34: 385–386, 2024
- 末田彩, 打浪有可. 小児の術中気道トラブル 10日前まで感冒症状があった小児. LiSA. 31: 214–217,

2024

- 上嶋江利, 香川哲郎. こどもの術後痛への神経ブロックの効果. ペインクリニック. 45: S97-S104, 2024
- Sueda A, Kagawa T, Kojima T. Day surgery in children: 15-year analysis of unplanned admissions at a Japanese tertiary children's hospital. *Journal of Anesthesia*, online ahead of print, 2024.

新生児内科

- Okumura A, Morioka I, Arai H, Hayakawa M, Maruo Y, Kusaka T, Kunikata T, Iwatani S. Second Nationwide Survey of Bilirubin Encephalopathy in Preterm Infants in Japan. *Brain Dev.* 46(1):2-9, 2024.
- Ikuta T, Iwatani S, Yoshimoto S. Determination and verification of reference intervals of serum immunoglobulin G at birth. *Ann Clin Biochem.* 61(4):319-326, 2024.
- Minamitani Y, Kato S, Hosokawa M, Nakashima T, Iwatani S, Nakao A, Suzuki D, Ota E, Nakanishi H. Inhaled nitric oxide therapy for preterm infants after 7 days of age: A scoping review protocol. *BMJ Open.* 14(2):e080298, 2024.
- Iwatani S, Kobayashi T, Ikuta T, Yoshida M, Yoshimoto S. Early changes of serum interleukin-6 levels in extremely premature newborns for detecting fetal inflammation. *Cytokine.* 176: 156528, 2024.
- Kobayashi T, Iwatani S, Mimura H, Yoshimoto S. Expectant management of pregnancy involving fetus with lower urinary tract obstruction. *Congenit Anom.* 64(4):182-183, 2024.
- Win KHN, Kushida Y, Yamana K, Iwatani S, Yoshida M, Nino N, Mon CY, Ohsaki H, Kamoshida S, Fujioka K, Dezawa M, Nishimura N. Human Muse cells isolated from preterm- and term-umbilical cord delivered therapeutic effects in rat bleomycin-induced lung injury model without immunosuppressant. *Stem Cell Res Ther* 15(1):147, 2024.
- Tamaki S, Iwatani S, Ikuta T, Takeoka E, Matsui S, Mimura H, Yokoi A, Hatakeyama T, Yoshimoto S, Nakao H. Impact of Definitive Surgery for Esophageal Atresia on Long-Term Outcomes in patients with Trisomy 18. *Am J Med Genet Part A.* 194(11):e63792, 2024.
- Kobayashi T, Iwatani S, Nishimaki R, Yoshimoto S. Extensive giant umbilical cord as a potential risk of torsion. *Pediatr Int* 66(1):e15812, 2024.
- Ikuta T, Iwatani S, Yoshimoto S. Umbilical cord blood as a substitute for neonatal blood in measuring serum albumin and immunoglobulin G levels. *Am J Clin Pathol.* 163(1):20-27, 2025
- Nakayama K, Iwatani S, Matsushima A, Uemura K, Morita K, Yoshida M, Yoshimoto S. Successful resection of giant sacrococcygeal teratoma in a 28-week newborn. *Pediatr Int.* 66(1):e15817, 2024.
- Kushida Y, Oguma Y, Abe K, Deguchi T, Barbera FG, Nishimura N, Fujioka K, Iwatani S, Dezawa M. Human post-implantation blastocyst-like characteristics of Muse cells isolated from human umbilical cord. *Cell Mol Life Sci.* 81(1):297, 2024.
- Nishimaki R, Iwatani S, Kobayashi T, Shoko Tamaki, Murakami S, Hatakeyama T, Yoshimoto S. Surviving bilateral renal agenesis: Upper intestinal atresias preserving lung development without severe oligohydramnios. *Pediatr Int.* 2024, in press
- Matsui S, Iwatani S, Nakamura H, Yoshimoto S. Revised treatment criteria for safe reduction of phototherapy for hyperbilirubinemia. *Pediatr Int.* 2024, in press
- Ito Y, Yamagishi T, Ikenoue C, Ishiwada N, Ito K, Iwatani S, Ouchi K, Kawana K, Shimizu H, Shinjoh M,

Takeuchi N, Tsugawa T, Funaki T, Furuichi M, Hoshino T, Mikamo H, Miyairi I, Moriuchi H, Morioka I, Yamagishi Y, Mori M. Clinical practice guidelines for the management of congenital syphilis in Japan, 2023: Executive summary. *Pediatr Infect Dis J*. 2024, in press

- Kato S, Minamitani Y, Hosokawa M, Nakashima T, Iwatani S, Hirata K, Oda A, Hanita T, Miyata M, Namba F, Ochiai M, Nakao A, Yoshimoto S, Suzuki D, Ota E, Nakanishi H, Japan Society for Neonatal Health and Development. Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants (born <34 weeks) after 7 days of life. *BMJ Open*. 2024, in press
- 西内徳子, 岩谷壮太, 泉絢子, 生田寿彦, 三村仁美, 南川将吾, 中岸保夫, 芳本誠司. 難聴を先天性サイトメガロウイルス感染症の兆候と判断したDown症候群の児. *周産期医学*. 54(3) : 402-405, 2024.

産科

- Tomoko Kihara, Tsuneaki Kenzaka, Tomohiro Hasegawa, Koutaro Uemura, Toru Funakoshi. Bilateral Bartholin's gland abscesses in a 4-year-old girl with vitamin A deficiency: a case report. *BMC Infect Dis*. 24, 487-, 2024. doi: 10.1186/s12879-024-09382-1.
- 安積麻亜子, 平久進也, 長澤友紀, 木原智子, 内山美穂子, 窪田詩乃, 金子めぐみ, 荒井貴子, 松本培世, 芳本誠司, 船越徹. 切迫早産妊娠への硫酸マグネシウム投与と早産児の症候性動脈管開存症の関連. *日本周産期・新生児医学会雑誌*. 60, 45-50, 2024
- 窪田詩乃, 松本培世, 金子めぐみ, 荻野美智, 平久進也, 船越徹. 妊娠母体の子宮頸管粘液中におけるマイコプラズマ・ホミニスの検討. *日本周産期・新生児医学会雑誌*. 60, 229-233, 2024

放射線診断科

- 赤坂好宣. 絶対苦手にしない 小児の画像診断: 肝・胆・脾疾患. *臨床画像*. 40(10) : 1214-1221, 2024.
- 赤坂好宣. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: Hirschsprung病が疑われた乳児. *画像診断増刊号*. 44(11) : 93-94, 2024.
- 赤坂好宣. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 乳児の左肩皮下腫瘍. *画像診断増刊号*. 44(11) : 120-121, 2024.
- 赤坂好宣. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 頭蓋骨腫瘍? 珍しくない小児の骨病変. *画像診断増刊号*. 44(11) : 122-124, 2024.
- 赤坂好宣. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 胃粘膜下腫瘍を指摘された児の肺結節. *画像診断増刊号*. 44(11) : 138-139, 2024.
- 赤坂好宣. 周産期の画像診断: MRIによる胎児診断. *周産期医学増刊号*. 54 : 271-276, 2024.
- 乗本周平, 宮寄治. 今月の症例. *小児科臨床*. 77(1) : 45-47, 2024.
- 乗本周平. 続 General Radiology 診断演習: 原点回帰. *画像診断*. 44(5) : 473-475, 2024.
- 乗本周平. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 小児ではあまり見かけないあの疾患. 一体なぜ発生した?. *画像診断増刊号*. 44(11) : 70-72, 2024.
- 乗本周平. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 小児ではまずは一元的に. *画像診断増刊号*. 44(11) : 73-74, 2024.
- 乗本周平. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 頻度の壁を超えるには……?. *画像診断増刊号*. 44(11) : 75-76, 2024.
- 乗本周平. General Radiologistに贈る, 押さえておきたい小児疾患58: 神経芽腫かと思いきや……?. *画*

像診断増刊号. 44(11) : 77-79, 2024.

- ・乗本周平. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患58; 好機逸すべからず. 画像診断増刊号. 44(11) : 80-82, 2024.
- ・乗本周平. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患58; 小児は多くを語らない. 画像診断増刊号. 44(11) : 83-84, 2024.
- ・乗本周平. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患58; 全身のどこにでも. 画像診断増刊号. 44(11) : 85-87, 2024.
- ・乗本周平. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患58; 特徴的な病歴に着目する. 画像診断増刊号. 44(11) : 88-89, 2024.
- ・乗本周平. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患58; 生検しないと診断できない?. 画像診断増刊号. 44(11) : 90-92, 2024.

小児集中治療科

- ・Ito Yusaku, Aoki K, Kawamoto S, Kurosawa H. Cardiac dysfunction and biphasic neurological symptoms due to head trauma. *Pediatr Int.* 66(1):e15737, 2024.
- ・黒澤寛史. 編集委員会への手紙. 日本小児科学会雑誌. 128 : 738, 2024.
- ・Toma K, Aoki K, Kurosawa H, Nishiyama M, Maruyama A. Two cases of COVID-19-related hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome with different outcomes. *Brain and Development Case Reports.* 2: 100024, 2024.
- ・往田有理, 山崎北斗, 小川禎治, 松岡道生, 青木一憲. タブレット端末により腹部植え込みペースメーカーに発生したマグネットレスポンスに関する検討. *心電図.* 44 : 180-188, 2024.
- ・黒澤寛史. ICUでのプロポフォール使用上の留意点. 31 : 239-241, 2024.
- ・西山将広, 青木一憲, 黒澤寛史, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 脳保護のための小児神経集中治療. 日本小児科学会雑誌. 128 : 1229-1238, 2024.
- ・Nakai R, Aoki K, Matsumoto T, Miyashita N, Kurosawa H. Children With Airway Compressions Caused by Mediastinal Tumors: A Single-Center Case Series. *Cureus.* 16(8):e67710, 2024.
- ・賀来典之, 植松悟子, 天羽清子, 黒澤寛史, 平本龍吾, 濱崎考史, 竹島泰弘. 小児院外心停止の原因検索に関する調査小委員会報告 小児院外心停止の原因検索に関する実態調査. 日本小児科学会雑誌. 128 : 1229-1238, 2024.
- ・Wong JJM, Dang H, Gan CS, Phan PH, Kurosawa H, Aoki K, Lee SW, Ong JSM, Fan L, Tai CW, Chuah SL, Lee PC, Chor YK, Ngu L, Anantasisit N, Liu, CXuW, Wati DK, Gede SIB, Jayashree M, Liauw F, Pon KM, Huang L, Chong JY, Zhu X, Hon KLE, Leung KKY, Samransamruajkit R, Cheung YB, Lee JH; Pediatric Acute & Critical care Medicine Asian Network (PACCMAN). Lung-Protective Ventilation for Pediatric Acute Respiratory Distress Syndrome: A Nonrandomized Controlled Trial*. *Critical Care Medicine.* 52(10) : 1602-1611, 2024.
- ・Greif R, E. Bray J, Djärv T, R. Drennan I, G. Liley H, Ng KC, Cheng A, J. Douma M, R. Scholefield B, Smyth M, Weiner G, Abelairas-Gómez C, Acworth J, Anderson N, L. Atkins D, C. Berry D, Bhanji F, W. Böttiger B, N. Bradley R, Breckwoldt J, N. Carlson J, Cassan P, Chang WT, P. Charlton N, Phil Chung S, Considine J, Cortegiani S, T. Costa-Nobre D, Couper K, Bittencourt Couto T, N. Dainty K, Dassanayake V, G. Davis P, A. Dawson J, R. de Caen A, D. Deakin C, Debaty G, del Castillo J, Dewan

M, Dicker B, Djakow J, J. Donoghue A, Eastwood K, El-Naggar W, Escalante-Kanashiro R, Fabres J, Farquharson B, Fawke F, Fernanda de Almeida M, M. Fernando S, Finan E, Finn J, E. Flores G, E. Foglia E, Folke F, A. Goolsby C, Granfeldt A, Guerguerian AM, Guinsburg R, Malta Hansen C, Hatanaka T, G. Hirsch K, J. Holmberg M, Hooper S, V. Hoover A, Hsieh MJ, Ikeyama T, Isayama T, J. Johnson N, Josephsen J, Katheria A, D. Kawakami M, Kleinman M, Kloeck D, Ko YC, Kudenchuk PA, Kurosawa H, Laermans J, Lagina A, G. Lauridsen K, J. Lavonas E, C. Lee H, Han Lim S, Lin Y, S. Lockey A, Lopez-Herce J, Lukas G, Macneil F, K. Maconochie I, Madar J, Martinez-Mejas A, Masterson S, Matsuyama T, Mausling R, J.D. McKinlay C, Meyran D, Montgomery W, T. Morley P, J. Morrison L, L. Moskowitz A, Myburgh M, Nabecker S, Nadkarni V, Nakwa F, J. Nation K, Nehme Z, Nemeth M, Nicholson T, Nikolaou N, Nishiyama C, Norii T, Nuthall G, Ohshima S, Olasveengen T, Olaussen A, Ong G, Orkin A, J. Parr M, D. Perkins G, Pocock H, Rabi Y, Raffay V, Ratt J, Raymond T, Ristagno G, Rodriguez-Nunez A, Rossano J, Rüdiger M, Sandroni C, L. Sawyer T, M. Schexnayder S, Schmöller G, Schnaubelt S, Lene Seidler A, Semeraro F, M. Singletary E, B. Skrifvars M, M. Smith C, Soar J, Lee Solevåg A, Soll R, Stassen W, Sugiura T, Thilakasiri K, Tijssen J, Kumar Tiwari L, Topjian A, Trevisanuto D, Vaillancourt C, Welsford M, H. Wyckoff M, Yang CW, Yeung J, M. Zelop C, A. Zideman D, P. Nolan J, M. Berg K. 2024 international consensus on cardiopulmonary resuscitation and emergency cardiovascular care science with treatment recommendations: Summary from the basic life support; Advanced life support; Pediatric life support; Neonatal life support; Education, implementation, and teams; And first aid task forces. *Circulation*. 150:e580–687, 2024.

- Decharme Crevier L, Furlong Dillard J, Jung P, Chiusolo F, Malone MP, Ambati S, Parsons SJ, Krawiec C, Al Subu A, Polikoff LA, Napolitano N, Tarquinio KM, Shenoi A, Talukdar A, Mallory PP, Giuliano Jr.JS, Breuer RK, Kierys K, Kelly SP, Motomura M, Sanders Jr.RC, Freeman A, Nagai Y, Glater Welt LB, Wilson J, Loi M, Adu Darko M, Shults J, Nadkarni V, Emeriaud G, Nishisaki A and for the National Emergency Airway Registry for Children (NEAR4KIDS), Pediatric Acute Lung Injury, Sepsis Investigators (PALISI) Network. Safety of primary nasotracheal intubation in the pediatric intensive care unit (PICU). *2:7*, 2024.
- Malone MP, Harwayne-Gidansky I, Sanders Jr.RC, Napolitano N, Pham J, Polikoff L, Register M, Tarquinio KM, Shults J, Krawiec C, Mallory P, Breuer RK, Shenoi AN, Wollny K, Parsons SJ, Kandil SB, Pinto M, Gladen KM, Dewan M, Graciano AL, Nett S, Giuliano JS, Krishna AS, Ducharme-Crevier L, Talukdar A, Lee JH, Miksa M, Lee A, Ahmed A, Page-Goertz C, Jung P, Scott BL, Kelly SP, Al-Subu A, Spear D, Allen L, Sizemore J, Kasagi M, Nagai Y, Toal M, Biagas K, Nadkarni V, Nishisaki A for the National Emergency Airway Registry for Children (NEAR4KIDS) Pediatric Acute Lung Injury Sepsis Investigators (PALISI) Network. *J Pediatr Intensive Care*. eFirst, 2024.

病理診断科

- 吉田牧子, 高橋加奈, 山口貴子, 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 秋定直宏, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 乗本周平, 赤坂好宣. 大脳基底核 atypical meningioma の1例. *日本小児血液・がん学会雑誌*. 61:114, 2024.
- 吉田牧子, 平戸純子, 市村幸一, 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 赤坂好宣, 岸本健治, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 橋に発生したDiffuse midline gliomna,H3K27-altered,H3.1K27-mutant subtype の1例. *大阪母子医療センター雑誌*. 39:55, 2024.

- ・吉田牧子, 高橋加奈, 川畠順子, 下田智晴, 成田勉, 楠田千佳, 小野田素大. ALK陽性Spitz nevusの1例. 大阪母子医療センター雑誌. 39: 52-53, 2024.
- ・Kaung Htet Nay Win, Kushida Y, Yamana K, Iwatani S, Yoshida M, Nino N, Cho Yee Mon, Ohsaki H, Kamoshida S, Fujioka K, Dezawa M, Nishimura N. Human Muse cells isolated from preterm- and term-umbilical cord delivered therapeutic effects in rat bleomycin-induced lung injury model without immunosuppressant. Stem Cell Res Ther. 15: 147, 2024.

看護部

- ・中谷扶美: 子どもと家族を中心とした多職種チームにおける対話、小児看護, 47(12), 1492-1498, 2024
- ・中谷扶美, 中島由佳: 感染対策の基本. 染谷奈々子, 平田美佳: いい顔生まれるこども まんなか小児看護技術, 57-65, へるす出版.

薬剤部

- ・Tsuyoshi Jinda, Shinsuke Mizuno, Shunsuke Tatami, Masashi Kasai, Tatsuhiko Ishida, Risk factors for liver enzyme elevation with remdesivir use in the treatment of paediatric COVID-19, Journal of Paediatrics and Child Health, Volume 60, Issue 7 July 2024 Pages 299-302

3) 学会発表

総合診療科

- Small colony variantsを呈したPanton-Valentine leucocidin産生MSSAによる多発性肺膿瘍の1例. 酒井善紀, 南川将吾, 西藤知城, 岡崎沙也香, 水野真介, 笠井正志, 黒澤寛史, 中岸保夫. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会プログラム, 2024年11月
- 微熱・下肢痛を主訴に受診し、鑑別診断に苦慮した一例. 小田原洋一, 水田麻雄, 錦織朱, 長谷川智大, 桦田千晶, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 南川将吾, 中岸保夫. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年2月
- COVID-19に合併した横紋筋融解症の1例. 朝貝芳貴, 南川将吾, 砂川智紀, 松尾進, 松島愛香, 長谷川智大, 桦田千晶, 合田由香利, 仲嶋健吾, 村田剛士, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年2月
- 傍咽頭間隙膿瘍5症例に対する治療反応性の比較検討. 砂川智紀, 水田麻雄, 朝貝芳貴, 松尾進, 松島愛香, 長谷川智大, 桦田千晶, 合田由香利, 仲嶋健吾, 村田剛士, 石田悠介, 南川将吾, 中岸保夫. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年2月
- 在日ベトナム人小児の体重増加不良症例から考える成長曲線の妥当性について. 錦織朱, 合田由香利, 水田麻雄, 長谷川智大, 桦田千晶, 仲嶋健吾, 石田悠介, 南川将吾, 中岸保夫. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月
- 骨盤骨髄炎の臨床像：血行性骨髄炎との比較検討. 桦田千晶, 南川将吾, 長谷川智大, 合田由香利, 仲嶋健吾, 石田悠介, 水田麻雄, 中岸保夫. 第37回近畿小児科学会, 2024年2月
- 血液培養及び造影MRIから化膿性脊椎炎と診断した一例. 田中元, 田中沙紀, 佐伯玲, 杉野充伸, 水野真介, 笠井正志, 西藤知城, 酒井善紀, 岡崎沙也香, 南川将吾, 中岸保夫. 第293回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年9月
- 3歳時の就寝時刻が遅いと小学1年生時の勤勉性や思いやりが低下する 尼崎市コホート研究(会議録). 西山将広, 京野由紀, 川村葵, 老川静香, 徳元翔一, 山口宏, 富岡和美, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月
- 小児摂食障害患者の体重の回復と骨密度の経過. 伊藤立人, 富岡和美, 川村葵, 曽根原晶子, 京野由紀, 鮫島智大, 花房宏昭, 老川静香, 南部静紀, 徳元翔一, 山口宏, 坊亮輔, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月
- 小児摂食障害診療ガイドライン(改訂第3版). 鈴木雄一, 大谷良子, 井上建, 井口敏之, 鈴木由紀, 柳本嘉時, 富岡和美, 藤井智香子, 石井隆大, 石橋孝勇, 一般社団法人日本小児心身医学会摂食障害ワーキンググループ. 第42回日本小児心身医学会学術集会, 2024年9月
- 回避・制限性食物摂取症の診療に関する我が国の実態把握のためのアンケート調査. 鈴木雄一, 大谷良子, 井上建, 井口敏之, 鈴木由紀, 柳本嘉時, 富岡和美, 藤井智香子, 石井隆大, 石橋孝勇. 第42回日本小児心身医学会学術集会, 2024年9月
- 外陰部腫脹を来たした自閉スペクトラム症の女児. 長谷川智大, 合田由香利, 石田悠介, 水田麻雄, 桦田千晶, 仲嶋健吾, 南川将吾, 植村光太郎, 木原智子, 中岸保夫. 第37回近畿小児科学会, 2024年2月

救急科

- 漂えど沈まず、然れども流されず～Think worst firstから始めるこどもの中毒～. 林卓郎. 第46回日本中毒学会総会・学術集会 基調講演, 2024年7月.
- パネルディスカッション座長 どんな感じかな～ こどもの中毒. 松岡由典, 伊藤友弥, 塚原絢平, 坂本昌彦, 伊原崇晃, 林卓郎. 第46回日本中毒学会総会・学術集会, 2024年7月.
- パネルディスカッション座長 Why? いま、こどもの鎮静・鎮痛ガイダンスの意味. 新田雅彦, 平本龍吾, 北村祐司, 小林匡, 岡本吉生, 松岡由典, 梅野直哉, 杉澤由香里, 久我修二, 林卓郎, 山本英一. 第37回日本小児救急医学会学術集会, 2024年7月.
- 当院における小児心停止症例に対する遺伝学的診断(Genetic autopsy)を含めた原因究明システムの構築. 松井銳, 黒澤寛史, 花房宏昭, 洪本加奈, 坊亮輔, 森貞直哉, 吉田牧子, 笠井正志, 林卓郎, 竹井寛和, 谷澤直子, 大西康裕, 大西理史, 宮脇康輔, 松本泰右, 長崎靖, 田中亮二郎, 野津寛大, 飯島一誠. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月
- 小児院外心停止症例への体温管理療法の効果と背景、治療内容、転帰の推移. 松井銳, 黒澤寛史, 林卓郎, 竹井寛和, 谷澤直子, 大西理史, 村田慧, 吉井拓真, 齊藤麗, 小川碧, 田中亮二郎. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024年10月.
- 小児POCUSをいかに小児医療の質向上につなげるか(小児POCUS のQIプロジェクト). 竹井寛和, 林卓郎, 松井銳, 谷澤直子, 大西康裕, 大西理史, 宮脇康輔, 松本泰右, 田中亮二郎. 第97回日本超音波医学会学術集会, 2024年6月.
- 小児救急医療におけるPOCUSの軌跡と今、そして未来. 竹井寛和. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024年10月.
- 小児救急科における虫垂炎. 竹井寛和. 第9回日本小児超音波研究会, 2024年11月.
- What can we do for Child Abuse?. 大西理史. 第43回日本画像医学会, 2024年2月.
- Child abuse 各論、日本骨折治療学会. 村田慧. 第14回アドバンスコース研修会, 2024年9月.
- 小児・思春期がん患者の治療における低リン酸血症の臨床像. 小川碧, 岸本健治, 堀川翔伍, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 斎藤敦郎, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 「子どもの感染症と突然死」に対する文献的考察. 小川碧, 笠井正志. 第29回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会, 2024年2月.

代謝内分泌科

- Turner様症状を呈したX染色体長腕欠失の一例. 池谷紀衣子, 柏坂舞, 西藤知城, 松本真明, 尾崎佳代. 第1回近畿小児内分泌症例検討会, 2024年2月
- 当院の初発1型糖尿病患者におけるHyperosmolar DKAの頻度. 松本真明, 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 尾崎佳代. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024年5月
- 小児期～思春期ターナー女性の包括的医療：身長も思春期発来も最大骨量も、そして本人の理解も. 尾崎佳代. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月
- Hyperosmolar DKAを呈した1型糖尿病患者の臨床的特徴と頻度. 松本真明, 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 尾崎佳代. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月
- 小児バセドウ病における治療前後のBMI Z scoreの変化. 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月

- ・小児期発症の成人成長ホルモン分泌不全患者の臨床的特徴－45年間の後方視的検討－. 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月
- ・成長ホルモン分泌不全性低身長から成人成長ホルモン分泌不全への移行が出来なかった要因の検討－45年間の後方視的検討－. 尾崎佳代, 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月
- ・性分化疾患ガイドライン2024 エビデンスに基づく小児期DSDの診断診療アプローチ. 藤澤泰子, 石井智弘, 鹿島田健一, 糸永知代, 宇都宮朱里, 尾崎佳代, 川井正信, 菅野潤子, 佐々木悟郎, 内木康博, 濱島崇, 堀川玲子, 松井克之. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024年6月
- ・成長曲線は語る～症例から学ぶ成長の仕組みと異常～. 尾崎佳代. 第20回小児内分泌入門セミナー, 2024年6月
- ・小児思春期1型糖尿病の高血糖緊急症におけるhyperosmolar DKAの頻度・合併症. 松本真明, 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 尾崎佳代. 第29回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会, 2024年7月
- ・XLHにおける患者さんや家族とのshered decision making の重要性－長期に渡る最適なマネジメントのために－. 尾崎佳代. 第57回日本小児内分泌学会, 2024年10月
- ・GH連日製剤からソマプシタンへ変更後に成長率の低下を認めた頭蓋咽頭腫術後汎下垂体機能低下症の2例. 尾崎佳代, 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明. 第57回日本小児内分泌学会, 2024年10月
- ・ビタミンD欠乏性くる病11例における天然型ビタミンDサプリメントによる治療開始後1年間の臨床経過. 池谷紀衣子, 柏坂舞, 西藤知城, 松本真明, 尾崎佳代. 第57回日本小児内分泌学会, 2024年10月
- ・一過性甲状腺機能低下症患者の長期的知的発達予後. 池谷紀衣子, 柏坂舞, 西藤知城, 松本真明, 尾崎佳代. 第57回日本小児内分泌学会, 2024年10月
- ・プロスマブ投与を含む多くの治療介入を行ったMcCune-Albright症候群. 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第57回日本小児内分泌学会, 2024年10月
- ・プロスマブの治療効果判定に対する骨シンチグラフィの有用性. 瑞慶覧宏彰, 天野直子, 池側研人, 尾崎佳代, 柏木博子, 濱島崇, 長谷川行洋. 第57回日本小児内分泌学会学術集会, 2024年10月
- ・肥満を有する小児における肥満度低下と肝機能障害改善の関連性. 松本真明, 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 尾崎佳代. 第57回日本小児内分泌学会学術集会, 2024年10月
- ・X;2 転座の1例：転座した常染色体領域に広がるX染色体不活化に関連する可能性のある軽度の表現型. 服部篤史, 森定直也, 尾崎佳代, 萩原康子, 各務正代, 深見麻紀. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024年10月
- ・肥満を有する小児におけるBMI-SDS低下と肝機能障害改善の関連. 松本真明. 第45回日本肥満学会・第42回日本肥満症治療学会学術集会, 2024年10月
- ・MCAD欠損症8名のシックデイ時の臨床データおよび注意点. 大橋浩基, 朝貝芳貴, 曽根原晶子, 池谷紀衣子, 金谷真吾, 花房宏昭, 南部静紀, 山本寛子, 西山敦史, 尾崎佳代, 粟野宏之, 坊亮輔. 第65回日本先天代謝異常学会, 2024年11月
- ・ビタミンD欠乏性くる病11例における天然型ビタミンDサプリメントによる治療開始後1年間の臨床経過. 池谷紀衣子, 柏坂舞, 西藤知城, 松本真明, 尾崎佳代. 第25回日本内分泌学会近畿支部, 2024年11月
- ・特発性若年性骨粗鬆症の発症様式をとったPLS3遺伝子欠失例. 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 衣笠真紀, 森貞直哉, 尾崎佳代. 第34回臨床内分泌代謝update, 2024年11月
- ・当院でボソリチド治療中の軟骨無形成症患者における成長率の推移. 山形大輝, 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第34回臨床内分泌代謝update, 2024年11月

- ・兵庫県における新型コロナウイルス流行前後での小児糖尿病性ケトアシドーシスの発症年齢の比較. 柏坂舞, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代. 第294回日本小児科学会兵庫県地方会, 2025年2月

リウマチ科

- ・全身型若年性特発性関節炎におけるトリズマブ初回投与後のマクロファージ活性化症候群発症のリスク因子に関する検討. 立川智広, 水田麻雄, 中岸保夫. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024年10月
- ・少関節炎型若年性特発性関節炎に対するステロイド関節内注射の有効性: 2施設共同後方視的研究. 赤峰掲敬治, 水田麻雄, 谷田部玲子, 合田由香利, 三上直朗, 原田涼子, 濱田陸, 中岸保夫, 輪谷浩史. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024年10月
- ・若年性皮膚筋炎における筋炎特異抗体と血清サイトカインの関連性. 金子修也, 畠野真帆, 宮岡双葉, 真保麻実, 林祐子, 伊良部仁, 阿久津裕子, 水田麻雄, 中岸保夫, 森雅亮, 清水正樹. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024年10月
- ・はじめて学ぶ若年性特発性関節炎(JIA) 診断からケアまで. 中岸保夫. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024年10月
- ・Clinical Usefulness of serum CXCL9/sTNF-RII levels for monitoring of disease activity in a patient with systemic juvenile idiopathic arthritis associated macrophage activation syndrome receiving Canakinumab. Mao Mizuta, Shuya Kaneko, Masaki Shimizu, Yasuo Nakaghisi. 30th European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Gothenburg, 2024. Sep.
- ・Current treatment of macrophage activation syndrome worldwide: the metaphor project, A PReS/PRINTO real-life international survey. Francesca Minoia, Francesco Baldo, Remco G.A. Erkens, Claudia Bracaglia, Dirk Forll, Marco Gattorno, Marija Jelusic, Jordi Anton, Paul Brogan, Scotto Canna, Shanmuganathan Chandrakasan, Randy Q Cron, Fabrizio De Benedetti, Alexei Grom, Merav Heshin-Bekenstein, AnnaCarin Horne, Raju Khubchandani, Mao Mizuta, Seza Ozen, Pierre Quartier, Angelo Ravelli, Masaki Shimizu, Grant Schulert, Christiaan Scott, Nicola Ruperto, Rashmi Sinha, Joost Swart, Sebastiaan Vastert, and on behalf of the PReS MAS/sJIA Working Party and Pediatric Rheumatology International Trial Organization. 30th European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Gothenburg, 2024. Sep.
- ・IL-18 levels can differentiate between sJIA and childhood malignancies, aiding in the diagnostic workup for sJIA. Arjen Leek, Mao Mizuta, Jurrian de Kanter, Rianne Scholman, Valerie de Haas, Friederike Meyer Wentrup, Lieve Tytgat, Stefan Nierkens, Julia Drylewicz, Eveline Delemarre, Jorg van Loosdregt, Sebastiaan Vastert. 30th European Pediatric Rheumatology Congress (PReS) in Gothenburg, 2024. Sep.
- ・Efficacy of Intra-articular glucocorticoids as a treatment for oligoarticular juvenile idiopathic arthritis: A bicentric retrospective study in Japan. Kenji Akamine, Mao Mizuta, Reiko Yatabe, Yukari Aida, Naoaki Mikami, Ryoko Harada, Riku Hamada, Yasuo Nakagishi, Hiroshi Hataya. American College of Rheumatology (ACR) Annual meeting in Washington, DC, 2024. Nov.

アレルギー科

- 鶏卵アレルギー自然歴における binding-avidity を用いた抗原結合親和性 IgE 抗体価測定の意義. 浜田佳奈, 藤澤隆夫, 多田仁美, 坂井利佳, 品原和加子, 長尾みづほ, 木戸博. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024年10月
- 通年性アレルギー性鼻炎に対してダニ舌下免疫療法における効果および安全性の検討. 浜田佳奈, 長谷川智大, 岡崎沙也香, 仲嶋健吾, 百々菜月, 田中裕也. 第61回日本小児アレルギー学会学術集会, 2024年11月

神経内科

- 黒質および淡蒼球が障害された後天性ジストニアに対して L-dopa が有効であった1例. 相馬健人, 西山将広, 上田拓耶, 石田悠介, 西藤知城, 尾崎佳代, 黒澤寛史, 丸山あずさ. 第74回日本小児神経学会近畿地方会, 2024年3月.
- 体重減少時と回復期に Arterial Spin-Labeling で脳血流と脳波を評価した神経性やせ症の1例. 上田拓耶, 西山将広, 相馬健人, 石田悠介, 小川裕子, 青木一憲, 黒澤寛史, 丸山あずさ. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 3歳時の就寝時刻が遅いと小学1年生時の勤勉性や思いやりが低下する 尼崎市コホート研究. 西山将広, 京野由紀, 川村葵, 老川静香, 徳元翔一, 山口宏, 富岡和美, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 前向き多施設レジストリによる急性脳症の病型および治療の実態調査. 西山将広, 徳元翔一, 山口宏, 高梨潤一, 本林光雄, 柏木充, 服部有香, 丸山あずさ, 豊嶋大作, 中川卓, 河野剛, 永瀬裕朗. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 薬剤抵抗性てんかんへの移行が懸念された左片側巨脳症の新生児例. 高橋英里, 小林孝生, 西牧良, 岩谷壮太, 原将輝, 田中敦, 西内徳子, 宇保早希子, 後藤弘樹, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 西山将広, 丸山あずさ, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 高Ht-6血症を伴う後期早産児にみられた脳室周囲の高度な白質障害. 小林孝生, 岩谷壮太, 萩元慎二, 西山将広, 丸山あずさ, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 前向きレジストリにより明らかにする急性脳症の特徴. 徳元翔一, 西山将広, 柏木充, 河野剛, 高梨潤一, 中川卓, 豊嶋大作, 服部有香, 丸山あずさ, 本林光雄, 永瀬裕朗. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- Dravet症候群におけるてんかん重積発作後または発作群発後の再発予防としてのレバチラセタムとホスフェニトインの有効性. 上田拓耶, 西山将広, 相馬健人, 石田悠介, 丸山あずさ, 永瀬裕朗. 第66回日本小児神経学会近畿地方会, 2024年5月.
- 有熱性けいれん重積に対する初期治療までの時間と入院後治療・転帰との関連. 相馬健人, 西山将広, 上田拓耶, 石田悠介, 永瀬裕朗, 丸山あずさ. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- 有熱性てんかん重積状態における髄液神経傷害バイオマーカーの検討. 老川静香, 山口宏, 伊藤立人, 相馬健人, 川村葵, 上田拓耶, 鮫島智大, 京野由紀, 徳元翔一, 石田悠介, 西山将広, 丸山あずさ, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- 急性脳症患者における治療介入前後の血清 GDF-15 の経時的推移. 山口宏, 伊藤立人, 相馬健人, 川村葵, 鮫島智大, 京野由紀, 上田拓耶, 老川静香, 徳元翔一, 石田悠介, 西山将広, 丸山あずさ, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.

- ・機能性神経学的症状と診断された3例で認めた類似する脳血流異常と髓液サイトカイン所見. 田中司, 青砥悠哉, 百々菜月, 二野菜々子, 徳田央士, 山本寛子, 松野下夏樹, 竹中佳奈栄, 富永健太, 忍頂寺毅史, 川崎圭一郎, 西山将広, 永瀬裕朗, 高橋幸利. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- ・3歳時の朝食習慣と小学1年生での学力との関連: 尼崎市の人口ベースコホート研究. 川村葵, 西山将広, 伊藤立人, 京野由紀, 鮫島智大, 花房宏昭, 老川静香, 徳元翔一, 山口宏, 野津寛大, 永瀬裕朗. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- ・小児蘇生後症例の神経学的瞳孔指数による転帰の予測. 川本昌平, 青木一憲, 潮見祐樹, 上田拓耶, 西山将広, 丸山あずさ, 黒澤寛史. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- ・脳保護のための小児神経集中治療 脳傷害はこうやって科学する! -小児神経科の頭の中-. 西山将広. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- ・Arterial spin labeling imaging (ASL)で血流亢進を示したChiari奇形合併の劇症型小脳炎. 田中元, 西山将広, 伊藤立人, 相馬健人, 上田拓耶, 石田悠介, 丸山あずさ. 第75回日本小児神経学会近畿地方会, 2024年10月.
- ・低用量のフェンフルラミンで効果が得られたDravet症候群の5例. 上田拓耶, 西山将広, 相馬健人, 石田悠介, 徳元翔一, 山口宏, 野津寛大, 永瀬裕朗, 丸山あずさ. 第57回日本てんかん学会学術集会, 2024年10月.
- ・小児病院における抗てんかん薬処方の2016年から2023年までの経年変化. 西山将広, 相馬健人, 上田拓耶, 石田悠介, 丸山あずさ. 第57回日本てんかん学会学術集会, 2024年10月.
- ・有熱性けいれん小児患者に対する救急外来での脳波モニタリング開始時期と神経学的転帰との関連. 丸山あずさ, 相馬健人, 上田拓耶, 石田悠介, 西山将広, 永瀬裕朗. 第57回日本てんかん学会学術集会, 2024年10月.
- ・前方視的多施設症例集積により明らかにする小児有熱性けいれん重積に対する管理の実際. 徳元翔一, 西山将広, 柏木充, 河野剛, 高梨潤一, 中川卓, 豊嶋大作, 服部有香, 丸山あずさ, 本林光雄. 第57回日本てんかん学会学術集会, 2024年10月.

血液・腫瘍内科

- ・胸膜肺芽腫より診断に至ったDICER1症候群女児例. 松井佑一朗, 植村優, 植村光太郎, 畠山理, 洪本加奈, 森貞直哉, 真鍋修司, 兵頭さやか, 神前愛子, 斎藤敦郎, 岸本健治, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年2月
- ・同種造血幹細胞移植後に治療抵抗性のEvans症候群を発症した慢性肉芽腫症. 植村優, 長谷川大一郎, 真鍋修司, 堀川翔伍, 西尾周朗, 田中裕介, 秋定直宏, 兵頭さやか, 斎藤敦郎, 神前愛子, 岸本健治, 石田敏章, 森健, 井上翔太郎, 宮西正憲, 小阪嘉之. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月
- ・小児非悪性疾患に対する同種造血幹細胞移植後の混合キメリズム: 単施設後方視的研究. 堀川翔伍, 岸本健治, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 斎藤敦郎, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月
- ・小児・思春期がん患者の治療における低リン酸血症の臨床像. 小川碧, 岸本健治, 堀川翔伍, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 斎藤敦郎, 石田敏章, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月
- ・Ovarian tissue cryopreservation in children and adolescents with cancer: a single center retrospective study. Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Sayaka Hyodo, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Kenji

- Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Yu Wakimoto, Hiroaki Shibahara, and Yoshiyuki Kosaka. 16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology, 2024年6月
- ・神経芽腫に対するジヌツキシマブ治療(抗GD2抗体免疫療法)のクリニカルパス運用の試み. 斎藤敦郎, 森健, 大西彩那, 植山真紀, 中谷扶美, 藤原健太, 奈須瞳, 長谷川大一郎. 第19回兵庫県立病院学会, 2024年9月
 - ・Myeloablative conditioning for cord blood transplantation in a patient with AMeD syndrome. Suguru Uemura, Yusuke Morishita, Motoharu Hamada, Hiroaki Kikuchi, Hiroaki Hisakawa, Sayaka Hyodo, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Tomoko Fujikawa, Akihiro Tamura, Manabu Wakamatsu, Hideki Muramatsu, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Takahashi, and Yoshiyuki Kosaka. 第86回日本血液学会学術集会, 2024年10月
 - ・Association of busulfan pharmacokinetics with the development of neurological complication. Kenji Kishimoto, Sayaka Hyodo, Keizo Fukushima, Syogo Horikawa, Suguru Uemura, Aiko Kozaki, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Takeshi Mori, Daiichiro Hasegawa, Syoji Fukushima, Yoshiyuki Kosaka. 第86回日本血液学会学術集会, 2024年10月
 - ・Sibling cases of lymphoma underlie X-linked lymphoproliferative syndrome type 1. Shuro Nishio, Toshiaki Ishida, Naoya Morisada, Yusuke Tanaka, Kotaro Uemura, Dan Tomomasa, Hidetoshi Hagiwara, Suguru Uemura, Sayaka Hyodo, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Takeshi Mori, Kunihiko Moriya, Kandai Nozu, Kohsuke Imai, Hirokazu Kanegane, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka. 第86回日本血液学会学術集会, 2024年10月
 - ・Measurable residual disease after vemurafenib treatment in refractory systemic LCH patients. Ko Kudo, Rika Kanezaki, Rintaro Ono, Kenichi Sakamoto, Shinichi Tsujimoto, Takayuki Ichikawa, Daiichiro Hasegawa, Kenichiro Watanabe, Tatsuhiko Tanaka, Tsutomu Toki, Etsuro Ito, Motohiro Kato, Yoko Shioda. 第86回日本血液学会学術集会, 2024年10月
 - ・Assessment of anti-L-asparaginase IgE and IgG antibody in patients with acute lymphoblastic leukemia. Yoichi Tanaka, Ryosuke Nakamura, Aiko Kozaki, Mamoru Honda, Dai Keino, Yoichi Haga, Kumiko Goi, Mitsutaka Shiota, Tomoaki Hirate, Makito Tanaka, Chihaya Imai, Ruri Hanajiri, Katsuyoshi Koh, Souichi Suenobu, Hidemi Shimonodan, Yasuhiro Okamoto. 第86回日本血液学会学術集会, 2024年10月
 - ・神経芽腫に対するジヌツキシマブ治療のクリニカルパス運用の試み. 斎藤敦郎, 森健, 吉川なつこ, 松尾進, 川場大輔, 田中裕介, 二野菜々子, 植村優, 兵頭さやか, 神前愛子, 岸本健治, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第66回小児血液がん学会学術集会, 2024年12月
 - ・新生児スクリーニングにより診断され臍帯血移植をし得たX連鎖重症複合免疫不全症の乳児例. 川場大輔, 森健, 市川貴之, 辻本弘, 神波信次, 兵頭さやか, 二野菜々子, 植村優, 神前愛子, 斎藤敦郎, 岸本健治, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第66回小児血液がん学会学術集会, 2024年12月
 - ・Novel variants in ATM causing Ataxia-Telangiectasia in a female patient developed myelodysplastic syndrome. Natsuko Yoshikawa, Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Naoya Morisada, Makiko Yoshida, Koji Nomura, Tomoko Fujikawa, Tamura Akihiro, Kentaro Ohki, Takao Deguchi, Nobutaka Kiyokawa, Manabu Wakamatsu, Hideki Muramatsu, Yoshiyuki Takahashi, and Yoshiyuki Kosaka. 第66回小児血液がん学会学術集会, 2024年12月

循環器内科

- ・フォンタン術後遠隔期にみられる multiple coronary artery microfistulaの臨床像. 田中敏克, 三木康暢, 城戸佐知子. 第25回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 2024年1月.
- ・遠位型 VSD の両大血管右室起始、上下心に対して小児期に二心室修復を行った成人例への再介入. 三木康暢, 城戸佐知子, 松久弘典, 田中敏克. 第25回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 2024年1月.
- ・「その時」のために何ができるか～最期の時を考える～. 城戸佐知子, 月城泰栄, 松本賢亮, 福田旭伸, 白井丈晶, 田中敏克, 三木康暢. 第25回日本成人先天性心疾患学会 総会・学術集会, 2024年1月.
- ・Coil塞栓術におけるEMBOLDの有用性について. 松岡道生, 田中敏克, 稲瀬広樹, 林谷俊和, 飯田智恵, 広田幸穂, 久保慎吾, 三木康暢, 亀井直哉, 城戸佐知子. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・閉鎖したfenestrationをRFwireを用いて開通し、肺静脈ステント留置術を施行したPVO合併Fontan術後無脾症の一例. 飯田智恵, 亀井直哉, 稲瀬広樹, 林谷俊和, 広田幸穂, 久保慎吾, 三木康暢, 松岡道生, 小川禎治, 城戸佐知子, 田中敏克. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・造影剤アナフィラキシーを起こした症例に対するガドリニウム造影剤の使用経験. 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子, 田中敏克. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・E型PDAに対するデバイス選択. 久保慎吾, 田中敏克, 三木康暢, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・ステアリングマイクロカテーテルを用いたreverse PA angiography. 田中敏克, 林谷俊和, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・ファイバードコイルの新たな立ち位置 – EmboldTM Fibered Coil –. 田中敏克, 松岡道生, 三木康暢, 久保慎吾. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・バルーン肺動脈形成術後にガイドワイヤーが抜去困難となったWilliams症候群の1例. 三木康暢, 田中敏克, 稲瀬広樹, 林谷俊和, 飯田智恵, 広田幸穂, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第34回日本先天性心疾患インターベンション学会学術集会, 2024年1月.
- ・術後覚醒時興奮後の急変を契機に発見されたhypoplastic coronary artery diseaseの男児例. 林谷俊和, 小川禎治, 上林仁志, 稲瀬広樹, 飯田智恵, 広田幸穂, 三木康暢, 久保慎吾, 松岡道生, 亀井直哉, 田中敏克, 美野陽一, 城戸佐知子. 第38回日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会, 2024年3月.
- ・Transcatheter Closure of Abnormal Vessels in Adult Congenital Heart Disease. Toshikatsu Tanaka. 第88回日本循環器学会学術集会, 2024年3月.
- ・移行後のフォローのポイント. 城戸佐知子. 第88回日本循環器学会学術集会, 2024年3月.
- ・経皮的バルーン大動脈弁形成術後に血栓による器質化をきたした、大動脈弁狭窄を合併した先天性左室憩室の一例. 田中敏克. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- ・心室中隔欠損(VSD)に合併した先天性肺静脈狭窄症(primary PVS)の1例. 林谷俊和. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月.
- ・PDA症例におけるカテーテル治療前後のQ派に関する検討. 田中敏克. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- ・右側大動脈弓に伴う血管輪の胎児診断症例の経過. 亀井直哉. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.

- 複数の造影剤に対してアナフィラキシーを起こし、造影剤の選択や血管造影において工夫を要した症例. 広田幸穂. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 小児の primary hyperadrenergic type の体位性頻脈症候群の臨床像. 小川禎治. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 経皮的バルーン大動脈弁形成術(PTAV)後遠隔期の弁形態. 稲瀬広樹. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 通常とは異なる治療戦略を要した先天性気管狭窄症(CTS)を合併した先天性心疾患の症例. 久保慎吾. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- フォンタン手術術後のノルアドレナリン使用と術後胸水の関連. 中井亮佑. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 総肺静脈還流異常修復術時に結紮しなかった垂直静脈の経過に関する検討. 林谷俊和. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 修復に至った純型肺動脈閉鎖症・重症肺動脈弁狭窄症患児の身体発達の推移. 三木康暢. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- CHD 患児(者)の発達過程における生活や健康課題. 城戸佐知子. 第60回日本小児循環器学会 総会・学術集会, 2024年7月.
- 身体にやさしい治療 カテーテル治療でここまで治る. 田中敏克. 全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部 医療相談会, 2024年9月.
- 偏食によるビタミンB1欠乏で高度の肺高血圧をきたした一例. 稲瀬広樹. 第293回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年9月.
- TAPVR術後、繰り返す肺動脈狭窄に対しシロリムス投与が有効であった一例. 渡邊望. 第31回阪神小児循環器疾患研究会, 2024年10月.
- 肺動脈絞扼術後に右心不全に至った心室中隔欠損・重複僧帽弁口の一例. 三木康暢, 田中敏克, 渡邊望, 伊藤啓太, 稲瀬広樹, 中井亮佑, 久保慎吾, 龜井直哉, 小川禎治, 城戸佐知子. 第33回日本小児心筋疾患学会 第43回日本小児循環動態研究会 合同学術集会, 2024年10月.
- 交感神経活性が低い起立時低心拍数の児に対するアメジニウムの有効性. 小川禎治. 第28回日本小児心電学会学術集会, 2024年11月.
- 感染性心内膜炎について. 三木康暢. 全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部 医療相談会, 2024年12月.
- Fontan pathway に右室が存在するPAIVS症例. 三木康暢. 第13回まほろばACHD談話会, 2024年12月.

腎臓内科

- Cystatin Cの測定が診断の契機となった原発性甲状腺機能低下症の一例. 西内徳子, 貝藤裕史, 稲熊洋祐, 矢谷和也, 広田幸穂, 松岡道生, 尾崎佳代, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年2月
- 特発性ネフローゼ症候群の経過中に顕微鏡的血尿を伴う蛋白尿を認めた一例. 矢谷和也, 貝藤裕史, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 吉川徳茂, 飯島一誠. 第60回近畿小児腎臓病研究会, 2024年3月
- 3歳児検尿を契機に発見されたシスチン尿症の1例. 志風友規, 貝藤裕史, 中村豊, 稲熊洋祐, 金奏希, 青山周平, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月
- Wernicke脳症を併発したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例. 矢谷和也, 貝藤裕史, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第59回日本小児腎臓病学会学術集会, 2024年6月

- Filamin-A の異常は多発性囊胞腎の原因になり得る. 稲熊洋祐, 貝藤裕史, 矢谷和也, 森貞直哉, 吉田牧子, 野津寛大, 中西浩一, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第59回日本小児腎臓病学会学術集会, 2024年6月
- 小児IgA腎症蛋白尿寛解症例における血尿残存に関する因子の検討. 島友子, 向山弘展, 田中侑, 島袋渡, 貝藤裕史, 田中亮二郎, 野津寛大, 飯島一誠, 徳原大介, 吉川徳茂, 中西浩一. 第59回日本小児腎臓病学会学術集会, 2024年6月
- 小児期に腎機能障害を呈する機能的片腎の特徴. 稲熊洋祐, 貝藤裕史, 矢谷和也, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第67回日本腎臓学会学術集会, 2024年6月
- レニン・アンジオテンシン系阻害薬が主因と考えられた低ナトリウム血症の一例. 貝藤裕史, 金奏希, 青山周平, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第45回日本小児体液研究会, 2024年8月
- Filamin-A の異常は多発性囊胞腎の原因になり得る. 稲熊洋祐, 貝藤裕史, 矢谷和也, 森貞直哉, 吉田牧子, 野津寛大, 中西浩一, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第54回日本腎臓学会西部学術集会, 2024年10月
- <シンポジウム>CAKUTと移行医療. 貝藤裕史. 第45回日本小児腎不全学会学術集会, 2024年12月
- 落差式排液による自動腹膜透析で在宅医療への移行が可能となったVATER症候群の一例. 金奏希, 貝藤裕史, 青山周平, 稲熊洋祐, 田中亮二郎, 飯島一誠. 第54回日本腎臓学会西部学術集会, 2024年10月

感染症内科

- 水野真介, 佐伯玲, 田中沙紀, 杉野充伸, 笠井正志. 緑膿菌性尿路感染症のリスク因子と治療に与える影響. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024年11月16日
- 水野真介, 大竹正悟, 日馬由貴, 伊藤雄介, 笠井正志. フィルムアレイ髄膜炎・脳炎パネルに関する多施設後方視的質問紙調査. 第98回日本感染症学会学術講演会, 2024年6月27日
- 大竹正悟, 中野哲志, 芝田明和, 笠井正志, 菅井基行. 小児侵襲性GBS感染症の臨床情報および分子疫学解析: 小児におけるB群連鎖球菌感染症ナショナルサーベイランス中間報告. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024年11月16日
- 大竹正悟, 岡田怜, 直井勇人, 橋智靖, 久呉真章, 神吉直宙, 深澤元晴, 笠井正志. 休日・夜間急病センター耳鼻咽喉科における小児への経口第3世代セフェム系抗菌薬の処方動向, 2015-2023年. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月19日
- 山本寛子, 徳田央士, 松野下夏樹, 竹中佳奈栄, 富永健太, 川崎圭一郎, 水野真介, 杉野充伸, 笠井正志. 膽炎症状の先行を認めなかった臍動脈索の炎症性偽腫瘍の一例. 第56回日本小児感染症学会, 2024年11月16日
- 杉野充伸, 佐伯玲, 田中沙紀, 水野真介, 笠井正志. 過去8年に当院で経験したStreptococcus anginosus groupによる侵襲性感染症の臨床像について. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2024年11月16日
- 杉野充伸. クリニックにおけるAMR対策. 第33回日本外来小児科学会年次集会 - 第7回小児AMR対策セミナー. 2024年9月8日
- 佐伯玲, 水野真介, 田中沙紀, 杉野充伸, 笠井正志. 小児用血液培養ボトルの直接塗抹所見で非典型な像を呈し、腹腔内感染症との鑑別を要した栄養要求性連鎖球菌による感染性心内膜炎の一例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2024年11月16日
- 田中沙紀, 水野真介, 佐伯玲, 杉野充伸, 笠井正志. 当院のKlebsiella pneumoniaeにおけるESBL産生菌の割合の急激な増加とその特徴について. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2024年11月16日
- 浦田啓陽, 杉野充伸, 水野真介, 笠井正志. 市中発症侵襲性黄色ブドウ球菌感染症の臨床像と微生物学的

特徴. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024年11月16日

- ・浦田啓陽, 杉野充伸, 水野真介, 笠井正志. 当院における過去5年間の化膿性骨髄炎のまとめ. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024年11月16日
- ・岡田怜, 水野真介, 杉野充伸, 長谷川智大, 阿久津宣行, 西山敦史, 笠井正志. 薬剤性肝障害のためリネゾリドとレボフロキサシンで初期治療を行った結核性髄膜炎の1歳児例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024年11月16日

臨床遺伝科

- ・森貞直哉. The roles of Clinical Geneticists in pediatrics. 第69回日本人類遺伝学会(オンデマンド)
- ・長野智那, 森貞直哉, 猪野木雄太, 田中悠, 上田知佳, 北角英晶, 榊原菜々, 堀之内智子, 山村智彦, 石森真吾, 野津寛大. Pathogenic variants in ADTKD-MUC1 can be detected using short read sequencing data. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・森貞直哉, 田中悠, 岡田絵里, 長野智那, 堀之内智子, 野津寛大. Clinical features of autosomal dominant tubulointerstitial kidney disease in Japan. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・谷口真紀, 洪本加奈, 西尾周郎, 石田敏章, 長谷川大一郎, 野津寛大, 森貞直哉. Genetic counseling for brothers and the family diagnosed with X-linked lymphoproliferative syndrome. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・長坂美和子, 四本由郁, 花房宏昭, 森貞直哉, 野津寛大, 玉置知子. A Case of Lethal Multiple Pterygium Syndrome with Compound Heterozygous Variants in the CHAT Gene. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・洪本加奈, 谷口真紀, 野津寛大, 森貞直哉. Five cases experiences for presymptomatic genetic testing for children. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・階堂三砂子, 高橋しゅんすけ, 森貞直哉, 上田宏達, 宮田ゆかり, 好井理世, 野津寛大. Case of autosomal recessive polycystic kidney disease followed up for a long period as portal hypertension. 第69回日本人類遺伝学会, 2024.10.9-12
- ・西尾周郎, 石田敏章, 森貞直哉, 田中裕介, 植村光太郎, 友政弾, 萩原秀俊, 植村優, 兵頭さやか, 斎藤敦郎, 神前愛子, 岸本健治, 森健, 森谷邦彦, 野津寛大, 今井耕輔, 金兼弘和, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 兄弟でのリンパ腫発症を契機に判明したX連鎖リンパ増殖症候群. 第86回日本血液学会学術集会, 2024.10.11-13
- ・稻熊洋祐, 貝藤裕史, 森貞直哉, 吉田牧子, 野津寛大, 田中亮二郎, 飯島一誠. Filamin-Aの異常は多発性囊胞腎の原因になり得る. 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024.10.5-6
- ・大庭悠貴, 澤直樹, 関根章成, 山内真之, 諏訪部達也, 河野圭, 大橋健一, 森貞直哉, 野津寛大, 山口裕, 乳原善文. GREB1L遺伝子変異による新たな臨床病型と腎病理所見. 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024.9.28-29
- ・羽根彩華, 栗原重和, 大庭悠貴, 山内真之, 諏訪部達也, 河野圭, 大橋健一, 森貞直哉, 野津寛大, 乳原善文, 澤直樹. 20歳で診断された高度腎機能障害を呈したADTKD-UMODの女性症例. 第54回日本腎臓学会西部学術大会, 2024.9.28-29
- ・尾崎佳代, 西藤知城, 柏坂舞, 池谷紀衣子, 松本真明, 坊亮輔, 山本茜, 小林弘典, 森貞直哉. 多施設が出生前より連携をとり、遺伝学的検査結果判明前の管理を安全に行えた全身性カルニチン欠損症次子例. 第51回日本マス・スクリーニング学会学術集会, 2024.8.23-24

- ・二川弘司, 伊藤志帆, 洪本加奈, 福田憲太郎, 稲葉美枝, 武田良淳, 村松友佳子, 石川亜貴, 星野陽子, 森貞直哉, 吉橋博史. 小児遺伝医療連携を用いた希少疾患診断後の患児・家族に対する包括的支援体制構築の試み. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2024.8.2-4
- ・洪本加奈, 西藤知城, 柏坂舞, 尾崎佳代, 森貞直哉. McCune-Albright症候群患児の両親の心情と認定遺伝カウンセラーの関与 グラフ化とインタビューによる質的研究. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2024.8.2-4
- ・高田風, 大崎啓介, 林田珠奈, 桂健介, 堀川聖之輔, 福田結以, 三島奈都美, 伊藤誠二, 原重雄, 森貞直哉, 野津寛大, 吉本明弘. 当院におけるAlport症候群/菲薄基底膜病に対する腎生検, 遺伝子検査の活用. 第67回日本腎臓学会学術集会, 2024.6.28-30
- ・青砥悠哉, 藤井秀毅, 丸山順裕, 兵頭俊紀, 森貞直哉, 原重雄, 野津寛大. 免疫蛍光染色によるADTKD-MUC1診断法の確立. 第67回日本腎臓学会学術集会, 2024.6.28-30
- ・田中悠, 森貞直哉, 岡田絵里, 長岡由修, 堀之内智子, 野津寛大. 遺伝学的に診断された常染色体顕性尿細管間質性腎疾患の臨床像. 第67回日本腎臓学会学術集会, 2024.6.28-30
- ・森貞直哉. 多職種でみる遺伝性腎疾患 遺伝性腎疾患診療の実際. 第67回日本腎臓学会学術集会, 2024.6.28-30
- ・青砥悠哉, 藤井秀毅, 丸山順裕, 兵頭俊紀, 市川裕太, 田中悠, 北角英晶, 近藤淳, 榊原菜々, 長野智那, 堀之内智子, 森貞直哉, 原重雄, 野津寛大. 免疫蛍光染色によるADTKD-MUC1診断法の確立. 第59回日本小児腎臓病学会, 2024.6.7-8
- ・友利伸也, 白井陽子, 三浦健一郎, 安藤太郎, 中谷諒, 石塚喜世伸, 加藤彩, 橋本多恵子, 羽田伊知郎, 倉山亮太, 森貞直哉, 野津寛大, 服部元史. UMOD遺伝子のde novoバリアントを認め、慢性腎臓病Stage 4を呈した常染色体顕性遺伝性尿細管間質性腎疾患の7歳女児例. 第59回日本小児腎臓病学会, 2024.6.7-8
- ・稻熊洋祐, 貝藤裕史, 矢谷和也, 森貞直哉, 吉田牧子, 野津寛大, 中西浩一, 田中亮二郎, 飯島一誠. Filamin-Aの異常は多発性囊胞腎の原因になり得る. 第59回日本小児腎臓病学会, 2024.6.7-8
- ・長野智那, 森貞直哉, 猪野木雄太, 市川裕太, 田中悠, 上田知佳, 北角英晶, 近藤淳, 榊原菜々, 堀之内智子, 野津寛大. ショートリードシークエンス解析データを用いたADTKD-MUC1における病的バリアント検出の試み. 第59回日本小児腎臓病学会, 2024.6.7-8
- ・松井銳, 黒澤寛史, 花房宏昭, 洪本加奈, 坊亮輔, 森貞直哉, 吉田牧子, 田中亮二郎, 野津寛大, 飯島一誠. 小児心停止症例に対する遺伝学的診断(Genetic autopsy)システムの構築. 第127回日本小児科学会, 2024.4.19-21
- ・野崎晴花, 榊原菜々, 猪野木雄太, 市川裕太, 田中悠, 北角英晶, 上田知佳, 近藤淳, 長野智那, 堀之内智子, 森貞直哉, 野津寛大. 全エクソーム解析およびmRNA解析により診断に至ったAl-Raqad症候群の1例. 第127回日本小児科学会, 2024.4.19-21

精神科

- ・小児退形成性上衣腫の認知機能検査の症例報告. 沖村心, 河村淳史, 弓場洋之, 佐藤聰美, 瀧本哲也, 大六一志. 第52回日本小児神経外科学会, 2024年6月.

小児外科

- ・門脈体循環シャントを有する総肺静脈還流異常・無脾症を合併した総排泄腔遺残症の1例. 村上紫津, 植松綾乃, 吉永駿, 福井慶介, 植村光太郎, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 広田幸穂, 久保慎吾, 田中敏克,

- 横井暁子, 畠山理. 第37回日本小児脾臓・門脈研究会, 2024年3月.
- ・外科医の勤務実態調査. 横井暁子. 第124回日本外科学会定期学術集会. 2024年4月.
 - ・先天性心疾患による低酸素状態は食道吻合に影響を及ぼすのか? 久松千恵子, 吉永駿, 福井慶介, 植村光太郎, 村上紫津, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024年5月.
 - ・Hirschsprung病に対する経肛門的pull throughにおける腹腔鏡補助の必要性について. 中谷太一, 吉永駿, 植松綾乃, 福井慶介, 植村光太郎, 村上紫津, 竹内雄毅, 森田圭一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第61回日本小児外科学会総会, 2024年5月
 - ・急激な転帰を辿った年長児Hirschsprung病類縁疾患の2例. 福井慶介, 森田圭一, 竹内雄毅, 吉永駿, 植松綾乃, 植村光太郎, 村上紫津, 中谷太一, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第61回日本小児外科学会総会, 2024年5月
 - ・先天性心疾患に合併する先天性気管狭窄症の治療戦略. 森田圭一, 松久弘典, 田中敏克, 黒澤寛史. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
 - ・当院における腹腔鏡下噴門形成術の術式選択と治療成績. 吉村翔平, 佐々木航, 植松綾乃, 植村光太郎, 福井慶介, 富岡雄一郎, 森田圭一, 村上紫津, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第13回関西小児内視鏡外科研究会, 2024年7月.
 - ・無脾症候群に伴う胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃固定術を施行した2例. 植松綾乃, 森田圭一, 佐々木航, 吉村翔平, 植村光太郎, 福井慶介, 富岡雄一郎, 村上紫津, 久松千恵子, 横井暁子, 畠山理. 第60回日本小児外科学会近畿地方会. 2024年8月.
 - ・小腸閉鎖症とHirschsprung病を併発していた1例. 植村光太郎, 久松千恵子, 吉永駿, 福井慶介, 村上紫津, 中谷太一, 竹内雄毅, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理. 第60回日本小児外科学会近畿地方会. 2024年8月.
 - ・Impact of congenital heart disease on esophageal anastomosis in children with esophageal atresia. Chieko Hisamatsu, Wataru Sasaki, Ayano Uematsu, Shohei Yoshimura, Keisuke Fukui, Kotaro Uemura, Yuichiro Tomioka, Shizu Murakami, Keiichi Morita, Akiko Yokoi, Tadashi Hatakeyama. 37th International Symposium on Pediatric Surgical Research, 2024年9月.
 - ・回収バッグに入らない…脾臓摘出に難渋した2例. 佐々木航, 久松千恵子, 植松綾乃, 吉村翔平, 植村光太郎, 福井慶介, 富岡雄一郎, 森田圭一, 村上紫津, 横井暁子, 畠山理. 第90回小児外科わからん会. 2024年9月.
 - ・性的虐待により発症した尖圭コンジローマの幼児例. 久松千恵子, 吉村翔平, 木原智子, 吉田牧子, 関口典子, 坂本郁子, 畠山理. 第34回日本小児外科QOL研究会, 2024年10月.
 - ・当院における出生前診断された先天性囊胞性肺疾患の臨床経過の検討. 吉村 翔平, 久松 千恵子, 佐々木航, 植松 綾乃, 植村 光太郎, 福井 慶介, 富岡 雄一郎, 森田 圭一, 村上 紫津, 横井 暁子, 畠山 理. 第34回日本小児呼吸器外科研究会, 2024年10月.
 - ・出会った症例を大切に – 臨床現場における自考の勧め -. 久松千恵子. 第40回日本小児外科秋季シンポジウム, 2024年10月.
 - ・胸腔鏡下大動脈固定術を行った気管支軟化症の1例. 森田圭一, 植村光太郎, 福井慶介, 畠山理. 第37回日本内視鏡外科学会総会, 2024年12月.
 - ・気管切開を行なった上咽頭原発横紋筋肉腫症例に対するスピーチカニューレとスピーチバルブの使用. 久松千恵子, 福井慶介, 村上紫津, 森田圭一, 横井暁子, 畠山理, 川場大輔, 兵頭さやか, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会, 2024年12月.

- 当院での縦隔腫瘍に対するエコーバイド下経皮的針生検の経験. 福井慶介, 森田圭一, 佐々木航, 植松綾乃, 吉村翔平, 植村光太郎, 富岡雄一郎, 村上紫津, 久松千恵子, 横井暁子, 岌山理, 長谷川大一郎. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会, 2024年12月.

心臓血管外科

- 位相差X線CT法を用いた複雑心奇形の Myocardial Fiber Orientation 解析. 松島峻介. 第8回兵庫県立こども病院-理化学研究所 生命機能科学研究センター ジョイントシンポジウム, 2024年1月.
- 無脾症候群合併総肺静脈還流異常に対する治療成績. 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 久保沙羅, 高橋亮太, 大嶋義博. 第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月.
- 先天性領域の大動脈弁形成 幾何学的評価に基づく大動脈弁形成の小児領域への応用. 松島峻介, 松久弘典, 高橋亮太, 久保沙羅, 東田昭彦, 大嶋義博. 第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月. 第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月.
- Apicocaval juxtapositionに対する適切なフォンタン経路選択. 東田昭彦, 久保沙羅, 松島峻介, 日隈智憲, 松久弘典, 大嶋義博.
- TPVI時代の右室流出路再建 大口径3弁付き右室-肺動脈ePTFE導管の中期・遠隔期成績. 高橋亮太, 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 松久弘典, 大嶋義博. 第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月.
- Norwood手術における再建大動脈弓の幾何学的解析. 久保沙羅, 松島峻介, 高橋亮太, 東田昭彦, 日隈智憲, 大嶋義博, 松久弘典. 第54回日本心臓血管外科学会学術総会, 2024年2月.
- 小児期房室弁形成に対するPatch augmentationの経験. 松島峻介, 松久弘典, 久保沙羅, 東田昭彦, 大嶋義博. 第38回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2024年3月.
- AVR術後遠隔期に冠動脈口再開通を認めたASR右冠動脈入口部閉鎖の1例. 久保沙羅, 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 大嶋義博. 第38回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会, 2024年3月.
- 気道軟化を伴った右肺無形成、肺内肺動脈狭窄、両大血管右室起始症の1例. 東田昭彦, 久保沙羅, 松島峻介, 大嶋義博, 松久弘典. 第38回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会. 2024年3月.
- Lifelong Lead Management in Pediatric Patients: Preserving Pacing Site and Ventricular Function. 松久弘典. 第88回日本循環器学会学術集会, 2024年3月.
- 完全型房室中隔欠損修復術の長期成績と問題点. 松久弘典. 第124回日本外科学会学術集会, 2024年4月
- 模擬循環回路とレーザー照射による血流可視化を用いた大動脈弁および小口径弁付き右室-肺動脈導管の流体工学的解析. 松島峻介. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024年4月.
- Expanded Polytetrafluoroethylene Conduits with a Hand-Sewn Tricuspid Valve for Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction. Shunsuke Matsushima, Ryota Takahashi, Sara Kubo, Akihiko Higashida, Yoshihiro Oshima, and Hironori Matsuhisa. AATS 104th Annual Meeting, 2024年4月.
- 総肺静脈還流異常症修復術後の肺静脈狭窄に対する治療戦略. 東田昭彦, 松久弘典, 久保沙羅, 松島峻介, 大嶋義博. 第67回関西胸部外科学会学術集会, 2024年6月.
- 小児期での異型鎖骨下動脈に対する積極的介入. 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 大嶋義博, 松久弘典. 第67回関西胸部外科学会学術集会, 2024年6月.
- 広範囲の気道軟化を伴う右肺無形成, DORV{SDL}, 肺内肺動脈狭窄に対するDKS-Rastelli+肺内肺動脈形成術. 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 大嶋義博, 松久弘典. 第67回関西胸部外科学会学術集会, 2024年6月.
- 安井手術時の右室流出路前方V字再建とその後の導管置換. 松島峻介, 岡田翼, 久保沙羅, 東田明彦, 松

久弘典. 第76回神戸心臓外科学会, 2024年6月.

- ・小児心臓血管外科医生涯育成プログラムを開始して. 松久弘典, 平野暁教, 犬塚亮, 小谷恭弘, 小田晋一郎, 本宮久之, 伊藤貴弘, 落合由恵, 瀧間淨宏, 中野俊秀. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・総肺静脈還流異常症を有する機能的単心室に房室弁逆流が与える影響. 東田昭彦, 松久弘典, 久保沙羅, 松島峻介, 大嶋義博. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・先天性気管狭窄を合併したチアノーゼ性心疾患への取り組み. 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 久保沙羅, 久保慎吾, 田中敏克, 青木一憲, 森田圭一. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・安全かつ再介入低減を目指したshunt手術における治療戦略. 久保沙羅, 松島峻介, 東田昭彦, 大嶋義博, 松久弘典. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・Ross手術の再考. 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 大嶋義博, 松久弘典. 第60回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・弁逆流を伴うRastelli A型に対するpatch augmentation法の工夫. 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第5回CHSS Japan手術手技研究会, 2024年7月.
- ・側開胸での安全なASD閉鎖術. 松島峻介. 第10回小児循環器学会外科系教育セミナー, 2024年7月.
- ・境界型左室低形成に対する個別戦略. 松久弘典, 松島峻介, 東田昭彦, 久保沙羅, 岡田翼. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・小児冠動脈パッチ形成術の中期成績. 東田昭彦, 松久弘典, 岡田翼, 久保沙羅, 松島峻介, 大嶋義博. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・Norwood術後の左肺動脈狭窄に対するaortic extensionを併用した肺動脈形成術. 久保沙羅, 松島峻介, 岡田翼, 東田昭彦, 松久弘典. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・気管支軟化を伴う両大血管右室起始症(S, D, L, doubly committed VSD)に対してDKS-Rastelli手術を施行した1例. 久保沙羅, 東田昭彦, 松島峻介, 大嶋義博, 松久弘典. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・肺動脈分岐部狭窄に対するMain pulmonary artery translocationを用いた肺動脈形成. 松島峻介, 岡田翼, 久保沙羅, 東田昭彦, 松久弘典. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・小児期房室弁形成におけるパッチ補填術の功罪. 岡田翼, 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 松久弘典. 第77回日本胸部外科学会定期学術集会, 2024年11月.
- ・IEに対し suture annuloplastyを伴うRoss手術を要した1例. 岡田翼, 松島峻介, 久保沙羅, 東田昭彦, 岩城隆馬, 松久弘典. 第77回神戸心臓外科学会, 2024年11月

脳神経外科

- ・再発小児後頭蓋窩上衣腫治療におけるガンマナイフ治療. 小山淳二, 近藤威, 阿久津宣行, 河村淳史. 第52回日本小児神経外科学会学術集会, 2024年6月
- ・矢状縫合早期癒合症に対する治療戦略と課題. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第52回日本小児神経外科学会学術集会, 2024年6月
- ・小児脳腫瘍に対する陽子線治療後の画像変化. 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 新田修幹, 岡村優介. 第52回日本小児神経外科学会学術集会, 2024年6月
- ・小児退形成上衣種の認知機能検査の症例報告. 沖村心, 河村淳史, 弓場洋之, 佐藤聰美, 瀧本哲也, 大六一志. 第52回日本小児神経外科学会学術集会, 2024年6月

- ・頭蓋形成手技における吸収性プレート活用と使用上のピットフォール(ランチョンセミナー). 小山淳二. 日本脳神経外科学会 第52回日本小児神経外科学会学術集会, 2024年6月
- ・日本における位置的頭蓋変形の有病率と重症度の検討. 阿久津宣行. 第9回頭蓋形状矯正療法研究会, 2024年6月
- ・頭位性斜頭と片側ラムダ縫合早期癒合症の鑑別. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 第20回craniosynostosis研究会, 2024年6月
- ・Collagen matrix duraplasty in posterior fossa decompression for pediatric Chiari Type 1 malformation: surgical technique and postoperative complications. 小山淳二, 阿久津宣行, 河村淳史. 50th Annual Meeting of International Society for Pediatric Neurosurgery, 2024年10月
- ・日本における頭位性斜頭の有病率と重症度の検討. 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史. 日本脳神経外科学会第83回学術集会, 2024年10月
- ・小児症例を扱う事が出来る脳神経外科医の育成. 河村淳史, 小山淳二, 阿久津宣行, 金永珠, 香川裕哉, 後藤大輝. 第41回日本こども病院神経外科医会研修会, 2024年11月
- ・髓芽腫摘出術後に髄液漏をきたし、二度の修復術で閉鎖が得られた一例. 後藤大輝, 阿久津宣行, 金永珠, 香川裕哉, 小山淳二, 河村淳史. 第41回日本こども病院神経外科医会研修会, 2024年11月
- ・上位頸髄脊髄辺縁動脈瘻に対して生後75日目に直達流入血管遮断術を施行し前脊髄動脈を温存し得た一例. 金永珠, 小山淳二, 阿久津宣行, 後藤大輝, 河村淳史. 第41回日本こども病院神経外科医会研修会, 2024年11月

整形外科

- ・小児整形外科 ここだけは押さえたい. 小林大介. 第142回中部日本整形外科災害外科学術集会, 2024年4月
- ・発育性股関節形成不全. 小林大介. 岡山大学整形外科桃整会夏季セミナー, 2024年8月
- ・整形外科：側弯・脊椎変形. 坂田亮介. 第41回日本二分脊椎研究会, 2024年7月.
- ・小児股関節疾患あれこれ ゆりかごから移行期まで. 坂田亮介. 第173回神戸地区症例検討会. 2024年9月.
- ・小児整形救急概論. 坂田亮介. 令和5年度日本スポーツ看護学会, 2024年.
- ・慢性再発性・多発性骨髓炎の一例. 坂田亮介, 衣笠真紀, 北村仁美, 有本章彦. 第143回中部日本整形外科災害外科学会, 2024年10月.
- ・(重症型を除く)安定型大腿骨頭すべり症に対するin-situ screw fixationの治療成績. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第63回日本小児股関節研究会, 2024年6月.
- ・小児股関節疾患における遺残変形と移行期医療. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第51回日本股関節学会. 2024年10月.
- ・Ponseti法による先天性内反足治療後の距骨変形の後方視的検討. 坂田亮介, 小林大介, 衣笠真紀, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第35回日本小児整形外科学会. 2024年12月.
- ・ムコ多糖類(モルキオ症候群)の早期診断に至った1例. 衣笠真紀, 薩摩真一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉, 宮島明博. 第71回近畿小児整形外科懇話会, 2024年1月.
- ・ディープラーニングによる発育性股関節形成不全の超音波画像診断. 衣笠真紀, 薩摩真一, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 河本和泉. 第63回日本小児股関節研究会, 2024年6月.
- ・整形外科における女性医師たちの過去、現在、未来. 衣笠真紀, 坂田亮介, 北村仁美. 第149回中部日本整形外科災害外科学会, 2024年10月.

- 先天性内反足に対するPonseti法の治療成績－15年以上経過した症例の検討－. 衣笠真紀, 坂田亮介, 北村仁美. 第49回日本足の外科学会学術集会, 2024年11月.
- 特発性若年性骨粗鬆症が疑われ、X連鎖性骨粗鬆症と診断された1例. 衣笠真紀, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 北村仁美, 有本章彦. 第36回日本整形外科学会骨系統疾患研究会, 2024年12月.
- 原発性骨・軟部腫瘍患者のADL、QOL向上への取り組み：日整会骨・軟部腫瘍登録データによる線維性骨異形成の診療実態調査. 森下雅之, 小林大介, 生越章, 城戸顯, 武内章彦, 松本和, 渡辺航太, 古川洋志, 小関道夫, 川井章, 西田佳弘. 第97回日本整形外科学会学術総会, 2024年5月
- 小児固形がんによる股関節周囲骨関連事象の実態調査. 森下雅之, 小林大介, 宮島明博, 河本和泉, 衣笠真紀, 坂田亮介, 薩摩眞一. 第63回日本小児股関節研究会, 2024年6月
- 肩軟部腫瘍の1例. 森下雅之, 吉田牧子, 岸本健治. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024年7月
- 小児固形がん骨転移の実態調査. 森下雅之, 山本茜, 有本章彦, 衣笠真紀, 坂田亮介, 小林大介. 第35回日本小児整形外科学会学術集会, 2024年12月
- 両股関節亜脱臼を認めるCharcot-Marie-Tooth病の一例. 北村仁美, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 森下雅之, 薩摩眞一. 第63回日本小児股関節研究会, 2024年6月.
- 臨床的に安定型を呈した不安定型大腿骨頭すべり症の一例. 北村仁美, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀. 第51回日本股関節学会, 2024年10月.
- 外反扁平足に対する外側支柱延長術の治療成績. 北村仁美, 衣笠真紀, 坂田亮介. 第49回日本足の外科学会学術集会, 2024年11月.
- Ponseti法における直視下アキレス腱切腱術の検討. 北村仁美, 衣笠真紀, 坂田亮介, 森下雅之, 有本章彦, 山本茜, 小林大介. 第35回日本小児整形外科学会, 2024年12月.
- 臨床的に安定型を呈した不安定型大腿骨頭すべり症の一例. 有本章彦, 北村仁美, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 森下雅之, 山本茜. 第72回近畿小児整形外科懇話会, 2024年7月.
- 長管骨の単純性骨囊胞に対してESINを用いて手術加療を施行した2例. 有本章彦, 山本茜, 北村仁美, 衣笠真紀, 坂田亮介. 第143回中部日本整形外科災害外科学会, 2024年10月.
- ムコ多糖症(モルキオ症候群)の早期診断に至った1例. 有本章彦, 衣笠真紀, 小林大介, 坂田亮介, 森下雅之, 北村仁美, 山本茜, 尾崎佳代, 森貞直哉. 第36回日本整形外科学会骨系統疾患研究会, 2024年12月.
- Tibialis spastic varus foot(TSVF)の2例. 山本茜, 森下雅之, 小林大介, 坂田亮介, 衣笠真紀, 北村仁美, 有本章彦. 第72回近畿小児整形外科懇話会, 2024年7月.
- 13歳男児に生じた足部内反変形の一例. 山本茜, 森下雅之, 有本章彦, 衣笠真紀, 北村仁美, 坂田亮介, 小林大介. 第174回神戸地区症例検討会, 2025年3月.
- Madelung変形に対し手術加療を施行した1例. 河本和泉, 宮島明博, 森下雅之, 衣笠真紀, 坂田亮介, 小林大介, 薩摩眞一. 第71回近畿小児整形外科懇話会, 2024年1月.

眼科

- 眼窩内デスマヨイド型線維腫症による内下斜視に対し斜視手術を施行した1例. 牧仁美, 野村耕治, 河原佳奈, 土橋一生, 豊國秀昭. 第49回日本小児眼科学会総会, 2024年6月
- 網膜芽細胞腫との鑑別を要した結節性硬化症の乳児の1例. 豊國秀昭, 野村耕治, 牧仁美, 河原佳奈, 土橋一生. 第49回日本小児眼科学会総会, 2024年6月

耳鼻咽喉科

- ・経口胃管抜去前後の吸啜圧変化を測定した超低出生体重児の1例. 小松岳, 岩谷壯太, 芳本誠司, 大津雅秀, 永井崇恵, 古川竜也, 丹生健一. 第47回日本嚥下医学会総会学術講演会, 新潟市, 2024.2.9-10
- ・新生児聴覚スクリーニングと先天性サイトメガロウイルス感染症. 大津雅秀. COE大阪, 大阪市, 2024.6.9
- ・学校保健関係者に知っておいて欲しい耳鼻咽喉科疾患. 大津雅秀. 加古川市学校保健会総会, 加古川市, 2024.6.20
- ・兵庫県内の補聴器診療の現状. 大津雅秀, 李進隆. 第202回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会兵庫県地方部会 総会 学術講演会, 2024年07月07日
- ・兵庫県の補聴器診療の状況. 大津雅秀, 李進隆. 第69回日本聴覚医学会総会学術講演会, 2024年10月24日
- ・科学×医学!? 新感覚サイエンスショー. 佐伯恵太, 大津雅秀. 神戸医療産業都市推進機構 一般公開 2024, 2024.11.02
- ・兵庫県補聴器活用調査事業(第3報). 李進隆, 大津雅秀. 第203回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 兵庫県地方部会学術講演会, 西宮市, 2024年12月15日
- ・学校健診を契機に診断された一側性難聴症例の検討. 勝沼紗矢香, 大津雅秀. 第19回小児耳鼻咽喉科学会 総会・学術講演会, 2024年7月.

泌尿器科

- ・排尿機能・消化管機能に配慮した治療戦略 1)低位総排泄腔遺残症(固有尿道1.0cm以上)に対して「推奨される術前管理・根治術及びその後」. 杉多良文. 第2回総排泄腔異常シンポジウム, 2024年3月.
- ・膀胱腫瘍を合併した総排泄腔遺残の1例. 豊永都樹, 神野雅, 春名晶子, 杉多良文, 竹内雄毅, 森田圭一, 島山理. 第2回総排泄腔異常シンポジウム, 2024年3月.
- ・腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術の要点と盲点. 杉多良文. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024年5月.
- ・『小児泌尿器科疾患治療後の性機能・生殖機能』総排泄腔疾患患者の性機能・生殖機能. 杉多良文. 日本アンドロロジー学会 第43回学術大会, 2024年6月.
- ・『異所性尿管・尿管瘤』(小児泌尿器科教育セミナー). 杉多良文. 第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・総排泄腔外反症・膀胱外反症に対して尿路変向術を行った長期観察例の検討. 杉多良文. 第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・総排泄腔遺残に対し skin flap vaginoplasty を行った児の排尿機能の検討. 春名晶子, 楠瀬正史, 植松陸, 杉多良文. 第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・両側サンゴ状結石に対してECIRS(Endoscopic combined intrarenal surgery)を行った1例. 植松陸, 杉多良文, 春名晶子, 楠瀬正史. 第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・先天性陰茎捻転に対して片側の側方剥離を追加することで是正を得られた4例. 植松陸, 杉多良文, 春名晶子, 楠瀬正史. 第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 2024年7月.
- ・日本専門医機構泌尿器科専門医卒後教育セミナー 小児神経因性膀胱に対する診断・治療の基本. 杉多良文. 第31回日本排尿機能学会, 2024年9月.
- ・総排泄腔遺残に対する逆U字皮膚弁による腫形成術後の排尿機能. 杉多良文. 第31回日本排尿機能学会, 2024年9月.
- ・重複膀胱の1例. 春名晶子, 楠瀬正史, 植松陸, 杉多良文. 第74回日本泌尿器科学会中部総会, 2024年11月

- 両側サンゴ状結石に対してECIRS(Endoscopic combined intrarenal surgery)を行った1例. 植松陸, 杉多良文, 春名晶子, 楠瀬正史. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2024年11月

麻酔科

- ケースカンファレンス 先天性心疾患を合併した側弯症の麻酔. 藤原孝志. 日本小児麻酔学会教育セミナー, 2024年2月.
- 小児区域麻酔: よりよい術後痛管理につなげるために. 香川哲郎. 第71回日本麻酔科学会, 2024年6月.
- Anesthesia experience for giant sacrococcygeal teratoma resection in a newborn at 28 weeks of gestation. Takashi Fujiwara, Saeko Takatsuji, Tetsuro Kagawa. 20th Asian Society of Paediatric Anaesthesiologists Conference, 2024年7月.
- 在胎28週で出生した児に対する巨大仙尾部奇形腫切除術の麻酔経験. 穂慧麗, 藤原孝志, 高辻小枝子. 第29回日本小児麻酔学会, 2024年8月.
- パネルディスカッション1 小児専門病院でのPACUの使い方. 藤原孝志. 第29回日本小児麻酔学会, 2024年8月.
- 術前ルーチン検査は必要ですか? 血算・生化・止血凝固について: 当院での術前検査適正化に向けた取り組み. 末田彩. 第29回日本小児麻酔学会, 2024年9月.
- Nuss手術に対して術者による肋間神経への高周波熱凝固法により鎮痛を行った症例. 南遼平, 香川哲郎. 第29回日本小児麻酔学会, 2024年9月.
- Norwood手術における人工心肺回路への新鮮凍結血漿投与の影響: 単施後方視観察研究. 秋丸慎太郎, 藤原孝志. 第29回日本心臓血管麻酔学会学術大会, 2024年9月.

新生児内科

- Serum IL-6 levels predict risk of postoperative systemic inflammatory response syndrome in newborns with congenital diaphragmatic hernia. Takao Kobayashi, Sota Iwatani, Seiji Yoshimoto. Pediatric Academic Society meeting (Toronto, Canada), 2024.5.
- Human post-implantation blastocyst-like characteristics of non-tumorigenic mouse cells isolated from human umbilical cord. Yoshihiro Kushida, Yo Oguma, Kana Abe, Taichi Deguchi, Federico Girolamo Barbera, Noriyuki Nishimura, Kazumichi Fujioka, Sota Iwatani, Mari Dezawa. ISSCR 2024 (Hamburg, Germany), 2024.7.
- Early changes of serum IL-6 levels in extremely premature newborns for detecting fetal inflammation. Sota Iwatani, Takao Kobayashi. The 1st Annual Meeting of Japanese Cytokine Society (Sapporo, Japan), 2024.7.
- Postnatal changes in human serum albumin levels in preterm infants. Toshihiko Ikuta, Sota Iwatani, Emiko Takeoka, Shoko Tamaki, Sachiko Matsui, Hitomi Mimura, Seiji Yoshimoto. FAOPS 2024 (Seoul, Korea), 2024.9.
- Serum interleukin-6 levels predict risk of postoperative systemic inflammatory response syndrome in newborns with congenital diaphragmatic hernia. Takao Kobayashi, Sota Iwatani, Toshihiko Ikuta, Seiji Yoshimoto. FAOPS 2024 (Seoul, Korea), 2024.9.
- Light-induced Rapid Measurement of Inflammation Marker Protein over Wide Concentration Range Mediated by Microflow. Kosei Takemori, Yumiko Takagi, Mami Katsumatab, Masatoshi Kanodaa,

Kota Hayashib, Mamoru Tamura, Ikuhiko Nakase, Shiho Tokonami, Takao Kobayashi, Sota Iwatani, Masaaki Murakamif, Takuya Iida. 50th International Micro and Nano Engineering Conference (Montpellier, France), 2024.9.

- Postnatal changes in human serum albumin levels in preterm infants. Toshihiko Ikuta, Sota Iwatani, Emiko Takeoka, Shoko Tamaki, Sachiko Matsui, Hitomi Mimura, Seiji Yoshimoto. The 6th Korea-Japan-Taiwan Joint Congress on Neonatology (Matsumoto, Japan), 2024.11.
- 退院後にWolf-Parkinson-White症候群の診断に至った高度な頻脈による胎児水腫の一例. 當間香南子, 後藤弘樹, 宇保早希子, 西牧良, 中山栗太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 岩谷壮太, 三村仁美, 上田雅章, 芳本誠司. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会(西宮), 2024年2月.
- 消化管疾患既往の症例に対するロタウイルスワクチン接種の現状 –三次周産期医療センターでの検討. 松島愛香, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会(西宮), 2024年2月.
- 胎児水腫進行のために在胎28週で出生した巨大仙骨部奇形腫の救命例. 中山栗太, 岩谷壮太, 松島愛香, 西牧良, 宇保早希子, 後藤弘樹, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 植村光太郎, 森田圭一, 藤原孝志, 高辻小枝子, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 第291回日本小児科学会兵庫県地方会(西宮), 2024年2月.
- 経口胃管抜去前後の吸啜圧変化を測定した超低出生体重児の1例. 小松岳, 岩谷壮太, 芳本誠司, 大津雅秀, 永井崇恵, 古川竜也, 丹生健一. 第47回日本嚥下医学会(新潟), 2024年2月.
- 重症慢性肺疾患に対する一酸化窒素吸入療法. 岩谷壮太. 第29回近畿新生児研究会(高槻), 2024年3月.
- マイクロフロー光濃縮による微量試料中サイトカインの広濃度迅速計測. 竹森洸征, 小森弘稀, 高木裕美子, 田村守, 中瀬生彦, 床波志保, 小林孝生, 岩谷壮太, 村上正晃, 飯田琢也. 第71回応用物理学会春季学術講演会(東京), 2024年3月.
- 先天性横隔膜ヘルニアにおける乳幼児期の発育障害. 岩谷壮太, 砂川智紀, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会(福岡), 2024年4月.
- 気管切開症例に対する新生児聴覚スクリーニングの現状. 玉置祥子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集(福岡), 2024年4月.
- 血清免疫グロブリンG値の出生時基準値作成と妥当性の検証. 生田寿彦, 岩谷壮太, 武岡恵美子, 玉置祥子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会(福岡), 2024年4月.
- 高IL-6血症を伴う後期早産児にみられた脳室周囲の高度な白質障害. 小林孝生, 岩谷壮太, 萩元慎二, 西山将広, 丸山あづさ, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会(福岡), 2024年4月.
- 消化管疾患既往の症例に対するロタウイルスワクチン接種の現状 –三次周産期医療センターでの検討. 松島愛香, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第127回日本小児科学会学術集会(福岡), 2024年4月.
- 術中所見で診断に至った脊髄囊胞瘤(Terminal myelocystocele)の1例. 朝貝芳貴, 宇保早希子, 西牧良, 後藤弘樹, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会(神戸), 2024年5月.
- いかに低体温療法を早期に開始できるか –新生児搬送方法に着目した取り組み. 中山栗太, 岩谷壮太, 西牧良, 小林孝生, 後藤弘樹, 宇保早希子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会(神戸), 2024年5月.
- 上部消化管閉鎖症を伴って肺形成が得られた両腎無形成の早産児例. 西牧良, 岩谷壮太, 小林孝生, 後藤

弘樹, 宇保早希子, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会(神戸), 2024年5月.

- 低温殺菌処理による母乳を介したサイトメガロウイルス感染予防. 宇保早希子, 西牧良, 後藤弘樹, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会(神戸), 2024年5月.
- 低温殺菌処理による母乳を介したサイトメガロウイルス感染予防. 宇保早希子, 西牧良, 後藤弘樹, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 玉置祥子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 胎児水腫進行のために在胎28週で出生した巨大仙骨部奇形腫の救命例. 中山栗太, 岩谷壮太, 松島愛香, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 植村光太郎, 森田圭一, 畠山理, 平久進也, 船越徹, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 高IL-6血症を伴う後期早産児にみられた脳室周囲の高度な白質障害. 小林孝生, 岩谷壮太, 萩元慎二, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 臍帯捻転の潜在的リスク因子としての巨大臍帯浮腫. 小林孝生, 岩谷壮太, 西牧良, 松本培世, 船越徹, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 上部消化管閉鎖症を伴い肺低形成に至らなかった両腎無形成の早産児例. 西牧良, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 窪田詩乃, 船越徹, 畠山理, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 食道閉鎖症を合併した18トリソミー児に対する根治術の長期的効果. 玉置祥子, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 畠山理, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 早産児における血清アルブミン値の生後変化. 生田寿彦, 岩谷壮太, 武岡恵美子, 玉置祥子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- アンバウンドビリルビン(UB)測定に基づいた早産児黄疸管理 – 超早産児ではなぜ高UB血症が遷延するのか?. 岩谷壮太. 第60回日本本周産期新生児医学会学術集会(大阪), 2024年7月.
- 血清免疫グロブリンG値の出生時基準値作成. 生田寿彦, 小林孝生, 岩谷壮太. 第64回日本臨床化学会学術集会(宇都宮), 2024年8月.
- 先天性横隔膜ヘルニアにおける出生時体格評価. 砂川智紀, 岩谷壮太, 西牧良, 後藤弘樹, 宇保早希子, 小林孝生, 中山栗太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司. 第293回日本小児科学会兵庫県地方会(姫路), 2024年9月.
- 聴性脳幹反応により症候性と判断した先天性サイトメガロウイルス感染症の双胎例. 西内徳子, 小林孝生, 高橋英里, 松島愛香, 西牧良, 宇保早希子, 後藤弘樹, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 岩谷壮太, 三村仁美, 芳本誠司. 第293回日本小児科学会兵庫県地方会(姫路), 2024年9月.
- 当センター新生児病棟におけるFilmArray® 呼吸器パネルの導入効果. 井上遼太郎, 小林孝生, 岩谷壮太, 松島愛香, 西内徳子, 西牧良, 宇保早希子, 後藤弘樹, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第293回日本小児科学会兵庫県地方会(姫路), 2024年9月.
- 高直接ビリルビン血症が遷延する極低出生体重児の特徴解析 – 在胎週数をマッチさせたケースコントロール研究. 萩元慎二, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第22回日本黄疸管理研究会(名古屋), 2024年10月.
- 光療法の適性使用を目指して – 当院における光療法の実際. 黒川大輔, 岩谷壮太, 田中めぐみ, 福嶋祥

代, 上村裕保, 五百蔵智明. 第22回日本黄疸管理研究会(名古屋), 2024年10月.

- ここまで変わった13/18トリソミーに対する新生児集中治療の最前線 – 外科的治療の有用性. 岩谷壮太. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 高直接ビリルビン血症が遷延する極低出生体重児の特徴解析 – 在胎週数をマッチさせたケースコントロール研究. 岩谷壮太, 萩元慎二, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 経口胃管および経鼻胃管が早産児の瓶哺乳時の吸啜圧に及ぼす影響. 小松岳, 岩谷壮太, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 当センター新生児病棟におけるFilmArray®呼吸器パネルの導入効果. 井上遼太郎, 小林孝生, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 聴性脳幹反応により症候性と判断した先天性サイトメガロウイルス感染症の双胎例. 西内徳子, 小林孝生, 高橋英里, 西牧良, 岩谷壮太, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- いかに低体温療法を早期に開始できるか – 新生児搬送方法に着目した取り組み. 中山栗太, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 玉置祥子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 極低出生体重児における高直接ビリルビン血症のリスク因子 – やはり未熟性が要因なのか?. 萩元慎二, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 両側腎瘻造設を含めた集学的治療により寛解退院した巨大な腹腔内Kaposi型血管内皮腫の男児. 小林孝生, 岩谷壮太, 西牧良, 今本彩, 三浦真澄, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 腸穿孔を発症した早産児における周術期の血清IL-6の推移とその有用性. 小林孝生, 岩谷壮太, 生田寿彦, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 神戸大学の新基準で黄疸管理を施行した早産児において、アテトーゼ型脳性麻痺は発生していない. 松井紗智子, 岩谷壮太, 小林孝生, 生田寿彦, 武岡恵美子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- メチシリン耐性ブドウ球菌敗血症に対するホスホマイシン併用抗菌薬治療の効果. 生田寿彦, 岩谷壮太, 小林孝生, 武岡恵美子, 松井紗智子, 三村仁美, 芳本誠司. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 新生児医療におけるシミュレーション基盤型トレーニングの開発・実践と、トレーニング受講者に与えた影響の調査. 甘利昭一郎, 小澤悠里, 石田宗司, 井上普介, 岩谷壮太, 岩見裕子, 加藤有一, 金井雅代, 玉井圭, 内藤喜樹, 古都美智子, 水本洋, 山田洋輔, 諫山哲哉, 中西秀彦. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.
- 本邦における早産児の経皮黄疸計の使用状況. 徐悦, 佐藤義朗, 岩谷壮太, 國方徹也, 日下隆, 丸尾良浩, 荒井洋, 森岡一朗, 奥村彰久. 第68回日本新生児成育医学会学術集会(松本), 2024年11月.

産科

- 切迫流・早産例に対する単纖維合成吸収糸二重縫縮による治療的子宮頸管縫縮術の検討. 金子めぐみ, 辻麻亜子, 長澤友紀, 木原智子, 内山美穂子, 窪田詩乃, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第76回日本産科婦人科学会学術集会, 横浜, 令和6年4月19-21日
- 切迫早産妊娠への硫酸マグネシウム投与と早産児の症候性動脈管開存症の関連. 安積麻亜子, 平久進也, 長澤友紀, 木原智子, 内山美穂子, 窪田詩乃, 金子めぐみ, 荒井貴子, 松本培世, 船越徹. 第76回日本産科婦人科学会学術集会, 横浜, 令和6年4月19-21日
- 当院で周産期管理を行った胎児先天性右横隔膜ヘルニアの9例. 荒井貴子, 安積麻亜子, 長澤友紀, 木原智子, 内山美穂子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第76回日本産科婦人科学会学術集会, 横浜, 令和6年4月19-21日
- 妊娠28週に母体Mirror症候群を発症した胎児仙尾部奇形腫の一例. 荒井貴子, 安積麻亜子, 長澤友紀, 木原智子, 内山美穂子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第97回日本超音波医学会学術集会, 横浜, 令和6年5月31日-6月2日
- 超緊急帝王切開におけるEmergency call to delivery time(ECD time)についての検討. 松本培世, 内山美穂子, 木原智子, 澤田史奈, 長澤友紀, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荒井貴子, 平久進也, 船越徹. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 令和6年7月13-15日
- 当院で管理した胎児頭蓋内出血5例の検討. 長澤友紀, 平久進也, 澤田史奈, 木原智子, 内山美穂子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荒井貴子, 松本培世, 岩谷壯太, 芳本誠司, 船越徹. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 大阪, 令和6年7月13-15日
- COL4A2遺伝子変異を認めた胎児頭蓋内出血の一例. 長澤友紀, 平久進也, 澤田史奈, 木原智子, 内山美穂子, 窪田詩乃, 金子めぐみ, 荒井貴子, 松本培世, 船越徹. 第98回兵庫県産科婦人科学会学術集会, 神戸, 令和6年8月9-10日
- 医療過疎地域である兵庫県朝来市での産婦人科外来開設による患者動向及び満足度調査. 木原智子, 貝坂恒明, 岩野茂, 八木聰, 福永次男, 木山佳明. 第62回全国自治体病院学会学術集会, 新潟, 令和6年10月31日-11月1日
- 当科における妊娠22~24週における帝王切開術の検討. 江本永真, 長澤友紀, 黒島瑞穂, 木原智子, 金子めぐみ, 窪田詩乃, 荒井貴子, 松本培世, 平久進也, 船越徹. 第151回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪, 令和6年10月27日
- 医療過疎地域である兵庫県朝来市での産婦人科外来開設による患者動向及び満足度調査. 木原智子, 貝坂恒明, 岩野茂, 八木聰, 福永次男, 木山佳明. 第26回公立豊岡病院組合合同学会, 豊岡, 令和6年11月9日
- 周産期医療センター開設30周年を迎えて. 船越徹. 令和6年度兵庫県立こども病院周産期医療センター研修会, 神戸, 令和6年12月7日
- 当院における産科の役割. 木原智子. 第310回こども病院症例検討会, 神戸, 令和6年6月13日
- 見逃したくない胎児先天性心疾患 胎児診断のコツ. 平久進也. 第1回 K-OPEN, 神戸, 令和6年2月22日

放射線診断科

- 体幹部の 固形腫瘍 -広く浅くの1時間ツアー-. 赤坂好宣. 第21回日本小児放射線学会教育セミナー, 2024年2月.
- 小児の生殖器と周辺の腫瘍. 赤坂好宣. 第60回日本医学放射線学会秋季大会. 2024年10月.
- 小児MRI: 腹部腫瘍. 赤坂好宣. 第28回MR実践・先端講座. 2024年12月14日

- DICER1遺伝子変異を伴うI型胸膜肺芽腫の一例. 山口千暁, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣. 第338回日本医学放射線学会関西地方会, 2024年10月.
- イメージインタープリテーションセッション出題. 乗本周平. 第53回日本神経放射線学会, 2024年2月.
- イメージインタープリテーションセッション出題. 乗本周平. 第9回胎児MRI研究会学術集会, 2024年2月.
- イメージインタープリテーションセッション解答. 乗本周平. 第83回日本医学放射線学会総会, 2024年4月.
- 教育講演:新生児の下部消化管疾患. 乗本周平. 第83回日本医学放射線学会総会, 2024年4月.
- イメージインタープリテーションセッション出題. 乗本周平. 第60回日本小児放射線学会学術集会, 2024年6月.
- 頭蓋内 Mixed germ cell tumorの一例. 田原潤子, 乗本周平, 山口千暁, 赤坂好宣. 第44回神経放射線ワークショップ, 2024年6月
- 股関節痛で受診した意外な症例. 田原潤子, 乗本周平, 山口千暁, 赤坂好宣. 第55回神戸放射線医学学術交流会, 2024年10月
- 急性虫垂炎 -小児放射線科医から見た急性虫垂炎-. 田原潤子. 第9回日本小児超音波研究会学術集会, 2024年11月

小児集中治療科

- 重症・中等症小児COVID-19全国調査報告 - 侵襲的人工呼吸管理を要した症例. 黒澤寛史, 青木一憲, 清水直樹, 濱田洋通, 松原大輔, 松原優里, 中村好一, 学会共同 MIS-C・重症COVID-19登録グループ. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- PICU入室中のハイリスクチェックリストと心停止イベントの関連:過去起点コホート研究. 豊島由佳, 青木一憲, 先濱大, 長井勇樹, 黒澤寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- 小児心臓外科術後の動脈二酸化炭素分圧較差の経時的变化と急性腎障害. 先濱大, 長井勇樹, 青木一憲, 黒澤寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- 乳児呼吸不全患者に対するノルアドレナリン使用のfluid overload減少効果. 村田剛士, 青木一憲, 先濱大, 黒澤寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- COVID-19 流行第6波に伴うPICUの診療負荷. 時岡孝平, 笠井正志, 先濱大, 宮下徳久, 長井勇樹, 青木一憲, 宮越千智, 伊藤雄介, 黒澤 寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- 心窩部アプローチで下大静脈にL字型脱血管を挿入した乳児V-V ECMOの1例. 中井亮佑, 宮下徳久, 東田昭彦, 松久弘典, 長井勇樹, 青木一憲, 黒澤寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- 心室中隔欠損症手術後の接合部異所性頻拍予防プロトコルの有用性. 青木一憲, 長井勇樹, 黒澤寛史. 第51回日本集中治療医学会学術集会, 2024年3月.
- 重症・中等症小児COVID-19全国調査報告. 黒澤寛史. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 乳児胸骨圧迫における片手法の有用性:クロスオーバー比較試験. 青木一憲, 石田貴裕, 當間圭一郎, 黒澤寛史. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 小児病院におけるMedical Emergency Team(MET)導入の効果の検討. 時岡孝平, 黒澤寛史. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024年4月.
- 新生児マスククリーニングで異常が指摘されておらず急性発症により後遺症を残した全身性カルニチン欠乏症の1例. 中井亮佑, 先濱大, 西藤知城, 池谷紀衣子, 松本真明, 尾崎佳代, 黒澤寛史. 第127回日本小児

科学会学術集会, 2024年4月.

- 当院へ紹介受診後すぐに集中治療室に入室した症例の検討. 加藤愛美, 椎間優子, 青木一憲, 宮下徳久, 黒澤寛史. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月.
- 当院集中治療室へ入室後に気管切開術を施行した症例の後方視的検討. 黒江崇史, 黒澤寛史, 笠井正志, 青木一憲, 長井勇樹, 椎間優子. 第292回日本小児科学会兵庫県地方会, 2024年5月.
- 脳傷害はこうやって管理する！－小児集中治療科の頭の中－. 青木一憲. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- 小児蘇生後症例の神経学的瞳孔指数による転帰不良の予測. 川本昌平, 青木一憲, 潮見祐樹, 上田拓耶, 西山将広, 丸山あづさ, 黒澤寛史. 第66回日本小児神経学会学術集会, 2024年5月.
- Lung protective mechanical ventilation protocol vs. standard care in pediatric acute respiratory distress syndrome: a before-and-after international study. Hiroshi Kurosawa. 12th Congress of the World Federation of Pediatric Intensive & Critical Care Societies, 2024年6月.
- 呼吸器症状を契機に食道アカラシアの診断にいたった13歳男児. 原田晋二, 青木一憲, 黒澤寛史. 第46回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024年6月.
- 肺臓器提供が叶わなかった小児症例～2症例の比較～. 鈴木雅大, 青木一憲, 黒澤寛史. 第46回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024年6月.
- 小児重症患者の急変を防ぐためにできること～成人集中治療医の経験から. 古島夏奈. 第8回日本集中治療学会関西支部学術集会, 2024年7月.
- 小児の蘇生科学 最新の知見. 黒澤寛史. 第8回日本集中治療学会関西支部学術集会, 2024年7月.
- 先天性心疾患術後管理とiNO「PICUと心臓手術後患者」. 黒澤寛史. 第60回日本小児循環器学会学術集会, 2024年7月.
- 気道疾患を合併した先天性心疾患の術後呼吸管理. 青木一憲. 第60回日本小児循環器学会学術集会, 2024年7月.
- 遠心型血漿分離法による血漿交換療法中に重篤な低カルシウム血症を呈した川崎病の男児. 林谷俊和. Critical Kinki Kids, 2024年7月.
- 適切なオプション提示のタイミング 小児脳死下臓器提供2例の経験から. 青木一憲, 黒澤寛史. 第37回日本小児救急医学会学術集会, 2024年7月.
- こども病院におけるMedical Emergency Team (MET)の有用性. 黒江崇史, 時岡孝平, 青木一憲, 椎間優子, 黒澤寛史. 兵庫県病院学会, 2024年9月.
- 出生前診断なく入院し、周術期合併症を来たした先天性心疾患症例の検討. 広田幸穂, 種岡飛翔, 浦田啓陽, 黒江崇史, 亀井直哉, 田中敏克, 青木一憲, 椎間優子, 黒澤寛史. 第9回日本小児循環器集中治療研究会学術集会, 2024年9月.
- 遠心型血漿分離法による血漿交換療法中に重篤な低カルシウム血症を呈した川崎病の男児. 林谷俊和, 青木一憲, 川本昌平, 宮下徳久, 黒澤寛史. 第35回日本急性血液浄化学会学術集会, 2024年10月.
- 当院における急性血液浄化療法のプラクティス. 宮下徳久. 第35回日本急性血液浄化学会学術集会, 2024年10月.
- 日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク (JCCN)による小児ジェット搬送4症例の報告. 宮下徳久, 古島夏奈, 森本健司, 本村誠, 岡田真人, 福島教偉, 黒澤寛史. 第31回小児集中治療ワークショップ, 2024年10月.
- 「振動メッシュネブライザーはPICUにおける吸入薬剤投与のパラダイムシフトとなるか？」. 青木一憲.

第31回小児集中治療ワークショップ, 2024年10月.

- ・成長を支えるリハビリテーション: 現状の課題と未来. 長井勇樹. 第31回小児集中治療ワークショップ, 2024年10月.
- ・実演シンポジウム～挿管チューブの固定、全国津々浦々の固定方法の工夫～第3席. 三浦和樹, 米田健太. 第31回小児集中治療ワークショップ, 2024年10月.
- ・小児集中治療領域におけるパワー PICC・シャーロック3CG プラスの有用性. 先濱大. 第31回小児集中治療ワークショップ, 2024年10月.
- ・「PICU の ABC - 小児の呼吸と循環管理 -」. 黒澤寛史. 第238回日本小児科学会宮城地方会特別講演, 2024年11月.

病理診断科

- ・脳腫瘍の1例. 大谷宗理, 吉田牧子, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣, 阿久津宣行, 小山淳二, 河村淳史, 佐々木翔, 平戸純子, 宮平憲, 市村幸一, 義岡孝子. 第105回日本病理学会近畿支部学術集会, 2024年5月.
- ・下大静脈腫瘍塞栓とショックを伴い, 救命のため緊急手術となった神経芽腫の一例. 成田勉, 下田智晴, 大谷宗理, 吉田牧子. 第65回日本臨床細胞学会総会(春期大会)学術集会, 2024年6月.
- ・初発時より広範囲な髄膜播種をきたしていた大細胞型髄芽腫の一例. 下田智晴, 成田勉, 吉田牧子. 第65回日本臨床細胞学会総会(春期大会)学術集会, 2024年6月.
- ・臍腫瘍の1例. 大谷宗理, 吉田牧子, 兵頭さやか, 森健, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 村上紫津, 畠山理, 木原智子, 春名晶子, 杉田良文, 田原潤子, 乗本周平, 赤坂好宣, 出水祐介, 副島俊典, 山本鉄郎. 第85回 関西小児病理研究会, 2024年7月.
- ・肩軟部腫瘍の1例. 森下雅之, 吉田牧子, 岸本健治. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024年7月.
- ・両側網膜芽腫・両側卵巣腫瘍. 吉田牧子, 川畑順子, 中川悠衣, 中川悦美, 横井暁子, 畠山理, 二野菜々子, 斎藤敦郎, 長谷川大一郎, 小阪嘉之, 野村耕治, 赤坂好宣. 2024年小児腫瘍症例検討会, 2024年9月.
- ・早産児・満期産児の臍帯由来のヒト Muse 細胞はブレオマイシンによるラット肺障害モデルに治療効果を示す. 吉田牧子, Kaung Htet Nay Win, 串田良祐, 山名啓司, 岩谷壯太, 二野菜々子, Cho Yee Mon, 大崎博之, 鴨志田伸吾, 藤岡一路, 出澤真理, 西村範行. 第44回小児病理研究会学術集会, 2024年9月.
- ・精巣病変の1例. 吉田牧子, 乗本周平, 田原潤子, 赤坂好宣, 杉田良文. 第86回関西小児病理研究会, 2024年12月.

薬剤部

- ・小児患者における施設間薬剤情報提供書に関するアンケート調査と様式改訂について. 森くるみ, 中本聖華, 岡田瑞希, 門倉史枝, 岡本沙央里, 末森千加子, 河原香織, 石田達彦. 第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2024年1月.
- ・兵庫県立こども病院におけるワルファリン使用患者の抗菌薬投与によるPT-INR値への影響. 濡谷菜月, 網代千慧, 田中智啓, 多々見俊輔, 磯元啓吾, 末森千加子, 河原香織, 石田達彦. 第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2024年1月.
- ・小児患者における施設間薬剤情報提供書に関するアンケート調査と様式改訂について. 森くるみ, 岡田瑞希, 門倉史枝, 岡本沙央里, 末森千加子, 河原香織, 石田達彦. 第19回兵庫県立病院学会, 2024年9月.

- 当院における抗菌薬の使用状況と耐性に関する国際調査(G-PPS)への参加 –国内外の比較から見える現状と課題について–. 田中智啓, 網代千慧, 藤田愛美, 陣田剛志, 末森千加子, 河原香織, 水野真介, 笠井正志, 石田達彦. 第19回兵庫県立病院学会, 2024年9月.

検査部

- 初発時より広範囲な髄膜播種をきたしていた大細胞型髄芽腫の一例. 下田智晴, 成田勉, 吉田牧子. 第65回臨床細胞学会総会春季大会, 2024年6月.

放射線部

- 兵庫県立こども病院施設紹介. 前田貴彦. 第56回兵庫県核医学技術検討会, 2024年5月
- Alphenix Biolane 12/2の使用経験. 松田義貴. 第53回兵庫県立病院診療放射線技師研修会, 2024年7月
- 原子力規制委員会立ち入り検査について～事前準備・講評・対応～. 前田貴彦. 第19回兵庫県立病院学会, 2024年9月
- 新旧 Angio 装置の比較. 松田義貴. 第19回兵庫県立病院学会, 2024年9月
- 当院の小児救急撮影について. 前田貴彦. 第28回近畿救急撮影セミナー, 2024年9月

栄養管理部

- 小児腎臓病患者への管理栄養士の関わりと移行期支援. 松田郁美. 第45回日本小児腎不全学会学術集会. 2024年12月

リハビリテーション部

- 池田陽祐: 造血幹細胞移植を行った髄芽腫患児に対してクリーンルーム管理中に理学療法を継続介入できた一症例, 第63回近畿理学療法学会, 2024.2, 大津市
- 河村勇祐: 小児三次救急病院における心臓リハビリテーションの取り組みと理学療法士の役割 第35回兵庫県理学療法学術大会, 大会長重点演題, 2024.10, 姫路市
- 池田陽祐: 骨肉腫患者における術後1年の運動機能とQOLの関係性に着目した一症例, 第35回兵庫県理学療法学術大会, 2024.10, 姫路市
- 河村勇祐: 左冠動脈主幹部狭窄を発症したCHD児の理学療法において自宅復帰は達成できたが復学に不安を残した1症例, 第8回日本循環器理学療法学会学術大会, 2024.11, 仙台市
- 池田陽祐: 小児急性リンパ性白血病の化学療法中の幼児期・学童期患者の身体機能に関する報告, 第7回がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会, 2024.11, 函館市

4) 報道関連

テ　－　マ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
溶連菌感染症	感染症内科	笠井正志	読売新聞	2024年3月19日
小児医療の明るい未来を切り開く	感染症内科	笠井正志	週刊医学会新報	2024年1月29日
「FileMakerによるユーザーメード医療ITシステムの取り組み」	医療情報部	大津雅秀、黒澤寛史	ITvision No.52 (月刊インナービジョン)	2024年12月号
Case54 兵庫県立こども病院 FileMakerによる電子化から20年。 電子カルテ導入後も小児集中治療のデータベースを構築				

5) 実習生・研修生受け入れ状況

① 実習生

診療部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年生学外臨床実習	3	2週間	精神科
京都大学医学部	6年生学外臨床実習	1	1週間	精神科
神戸学院大学大学院	公認心理師実習	1	10日間	精神科
神戸大学医学部医学科	ペッドサイドラーニング、関連病院実習	100	2024年1月から11月	整形外科外来、手術室
神戸常盤大学口腔保健学科		2	2024年6月18日～7月12日	歯科外来・他
兵庫歯科衛生士学院		1	2024年9月2日～9月27日	歯科外来・他
神戸学院大学	臨床検査測定実習	2	2024年2月5日～2月16日	院内
大和大学	臨床実習Ⅰ	2		院内

看護部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
	総合看護(小児)	5	2024年5月13日～6月6日(19日間)	病棟(7東 5西)
		1	2024年8月23日～8月28日(4日間)	病棟(6西)
実践研究		1	2024年8月19日～8月30日(10日間)	病棟(6東)
		1	2024年8月26・29・30日(3日間)	病棟(PICU)
		1	2024年10月8日(1日間)	病棟(7東)
		18	2024年7月8日～7月18日(8日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
		18	2024年10月7日～10月17日(8日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
生涯地域看護(小児)		17	2024年10月21日～10月31日(9日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
		17	2024年11月5日～11月14日(8日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
		17	2024年11月18日～11月28日(9日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
		18	2024年12月2日～12月12日(9日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
生涯地域看護(小児)補習		6	2024年12月25日～12月26日(2日間)	病棟(7東 6東 5西 救急・HCU)
総合看護(母性)		4	2024年5月13日～6月6日(19日間)	病棟(産科)
生涯地域看護(母性)		9	2024年6月24日～7月4日(8日間)	病棟(産科 NICU GCU)

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学 看護学部	生涯域看護(母性)	9	2024年10月21日～10月31日(9日間)	病棟(産科 NICU GCU)
関西医科大学 看護学部	統合実習	9	2024年11月 5日～11月14日(8日間)	病棟(産科 NICU GCU)
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学(看護学科定期制)	2	2024年 5月20日～5月30日(9日間)	病棟(6東)
助産診断・技術学実習Ⅰ		4	2024年 6月18日～6月27日(8日間)	病棟(6東)
助産診断・技術学実習Ⅲ		4	2024年 8月20日～8月30日(9日間)	病棟(6東)
課題別総合実習		4	2024年 9月17日～9月27日(8日間)	病棟(6東)
神戸常磐大学	統合看護実習(小児看護学)	2	2024年10月 8日～10月11日(4日間)	病棟(産科)
関西国際大学	統合看護実習(母性看護学)	2	2024年10月15日～10月18日(4日間)	病棟(産科)
		3	2025年 1月15日～1月17日(3日間)	病棟(NICU GCU)
		2	2025年 1月21日～1月23日(3日間)	病棟(NICU GCU)
		3	2025年 1月27日～1月29日(3日間)	病棟(NICU GCU)
		9	2024年 6月10日～6月25日(12日間)	病棟(7西 7東 5東)
		3	2024年 6月 3日～6月14日(10日間)	病棟(救急・HCU)
		3	2024年 6月17日～6月28日(10日間)	病棟(救急・HCU)
		8	2024年 7月22日～8月 8日(10日間)	病棟(産科 NICU GCU)
		6	2024年 9月25日～9月26日(2日間)	病棟(NICU GCU)
		7	2024年10月 1日～10月 2日(2日間)	病棟(NICU GCU)
		7	2024年10月 8日～10月 9日(2日間)	病棟(NICU GCU)
		6	2025年 2月 3日～2月 4日(2日間)	病棟(NICU GCU)
		6	2025年 2月 5日～2月 6日(2日間)	病棟(NICU GCU)
		7	2024年 5月 7日～5月17日(9日間)	病棟(7西 6西)
		7	2024年 5月20日～5月31日(10日間)	病棟(7西 6西)
		4	2024年 8月19日～8月29日(9日間)	病棟(7西 6西)
		4	2024年 9月 2日～9月13日(10日間)	病棟(7西 6西)
神戸女子大学 小児	総合実習	10	2024年 7月22日～8月 1日(9日間)	病棟(7西 5西)
	課題探求	11	2024年 8月 5日～8月15日(8日間)	病棟(7西 5西)
	成育看護実習Ⅱ(小児)	10	2024年 9月30日～10月11日(9日間)	病棟(7西 6西)

学 校 名	実 習 名	実 習 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸女子大学 助産	総合実習	3	2024年9月17日～9月19日(3日間)	病棟(産科 NICU GCU)
		5	2024年9月17日～9月20日(4日間)	病棟(7東)
		7	2024年10月29日～11月1日(4日間)	病棟(7西 6西)
関西看護医療大学	小児看護学実習	6	2024年11月26日～11月29日(4日間)	病棟(7西 6西)
		5	2024年12月10日～12月13日(4日間)	病棟(7西)
		6	2025年1月14日～1月17日(4日間)	病棟(7西 6西)
兵庫医科大学	小児看護学実習	6	2025年1月6日～1月9日(4日間)	病棟(6東 5西)
		4	2025年1月14日～1月17日(4日間)	病棟(5西)
		8	2025年1月20日～1月23日(4日間)	病棟(6東 5西)
		8	2025年1月27日～1月30日(4日間)	病棟(6東 5西)
		3	2025年2月3日～2月6日(4日間)	病棟(6東)
		6	2025年2月10日～2月14日(4日間)	病棟(6東 5西)
		6	2024年9月9日～9月13日(5日間)	病棟(5東 救急・HCU)
		5	2024年9月17日～9月20日(4日間)	病棟(5東 救急・HCU)
		7	2024年10月15日～10月18日(4日間)	病棟(6西 5東)
		5	2024年11月5日～11月8日(4日間)	病棟(6西 5東)
甲南女子大学	小児看護学実習	4	2024年11月11日～11月15日(5日間)	病棟(6西 5東)
		7	2024年12月2日～12月6日(5日間)	病棟(6西 5東)
		6	2024年12月9日～12月13日(5日間)	病棟(6西 5東)
		6	2025年1月20日～1月24日(5日間)	病棟(6西 5東)
		5	2025年1月27日～1月31日(5日間)	病棟(6西 5東)
	主題実習	3	2024年7月29日～8月8日(8日間)	病棟(7東)
森ノ宮医療大学	小児看護学実習	5	2025年1月14日～1月17日(4日間)	病棟(7東)
		5	2025年1月20日～1月24日(5日間)	病棟(7東)
		5	2025年1月27日～1月31日(5日間)	病棟(7東)
		4	2024年11月11日～11月15日(5日間)	病棟(7西)
		4	2025年1月14日～1月17日(4日間)	病棟(救急・HCU)
大手前大学	小児看護学実習	4	2025年1月20日～1月24日(5日間)	病棟(救急・HCU)

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
大手前大学	小児看護学実習	4	2025年1月27日～1月31日(5日間)	病棟(救急・HCU)

薬剤部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
立命館大学	薬学生実務実習	1	2024年5月20日～8月4日	薬剤部、病棟
武庫川女子大学	薬学生実務実習	1	2024年8月19日～11月3日	薬剤部、病棟
神戸学院大学	薬学生実務実習	1	2024年11月18日～2月7日	薬剤部、病棟

検査部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学	臨地実習	2	2024年10月22日～11月8日	検査部

栄養管理部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習	2	2024年2月8日～2月22日	栄養管理部
同志社女子大学	臨床栄養学及び給食経営管理	2	2024年2月26日～3月8日	栄養管理部
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	2	2024年5月13日～5月31日	栄養管理部
武庫川女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2024年6月3日～6月14日	栄養管理部
甲南女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2024年6月17日～6月28日	栄養管理部
神戸女子大学	臨床栄養学臨地実習	2	2024年11月18日～11月29日	栄養管理部
		2	2024年10月21日～11月1日	栄養管理部

リハビリテーション部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸総合医療専門学校	臨床実習Ⅰ	1	2024年2月5日～2月19日	リハビリテーション室、耳鼻科外来
神戸学院大学	臨床検査測定実習	2	2024年2月5日～2月16日	リハビリテーション室
大和大学	臨床実習Ⅰ	2	2024年3月4日～3月15日	リハビリテーション部
神戸総合医療専門学校	臨床実習Ⅱ	1	2024年10月21日～11月18日	リハビリテーション室、耳鼻科外来

病院見学実習		実習名	実習生数	実習期間	実習場所
平成淡路看護専門学校	小児看護学実習		36	2024年11月8日(0.5日)	講義 各部署見学

大学院生

学 校 名	実 習 名	実 習 生 数	実 習 期 間	実 習 場 所
神戸市看護大学大学院	小児看護学特講実習 I II	1	2024年 6月12日 ～2025年 2月25日(34日間)	病棟(NICU GCU 5東) 外来
関西看護医療大学大学院	母性看護・助産学セミナー	3	2024年 8月19日～8月20日(2日間)	病棟(NICU GCU)
神戸女子大学大学院	小児看護実習 II	1	2024年 9月24日～10月 8日(11日間)	病棟(5西)

② 研修生

診療部

依 賴 元	研 修 名	研 修 生 数	研 修 期 間	研 修 場 所
日本小児整形外科学会	Yamamuro-Ogiwara Fellowship program	1	2024年12月2日～12月12日	整形外科外来、手術室
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科		1	2024年 1月10日, 2025年 1月25日, 4月 1日～9月30日, 10月 8日, 10月15日, 11月 6日	病理診断科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科		1	2024年 8月 8日, 8月13日, 8月23日, 9月 6日, 9月20日	病理診断科
神戸市立医療センター中央市民病院 病理診断科		1	2024年 11月 6日, 11月 8日, 11月25日, 11月29日, 12月12日, 12月26日	病理診断科

6) 院外合同研修 (2024年)

1 公開研修会

名 称	主 催	開催日	時 間	場 所	院 内 参 加 数	院 外 参 加 数	合 計	発表者 / 担 当	所 属 科 名
第11回 こども病院 循環器連携 カンファレンス	循環器内科・ 心臓血管外科	7月20日	14:00～16:00	Web開催	14	22	36	ファロー四徴症	龜井直哉、 田中敏克、 松島峻介、 松久弘典
神戸 ACHD症例 検討会	循環器内科・ 心臓血管外科	2月14日	18:00～20:00	Web開催	14	20	34	移行ならびに治療方針決定に難渋する ACHD症例の検討、術後報告	循環器内科・ 心臓血管外科
神戸 ACHD症例 検討会	循環器内科・ 心臓血管外科	7月31日	18:00～20:45	Web開催	14	17	31	移行ならびに治療方針決定に難渋する ACHD症例の検討、術後報告	松久弘典、 東田昭彦
令和6年度 兵庫県立 こども病院 周産期医療 センター研修会	周産期医療 センター	12月7日	14:00～17:00	兵庫県 医師会館	14	40	54	1) 成人移行期支援としての性教育を通しての性教育を通過する 2) プレネイタルビジットに対する産後の 母親の思い、 3) 胎児期に四肢短縮を認めた新生見18例 の臨床像 4) 2年経過したNIPTの新たな認証制度 による出生前診断の現状と見通し	1) 新井志歩 2) 大野美香 3) 松井紗智子 4) 譯井英明
令和6年度 連携充実加算・特 定薬管理指導加算 2を対象とした 外来がん化学療法 に関する研修会	兵庫県立 こども病院 薬剤部	10月31日	18:30～20:00	2階講堂	7	13	20	令和6年度 連携充実加算・特定薬剤管理指導加算2 を対象とした外来がん化学療法に関する 研修会	・植村 優 血液がん治療に について ・藤田 愛美 外来がん化學療 法における薬剤 連携
第7回 兵庫県抗 菌薬 適正使用のための 地域連携研修会	兵庫県立 こども病院感 染対策委員会 (ICC) 抗微生物 薬 適正使用支 援チーク (AST)	12月8日	10:30～12:15	Web開催	10	190	200	実例から学ぶ抗菌薬の適正使用 ～その抗菌薬本当に必要ですか？～	・田中 沙紀 感染症内科医も 難渋した骨髄炎 の症例 ・西村さやか 感染症専門医不 在でもできた！ 薬剤師主導の AS実践と成功 のポイント

名 称	主 催	開催日	時 間	場 所	院 内 参加数	院 外 参加数	合 計	発表者 / 担当	所属科名
地域医療者研修会	在宅推進委員会	9月13日	15:00～17:00	北館教育研修室	5	11	16	気管切開 胃瘻について	畠山 小児外科部長
地域医療者研修会	在宅推進委員会	10月24日	15:00～17:00	北館教育研修室	6	19	25	小児のBLS	寺田 クリティカルケア認定看護師
地域医療者研修会	在宅推進委員会	12月19日	15:00～17:00	北館教育研修室	6	24	30	小児の摂食・口腔ケアについて	森本摂食嚥下障害認定看護師
地域医療者研修会	在宅推進委員会	2025年2月20日	15:00～17:00	北館教育研修室	5	24	29	リハビリ・ポジショニング	福田 理学療法士
									リハビリテーション科

Vボランティア

2024年度 ボランティア受け入れ状況

ボランティア	内 容	活動期間	活動人数	活動場所
神戸市生活指導研究会	看護用品、医療材料、保育材料などの作成	2024年4月～2025年3月	1～3人/1回	ボランティア室
保育ボランティア	病棟における保育	2024年8月～2024年9月	1人	6西
県交通安全協会の交通安全指導員	交通安全教室	2024年4月12日～ 2024年12月6日	10人/回	2階講堂 西側出入口直近南公園内
神戸水上警察の警察官	ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸	2024年4月～2025年3月	3～4人/回	7東西・6東西・5東西・5東西・5東西・5東西
ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸	ハートフルカート			